

**令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」
リカレント教育プログラム運営モデルの検証
報告書**

2021年3月

MRI 株式会社三菱総合研究所

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、株式会社三菱総合研究所が実施した令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」の成果を取りまとめたものです。

目次

1. 調査概要	1
1.1 調査の背景・目的.....	1
1.2 各調査項目での実施内容.....	1
1.2.1 社会人アンケート調査の実施.....	1
1.2.2 運営モデルの検証.....	2
1.2.3 「専修学校リカレント教育ガイドライン」の作成.....	2
1.2.4 「専修学校リカレント教育推進方策」の作成.....	2
1.2.5 報告書の取りまとめ.....	2
2. 社会人アンケート調査	3
2.1 調査概要.....	3
2.1.1 調査目的.....	3
2.1.2 調査方法.....	4
2.2 集計・分析結果.....	16
2.2.1 専修学校リカレント教育の初期市場形成アプローチへの示唆.....	16
2.2.2 調査仮説ストーリーに対応する調査結果の整理.....	22
2.2.3 回答者（受講者層）の基本情報.....	27
2.2.4 「学び直し意欲が高い層」のプロフィール.....	54
2.2.5 「学び直し意欲が高い層」の学習関連行動の特徴.....	70
2.2.6 「学び直し意欲が高い層」の受講促進要因.....	91
2.2.7 「学び直し意欲が高い層」の受講阻害要因.....	108
2.2.8 「学び直し意欲が高い層」の受講負担.....	111
2.2.9 職業別の学習実施目的.....	115
2.2.10 【IT分野詳細】学びたい具体的なプログラム内容・方法.....	127
2.2.11 【介護分野詳細】学びたい具体的なプログラム内容・方法.....	137
2.2.12 回答者（人事研修担当者）の基本情報.....	149
2.2.13 「Off-JT意欲が高い層」のプロフィール.....	151
2.2.14 「Off-JT意欲が高い層」の能力開発業務志向.....	156
2.2.15 受講者から見た「専修学校の強み」.....	177
2.2.16 人事研修担当者から見た「専修学校の強み」.....	205
3. 運営モデルの検証	231
3.1 目的.....	231
3.2 検証方法.....	231
3.2.1 概要.....	231
3.2.2 検証仮説.....	231
3.2.3 調査対象機関.....	234
3.3 検証結果.....	234
3.3.1 ニーズ把握・反映.....	234

3.3.2 教材・指導法.....	235
3.3.3 広報.....	236
3.3.4 リソース確保.....	236
4. 「専修学校リカレント教育ガイドライン」の作成.....	237
4.1 概要.....	237
4.2 作成方針.....	237
4.2.1 重視するコンセプト.....	237
4.2.2 「ポイント集」との接続.....	237
4.2.3 作成上のインプット.....	237
4.3 ポイント集の構成.....	238
4.4 「専修学校リカレント教育ガイドライン検討ワーキング・グループ」の実施.....	239
4.4.1 リカレント教育推進検討委員会の趣旨・目的.....	239
4.4.2 委員.....	240
4.4.3 実施概要.....	240
5. リカレント教育総合推進方策の作成.....	241
5.1 概要.....	241
5.2 作成方針.....	241
5.3 推進方策の構成.....	241
6. 参考資料 社会人アンケート調査 調査票.....	242

目次

図 2-1 「専修学校リカレント教育」の受講層の類型（仮説）と主な特徴.....	3
図 2-2 年代.....	27
図 2-3 性別.....	28
図 2-4 居住している都道府県（三大都市（東京都・愛知県・大阪府）／その他）..	28
図 2-5 子どもの数.....	29
図 2-6 最終学歴.....	30
図 2-7 収入を伴う仕事の有無.....	31
図 2-8 現在の職業.....	32
図 2-9 勤め先での呼称、自営であるかどうか.....	33
図 2-10 現在の役職.....	34
図 2-11 平均就業時間.....	35
図 2-12 業種.....	36
図 2-13 勤め先の従業員数.....	37
図 2-14 所得.....	38
図 2-15 不就業者の就職希望.....	39
図 2-16 不就業者が今後希望する職業.....	40
図 2-17 学習に対する考えや態度.....	41
図 2-18 1カ月当たりの平均的な学習時間（2019年1～12月）.....	42
図 2-19 1年間（2019年1～12月）の学習に対する自身の負担額.....	43
図 2-20 過去3年間の学習実施状況.....	45
図 2-21 過去3年間に実施した学習の実施形態.....	46
図 2-22 過去3年間に実施した学習の提供主体.....	48
図 2-23 過去3年間に実施した学習の費用（自己負担額）.....	50
図 2-24 学習を実施する際の、補助や助成、あるいはその他の支援制度等の利用状況	51
図 2-25 過去3年間に実施した学習の所要時間.....	53
図 2-26 年代.....	55
図 2-27 年代別の収入を伴う仕事の有無.....	56
図 2-28 性別.....	57
図 2-29 居住している都道府県（三大都市（東京都・愛知県・大阪府）／その他）	58
図 2-30 子どもの数.....	59
図 2-31 最終学歴.....	60
図 2-32 収入を伴う仕事の有無.....	61
図 2-33 現在の職業.....	62
図 2-34 勤め先での呼称や自営であるかどうか.....	63
図 2-35 役職.....	64
図 2-36 平均就業時間.....	65
図 2-37 業種.....	66
図 2-38 勤め先の従業員数.....	67
図 2-39 所得.....	68

図 2-40	業務の変更予定・希望	69
図 2-41	1 カ月当たりの平均的な学習時間	71
図 2-42	学習に対する自身の負担額	72
図 2-43	過去 3 年間の学習実施状況 (全種類統合)	73
図 2-44	過去 3 年間の学習実施状況 (種類別) 1/3	75
図 2-45	過去 3 年間の学習実施状況 (種類別) 2/3	76
図 2-46	過去 3 年間の学習実施状況 (種類別) 3/3	77
図 2-47	身につけようとした知識やスキル (各プログラムの回答を統合)	79
図 2-48	もっとも重視して取り組んだと思う学習	80
図 2-49	「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的 (現在の雇用形態が「正規の職員・従業員」)	82
図 2-50	「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的 (現在の雇用形態が「労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託」)	84
図 2-51	「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的 (現在の雇用形態が「パート、アルバイト」「自営業主」「自家営業の手伝い」「内職」「その他」)	86
図 2-52	A~E 層の割合 (プレ調査)	87
図 2-53	E 層の学習関連行動の特徴	89
図 2-54	E 層が今後身につけたい知識やスキル	90
図 2-55	「もっとも重視して取り組んだと思う学習」実施のきっかけ	92
図 2-56	「もっとも重視して取り組んだと思う学習」機会発見方法	93
図 2-57	「もっとも重視して取り組んだと思う学習」実施決定時に重視した点 (1/2)	95
図 2-58	「もっとも重視して取り組んだと思う学習」実施決定時に重視した点 (2/2)	96
図 2-59	A 層が「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の実施のきっかけから受講決定に至るプロセス	98
図 2-60	機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点 (A 層で学習のきっかけが「業界で生き残るために必要だと感じたため」の回答者) (1/4)	100
図 2-61	機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点 (A 層で学習のきっかけが「業界で生き残るために必要だと感じたため」の回答者) (2/4)	101
図 2-62	機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点 (A 層で学習のきっかけが「業界で生き残るために必要だと感じたため」の回答者) (3/4)	102
図 2-63	機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点 (A 層で学習のきっかけが「業界で生き残るために必要だと感じたため」の回答者) (4/4)	103
図 2-64	機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点 (A 層で学習のきっかけが「勤め先や業界に関係なく周囲の人や地域・社会へ貢献したかったため」の回答者) (1/4)	104
図 2-65	機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点 (A 層で学習のきっかけが「勤め先や業界に関係なく周囲の人や地域・社会へ貢献したかったため」の回答者) (2/4)	105
図 2-66	機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点 (A 層で学習のきっかけが	

「勤め先や業界に関係なく周囲の人や地域・社会へ貢献したかったため」の回答者) (3/4)	106
図 2-67 機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点 (A層で学習のきっかけが 「勤め先や業界に関係なく周囲の人や地域・社会へ貢献したかったため」の回答者) (4/4)	107
図 2-68 学習実施を検討しなかった理由	110
図 2-69 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の費用(自己負担額)	112
図 2-70 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の所要時間	114
図 2-71 職業別の学習実施目的(現在の雇用形態が「正規の職員・従業員」)(1/3)	116
図 2-72 職業別の学習実施目的(現在の雇用形態が「正規の職員・従業員」)(2/3)	117
図 2-73 職業別の学習実施目的(現在の雇用形態が「正規の職員・従業員」)(3/3)	118
図 2-74 職業別の学習実施目的(現在の雇用形態が「労働者派遣事業所の派遣社員、 契約社員、嘱託」)(1/3)	120
図 2-75 職業別の学習実施目的	121
図 2-76 職業別の学習実施目的	122
図 2-77 職業別の学習実施目的(現在の雇用形態が「パート、アルバイト」「自営業 主」「自家営業の手伝い」「内職」「その他」)(1/3)	124
図 2-78 職業別の学習実施目的(現在の雇用形態が「パート、アルバイト」「自営業 主」「自家営業の手伝い」「内職」「その他」)(2/3)	125
図 2-79 職業別の学習実施目的(現在の雇用形態が「パート、アルバイト」「自営業 主」「自家営業の手伝い」「内職」「その他」)(3/3)	126
図 2-80 受講者層のIT関連業界との関係性	128
図 2-81 事業内容別の学習実施状況	130
図 2-82 業務内容別の学習実施状況 ¹⁶	132
図 2-83 「IT関連学習実施者」が身につけたい知識・スキル ¹⁶ (1/3)	134
図 2-84 「IT関連学習実施者」が身につけたい知識・スキル ¹⁶ (2/3)	135
図 2-85 「IT関連学習実施者」が身につけたい知識・スキル ¹⁶ (3/3)	136
図 2-86 業務内容別の学習実施状況	138
図 2-87 業務内容別の学習実施状況	140
図 2-88 「介護関連学習実施者」が身につけたい知識・スキル ¹⁹ (1/3)	142
図 2-89 「介護関連学習実施者」が身につけたい知識・スキル ¹⁹ (2/3)	143
図 2-90 「介護関連学習実施者」が身につけたい知識・スキル ¹⁹ (3/3)	144
図 2-91 「介護業界関係者」が取得している資格	146
図 2-92 「介護業界関係者」が今後取得したい資格	148
図 2-93 能力開発・教育訓練業務への関与の状況	149
図 2-94 能力開発・教育訓練業務の拡充意向	150
図 2-95 能力開発業務への関与状況	152
図 2-96 業種	153
図 2-97 役職	154

図 2-98	勤め先従業員数.....	155
図 2-99	今後拡充したい Off-JT の対象者、内容 (1/6)	158
図 2-100	今後拡充したい Off-JT の対象者、内容 (2/6)	159
図 2-101	今後拡充したい Off-JT の対象者、内容 (3/6)	160
図 2-102	今後拡充したい Off-JT の対象者、内容 (4/6)	161
図 2-103	今後拡充したい Off-JT の対象者、内容 (5/6)	162
図 2-104	今後拡充したい Off-JT の対象者、内容 (6/6)	163
図 2-105	今後 Off-JT を拡充したい理由.....	165
図 2-106	Off-JT を実施するうえでの課題.....	167
図 2-107	Off-JT 導入のための情報収集方法.....	169
図 2-108	Off-JT 実施における外部機関活用可能性.....	170
図 2-109	Off-JT において外部機関に期待する条件.....	172
図 2-110	DX 関連 Off-JT 実施状況.....	173
図 2-111	DX 関連 Off-JT の拡充意向.....	174
図 2-112	DX 関連 Off-JT 拡充における課題.....	176
図 2-113	「専修学校教育経験者」が評価した点	179
図 2-114	「専修学校教育経験者」がより具体的に評価した点 (1/2)	181
図 2-115	「専修学校教育経験者」がより具体的に評価した点 (2/2)	182
図 2-116	「専修学校教育経験者」が最も評価した点.....	183
図 2-117	「専修学校教育未経験者」が期待する点	185
図 2-118	「専修学校教育未経験者」がより具体的に期待する点 (1/2)	187
図 2-119	「専修学校教育未経験者」がより具体的に期待する点 (2/2)	188
図 2-120	「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育経験者」が評価した点 (1/3)	190
図 2-121	「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育経験者」が評価した点 (2/3)	191
図 2-122	「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育経験者」が評価した点 (3/3)	192
図 2-123	「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育経験者」がより具体的に評 価した点 (A 層のみ) (1/2)	194
図 2-124	「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育経験者」がより具体的に評 価した点 (A 層のみ) (2/2)	195
図 2-125	「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育経験者」が最も評価した点	197
図 2-126	「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育未経験者」が期待する点 (1/3)	199
図 2-127	「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育未経験者」が期待する点 (2/3)	200
図 2-128	「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育未経験者」が期待する点 (3/3)	201
図 2-129	「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育未経験者」がより具体的に 期待する点 (1/2)	203

図 2-130	「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育未経験者」がより具体的に期待する点 (2/2)	204
図 2-131	「専修学校活用户」が評価した点	206
図 2-132	「専修学校活用户」がより具体的に評価した点 (1/2)	208
図 2-133	「専修学校活用户」がより具体的に評価した点 (2/2)	209
図 2-134	「専修学校活用户」が最も評価した点	210
図 2-135	「専修学校未活用户」が期待する点	211
図 2-136	「専修学校未活用户」がより具体的に期待する点 (1/2)	213
図 2-137	「専修学校未活用户」がより具体的に期待する点 (2/2)	214
図 2-138	「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校活用户」が評価した点 (1/3)	216
図 2-139	「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校活用户」が評価した点 (2/3)	217
図 2-140	「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校活用户」が評価した点 (3/3)	218
図 2-141	「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校活用户」がより具体的に評価した点 (1/2)	220
図 2-142	「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校活用户」がより具体的に評価した点 (2/2)	221
図 2-143	「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校活用户」が最も評価した点	223
図 2-144	「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校未活用户」が期待する点 (1/3)	225
図 2-145	「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校未活用户」が期待する点 (2/3)	226
図 2-146	「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校未活用户」が期待する点 (3/3)	227
図 2-147	「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校未活用户」がより具体的に期待する点 (1/2)	229
図 2-148	「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校未活用户」がより具体的に期待する点 (2/2)	230
図 3-1	「ニーズ把握・反映」に関する課題仮説	232
図 3-2	「教材・指導法」に関する課題仮説	232
図 3-3	「広報」に関する課題仮説	233
図 3-4	「開設の意思決定／リソース確保」に関する課題仮説	233
図 4-1	持続可能なリカレント教育プログラム実施に関する全体の流れ	238

表目次

表 2-1	受講者層のセグメンテーションと回収目標数.....	6
表 2-2	人事研修担当者のセグメンテーションと回収目標数.....	7
表 2-3	調査項目と仮説	8
表 2-4	調査票の構成	9
表 2-5	調査票設計に当たり参考とした主な調査・文献.....	11
表 2-6	「プレ調査」「本調査」の実施概要	13
表 2-7	プレ調査 受講者回収数（人事研修担当者除く）	14
表 2-8	プレ調査 人事研修担当者回収数	14
表 2-9	本調査 受講者回収数（人事研修担当者除く）	15
表 2-10	本調査 人事研修担当者回収数	15
表 2-11	受講者（学び直し意欲が高い層）の特徴	16
表 2-12	人事研修担当者（Off-JT 意欲が高い層）の特徴.....	17
表 2-13	受講者、人事研修担当者別に見た専修学校の強みと期待.....	22
表 4-1	ポイント集の構成	239
表 4-2	WG 委員等（五十音順、敬称略）	240
表 4-3	WG 開催日程・場所および検討内容.....	240
表 5-1	推進方策の構成	241

1. 調査概要

1.1 調査の背景・目的

人生 100 年時代においては、個々人が人生を再設計し、一人ひとりのライフスタイルに応じたキャリア選択を行いつつ、新たなステージで求められる能力・スキルを、リカレント教育を通じて身に付ける機会が提供されることが重要である。

このような状況下において、職業教育機関としての専修学校の果たすべき役割が大きいが、専修学校がリカレント教育の提供および持続的運営を行うに至るまでの課題は多岐に及ぶ。リカレント教育の提供、および持続可能な運営には、職業ニーズを反映したプログラム、費用対効果の高い業務プロセスとこれを支える推進体制、教育効果を高める指導法・評価法の実践、これら一連を継続的に発展させる PDCA サイクルの確立が求められるが、これらの実施ノウハウが蓄積されていないことや、リソースが十分でないことから、現時点において、これらの要件を充足できる専修学校は多くないと考えられる。

そこで、本事業では、専修学校におけるリカレント教育の持続可能な運営モデルを開発し、総合的にこれらの普及を図り、専修学校における社会人の学びの機会の充実を図ることを目的とする。

以上を踏まえ、本事業では、下記を 3 か年事業の重点目標として実施することで、専修学校におけるリカレント教育を総合的に推進することを目指す。

- リカレント教育需要が見込まれる複数の職業領域における実証を行うとともに、これをガイドラインとして形式知化し、多様な状況にある多くの学校において持続可能なリカレント教育への取組を喚起し、成功確率を高める。
- リカレント教育の推進は、本事業期間を超え取り組まれるべき教育システム変革に係る重要施策であることを踏まえ、その検討の一助とすべく、実証を通じ得られる課題や全国の学校の実態分析等に基づく「リカレント教育総合推進方策（以下、推進方策という）を策定する。
- リカレント教育の普及は社会人側の認知によるところも大きいため、全国の学校で活用可能な社会人向けリーフレット（広報媒体）も作成する。

1.2 各調査項目での実施内容

前節の目的を踏まえ、事業 2 年目にあたる今年度事業の実施項目は以下のとおりである。

1.2.1 社会人アンケート調査の実施

受講対象となり得る社会人を対象にアンケート調査を実施し、専修学校のリカレント教育に対する認知度、期待、改善要望や、リカレント教育全般に係る受講動機、課題等を明らかにした。とくに教育内容へのニーズについては、分野の特性も踏まえて収集・分析し、結果を専修学校や関係団体に提供することで、受講者ニーズに基づくプログラム設計に役立てる。また、結果はガイドラインや推進方策に反映した。

1.2.2 運営モデルの検証

「専修学校におけるリカレント教育実施に向けたポイント」（2019年度作成）において示した、リカレント教育運営において効果的と考えられる取組の有効性を検証し、取組に当たり求められる事項等を整理し、ガイドラインの作成に役立てた。

1.2.3 「専修学校リカレント教育ガイドライン」の作成

「専修学校におけるリカレント教育実施に向けたポイント」（2019年度作成）に基づき、全国の専修学校においてリカレント教育を企画・運営する際に参照価値のあるガイドラインを作成した。作成にあたっては、専修学校関係者、大学のリカレントプログラム関係者、民間教育事業者から構成するワーキンググループ（WG）を設置し、現場のニーズやガイドライン記載事項の実効性を確認した。WGは事業期間内に2回開催した。

1.2.4 「専修学校リカレント教育推進方策」の作成

「専修学校におけるリカレント教育推進方策（骨子）」（2019年度作成）に基づき、社会人アンケート調査結果やガイドライン作成の過程で得られた知見を踏まえ推進方策を作成した。

1.2.5 報告書の取りまとめ

上記の結果を本報告書として取りまとめた。

2. 社会人アンケート調査

2.1 調査概要

2.1.1 調査目的

専修学校におけるリカレント教育の在り方を検討するため、以下の2つを目的として、社会人アンケート調査を実施した。

- 「専修学校リカレント教育総合推進方策（骨子）」¹における、リカレント教育の主要ターゲット（同推進方策 p.11 または下図図 2-1）のプロフィールや学習ニーズ、課題等（同推進方策 p.10、19 およびこれに係る報告書²関連箇所等）の重要度や相互の関係、対応する方策例（同推進方策 p.23）の有効性を検証し、本事業にて作成する同推進方策の改訂版やガイドラインに反映する。
- リカレント教育受講者や企業の人事研修担当者のニーズ、その視点からの専修学校の強み等を特定し、専修学校にフィードバックし、改善や取組意欲の喚起に役立てる。

属性	主な特徴	
A層： 「意欲」派	<ul style="list-style-type: none"> • 学ぶことに意欲的である。 • 自身にとって実用性は最優先ではない。 	主要ターゲット
B層： 「効果重視」派	<ul style="list-style-type: none"> • プログラムがもたらす利点を検討・理解し、正当に評価する。 • 自身が抱えている課題に資するプログラムであれば受講に踏み切る。 	境界点
C層： 「慎重」派	<ul style="list-style-type: none"> • プログラムがもたらす利点を検討・理解し、正当に評価する。 • 当該プログラムの効果を他者事例を参考に評価する。 	
D層： 「周囲迎合」派	<ul style="list-style-type: none"> • プログラムの受講に抵抗を感じつつも、業界標準が確立されたら受講する。 • 実績のあるプログラムを選択する傾向にある。 	ポリニューム層
E層： 「断固拒否」派	<ul style="list-style-type: none"> • 学びたいと思わない。 • 強制される環境になっはじめて学習する。 	

図 2-1 「専修学校リカレント教育」の受講層の類型（仮説）と主な特徴³

¹ 株式会社三菱総合研究所（2020）「専修学校リカレント教育総合推進方策（骨子）」（2021年2月2日閲覧）https://www.mri.co.jp/knowledge/pjt_related/senshuugakkou/dia6ou0000020y31-att/edu03_02.pdf（令和元年度本事業成果物）

² 株式会社三菱総合研究所（2020）「令和元年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」リカレント教育プログラム運営モデルの検証 報告書」（2021年2月2日閲覧）https://www.mri.co.jp/knowledge/pjt_related/senshuugakkou/dia6ou0000020y31-att/edu03_01.pdf（令和元年度本事業成果物）

³ 株式会社三菱総合研究所（2020）「専修学校リカレント教育総合推進方策（骨子）」（2021年2月2日閲覧）https://www.mri.co.jp/knowledge/pjt_related/senshuugakkou/dia6ou0000020y31-att/edu03_02.pdf（令和元年度本事業成果物） p.11 をもとに当社作成。

2.1.2 調査方法

(1) 調査対象の設定・セグメンテーション

専修学校がリカレント教育を提供する相手としては、個人と企業等（研修等での連携）の2つを想定することができる。そのため、本アンケート調査の対象者としては、自身がリカレント教育プログラムを受講することに関心がある層（以降、「受講者」と）と、他者（自社員等）にリカレント教育プログラムを受講させることに関心がある層（以降、「人事研修担当者」と）の2つを設定した。なお、リカレント教育の受講者は必ずしも企業等に勤務しているとは限らない（例 専業主婦、無職等）ため、対象者全体における人事研修担当者の割合を小さくした（具体的には、受講者1万人分、うち人事研修担当者2,000人分の回答を回収することを想定していた）。

また、本アンケート調査では、調査目的に沿った属性を持つ対象者を一定数確保するため、「プレ調査」と「本調査」の2段階に分けて調査を実施した。具体的には、以下のような流れである。

- 「プレ調査」を実施し、回答者の基本属性や就業状況、学習への考え・態度等を把握する。
- 「プレ調査」の結果を踏まえ、調査対象のセグメンテーションや回収目標数を決定する。
- 各回収目標数を達成するように配信数調整等を行いながら、「プレ調査」の回答者の一部を対象に「本調査」を実施する。

「本調査」における受講者と人事研修担当者の選定方針は以下のとおりである。

1) 受講者の選定方針

まず、以下の条件を満たす受講者を対象者とした。

- 就業している・就業を検討している者が多いと考えられる20～60代（10代・70代以上を除外）
- 推進方策における「受講層ターゲット」A～D層（E層を除外）

そのうえで、以下の3つの切り口でセグメント分けした。

- 年代（20代／30代／40代／50代／60代）
 - ✓ リカレント教育の受講状況や意欲、ニーズ等は、受講者の今後のキャリアプラン等に大きく影響を受けると考えられる。そのため、今後のキャリアプランに強く関連すると考えられる、年代をひとつの切り口とした。
 - ✓ 特に、「学び直し」について注目すべきターゲット層として、30～40代の割合を最も大きくし、次に20代、最後に50～60代という順に割合が大きくなるよう、回収目標数を調整した。
- 「受講層ターゲット」A～D層（A層／B層／C層／D層）

- ✓ リカレント教育のニーズやニーズを踏まえたアプローチ等は、受講層ターゲットにおける層の違いに大きく影響を受けると考えられる。そのため、受講層ターゲットの違いをひとつの切り口とした。
 - ✓ なお、プレ調査で得られた各受講層の人数比に合わせて回収目標数を設定する予定であったが、プレ調査の結果、各層の人数比に大きな違いがなかったため、層別の回収目標数は割り当てなかった。
- 職業（管理的職業従事者／その他の専門的・技術的職業従事者／技術者／情報処理・通信技術者／保健医療従事者／社会福祉専門職業従事者／事務従事者／販売従事者／その他のサービス職業従業者／介護サービス職業従事者／飲食物調理・接客・給仕職業従事者／保安職業従事者／農林漁業従事者／生産工程従事者／輸送・機械運転従事者／建築・採掘従事者／運搬・清掃・包装等従事者／その他／不就業（過去働いていたが現在働いていない・就業経験なし））⁴
- ✓ 学びたいプログラム内容等は、受講希望者の現在の業務に大きく影響を受けると考えられる。そのため、職業をひとつの切り口とした。
 - ✓ 特に、学習ニーズ等を深掘りする職業（IT 分野、介護分野）（詳しくは 2.1.2(2)2）から多くの回答者が得られるよう、回収目標数を調整した。

具体的なセグメンテーションと回収目標数は表 2-1 のとおりである。

2) 人事研修担当者の選定方針

まず、以下の条件を満たす人事研修担当者を対象者とした。

- 所属組織において、職員の能力開発・教育訓練業務に関与している。

そのうえで、以下の切り口でセグメント分けした。

- 職業（IT 分野（情報処理・通信技術者）／介護分野（介護サービス職業従事者）／その他の分野）
- ✓ 特に、学習ニーズ等を深掘りする職業（IT 分野、介護分野）（詳しくは 2.1.2(2)2）から多くの回答者が得られるよう、回収目標数を調整した。

具体的なセグメンテーションと回収目標数は表 2-2 のとおりである。

⁴ 日本標準職業分類（平成 21 年 12 月統計基準設定）

（https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/shokgyou/kou_h21.htm）を参考に、当社にて職業を再分類。

表 2-1 受講者層のセグメンテーションと回収目標数

職種	目標数	
管理的職業従事者		500
その他の専門的・技術的職業従事者		2500
技術者		
情報処理・通信技術者	1000	
保健医療従事者	1000	
社会福祉専門職業従事者	200	
事務従事者		1000
販売従事者		
その他のサービス職業従業者		2000
介護サービス職業従事者	500	
飲食物調理・接客・給仕職業従事者	200	
保安職業従事者		1000
農林漁業従事者		
生産工程従事者		
輸送・機械運転従事者		
建築・採掘従事者		
運搬・清掃・包装等従事者		
その他		
不就業(過去働いていたが現在働いていない・就業経験なし)		1000
計		8000

※30～40代を3000人ずつ
 ※50～60代は300人ずつを上限とする

表 2-2 人事研修担当者のセグメンテーションと回収目標数

	目標数
IT分野(情報処理・通信技術者)	200
介護分野(介護サービス職業従事者)	200
その他の分野	1600
計	2000

(2) 調査票設計

1) 調査項目と仮説

調査票の設計に当たり、2.1.1 調査目的を3つの調査項目に分け、それぞれについて仮説を設定した。調査項目とそれに対応する仮説は表 2-3 のとおりである。

表 2-3 調査項目と仮説

調査項目	仮説
<p>①受講層ターゲットを特徴づける要件</p> <p>⇒市場形成のための受講層ターゲットの特定を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続的かつ大規模な「専修学校リカレント教育」市場形成には、初期市場形成・市場規模拡大の順に、それぞれの受講層ターゲットを特定し、アプローチする必要がある。 ・ 初期市場形成時には、「学び直し意欲が高い層」をターゲットとし、市場規模拡大時には、逆の層へターゲットを拡大していくべきではないか。 →「学び直し意欲が高い層」とは、「学習者コミュニティに属しておりロールモデルがいる、学生時代から社会人にかけて学習による成功体験がある」人々だと考えられる。
<p>②受講層ターゲット別の受講障害・誘発要因、学びたいプログラム内容・方法</p> <p>⇒初期市場形成のためのアプローチ洗い出しを目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講者にとって【受講決定に至るまでの障壁】が多い・大きいこと、【受講負担と効果のバランス】が不適切であること、専修学校が【受講者が学びたい具体的なプログラム内容・方法】を把握できていないことが、初期市場形成を阻害しているのではないか。 ・ 【受講決定に至るまでの障壁】のうち、特に「そもそも何を学びたいかわからない」「プログラムを知る機会がない」「プログラム実績がわからない」ことが受講障害要因となっているのではないか。 ・ 【受講負担と効果のバランス】のうち、特に「受講に踏み切るための費用対効果が折り合わない」「受講による効果への期待が『周囲の評価』に偏りすぎている」ことが受講障害要因となっているのではないか。 ・ 【受講者が学びたい具体的なプログラム内容・方法】は、受講者それぞれの「キャリア上の課題認識」「学習分野」が大きく影響するのではないか。 →「キャリア上の課題認識」とは、仕事を続けるために解決したい課題をどう認識しているかを指す。例えば、所属企業で評価されるため業務効率化を図りたい、転職市場で勝つため資格を取得したい、仕事を通じた社会貢献のため多様な価値観を身に着けたい等が挙げられる。

<p>③専修学校の強みを活かした提供プログラム・情報発信のあり方</p> <p>⇒初期市場形成のためのアプローチ絞り込みを目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専修学校の強みを活かした提供プログラム・情報発信のあり方を具体化し、実行していくべきではないか。 ・ 専修学校の強みを活かした提供プログラムのあり方の仮説 <ul style="list-style-type: none"> - A-B層を想定：休職等を伴う正規過程等での学習 - A-C層を想定：仕事との両立が可能な短期プログラム、通信課程等での学習 - B-D層を想定：受講負担が小さく受講による効果が確認された短期オンライン等での学習 ・ 専修学校の強みを活かした情報発信方法のあり方の仮説 <ul style="list-style-type: none"> - A-B層を想定：プログラム内容を重視した情報発信 - B-C層を想定：受講による効果を重視した情報発信 - C-D層を想定：受講者数等の実績を重視した情報発信
--	---

2) 質問・選択肢の作成

1)調査項目と仮説における仮説を検証するため、表 2-4 のとおり、質問を作成した（詳細は参考資料を参考のこと）。

なお、リカレント教育に対するニーズ等は、分野により大きく異なることが想定される。そのため、本アンケート調査では、専修学校が人材育成に大きく寄与していると考えられるIT分野と介護分野について、より具体的なニーズ等を把握するため、個別の質問を設定した。

質問や選択肢の検討にあたっては、既存の調査や、社会人や業界団体等を対象としたプレヒアリング調査等から得られた意見を参考にした（表 2-5）。

表 2-4 調査票の構成

カテゴリー		質問例
プレ調査		
回答者のプロフィール	回答者基礎情報	年齢、性別、居住地、配偶者の有無
	就業状況	仕事の有無、職業、雇用形態、役職
受講層ターゲット類型化	学習意欲・学習行動	学習への考え・態度、学習時間、学習費用自己負担額
	学習意欲がない者のみ	学習意欲がない理由、学習する場合に身に付けたい知識・スキル
人事研修担当者	人事研修担当者か否か	能力開発・教育訓練業務への関与状況、
	人事研修担当者のみ	OJT以外の教育訓練の拡充の必要性、専門学校卒業生の採用状況
本調査		
受講層ターゲットのプロフィール	回答者基礎情報	子どもの人数、要介護・介助者の有無、最終学歴

	就業状況	就業時間、業種、勤め先の従業員数、所得、復職・就職希望（該当者のみ）、社会人歴、業務の変更予定・希望 等
受講促進・ 阻害要因	学習経験	過去3年間の学習実施状況、身に付けようとした知識やスキル、それらが身についた程度、補助・助成等の利用有無、学習形態、学習の提供主体、学習費用自己負担額、学習時間 等
	学習経験（詳細）	最も重視して取り組んだ学習、学習実施目的、目的の達成状況、実施のきっかけ、学習機会の発見方法、実施決定時に特に重視した点 等
	学習の実施を検討しなかった者のみ	学習の実施を検討しなかった理由、受講可能な時間帯
	コロナ禍による変化	学習意欲の変化、コロナ禍をきっかけとした学習実施状況
IT分野に特化した 質問群	共通	IT 関連業界との関係性、所属組織の事業内容、自身の業務内容
	学習経験	過去3年間の学習実施状況、今後の学習意向
	学習を実施したい・実施中の者のみ	学習実施目的
	学習を実施していない者のみ	学習を実施しなかった理由
介護分野に 特化した質問群	共通	介護関連業界との関係性、自身の業務内容、保有視覚・取得したい資格
	学習経験	過去3年間の学習実施状況、今後の学習意向
	学習を実施したい・実施中の者のみ	学習実施目的
	学習を実施していない者のみ	学習を実施しなかった理由
人事研修担当者を 対象とした質問群	能力開発実態	所属組織における Off-JT 実施状況・拡充意向、Off-JT 実施上の課題、Off-JT 導入のための情報収集方法、自己啓発支援実施状況
	Off-JT の拡充意向がある者のみ	Off-JT を拡充したい理由、Off-JT における外部機関の活用可能性、外部機関に期待する条件

	DX 人材育成のための Off-JT	DX 人材育成のための Off-JT 実施状況・拡充意向、DX 人材育成のための Off-JT 拡充上の課題
専修学校の強み・ 弱み	受講者層を 対象とした質問群 (専修学校教育経験者)	よかった点・悪かった点、最も満足した点・不満足だった点
	受講者層を 対象とした質問群 (専修学校教育未経験者)	期待する点・期待しない点
	人事研修担当者を 対象とした質問群 (専修学校活用人)	よかった点・悪かった点、最も満足した点・不満足だった点
	人事研修担当者を 対象とした質問群 (専修学校未活用人)	専修学校教育へのイメージ

表 2-5 調査票設計に当たり参考とした主な調査・文献

No	調査・文献名	出所
1	平成 29 年就業構造基本調査 (総務省)	https://www.stat.go.jp/data/shugyou/2017/gaiyou.html
2	令和 2 年国勢調査 (総務省)	https://www.kokusei2020.go.jp/index.html
3	日本標準職業分類 (平成 21 年 12 月統計基準設定) 分類項目名 (総務省)	https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/shokgyou/kou_h21.htm
4	能力開発基本調査 (厚生労働省)	https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/104-1.html
5	デジタル・トランスフォーメーション (DX) 推進に向けた企業と IT 人材の実態調査～詳細編～ (独立行政法人情報処理推進機構 (IPA))	https://www.ipa.go.jp/files/000082054.pdf
6	「人的資本に関する国内外分析調査」 報告書 (株式会社三菱総合研究所)	https://www.meti.go.jp/meti_lib/report/H29FY/000288.pdf
7	「社会人の大学院教育の実態把握に関する調査研究」 (早稲田大学)	https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/__icsFiles/afieldfile/2013/01/07/1308222_1.pdf
8	IT 人材白書 2020 (独立行政法人情報処理推進機構 (IPA))	https://www.ipa.go.jp/jinzai/jigyoku/about.html
9	情報通信白書令和元年版 (総務省)	https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/r01.html
10	i コンピテンシディクショナリ解説書 (独立行政法人情報処理推進機構 (IPA))	https://www.ipa.go.jp/files/000060168.pdf

11	平成30年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（IT人材育成支援のための調査分析事業）—IT人材受給に関する調査—調査報告書（みずほ情報総研株式会社）	https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf
12	2019年度「専修学校による地域産業中核的人材育成事業 情報分野のための機動的な産学連携体制の構築と効果的な教育体制・手法の検証事業」IT分野専門学校の育成人材領域・育成人材像解説書（一般社団法人全国専門学校情報教育協会）	https://r1monka-itaku.net/education/wp-content/uploads/2020/03/2d768945c864c46301158669bc972963.pdf
13	規制改革推進会議 雇用・人づくりワーキンググループ 資料2-1 「新しい時代の変化に対応する社会人向け教育～学習者の実態から～」（乾喜一郎、2020年）	https://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/kisei/meeting/wg/koyou/20200409/200409koyou02.pdf
14	中央教育審議会大学分科会大学院部会（第95回）「大学院が社会人学習者から選ばれる教育機関となるために 社会人に大学院を提案する現場で、1000人を超える社会人大学院生の事例から見えてきたこと」（乾喜一郎、2019年）	https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/2019/09/_icsFiles/afieldfile/2019/09/18/1421377_2.pdf
15	第12回介護福祉士の就労実態と専門性の意識に関する調査 報告書（公益社団法人日本介護福祉会）	http://www.jaccw.or.jp/pdf/chosakenkyu/H28/H28_dokuji_hokoku.pdf
16	令和元年度介護労働実態調査 介護労働者の就業実態と就業意識調査 結果報告書（公益財団法人介護労働安定センター）	http://www.kaigo-center.or.jp/report/pdf/2020r02_chousa_roudousha_chousahyou.pdf
17	介護福祉士の就労実態と専門性の意識に関する調査 調査票（2020年）（公益社団法人日本介護福祉会）	https://www.jaccw-carewel.net/jaccw_info_file/topics/837/13syuurouzaichousa.pdf
18	労働政策研究報告書 No.196 日本企業における人材育成・能力開発・キャリア管理（労働政策研究・研修機構）	https://www.jil.go.jp/institute/reports/2017/documents/0196.pdf

(3) Web アンケートによる回答データの収集

前述の通り調査票を設計し、調査対象を設定した上で、アンケートモニターに対する Web アンケート形式で調査を実施した。「プレ調査」「本調査」それぞれの実施概要は表 2-6 のとおりである。

表 2-6 「プレ調査」「本調査」の実施概要

	プレ調査	本調査
実施時期	2020年12月8日～12月14日	2020年12月25日～2021年1月4日
配信先	20～69歳	20～69歳かつA～D層 ※プレ調査の結果を踏まえ、属性により回収目標数を調整。
回収数	受講者：74,487人 うち人事研修担当者：12,839人	受講者：11,634人 うち人事研修担当者：2,000人
回収数詳細	受講者：表 2-7 人事研修担当者：表 2-8	受講者：表 2-9 人事研修担当者：表 2-10

なお、本調査の回答者 11,634 人のうち、以下の条件に当てはまる回答者は、エラーサンプルとして集計対象から除外した。

- 社会人歴（年数を数値回答）が年齢より大きい。
- 社会人歴と年齢の差が 15 年以下。
- 子どもの合計人数が 20 人以上。

以上のデータクリーニングにより、集計対象は、受講者 11,568 人、うち人事研修担当者 1,965 人となった。

表 2-7 プレ調査 受講者回収数（人事研修担当者除く）

職種	年代×A～E層																									計	計
	20代					30代					40代					50代					60代						
	A層	B層	C層	D層	E層	A層	B層	C層	D層	E層	A層	B層	C層	D層	E層	A層	B層	C層	D層	E層	A層	B層	C層	D層	E層		
管理的職業従事者	13	12	5	4	11	35	22	14	10	64	103	78	72	58	220	176	130	125	100	407	79	67	58	40	175	2078	2078
その他の専門的・技術的職業従事者	71	59	44	24	77	117	100	61	40	151	184	110	76	57	201	156	86	75	41	170	168	90	54	25	109	2346	
技術者	29	27	19	13	43	44	42	30	37	87	52	58	50	32	120	45	32	37	28	125	50	26	31	17	53	1127	
情報処理・通信技術者	32	25	21	18	41	73	58	59	45	118	186	155	105	104	308	163	138	126	140	444	64	52	33	26	88	2622	11203
保健医療従事者	73	106	66	104	177	202	209	126	218	411	267	246	169	193	422	188	191	129	147	375	82	79	46	57	134	4417	
社会福祉専門職業従事者	15	16	15	12	36	29	36	24	26	65	61	38	37	35	61	35	28	21	9	51	9	7	6	5	14	691	
事務従事者	166	106	123	136	472	373	278	301	307	1031	432	367	418	333	1459	272	243	286	299	1187	149	101	115	144	592	9690	13753
販売従事者	101	95	103	91	346	112	107	135	114	444	152	126	152	123	554	97	92	99	88	425	57	39	69	63	279	4063	
その他のサービス職業従事者	72	59	53	53	202	88	80	71	82	350	139	104	141	114	463	126	99	131	102	437	79	51	67	70	287	3520	
介護サービス職業従事者	20	12	14	21	41	54	38	48	48	162	87	77	79	76	236	69	75	59	60	251	33	25	25	28	102	1740	8431
飲食物調理・接客・給仕職業従事者	101	74	78	88	265	92	53	98	94	367	110	77	120	118	522	89	52	89	79	349	40	14	38	24	140	3171	
保安職業従事者	9	7	5	3	16	14	8	6	11	48	10	3	14	6	45	13	10	18	7	60	8	9	8	16	63	417	
農林漁業従事者	6	2	7	2	3	9	8	7	5	22	8	6	10	6	26	3	6	4	5	18	5	9	5	5	9	196	
生産工程従事者	36	25	32	43	180	68	51	58	72	382	67	49	81	76	434	36	36	57	62	325	23	27	33	27	164	2444	
輸送・機械運転従事者	8	7	6	8	34	14	15	13	15	68	16	13	22	16	108	19	4	13	18	100	12	7	19	13	83	651	8637
建築・採掘従事者	3	4	9	8	21	13	11	11	8	42	19	14	18	17	82	9	8	5	13	72	7	9	10	13	49	475	
運搬・清掃・包装等従事者	29	18	18	26	148	21	13	20	33	236	34	26	34	46	265	30	9	32	32	197	31	7	39	23	163	1530	
その他	51	48	61	49	191	69	46	47	46	248	81	60	82	64	373	88	71	110	93	394	105	82	94	59	312	2924	
不就業(過去働いていたが現在働いていない・就業経験なし)	315	248	268	297	1506	352	262	315	361	2083	363	212	372	339	2135	347	192	386	322	1692	796	364	735	658	2626	17546	17546
計	1150	950	947	1000	3810	1779	1437	1444	1572	6379	2371	1819	2052	1813	8034	1961	1502	1802	1645	7079	1797	1065	1485	1313	5442	61648	

表 2-8 プレ調査 人事研修担当者回収数

	A層	B層	C層	D層	E層	計
IT分野(情報処理・通信技術者)	242	168	132	80	80	702
介護分野(介護サービス職業従事者)	72	74	47	46	72	311
その他の分野	3791	2902	1904	1193	2036	11826
計	4105	3144	2083	1319	2188	12839

表 2-9 本調査 受講者回収数（人事研修担当者除く）

職種	年代×A～D層																				計(A～D層)	
	20代				30代				40代				50代				60代					
	A層	B層	C層	D層	A層	B層	C層	D層	A層	B層	C層	D層	A層	B層	C層	D層	A層	B層	C層	D層		
管理的職業従事者	9	8	5	3	27	19	12	8	84	60	58	52	8	63	8	32	9	29	6	19	519	
その他の専門的・技術的職業従事者/技術者	38	27	18	7	94	72	63	47	144	102	80	55	5	19	3	22	5	32	6	14	853	
情報処理・通信技術者	18	13	13	10	40	31	37	27	125	108	72	65	6	35	3	5	3	19	21	19	670	
保健医療従事者	26	17	14	24	103	93	71	113	155	144	89	106	3	71	7	50	4	29	32	0	1151	
社会福祉専門職業従事者	2	4	10	2	17	20	12	13	31	25	17	20	6	18	5	1	5	2	5	0	215	
事務従事者/販売従事者	66	23	47	26	138	92	160	136	15	141	19	168	3	87	6	57	63	5	44	4	1300	
その他のサービス職業従業者	22	18	22	22	58	58	52	59	100	80	104	80	7	43	63	22	28	5	25	6	874	
介護サービス職業従事者	10	9	10	15	31	23	32	34	55	54	49	58	10	22	17	4	12	7	20	8	480	
飲食物調理・接客・給仕職業従事者	31	15	25	24	49	27	63	65	58	46	79	79	31	18	30	4	18	5	27	7	701	
保安職業従事者/農林漁業従事者/生産 工程従事者/輸送・機械運転従事者/建 築・探掘従事者/運搬・清掃・包装等従事 者/その他	35	36	29	52	96	75	89	104	124	91	143	147	65	6	31	8	77	6	71	5	1290	
不就業（過去働いていたが現在働いてい ない・就業経験なし）	86	49	39	91	33	88	28	91	32	96	126	137	94	8	68	4	290	5	212	4	1581	
計	343	219	232	276	686	598	619	697	923	947	836	967	238	390	241	209	514	144	469	86	9634	

表 2-10 本調査 人事研修担当者回収数

IT分野(情報処理・通信技術者)	200
介護分野(介護サービス職業従事者)	187
その他の分野	1613
計	2000

2.2 集計・分析結果

2.2.1 専修学校リカレント教育の初期市場形成アプローチへの示唆

(1) 専修学校リカレント教育の初期市場、初期市場形成ターゲットの定義

「学び直し意欲が高い層」が専修学校リカレント教育プログラムを受講するようになっており、ボリューム層までは取り込めていないものの、一定規模の市場が存在していることを専修学校リカレント教育の初期市場と定義する。

この初期市場形成を担うのは、学習に対し意欲的であり、周囲の影響に左右されず自らの意志で学習を継続的に実施する「学び直し意欲が高い層」であると考えられるため、これらの層を初期市場形成ターゲットと定義する。

(2) 専修学校リカレント教育の初期市場形成のためのターゲット

初期市場形成ターゲットである、「学び直し意欲が高い層」の具体的なプロフィール（ターゲットの特徴）を本調査で明らかにした。なお、自身がリカレント教育プログラムを受講することに関心がある層「受講者」は「学び直し意欲が高い層」として、他者（自社社員等）にリカレント教育プログラムを受講させることに関心がある層「人事研修担当者」は「Off-JT 意欲が高い層」として、それぞれの特徴を表 2-11、表 2-12 のとおり検討した。

表 2-11 受講者（学び直し意欲が高い層⁵）の特徴

存在割合	約 3 割 ⁶ （A 層：17.7%、B 層：13.3%）
プロフィール上の 特徴	<ul style="list-style-type: none">・年代や居住地によらず一定の割合で存在・やや男性が多い・4 年制大学卒業以上の高学歴者が 6 割以上・正規雇用者や自営業主が多く、合わせて 7 割以上・管理職や専門職が多く、合わせて約 5 割・経営層もしくは管理職が約 4 割・就業時間がやや長く、時間上の制約あり・転職もしくは異動の予定・希望が学び直し意欲の高さと相関
学習実施上の 特徴・課題	<ul style="list-style-type: none">・業界で生き残るため等将来への危機意識が受講促進要因・現在から将来にかけての業務に役立てるために学習

⁵ 「学び直し意欲が高い層」とは、問 i の学習に対する考えや態度において、「学習への意欲があり、現在の業務の課題解決に直接役立つかどうかに関わらず、興味・関心を持ったものを学習する。（＝A 層）」「学習への意欲があり、現在の業務の課題解決に直接役立つ学習であれば行う。（＝B 層）」の選択肢を回答した者と定義する。

⁶ イノベーター理論に基づくと、当該層の存在割合は A 層（イノベーター）が 2.5%、B 層（アーリーアダプター）が 13.5%であり、本調査で設定した「学び直し意欲が高い層」の定義では、イノベーター理論における定義よりも広範な対象を捉えている可能性があることに留意が必要である（詳細は「専修学校リカレント教育総合推進方策（・骨子）」p12 を参照）。

	<ul style="list-style-type: none"> ・業務上必要な専門分野の知識・スキルや語学を学習 ・民間のビジネス系の研修・セミナー等の活用が多い ・金銭・時間的余裕がないことが受講阻害要因 ・学習時間は1カ月当たり5時間未満 ・自己負担額は年間1万円以下
--	--

表 2-12 人事研修担当者（Off-JT 意欲が高い層⁷⁾ の特徴

存在割合	約1割（Off-JT や自己啓発支援などを大きく拡充すべき：13.7%）
プロフィール上の 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・全社の職員の能力開発・教育訓練業務の決裁権を持つ人が多い ・経営層、特に最高経営責任者もしくは代表取締役社長が多い ・従業員数が300人以上のいわゆる「大企業」所属者が多い
Off-JT 実施上の 特徴・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員全体の能力底上げと経営方針決定が Off-JT 拡充促進要因 ・全対象者に共通して業務上必要な専門分野の知識拡充ニーズあり ・どの対象者にどの知識・スキルを習得させるかの特定と対象者の時間確保困難が Off-JT 拡充阻害要因

(3) 専修学校リカレント教育の初期市場形成アプローチ

初期市場形成ターゲットである受講者で「学び直し意欲の高い層」、人事研修担当者で「Off-JT 意欲の高い層」それぞれのプロフィール上の特徴および学習/Off-JT 実施上の特徴・課題を踏まえ、初期市場形成につながるリカレント教育プログラム、情報発信方法それぞれについて、専修学校にとって今後有効と考えられるアプローチを分析した。分析の際には本調査で把握した「専修学校の強み⁸⁾」と照らし合わせ、アプローチの絞り込みを行った。

<教育プログラム設計に関するアプローチ>

- ① ターゲット像を明確化し、業務に直結する実践性とは何かを分析
- ② 得意とする専門分野の知識・スキルを扱うプログラムを設計
- ③ 高い学習効果（＝高い実践性）を担保する適切な学習時間・環境を設定
- ④ プログラム実施形態の柔軟性は開講時期・時間帯で確保
- ⑤ 人事研修担当者向けサービスとして事前カウンセリングを合わせて実施

<情報発信方法に関するアプローチ>

- ① より実践的なプログラムは勤め先企業や業界団体を介して広報・周知

⁷⁾ 「Off-JT 意欲が高い層」とは、問○の能力開発・教育訓練業務の拡充意向において、「大きく拡充すべきである」の選択肢を回答した者と定義する。

⁸⁾ 「専修学校の強み」とは、設問群 E1, E2 で把握した「専修学校教育経験者」（＝最終学歴が専修学校、もしくは過去3年間で提供主体が専修学校である学習を実施したと回答した人）、「専修学校活用者」（＝専修学校が提供する学習プログラムを所属組織の OFF-JT、自己啓発支援の取組に活用したと回答した人）が自身の受講/活用経験をもとに評価した点と定義する。

- ② Web サイト情報拡充と学び直し関連ポータルサイト掲載により検索性を向上
- ③ 受講者だけでなく人事研修担当者向けの情報発信にも注力
- ④ 「専修学校の強み」を活かす訴求ポイント例
 - 【受講者向け】高い学習効果を適切な学習時間・学習環境で実現
 - 【人事研修担当者向け】事前検討に資する充実したプログラム情報公開
 - 【新規顧客層拡大時】費用対効果の高さ、指導方法の適切さを追加訴求

1) 教育プログラム設計に関するアプローチへの示唆

a. ターゲット像を明確化し、業務に直結する実践性とは何かを分析

各専修学校がターゲットとする受講対象者像を明確化し、そのターゲットの業務に直結する実践性とは何かを分析する重要性が示唆された。

本調査結果より、「学び直し意欲の高い層」は自身の現在の業務に直結するより実践的な学習を実施したいという目的意識が強いことが明らかとなった(図 2-49、図 2-50、図 2-51)。また、「学び直し意欲の高い層」かつ専修学校による教育プログラム受講経験がある「専修学校教育経験者」は、専修学校による教育プログラムの学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効であることを高く評価していることが明らかとなった(図 2-120、図 2-121、図 2-122)。これらのことから、業務内容によって異なるであろう受講者が考える実践的な学習の要件を的確に捉えた学習内容の範囲・レベル、身につく知識・スキルの設定が重要であると考えられる。

b. 得意とする専門分野の知識・スキルを扱うプログラムを設計

各専修学校が開講してきた従来の教育プログラムを活用しつつ、得意とする専門分野の知識・スキルを扱う教育プログラムを設計する重要性が示唆された。

本調査結果より、「学び直し意欲の高い層」は特定の専門分野における体系的な理論や技能・技術を習得したいというニーズが大きいことが明らかとなった(図 2-47)。このニーズと、先に 2.2.1(3)□a で述べたより実践的な学習を実施したいという目的意識の両方を満たす教育プログラムは、まさに専修学校が従来より実施してきた職業教育の特徴と合致すると考えられる。従って、各専修学校がこれまでに開講してきた従来の教育プログラムを活用しつつ、2.2.1(3)□a の分析により明確化したターゲット像のニーズを満たすよう教育プログラムをカスタマイズすることが重要であると考えられる。

c. 高い学習効果(=高い実践性)を担保する適切な学習時間・実施時期・環境を設定

高い学習効果を担保することを優先した適切な学習時間・実施時期・環境を設定することの重要性が示唆された。

本調査結果より、専修学校による教育プログラム受講経験がある「専修学校教育経験者」は、専修学校による教育プログラムの学習時間や実施時期、通学先アクセス、学習環境が適切であり、学習効果が高いことを高く評価していることが明らかとなった(図 2-113)。この評価と、先に 2.2.1(3)□a で述べたより実践的な学習を実施したいという目的意識のそれぞれを踏まえると、専修学校による教育プログラムの学習時間や実施時期、通学先アクセス、

学習環境のよさを活かしつつ、高い学習効果、すなわち高い実践性を担保する教育プログラムを設計することが重要であると考えられる。

一般的に、専修学校が開講する教育プログラムの多くは1年以上の修業年限が設定されている一方、本調査結果で実施者数が比較的多かった民間のビジネス系の研修・セミナー等は数時間程度かつ単発である場合が多い(図 2-44、図 2-45、図 2-46)。加えて、本調査対象者の学習実施実態として、過去3年間において費やした学習時間は1カ月当たり5時間未満がボリュームゾーンであった(図 2-18)。これらのことから、専修学校の教育プログラムの学習時間は受講者から見ると長期間であると言える。それにも関わらず、「専修学校教育経験者」が学習時間や実施時期を評価したということは、それに見合うだけの学習効果が得られればやや長い学習時間であっても許容される可能性があることが示唆される。長い学習時間に対する受容性は社会人それぞれの置かれた現状によって異なること、および時間確保は従来より学習の障壁として指摘されてきたことを踏まえると、必ずしも長い学習時間が許容されるとは言い切れないものの、学習効果と時間・時期・環境のトレードオフの検討において、学習効果を重視する考え方の有効性を示唆するものと捉えられる。

d. プログラム実施形態の柔軟性は開講時期・時間帯で確保

各専修学校がターゲットとする受講対象者の就業・生活実態を踏まえ、開講時期や時間帯で実施形態の柔軟性を確保することの重要性が示唆された。

本調査結果より、専修学校による教育プログラム受講経験がある「専修学校教育経験者」は、専修学校の教育プログラムの開講時期の適切さ・柔軟さを高く評価していることが明らかとなった(図 2-114)。この評価と、先に2.2.1(3)□cで述べた高い学習効果を担保し得る学習時間の設定が重要である点を踏まえると、長期間にわたり受講を継続させるための開講時期・時間上の工夫をすることが重要であると考えられる。工夫の例として、受講者の業務上の繁忙期や異動時期を避けること、開講時間帯を平日夜間、もしくは休日にする等が挙げられる。

e. 人事研修担当者向けサービスとして事前カウンセリングを合わせて実施

企業等の人事研修担当者に対してリカレント教育プログラムを提案する場合は、教育プログラム提供に加えプログラム実施目的や達成目標、受講対象者等を明確化する事前カウンセリングを実施することが付加価値となる可能性が示唆された。

本調査結果より、人事研修担当者がOff-JTを実施するうえで感じている課題の中で、「どの対象者にどの知識・スキルを身につけさせるべきかの特定」が最も大きいことが明らかとなった(図 2-106)。このことから、人事研修担当者に対してリカレント教育プログラムを提案する場合は、既存のメニューを提示するだけでなく、どの教育プログラムを必要としているのかを一緒に検討し、必要性を十分に認識してもらうことで、よりプログラムの採用可能性が高まることが考えられる。さらに、オーダーメイドプログラムとして提供することができれば、他の競合となる外部機関との大きな差別化要因となる可能性がある。

2) 情報発信方法に関するアプローチへの示唆

a. より実践的なプログラムは勤め先企業や業界団体を介して広報・周知

受講者や人事研修担当者の勤め先企業や業界団体を介したリカレント教育プログラムの広報・周知の重要性が示唆された。

本調査結果より、「学び直し意欲の高い層」の主な学習機会発見方法はインターネット検索に次いで、勤め先や業界団体等からの案内であることが明らかとなった（図 2-56）。このことと、先に 2.2.1(3)□a で述べた受講者はより実践的な学習を実施したいという学習目的意識が強いことを踏まえると、自身の業務に直結した学習を実施したい場合、勤め先企業や業界団体からの案内を大きな情報収集源の一つとして捉えている可能性が高いと考えられる。

一方、「Off-JT 意欲の高い層」の Off-JT 導入に際する情報収集方法は業界団体等からの案内が最も多いことが明らかとなった（図 2-107）。このことから、受講者、人事研修担当者に共通して、業界団体等からの案内はリカレント教育プログラムの情報発信方法として重要性が高いことが考えられる。

b. Web サイト情報拡充と学び直し関連ポータルサイト掲載により検索性を向上

各専修学校 Web サイト上でのリカレント教育プログラムの情報拡充と、学び直しや学習分野に関するポータルサイト上での検索性を向上する取組の重要性が示唆された。

本調査結果より、「学び直し意欲の高い層」で学習機会発見方法について、「インターネット検索や学び直しや学習分野に関するポータルサイト」であると回答した人の割合を合計すると約 3 割以上となり、最も割合の大きい勤め先や業界団体等からの案内を上回った（図 2-56）。加えて、「学び直し意欲の高い層」かつ専修学校による教育プログラムを受講した経験がある「専修学校教育経験者」は Web サイト等で詳細な情報が公開されていたことを高く評価していることが明らかとなった（図 2-123、図 2-124）。

一方、「Off-JT 意欲の高い層」の主な Off-JT 導入に際する情報収集方法は業界団体等からの案内に次いでインターネット検索が多いことが明らかとなった（図 2-107）。加えて、専修学校による教育プログラムを Off-JT や自己啓発支援の取組に活用した経験がある「専修学校活用者」は Web サイト等で詳細な情報が公開されていたことを高く評価していることが明らかとなった（図 2-132、図 2-133、図 2-141、図 2-142）。

c. 受講者だけでなく人事研修担当者向けの情報発信にも注力

専修学校リカレント教育プログラムに関する情報発信は、受講者だけでなく企業等の人事研修担当者にも効果的であることが示唆された。

本調査対象者である人事研修担当者のうち、約 8 割に Off-JT を今後拡充していくに当たり外部機関を活用する可能性があることが明らかとなった（図 2-108）。このうち、「Off-JT 意欲の高い層」については、約 4 割がすでに外部機関を活用していた（図 2-108）。このことから、リカレント教育プログラムに関する情報提供は受講者だけでなく人事研修担当者にも大きな需要があることが考えられる。

d. 「専修学校の強み」を活かす訴求ポイント例

各専修学校が自身のリカレント教育プログラムの情報発信に当たり、どのような点を具体的に訴求すべきかについて、以下の3点が有効である可能性が示唆された。

- 【受講者向け】高い学習効果を適切な学習時間・学習環境で実現
- 【人事研修担当者向け】事前検討に資する充実したプログラム情報公開
- 【新規顧客層拡大時】費用対効果の高さ、指導方法の適切さを追加訴求

本調査結果より、受講者から見た「専修学校の強み」は、受講者自身にとって学習時間や実施時期が適切であること、通学先アクセスや学習環境が優れていること、そして高い学習効果が得られることだと考えられる（図 2-113、図 2-114、図 2-115、図 2-116）。

人事研修担当者から見た「専修学校の強み」は Off-JT の実施に当たり外部機関活用を検討するに十分なプログラム情報が公開されていること、活用した結果高い学習効果が得られることだと考えられる（図 2-131、図 2-132、図 2-133、図 2-134）。

他方、本調査では、専修学校による教育プログラムを受講した経験がない人、Off-JT や自己啓発支援の取組に専修学校による教育プログラムを活用した経験がない人に対し、専修学校に期待するイメージについても把握した。その結果、「専修学校の強み」として挙げられた点と同様の点が期待するイメージとして挙げられていることが多かった（例：高い学習効果が得られそうなこと、学習時間や実施時期が適切そうであること、十分なプログラム情報が公開されてそうなこと）（図 2-126、図 2-127、図 2-128、図 2-144、図 2-145、図 2-146）。上述した点以外で期待するイメージとして挙げられた点は、費用対効果が高そうであること、指導方法が適切そうであることであった（図 2-129、図 2-130）。

以上の結果を整理したものが表 2-13 である。この表から、受講者、人事研修担当者それぞれに対する情報発信に当たり訴求ポイントとなり得る点を分析した。

まず、受講者・人事研修担当者それぞれの強み・期待いずれにも「高い学習効果が得られる」ことが含まれており、大きな訴求ポイントであることが考えられる。加えて、受講者の強み・期待いずれにも「自身にとって学習時間や実施時期が適切である」ことが含まれていた。このことから、受講者向けの訴求ポイントとして、高い学習効果を適切な学習時間・学習環境で実現可能であることを発信することの有効性が示唆される。

一方、人事研修担当者では強み・期待いずれにも「十分なプログラム情報が公開されている」ことが含まれていた。さらに、先に 2.2.1(3)2a で述べた業界団体等からの案内を主な情報収集方法としていることから、人事研修担当者向けの訴求ポイントとして、上述した学習効果や学習時間・学習環境等を示す充実したプログラム情報公開を、より目に止まりやすい業界団体等の案内を介して発信することの有効性が示唆される。

受講者・人事研修担当者それぞれの期待のうち強みにはない特有点として、「費用対効果が高そう」「指導方法が適切そう」の2点が挙げられた。これらの点は本調査結果からは専修学校の強みとしては認識されていないものの、期待としてのイメージがあると考えられる。このことから、費用対効果や指導方法におけるプログラム上の特徴を事前に分析したうえで、新規顧客層拡大を図る際には訴求ポイントとして情報発信することが有効である可能性が示唆される。

表 2-13 受講者、人事研修担当者別に見た専修学校の強みと期待

	受講者	人事研修担当者
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・自身にとって学習時間や実施時期が適切である ・通学先アクセスや学習環境が優れている ・高い学習効果が得られる 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分なプログラム情報が公開されている ・高い学習効果が得られる
期待	<ul style="list-style-type: none"> ・自身にとって学習時間や実施時期が適切である ・費用対効果が高そう ・指導方法が適切そう ・高い学習効果が得られそう 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分なプログラム情報が公開されている ・学習時間や実施時期が適切そう ・高い学習効果が得られそう

2.2.2 調査仮説ストーリーに対応する調査結果の整理

本調査項目と仮説は表 2-3 のとおり大きく 3 点であり、それぞれに対応する結果の要約を以下に示す。

<調査項目>

- ① 初期市場形成ターゲットの特徴 (⇒初期市場形成ターゲット特定)
- ② 受講層ターゲット別の受講促進・阻害要因、学びたいプログラム内容・方法 (⇒初期市場形成のためのアプローチ洗い出し)
- ③ 専修学校の強みを活かした提供プログラム・情報発信のあり方 (⇒初期市場形成のためのアプローチ絞り込み)

<調査項目に対応する結果の要約>

- ① 初期市場形成ターゲットの特徴 (⇒初期市場形成ターゲット特定)
 - 【受講者】「学び直し意欲が高い層⁹⁾」はどのようなプロフィールか (2.2.3、2.2.4)
 - ✓ 「学び直し意欲が高い層」は回答者の約 3 割である。
 - ✓ 年代や居住地域によらず一定の割合で存在している。
 - ✓ やや男性が多い。
 - ✓ 最終学歴が「大学」以上が約 6 割を占める。
 - ✓ 「管理的職業従事者」「専門的・技術的職業従事者」がやや多い。
 - ✓ 「正規の職員・従業員」が約 6 割を占める。
 - ✓ 経営層もしくは管理職が約 4 割を占める。
 - ✓ 平均的な 1 週間の就業時間がやや長い。

⁹⁾ 「学び直し意欲が高い層」とは、問 i の学習に対する考えや態度において、「学習への意欲があり、現在の業務の課題解決に直接役立つかどうかに関わらず、興味・関心を持ったものを学習する。(=A 層)」「学習への意欲があり、現在の業務の課題解決に直接役立つ学習であれば行う。(=B 層)」の選択肢を回答した者と定義する。

- ✓ 年間所得が 300 万円未満のいわゆる「低所得者」割合がやや小さい。
- ✓ 「現在と大きく異なる業務を行う予定・希望がある」割合がやや大きい。
- 【人事研修担当者】「Off-JT 意欲が高い層¹⁰」はどのようなプロフィールか (2.2.12、2.2.13)
 - ✓ 「Off-JT 意欲が高い層」は回答者の約 1 割である。
 - ✓ 全社の職員の能力開発・教育訓練業務の決裁権を持つ人が多い。
 - ✓ 何らかの役職者、特に最高経営責任者もしくは代表取締役社長が多い。
 - ✓ 勤め先従業員数が 5000 人以上のいわゆる「大企業」所属者が多い。
- 【受講者】「学び直し意欲が低い層」 (=E 層¹¹) はなぜ学び直し意欲が低いのか (2.2.5(7)(9))
 - ⇒学習実施に対して否定的、もしくは必要性を認識していないことが学び直し意欲が低い大きな要因であると考えられる。次いで、学習プログラムをどう見つければよいかわからないという理由が多いことから、自身に適した学習の検討方法がわからないことも要因の一つとして考えられる。
 - ✓ 学習への意欲がない理由として、「そもそも学習したくないため」が約 5 割を、「現状に満足しており、学習の必要性を感じていないため」が次いで 2 割弱、「適した学習プログラムをどう見つけられればよいかわからなかったため」が約 1 割を占める。
 - ✓ 今後何かを学習することになった場合、身につけたい知識やスキル等として、「どのような知識やスキル等も身につけたいと思わない」が約 5 割を、「コミュニケーション能力」「PC や一般的な業務ソフトの操作」「特定の専門分野における体系的な技能・技術」「語学 (外国語)」それぞれが次いで約 1 割を占める。
- ② 受講層ターゲット別の受講促進・阻害要因、学びたいプログラム内容・方法 (⇒初期市場形成のためのアプローチ洗い出し)
 - 【受講者】「学び直し意欲が高い層」の学習実施実態にはどのような特徴があるか (2.2.5)
 - ⇒現在の業務に役立てるため、もしくは自身の仕事やキャリアの幅を広げるためを目的とし、業務上必要な専門分野の知識・技術や語学を、資格取得や民間のビジネス系の研修・セミナー等の手段により学習した人が多い。その際に費やした学習時間は 1 カ月当たり 5 時間未満、年間の自己負担額は 0 円もしくは 1000 円以上 1 万円以下がボリュームゾーンである。
 - ✓ 過去 3 年間で何らかの学習を実施した人が約 4 割、実施を検討したが断念した

¹⁰ 「Off-JT 意欲が高い層」とは、問 o の能力開発・教育訓練業務の拡充意向において、「大きく拡充すべきである」の選択肢を回答した者と定義する。

¹¹ 問 i の学習に対する考えや態度において、「学習への意欲はないが、義務であれば学習する。」の選択肢を回答した者。

人が約 1 割を占める¹²。

- ✓ 1 カ月当たりの平均的な学習時間は「5 時間未満」が最も多いが、この割合は学び直し意欲が高いほど小さい。
 - ✓ 昨年 1 年間の学習に対する自己負担額は「0 円」が最も多く（約 3 割）、次いで「1 千円以上 1 万円未満」が続く（約 2 割）。「0 円」の割合は学び直し意欲が高いほど小さい。
 - ✓ 学習により身につけたい知識やスキル等は、特定の専門分野における体系的な理論や技能・技術、語学（外国語）のニーズが大きい。
 - ✓ 最も重視して取り組んだと思う学習は、資格取得のための学習、業務やキャリアに直接関係する民間のビジネス系の研修・セミナー等である。
 - ✓ 最も重視して取り組んだと思う学習の主な目的は、現在の業務に役立てるため、新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるためが多い。後者の割合は学び直し意欲が高いほど大きい。
- 【受講者】「学び直し意欲が高い層」の受講促進要因は何か（2.2.6）
⇒業界で生き残るため、現職への不満や将来への不安解消といった将来への危機意識が受講促進要因となっている。また、勤め先や業界団体等からの案内やインターネット検索等自身の力で実施したい学習プログラムを発見している。
 - ✓ 最も重視して取り組んだと思う学習実施のきっかけは、「業界で生き残るために必要だと感じたため」が約 2 割、「勤め先や業界に関係なく周囲の人や地域・社会へ貢献したかったため」が次いで 2 割弱を占める。
 - ✓ 学習機会発見方法としては、「インターネット検索」が約 2 割、「勤め先や業界団体等からの案内」が次いで 2 割弱を占める。
- 【受講者】「学び直し意欲が高い層」の受講阻害要因は何か（2.2.7）
⇒金銭的余裕がないことや業務で忙しいことが受講阻害要因となっている。
 - ✓ 過去 3 年間で学習実施を検討しなかった理由として、「金銭的余裕がなく、学習費用確保ができなかった」「業務で忙しく学習時間確保ができなかった」が約 3 割以上を占める。
- 【受講者】「学び直し意欲が高い層」の受講負担はどうなっているか（2.2.8）
⇒学び直し意欲が高いほど学習にかかる時間が長い。一方、学習にかかる費用には違いが見られなかった。
 - ✓ いずれの学習の種類においても、学び直し意欲の高低による自己負担額の大きな違いは見られない。
 - ✓ いずれの学習の種類においても、学び直し意欲が高いほど所要時間が長い傾向が見られる。
- 【受講者】【IT 分野】学びたい具体的なプログラム内容・方法は何か（2.2.9）

¹² 各割合は設問 B1_1~1_14 それぞれで「実施した」もしくは「実施を検討したが、断念した」回答数を合計したもの。

⇒IT・ソフトウェア・セキュリティの基礎といった汎用性が高く基礎的な知識・技術、クラウドコンピューティング構築技術を今後身につけたいと考えている。

- ✓ IT 基礎：情報の基礎理論、プログラミングやコンピュータ基礎、コンピュータ構成に関する知識
 - ✓ ソフトウェア基礎：設計の基礎知識、システム開発のアプローチ、プログラミング基礎技術、ソフトウェアエンジニアリング、非機能要件
 - ✓ セキュリティ基礎：情報セキュリティ技術、情報保証知識、情報倫理
 - ✓ クラウドコンピューティング構築技術：クラウドサービス知識、クラウドデータベース技術、構築技術、アプリケーション実装技術
- 【受講者】【介護分野】学びたい具体的なプログラム内容・方法は何か（2.2.11）
⇒比較的汎用性が高いコミュニケーションの知識・技術、認知症の理解に関する知識、介護の基礎的な知識・技術を今後身につけたいと考えている。
- 【人事研修担当者】「Off-JT 意欲が高い層」の能力開発業務志向にはどのような特徴があるか（2.2.14）
⇒Off-JT 実施対象が管理職未満と管理職以上で拡充したい内容の傾向が異なるが、共通して業務上必要な専門分野の知識の拡充ニーズがある。実施したい理由として、従業員全体の能力底上げがベースの理由としてありつつ、経営方針で位置づけられた等対応に迫られることが理由として多く挙げられる。Off-JT 拡充上の課題として、どの対象者にどの知識やスキルを身につけさせるべきかの特定と、対象者の時間確保が多く挙げられる。導入検討方法は業界団体等からの案内やインターネット検索等自身で探ることが多い。また、Off-JT 実施における外部機関活用意向は大きく、高い専門性、柔軟なプログラム設計が特に期待されている。
- ✓ 新卒採用者や中途採用者には「特定の専門分野における体系的な知識」や「コミュニケーション能力」を、管理職以上には「リーダーシップ、マネジメント能力」や「ビジネスマネジメントに関する知識」を拡充したいと考えている。
 - ✓ 従業員全体の能力底上げ、経営方針で強化すべきと位置づけられたことが拡充したい理由である。
 - ✓ どの対象者にどの知識やスキルを身につけさせるべきかの特定と、対象者の時間確保に課題を感じている。
 - ✓ 業界団体等からの案内を探るケース、インターネット検索等自身で探るケースが多い。
 - ✓ 全体のうち約 8 割が外部機関活用意向がある。能力開発・教育訓練業務の拡充意向がある回答者ほど、すでに外部機関を活用している。
 - ✓ 外部機関には高い専門性、柔軟なプログラム設計を期待している。
 - ✓ DX 関連 Off-JT を実施しているのは全体のうち約 2 割である。能力開発・教育訓練業務の拡充意向がある回答者ほど、DX 関連 Off-JT の実施率が高い。

③ 専修学校の強みを活かした提供プログラム・情報発信のあり方（⇒初期市場形成のため

めのアプローチ絞り込み)

- 【受講者】受講者から見た「専修学校の強み」は何か (2.2.15)
⇒受講者自身にとって学習時間や実施時期、通学先アクセスが適切であり、学習効果が高いことが受講者層から見た「専修学校の強み」である。
 - ✓ 「専修学校教育経験者」が評価する強みは、学習における所要時間や実施時期の適切さ、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ、通学先へのアクセスや学習環境のよさである。
 - ✓ 「専修学校教育経験者」が最も評価した点は、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さである。

- 【人事研修担当者】人事研修担当者から見た「専修学校の強み」は何か (2.2.16)
⇒外部機関活用を検討する際に十分なプログラム情報が公開されていること、学習効果が高いことが人事研修担当者から見た「専修学校の強み」である。
 - ✓ 「専修学校活用者」が評価する強みは、プログラム等の情報が十分に公開されていること、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さである。
 - ✓ 「専修学校活用者」が最も評価した点は、プログラム等の情報が十分に公開されていること、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さである。

2.2.3 回答者（受講者層）の基本情報

(1) 年代

年代については、40代が36.7%で最も多く、30代が25.3%でそれに続いている。なお、本調査は、30～40代からの回答を多く確保するよう配信・回収の調整を行ったため、上記の集計結果はその調整によるものといえる。

【Qa_1】あなたの年齢を教えてください。(2020年12月1日時点) (数値回答) (n=11568)
⇒10歳区切りの「年代」として集計。

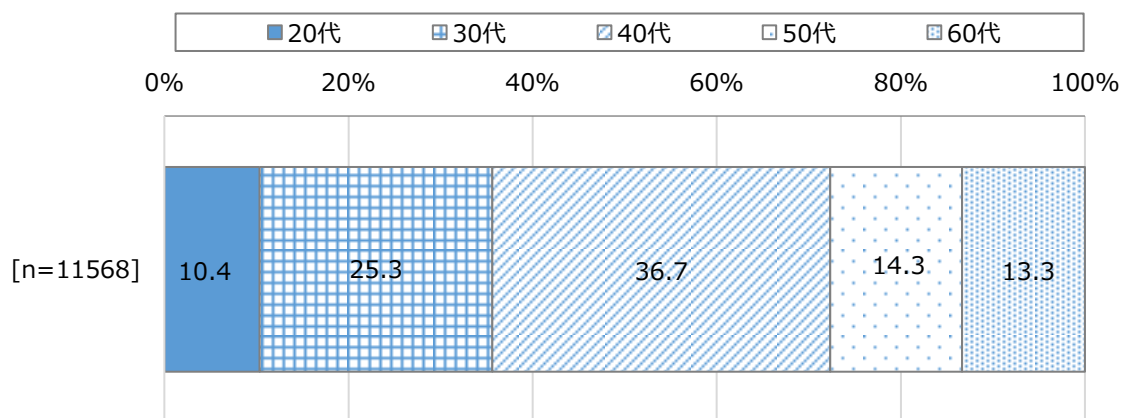


図 2-2 年代

(2) 性別

性別については、男性・女性ともに約半数程度である。

【Qb】 あなたの性別を教えてください。 (SA) (n=11568)

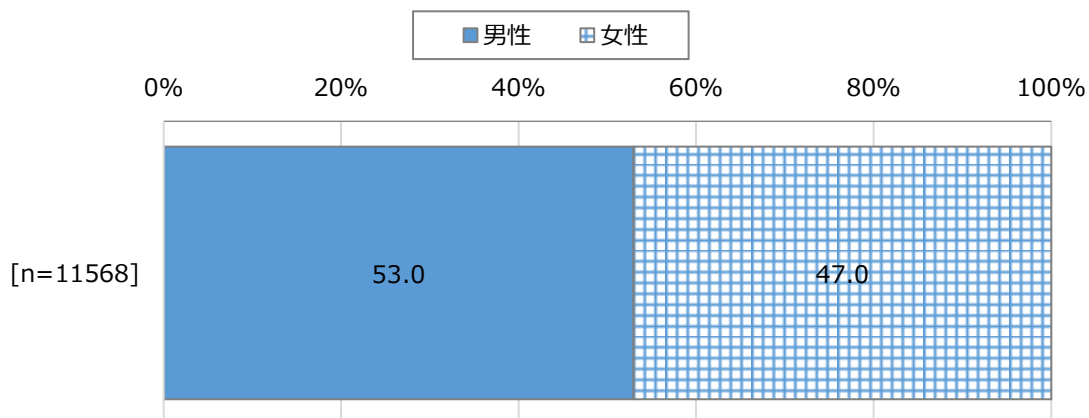


図 2-3 性別

(3) 居住都道府県

居住する都道府県については、三大都市（東京都・愛知県・大阪府）の居住者が 31%、三大都市以外の居住者が 69%である。

【Qb2】 あなたが居住している都道府県を教えてください。（2020年12月1日時点）。当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=11568）

(注)居住地が複数ある場合は、滞在日数の長い方の都道府県を教えてください。

⇒東京都・愛知県・大阪府を「三大都市」、それ以外の都道府県を「三大都市以外」として集計。

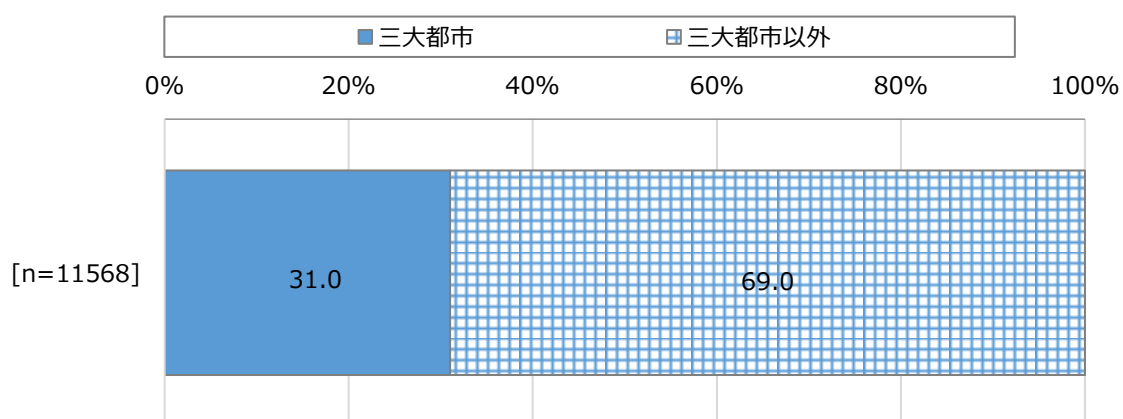


図 2-4 居住している都道府県（三大都市（東京都・愛知県・大阪府）／その他）

(4) 子どもの数

子どもの数については、「0人」が78.1%で最も多く、「2人」が10.2%でそれに続いている。

【QA1】あなたには、お子さんはいらっしゃいますか。いらっしゃる場合、各段階に当てはまるお子さんの人数を教えてください（2020年12月1日時点）。（教育段階や学年別に数値回答）（n=11568）

（注）各学校に通学していない場合や留年等がある場合も、各段階に相当する年齢のお子さんとして数えてください。

⇒合計人数を4区分に加工して集計。

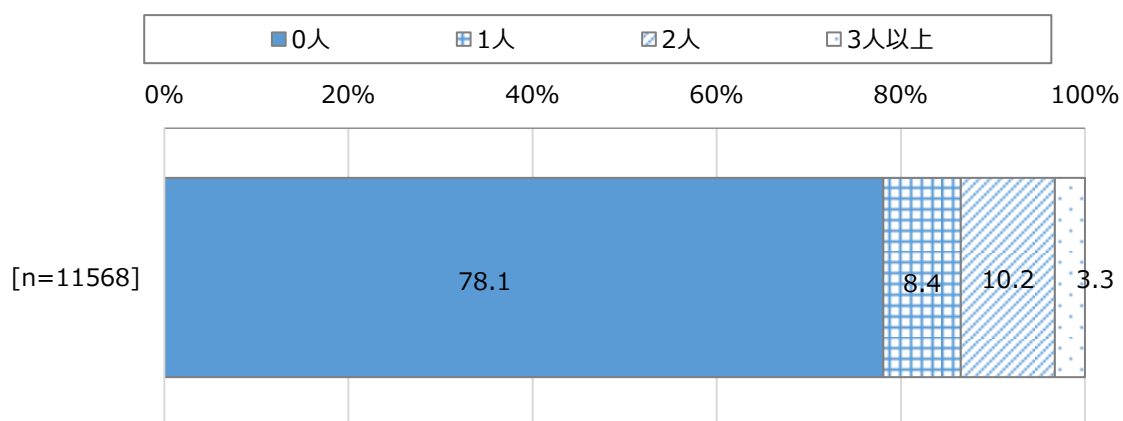


図 2-5 子どもの数

(5) 最終学歴

最終学歴については、「大学」が47.2%で最も多く、「高等学校」が18.7%でそれに続いている。

【QA3】 あなたの最終学歴（注1）として、当てはまるものを1つ選択してください。中途退学した場合はその前に卒業した学校を選択してください。（SA）（n=11568）
 （注1）これまでに卒業した学校のなかで、最も教育段階が高いものを指します。
 （注2）海外の学校を卒業・修了している場合は、選択肢の中で最も近いものを選んでください。

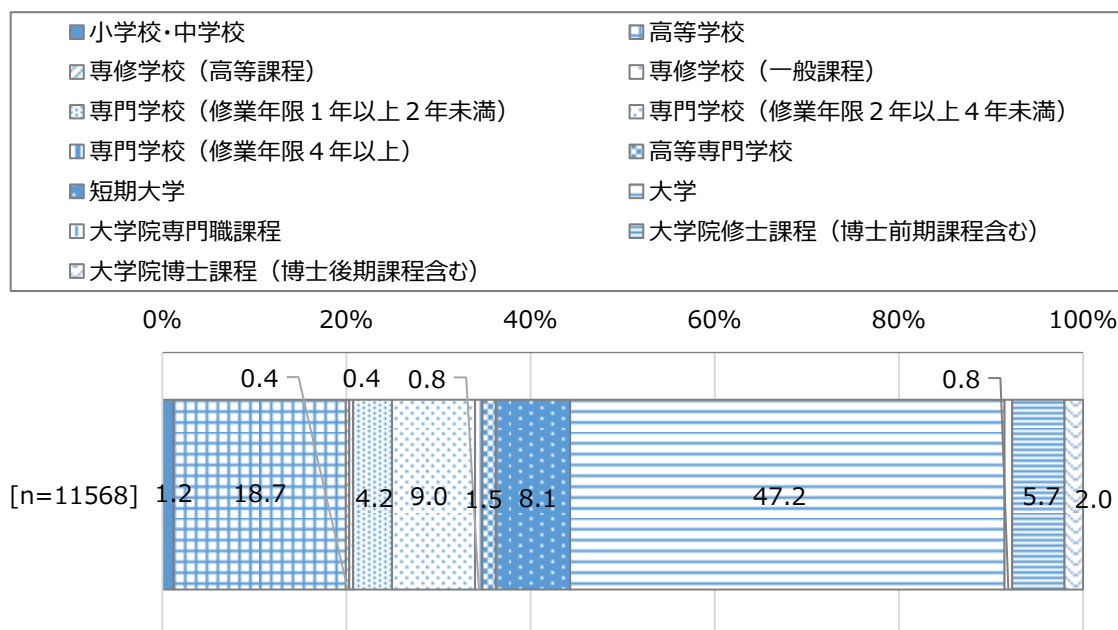


図 2-6 最終学歴

(6) 収入を伴う仕事の有無

2020年12月1日時点において、収入を伴う仕事を「している」人が82.4%で最も多く、「過去にしていたが現在は無職である」人が11.6%でそれに続いている。

【Qc】あなたは収入を伴う仕事をしていますか。（2020年12月1日時点）
もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=11568）
（注1）ここでいう"収入を伴う仕事"とは、自家営業(農業や店の仕事など)の手伝いや内職・パートタイム・アルバイトも含めます。
（注2）2020年12月1日あるいはその前数日間たまたま仕事をして、「現在仕事をしている」にはなりません、季節的な仕事や病気などでたまたま仕事を休んでいる場合は「現在仕事をしている」とします。

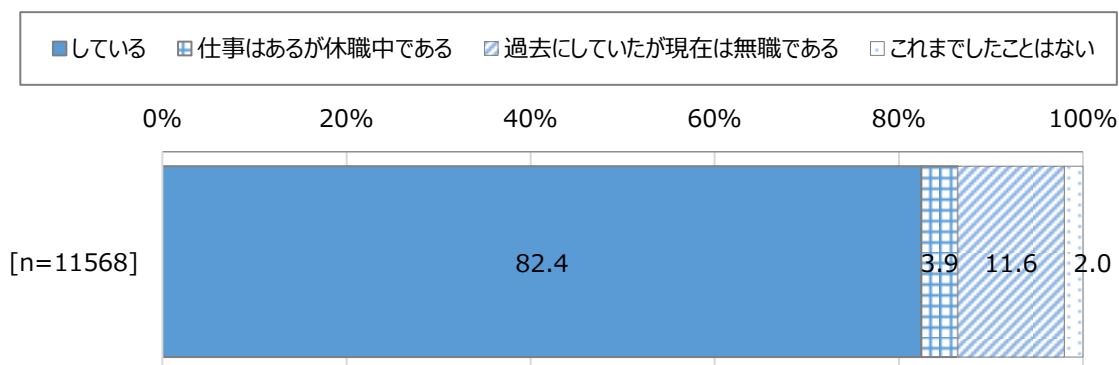


図 2-7 収入を伴う仕事の有無

(7) 職業

現在収入を伴う仕事を「している」人、「仕事はあるが休職中である」人の現在の職業について、「専門的・技術的職業従事者」が 34.9%で最も多く、「サービス職業従事者」が 23.5%でそれに続いている。なお、本調査は、IT 分野の従事者、介護分野の従事者からの回答を多く確保するよう配信・回収の調整を行ったため、上記 2 つの割合が大きくなっていると考えられる。

【Qd_1】現在のあなたの職業についてもっとも当てはまるものを 1 つ選択してください。

(SA) (n=9993)

(注)複数の仕事をしている方は、主な収入源であるものを 1 つ選択してください。

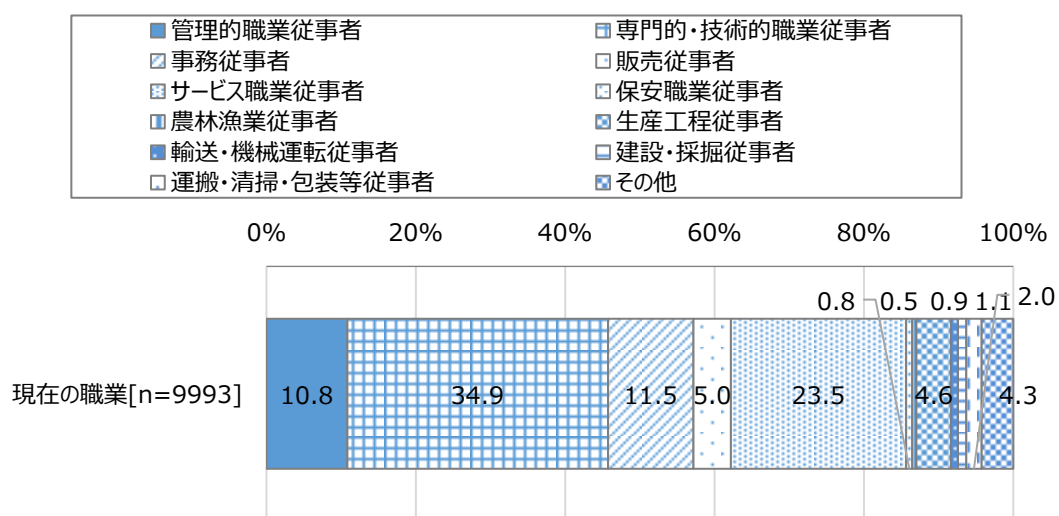


図 2-8 現在の職業

(8) 勤め先での呼称や自営であるかどうか

現在収入を伴う仕事を「している」人、「仕事はあるが休職中である」人の勤め先での呼称や自営であるかどうかについて、「正規の職員・従業員」が 62.2%で最も多く、「パート、アルバイト」が 19.8%でそれに続いている。

【Qg_1】現在のあなたの仕事に関して、勤め先での呼称や自営であるかどうかについて、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=9993)
 (注)フリーランスの場合は「自営業主」を選択してください。

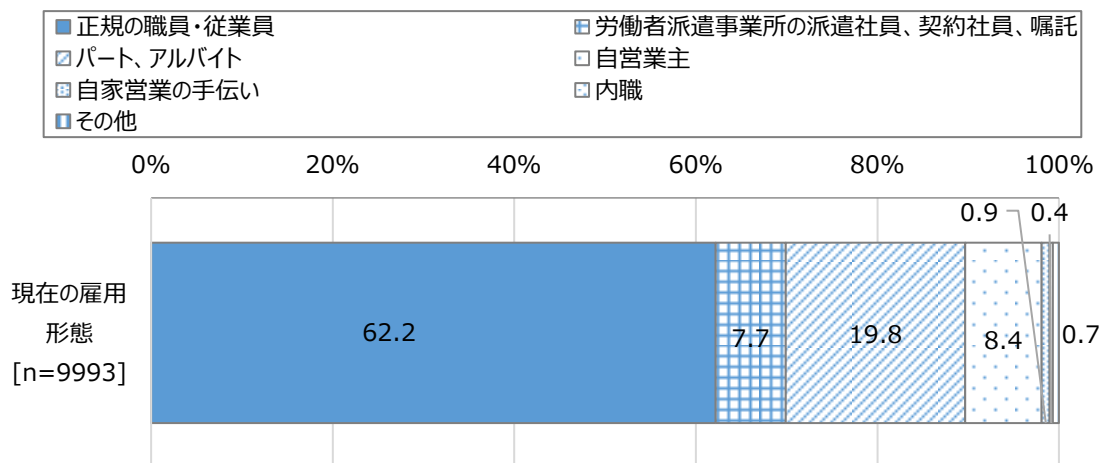


図 2-9 勤め先での呼称、自営であるかどうか

(9) 役職

現在収入を伴う仕事を「している」人、「仕事はあるが休職中である」人の現在の役職について、「一般職・その他」が 69.7%で最も多く、「係長ないしこれに該当する役職」が 9.2%でそれに続いている。

【Qh_1】現在のあなたの役職について、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=9993)

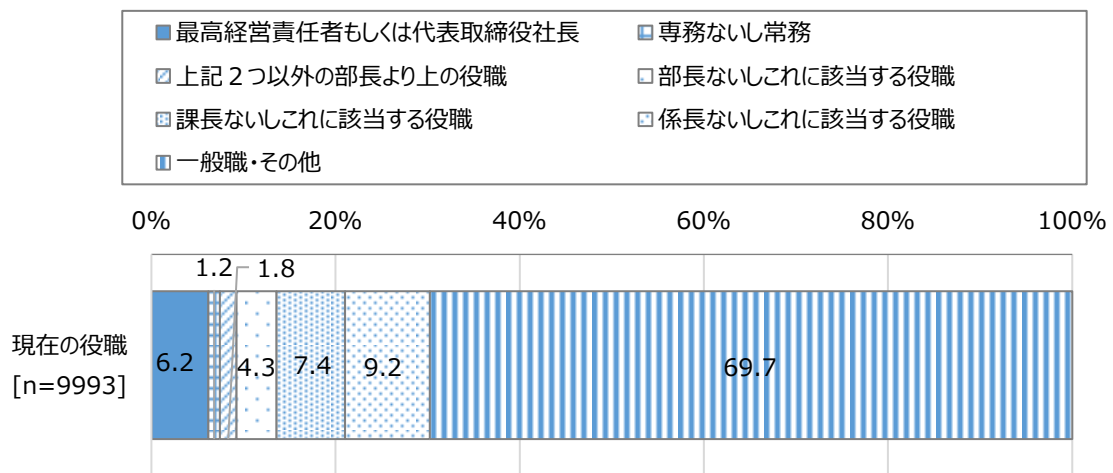


図 2-10 現在の役職

(10) 平均就業時間

現在収入を伴う仕事を「している」人の昨年1年間の平均的な1週間の就業時間は、「40～49時間」が41.4%で最も多く、「30～39時間」が14.8%でそれに続いている。

【QA4】昨年1年間（2019年1～12月）における、あなたの平均的な1週間の就業時間として、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=9537）

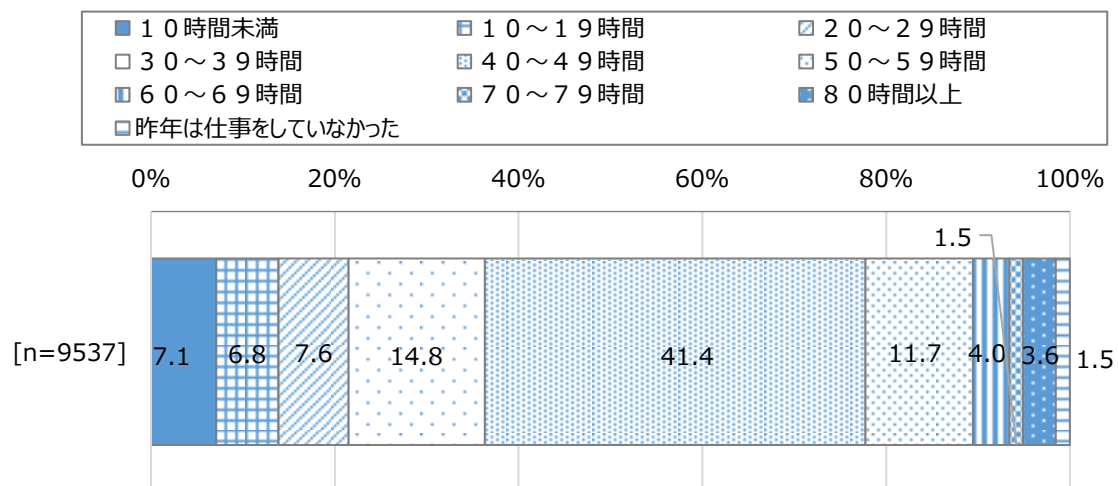


図 2-11 平均就業時間

(11) 業種

現在収入を伴う仕事を「している」人、「仕事はあるが休職中である」人の勤め先の業種について、「医療、福祉」が28.4%で最も多く、「情報通信業」が15.6%でそれに続いている。なお、本調査は、IT分野の従事者、介護分野の従事者からの回答を多く確保するよう配信・回収の調整を行ったため、上記2つの割合が大きくなっていると考えられる。

【QA5】 現在のあなたのお勤め先（会社等）の業種について、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=9993）
 （注）複数の仕事をしている方は、主な収入源であるものを1つ選択してください。

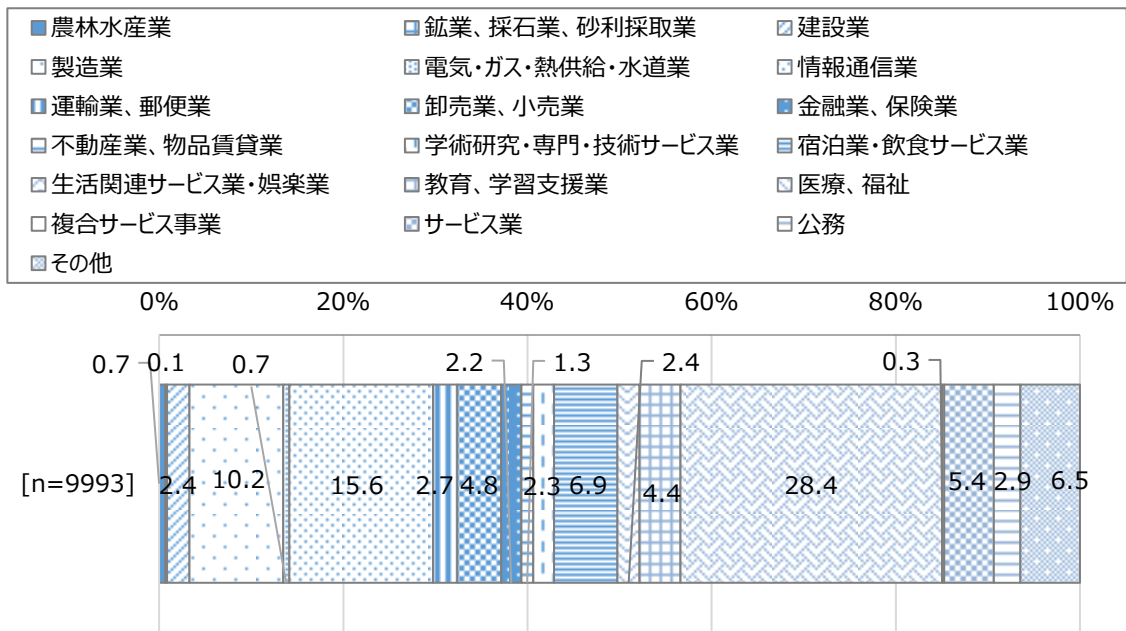


図 2-12 業種

(12) 勤め先の従業者数

現在収入を伴う仕事を「している」人、「仕事はあるが休職中である」人の勤め先全体の従業員数について、「100～299人」が14.6%で最も多く、「5000人以上」が13.9%でそれに続いている。

【QA6】 現在のあなたのお勤め先（会社等）全体の従業者数について、当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=9993）
 （注 1）本社・支社・工場なども含めた従業者総数（パートなども含む）について記入してください。
 （注 2）派遣社員の場合は、派遣元の会社についてお答えください。
 （注 3）あなた自身も従業者数に含めてお考え下さい。

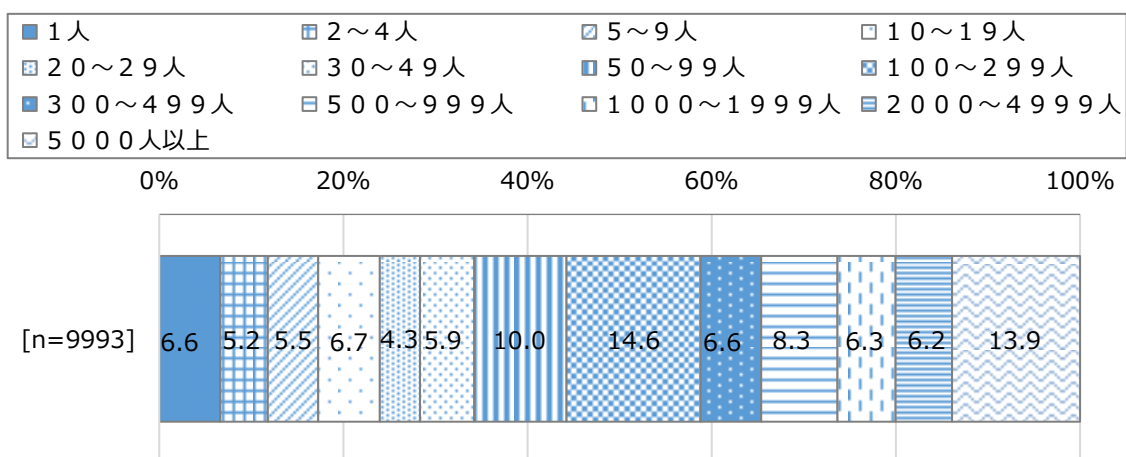


図 2-13 勤め先の従業員数

(13) 所得

現在収入を伴う仕事を「している」人、「仕事はあるが休職中である」人の昨年1年間の所得は、「300万円～400万円未満」が14.6%で最も多く、「200万円～300万円未満」が13.4%でそれに続いている。

【QA7】 現在のあなたの仕事に関して、昨年1年間（2019年1～12月）の所得（注1）を教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=9993）

（注1）お勤め先から受け取った給与、賃金、賞与（ボーナス）を合わせたおよその税込金額とします。

（注2）自営業の場合は、売上高から必要経費を差し引いた営業利益について選択してください。

「自営業主」とは、個人経営の商店主・工場主・農業主・開業医・弁護士・著述家・家政婦などをいいます。ただし、会社組織になっている商店などの経営者は、自営業主とはしないで、会社などの役員とします。

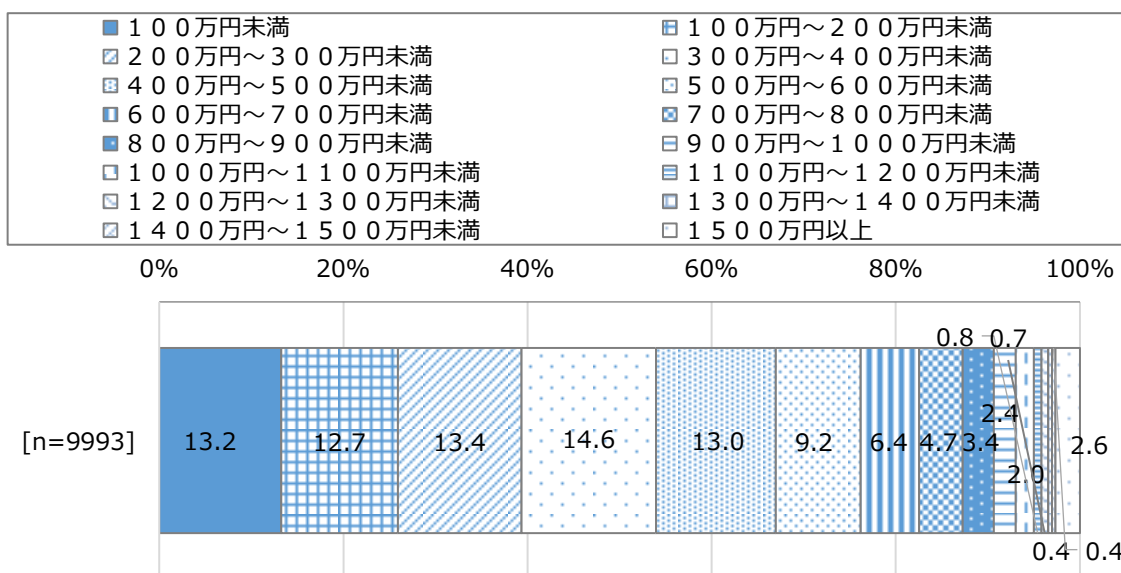


図 2-14 所得

(14) 不就業者の就職希望

収入を伴う仕事を「過去にしていたが現在は無職である」人、「これまでしたことはない」人の、今後の就職希望について、「ややそう思う」が30.4%で最も多く、「あまりそう思わない」が25.3%でそれに続いている。

【QA8】あなたは今後何らかの仕事に就きたい希望がありますか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=1575)

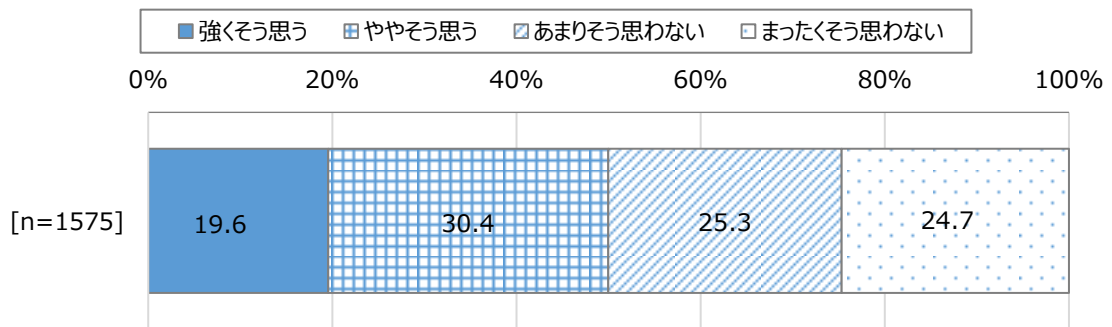


図 2-15 不就業者の就職希望

(15) 不就業者が今後希望する職業

今後何らかの仕事に就きたい人が希望する職業について、「わからない」が 24.0%で最も多く、「専門的・技術的職業従事者」「事務従事者」が 20.1%でそれに続いている。

【QA9】あなたが今後就きたい仕事について、希望する職業としてもっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=787)

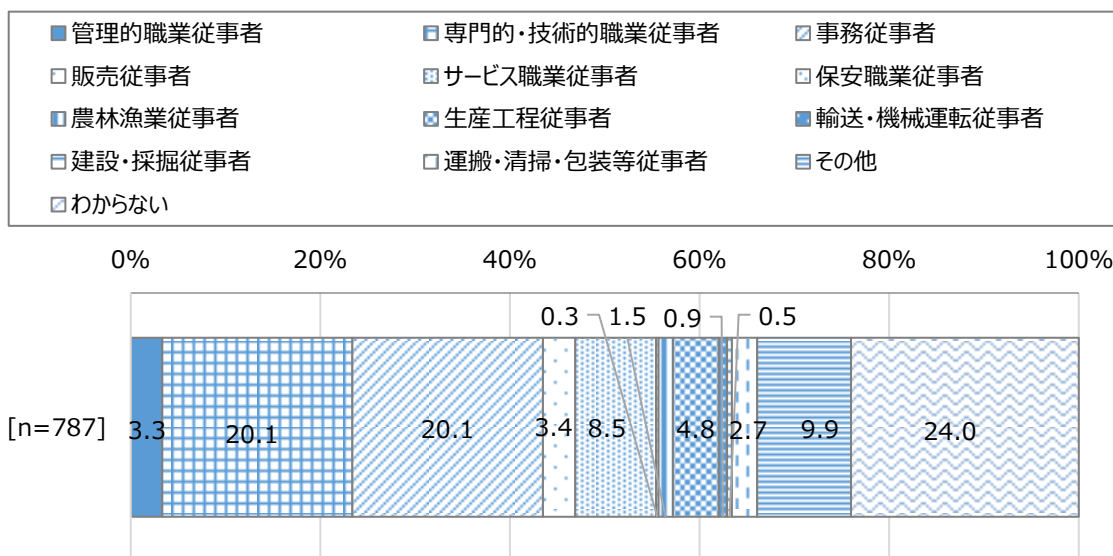


図 2-16 不就業者が今後希望する職業

(16) 学習に対する考えや態度

学習に対する考えや態度について、「学習への意欲があり、現在の業務の課題解決に直接役立つかどうかに関わらず、興味・関心を持ったものを学習する。」が 29.7%で最も多く、「学習への意欲があり、現在の業務の課題解決に直接役立つ学習であれば行う。」が 24.8%でそれに続いているが、全ての層についてあまり大きな割合の違いは見られない。

なお、プレ調査において「学習への意欲はないが、義務であれば学習する。」を選択した回答者には本調査を配信していないため、該当者は0である(グラフからは除外している)。

【Qi】 学習 (注) に対する、あなたの考えや態度にもっとも近いと思われるものを1つ選択してください。(SA) (n=11568)

(注)ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT(実務を離れて行う企業研修等)や自己啓発として学ぶものとします(教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません)。

OJT(実際の業務を通じた教育)や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとします。

- 学習への意欲があり、現在の業務の課題解決に直接役立つかどうかに関わらず、興味・関心を持ったものを学習する。(A層)
- 学習への意欲があり、現在の業務の課題解決に直接役立つ学習であれば行う。(B層)
- 学習への意欲があり、他の経験者の事例等から効果があると見込まれる学習であれば行う。(C層)
- 学習への意欲はあまりないが、周囲が学んでいれば、評判に基づき学習機会を選択する。(D層)

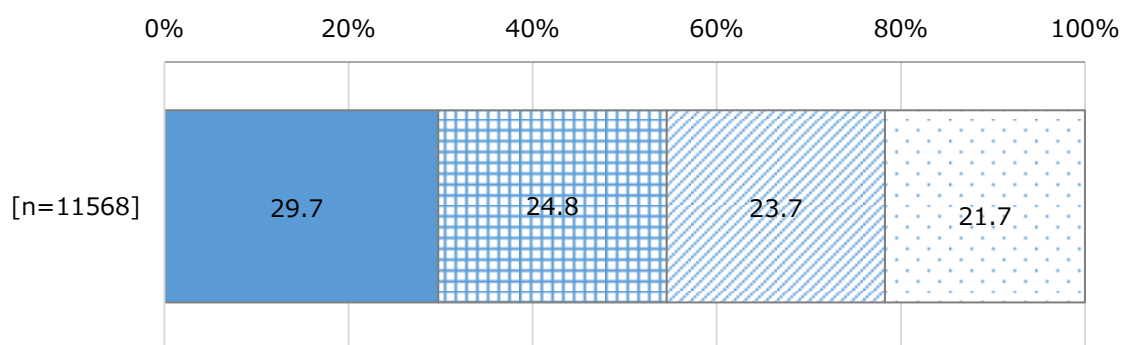


図 2-17 学習に対する考えや態度

なお、これ以降、「学習への意欲があり、現在の業務の課題解決に直接役立つかどうかに関わらず、興味・関心を持ったものを学習する。」を選択した層を「A層」、「学習への意欲があり、現在の業務の課題解決に直接役立つ学習であれば行う。」を選択した層を「B層」、「学習への意欲があり、他の経験者の事例等から効果があると見込まれる学習であれば行う。」を選択した層を「C層」、「学習への意欲はあまりないが、周囲が学んでいれば、評判に基づき学習機会を選択する。」を選択した層を「D層」、「学習への意欲はないが、義務であれば学習する。」を選択した層を「E層」と表記する。

(17) 1 カ月当たりの平均的な学習時間

昨年 1 年間の 1 カ月当たりの平均的な学習時間について、「0 時間より多く 5 時間未満」が 34.7%で最も多く、「0 時間（まったく学習しなかった）」が 25.5%でそれに続いている。

【Qj】 あなたの昨年 1 年間（2019 年 1～12 月）における、1 カ月当たりの平均的な学習時間（注）について、もっとも当てはまるものを 1 つ選択してください。（SA）（n=11568）
 （注）ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT(実務を離れて行う企業研修等)や自己啓発として学ぶものとし（教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません）。
 OJT(実際の業務を通じた教育)や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとし。

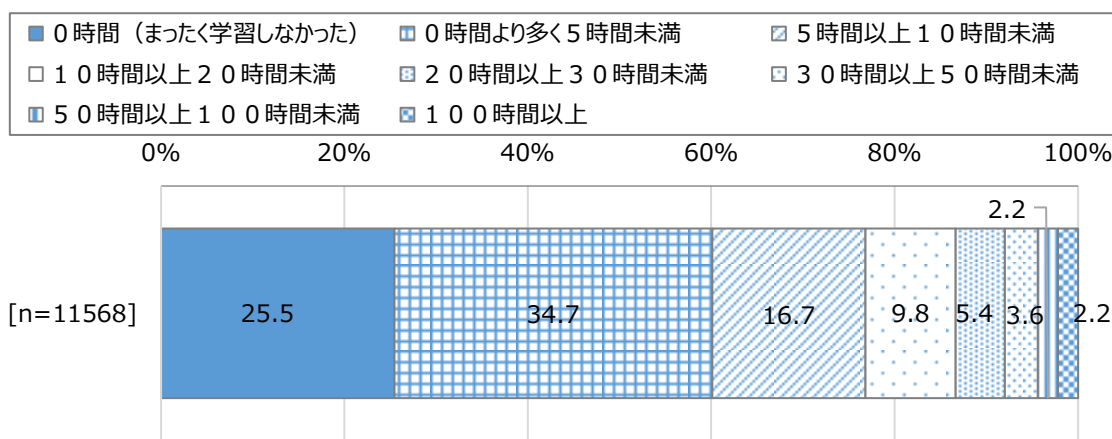


図 2-18 1 カ月当たりの平均的な学習時間（2019 年 1～12 月）

(18) 学習に対する自身の負担額

昨年1年間に少しでも学習を行った人の、学習に対する自己負担額について、「0円」が33.4%で最も多く、「1千円以上1万円未満」が24.5%でそれに続いている。

【Qk】 あなたの昨年1年間（2019年1～12月）の学習（注1）に対するご自身の負担額について、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=8623）
 （注1）ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT（実務を離れて行う企業研修等）や自己啓発として学ぶものとし（教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません）。
 OJT（実際の業務を通じた教育）や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとします。
 （注2）国や勤務先等からの費用補助を受けた場合、その額は自己負担額に含めません。

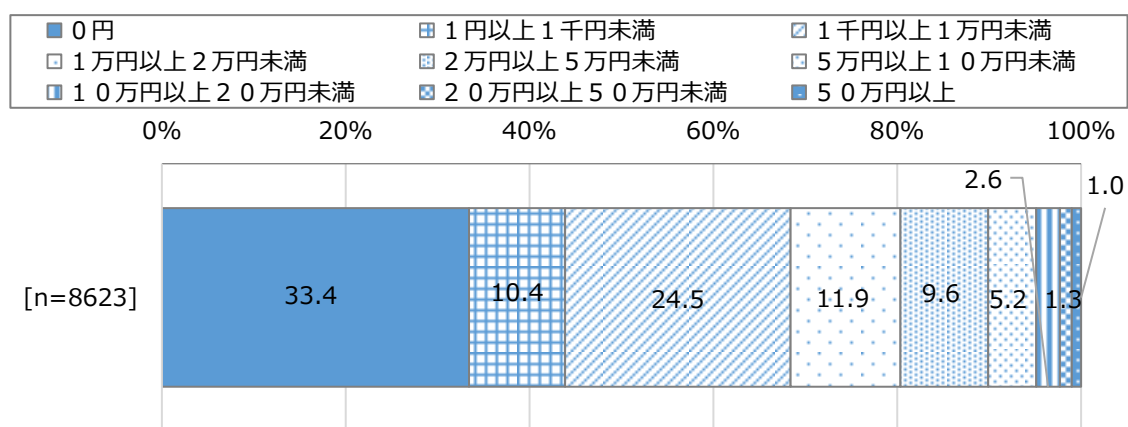


図 2-19 1年間（2019年1～12月）の学習に対する自身の負担額

(19) 過去3年間の学習実施状況

過去3年間の学習実施状況について、全ての種類において、80%以上が「実施を検討しなかった」と回答している。「実施した」という回答は、「学位や資格の取得とは関係のない学習」が13.0%で最も多く、「資格取得のための学習（国家資格）」「資格取得のための学習（国家資格以外）」が11.0%でそれに続いている。

【QB1】 過去3年間（2017年12月1日～2020年11月31日）において、次のような種類の学習（注）を実施、あるいは、実施を検討しましたか。それぞれについて、当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=11568）

（注）ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT（実務を離れて行う企業研修等）や自己啓発として学ぶものとします（教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません）。

OJT（実際の業務を通じた教育）や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとします。

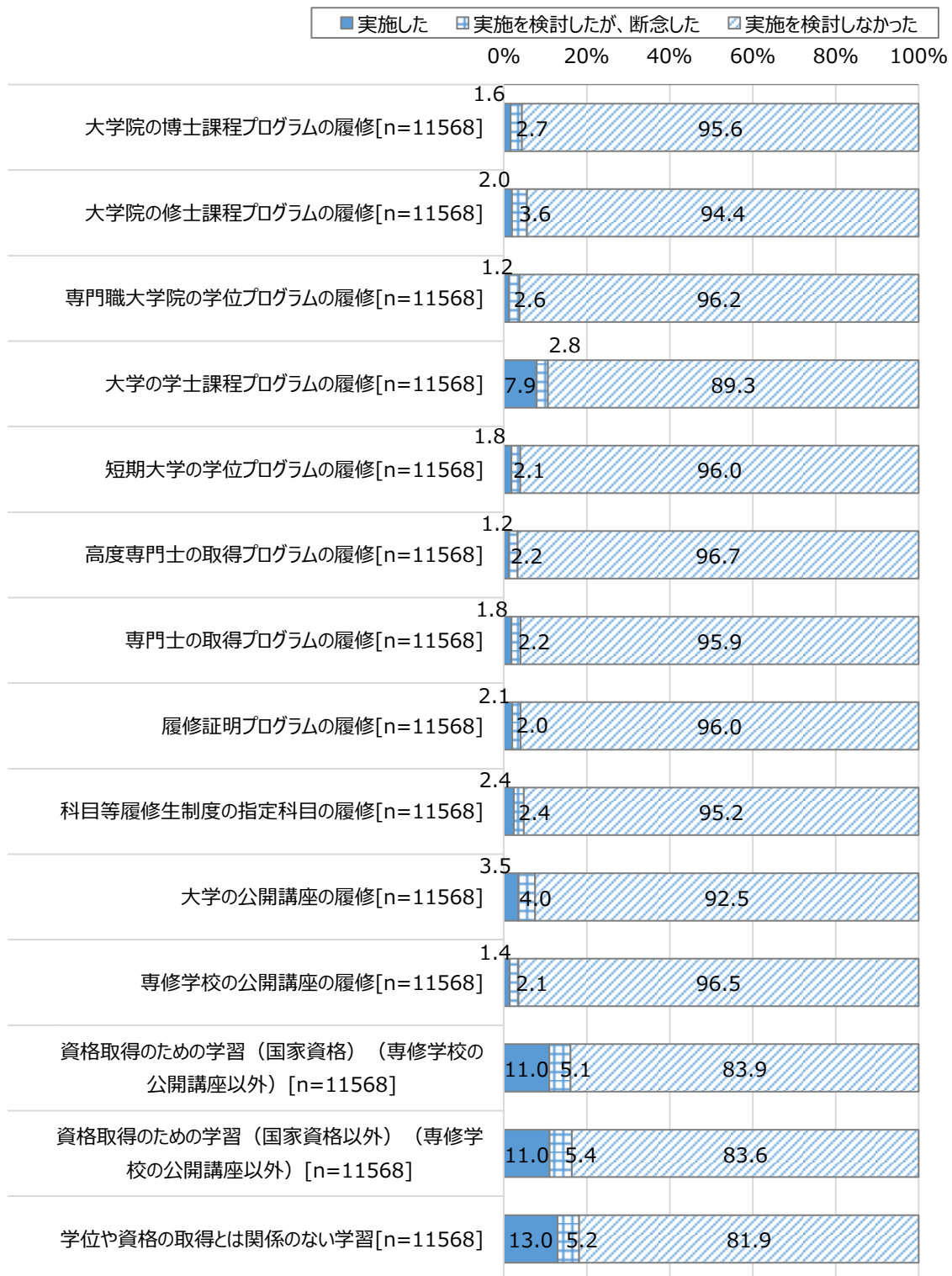


図 2-20 過去 3 年間の学習実施状況

(20) 過去3年間に実施した学習の実施形態

過去3年間に実施した学習の実施形態について、ほとんどの学習では、「集合型（教室や研修施設を訪問し受講）」が最も割合が大きい、「資格取得のための学習（国家資格）」「資格取得のための学習（国家資格以外）」では、「参考書・問題集や関連書籍による学習」の割合が最も大きい。

なお、本質問は、QB1の学習の種類のうち、実施形態が多様であると思われるものに絞っている。

【QB4R】QB1「(学習の種類)」で「実施した」を選んだ方にお伺いします。実施形態でもっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA)
 (注)1項目につき複数の実施経験がある場合は、もっとも直近に実施した学習についてお答えください。
 ⇒QB1の学習の種類ごとに実施形態を尋ねた質問をまとめて集計。

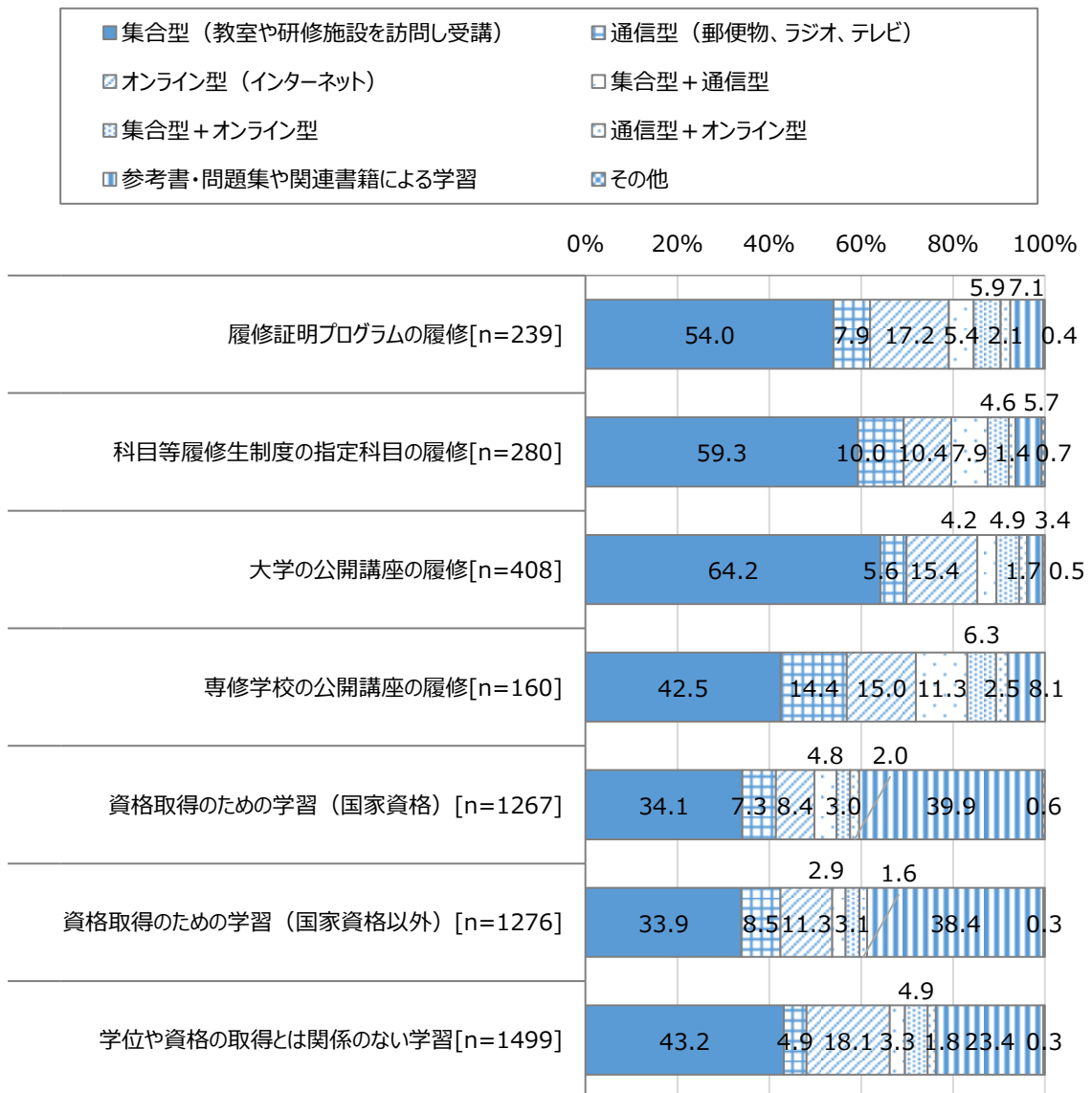


図 2-21 過去3年間に実施した学習の実施形態

(21) 過去 3 年間に実施した学習の提供主体

過去 3 年間に実施した学習の提供主体について、「履修証明プログラムの履修」「科目等履修生制度の指定科目の履修」「大学の公開講座の履修」では、「大学院・大学・短期大学」の割合が最も大きい。また、「履修証明プログラムの履修」「科目等履修生制度の指定科目の履修」については、それぞれの制度が適用される教育機関が規定されていることによると考えられる。また、「資格取得のための学習（国家資格）」「資格取得のための学習（国家資格以外）」「学位や資格の取得とは関係のない学習」では、提供主体は多様であるが、「民間企業（教育研修事業者等）」の割合が比較的大きい。

なお、本質問は、QB1 の学習の種類のうち、提供主体が多様であると思われるものに絞っている。

【QB4R】QB1 「(学習の種類)」で「実施した」を選んだ方にお伺いします。提供主体でもっとも当てはまるものを 1 つ選択してください。(SA)

(注)1 項目につき複数の実施経験がある場合は、もっとも直近に実施した学習についてお答えください。

⇒QB1 の学習の種類ごとに提供主体を尋ねた質問をまとめて集計。

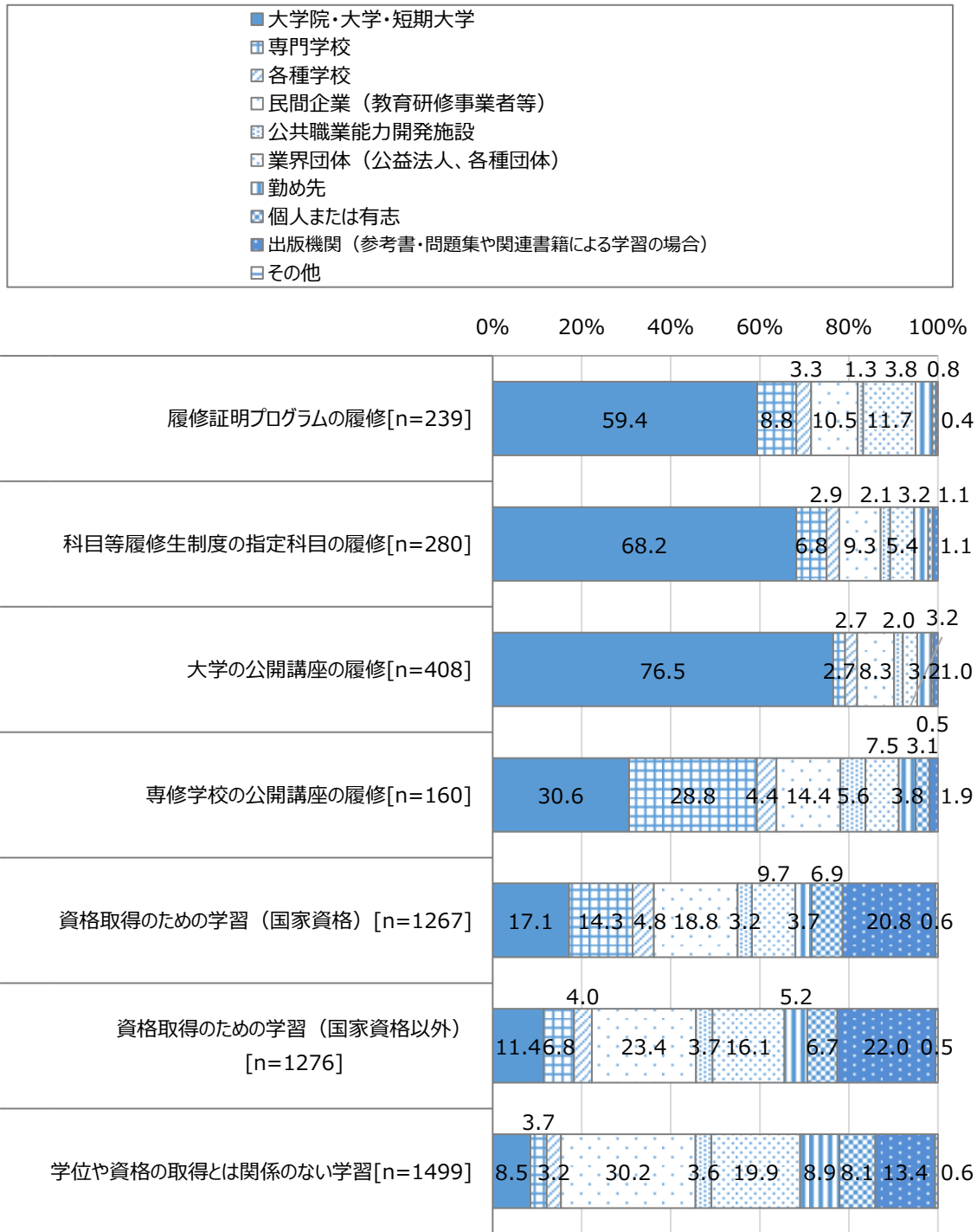


図 2-22 過去 3 年間に実施した学習の提供主体

(22) 過去3年間に実施した学習の費用（自己負担額）

過去3年間に実施した学習の費用（自己負担額）については、「履修証明プログラムの履修」「科目等履修生制度の指定科目の履修」「大学の公開講座の履修」「学位や資格の取得とは関係のない学習」では「無料」の割合が最も大きいですが、このうち「履修証明プログラムの履修」「科目等履修生制度の指定科目の履修」「大学の公開講座の履修」については、学習の実施に当たり補助や助成等を受けている人が3～4割存在する（図 2-24）。また、「専修学校の公開講座の履修」「資格取得のための学習（国家資格）」「資格取得のための学習（国家資格以外）」では、ある程度の自己負担をしている人の割合が大きい。

なお、本質問は、QB1の学習の種類のうち、費用が多様であると思われるものに絞っている。

【QB4R】 QB1「（学習の種類）」で「実施した」を選んだ方にお伺いします。かかった費用（自己負担額）でもっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）

（注 1）1項目につき複数の実施経験がある場合は、もっとも直近に実施した学習についてお答えください。

（注 2）<かかった費用(自己負担額)>は、その学習を開始してから終了するまでにかかる費用の総額をお答えください。また、国や勤務先等からの費用補助を受けた場合、その額は自己負担額に含めません。

⇒QB1の学習の種類ごとにかかった費用（自己負担額）を尋ねた質問をまとめて集計。

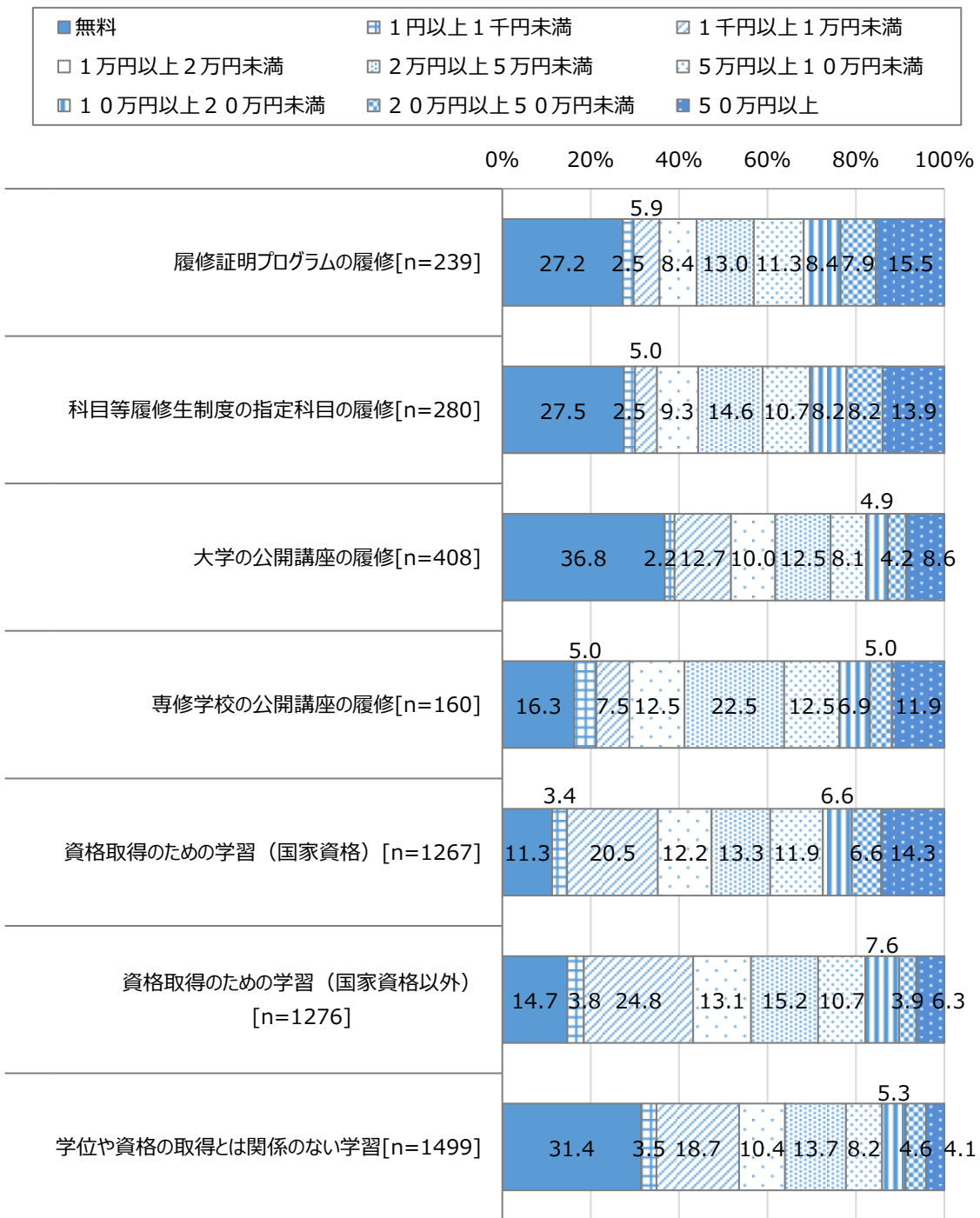


図 2-23 過去3年間に実施した学習の費用（自己負担額）

【QB3】学習を実施する際に利用した、補助や助成、あるいはその他の支援制度等について、当てはまるものをすべて選択してください。（MA）
 ⇒（何かしらの補助や助成、あるいはその他の支援制度等を）「利用した」「利用しなかった」の2つに区分して集計。

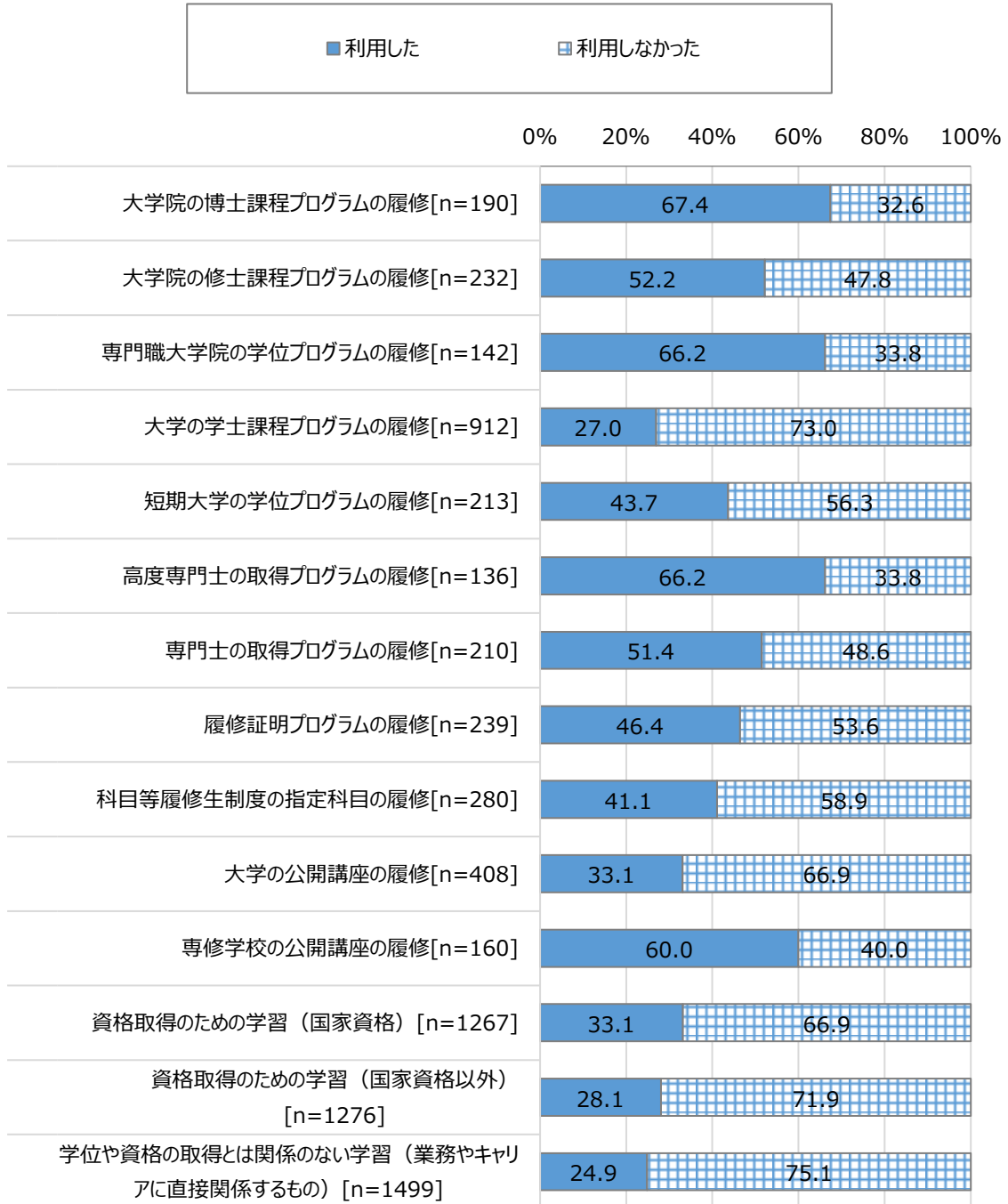


図 2-24 学習を実施する際の、補助や助成、あるいはその他の支援制度等の利用状況

(23) 過去 3 年間に実施した学習の所要時間

過去 3 年間に実施した学習の所要時間について、「履修証明プログラムの履修」「科目等履修生制度の指定科目の履修」「資格取得のための学習（国家資格）」では、「200 時間以上」の割合が最も大きい。また、「資格取得のための学習（国家資格）」「資格取得のための学習（国家資格以外）」では、「0 時間より多く 5 時間未満」の割合が、他の学習の種類と比較すると小さい。

なお、本質問は、QB1 の学習の種類のうち、所要時間が多様であると思われるものに絞っている。

【QB4R】 QB1 「（学習の種類）」で「実施した」を選んだ方にお伺いします。かかった時間でもっとも当てはまるものを 1 つ選択してください。（SA）

(注 1) 1 項目につき複数の実施経験がある場合は、もっとも直近に実施した学習についてお答えください。

(注 2) <かかった時間>は、その学習を開始してから終了するまでにかかる時間の合計をお答えください。この時間には、関連する自習時間も含まれます。

⇒QB1 の学習の種類ごとにかかった時間を尋ねた質問をまとめて集計。

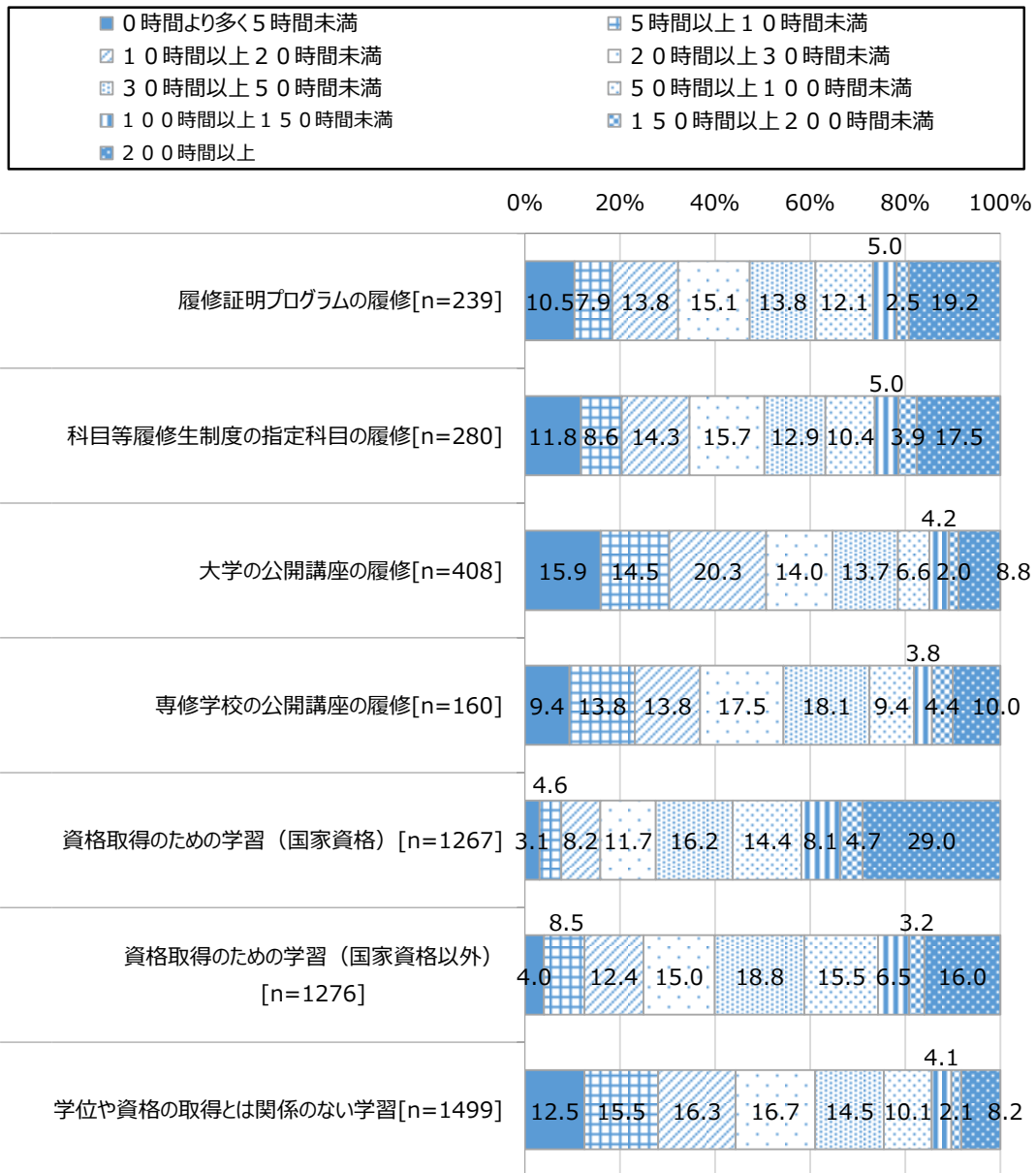


図 2-25 過去3年間に実施した学習の所要時間

2.2.4 「学び直し意欲が高い層」のプロフィール

「学び直し意欲が高い層」（＝初期市場形成ターゲット）のプロフィールは、男性が多いこと、最終学歴が高いこと、「管理的職業従事者」「専門的・技術的職業従事者」が多いこと、「自営業主」が多いこと、「高い役職に就く者」が多いこと、平均的な1週間の就業時間が長いこと、所得が高いこと、「現在と大きく異なる業務を行う予定・希望がある」場合が多いことが特徴である。

- 年代による学び直し意欲の分布の差は見られない。
- 学び直し意欲が高いほど、男性の割合が大きい。
- 学び直し意欲が高いほど、最終学歴が高い。
- 学び直し意欲が高い層は、低い層に比べ、「管理的職業従事者」「専門的・技術的職業従事者」の割合が高く、「サービス職業従事者」の割合が低い。
- 学び直し意欲が高い層は、低い層に比べ、「自営業主」の割合が高く、「パート、アルバイト」の割合が低い。
- 学び直し意欲が高い層は、低い層に比べ、「高い役職に就く者」の割合が大きい。
- 学び直し意欲が高いほど、平均的な1週間の就業時間が長い傾向にある。
- 学び直し意欲が高い層は、低い層に比べ、所得が高い傾向にある。
- 学び直し意欲が高いほど、「現在と大きく異なる業務を行う予定・希望がある」割合が大きい。

(1) 年代¹³

年代による学び直し意欲の分布の差は見られない。

年代別のA～D層の割合をみると、A層は、60代で最も割合が大きく、次いで20代から50代の順に大きい。これは、60代には退職者（収入を伴う仕事を「過去にしていたが現在は無職である」）が多いため（図 2-27）、A層の定義の一部「現在の業務の課題解決に直接役立つかどうかに関わらず」の該当者が多くなったためと推測される。

【Qa_1】あなたの年齢を教えてください。（2020年12月1日時点）（数値回答）（n=11568）
⇒10歳区切りの「年代」として集計。

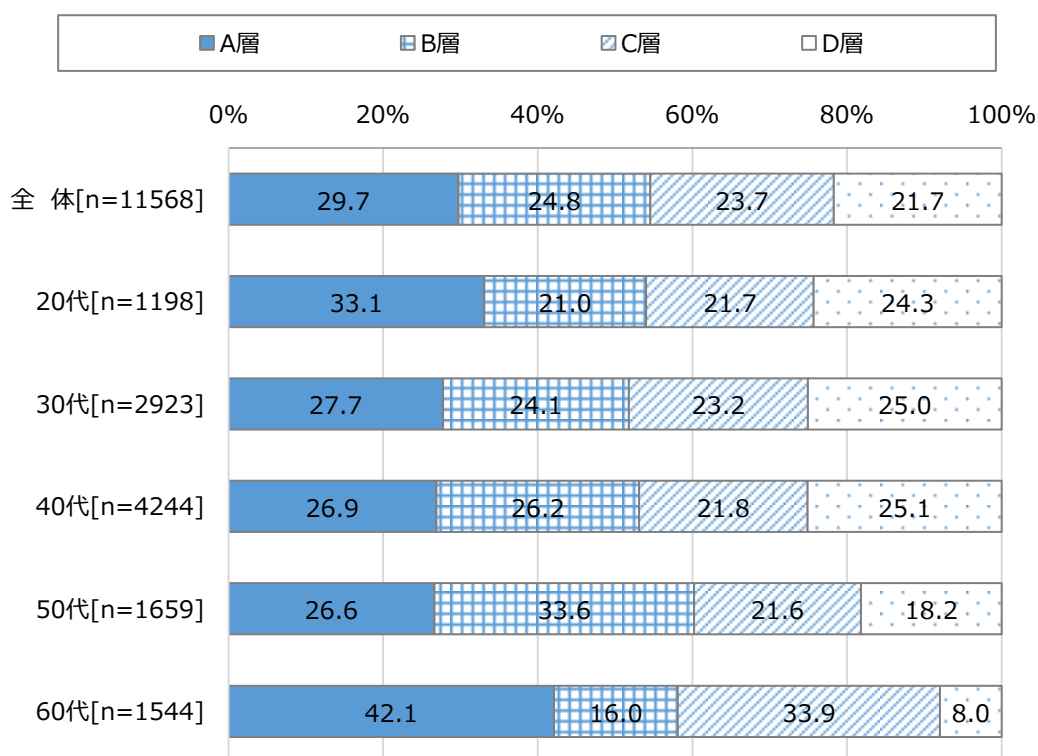


図 2-26 年代

¹³ 本調査は、30～40代の回答が多くなるよう配信を調整しているため、A～D層の各層における各年代の割合を算出する集計は行わない。

【Qa_1】あなたの年齢を教えてください。(2020年12月1日時点)(数値回答)(n=11568)
⇒10歳区切りの「年代」として集計。

【Qc】あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(2020年12月1日時点)
もっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA)(n=11568)
(注1)ここでいう"収入を伴う仕事"とは、自家営業(農業や店の仕事など)の手伝いや内職・パートタイム・アルバイトも含めます。
(注2)2020年12月1日あるいはその前数日間たまたま仕事をして、「現在仕事をしている」にはなりません。季節的な仕事や病気などでたまたま仕事を休んでいる場合は「現在仕事をしている」とします。

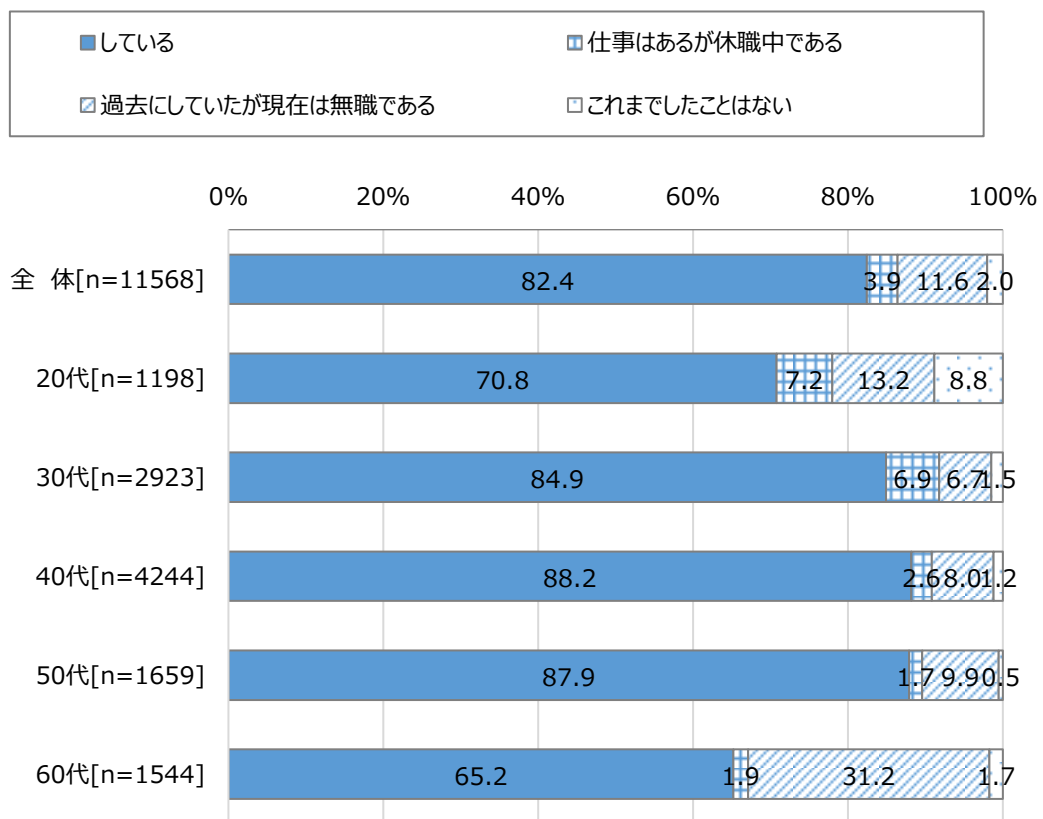


図 2-27 年代別の収入を伴う仕事の有無

(2) 性別

学び直し意欲が高いほど、男性の割合が大きい。

性別については、A層からD層の順に、男性の割合が大きい。

【Qb】 あなたの性別を教えてください。 (SA) (n=11568)

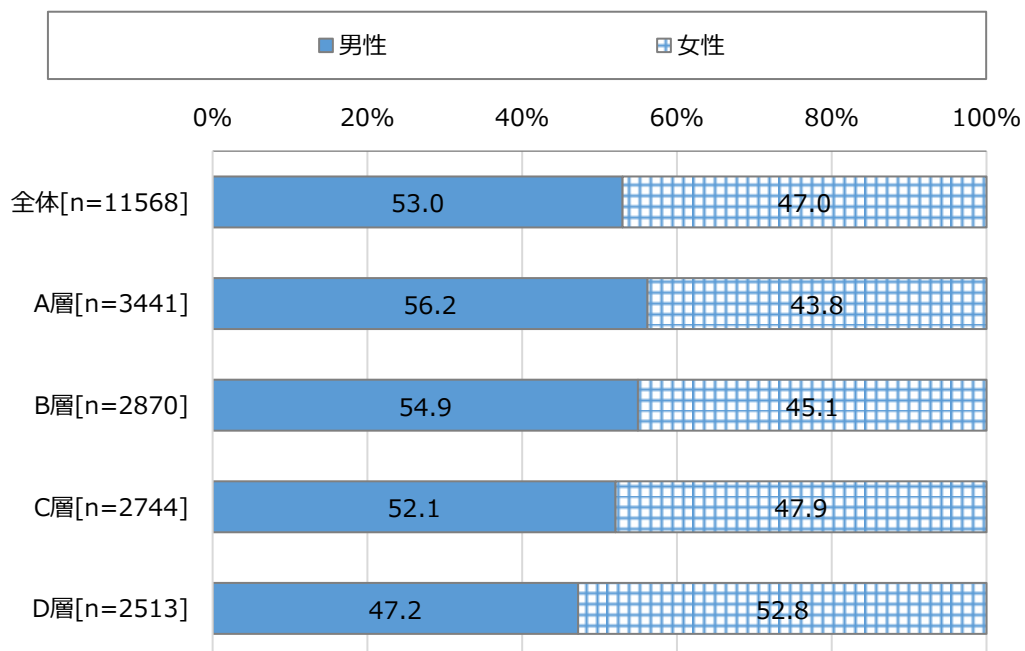


図 2-28 性別

(3) 居住都道府県

居住する都道府県については、層による大きな違いは見られない。

【Qb2】あなたが居住している都道府県を教えてください（2020年12月1日時点）。当
てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=11568）

(注)居住地が複数ある場合は、滞在日数の長い方の都道府県を教えてください。

⇒東京都・愛知県・大阪府を「三大都市」、それ以外の都道府県を「三大都市以外」として集計。

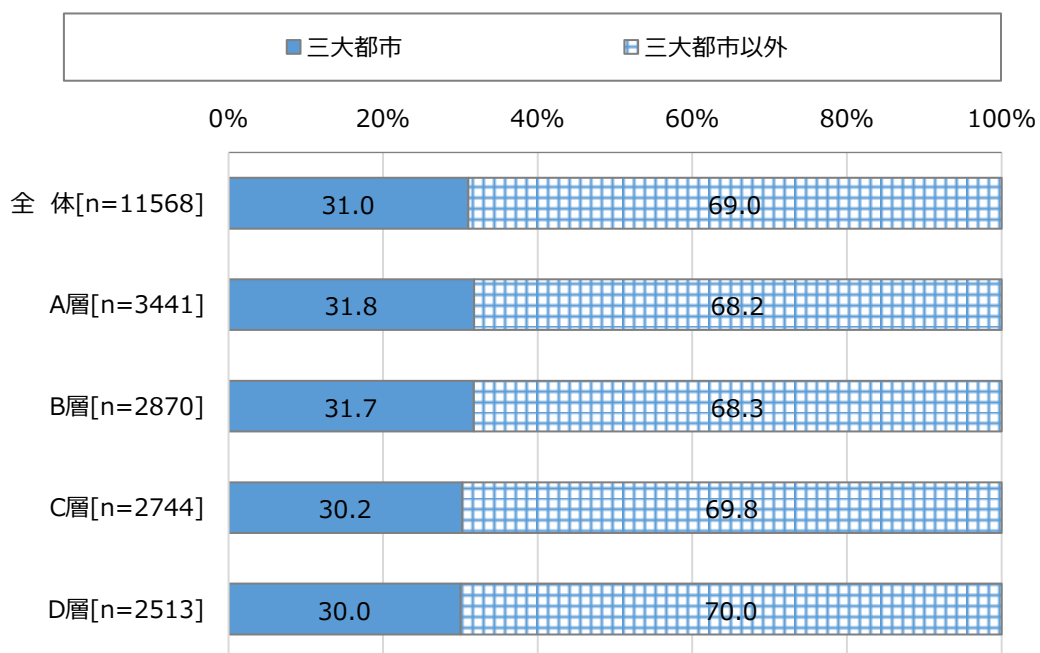


図 2-29 居住している都道府県（三大都市（東京都・愛知県・大阪府）／その他）

(4) 子どもの数

いずれの層においても、「0人」が約80%で最も多い。子どもの数別の割合についても、層による大きな違いは見られない。

【QA1】 あなたには、お子さんはいらっしゃいますか。
 いらっしゃる場合、各段階に当てはまるお子さんの人数を教えてください（2020年12月1日時点）。（教育段階や学年別に数値回答）（n=11568）
 (注)各学校に通学していない場合や留年等がある場合も、各段階に相当する年齢のお子さんとして数えてください。
 ⇒合計人数を4区分に加工して集計。

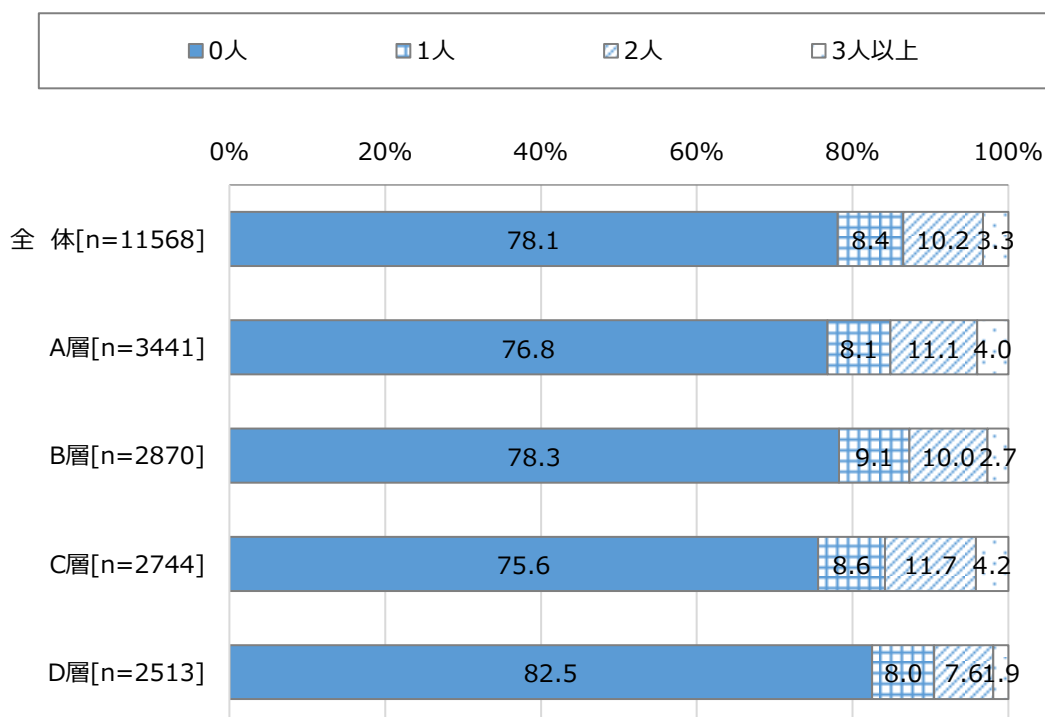


図 2-30 子どもの数

(5) 最終学歴

学び直し意欲が高いほど、最終学歴が高い。

いずれの層においても、「大学」の割合が最も大きい。

「大学」「大学院修士課程（博士前期課程含む）」「大学院博士課程（博士後期課程含む）」のいわゆる「高学歴」者は、A層からD層の順で割合が大きい。C層・D層ではA層・B層に比べて「高等学校」の割合がやや大きい。

【QA3】 あなたの最終学歴（注1）として、当てはまるものを1つ選択してください。中途退学した場合はその前に卒業した学校を選択してください。（SA）（n=11568）
 （注1）これまでに卒業した学校のなかで、最も教育段階が高いものを指します。
 （注2）海外の学校を卒業・修了している場合は、選択肢の中で最も近いものを選んでください。

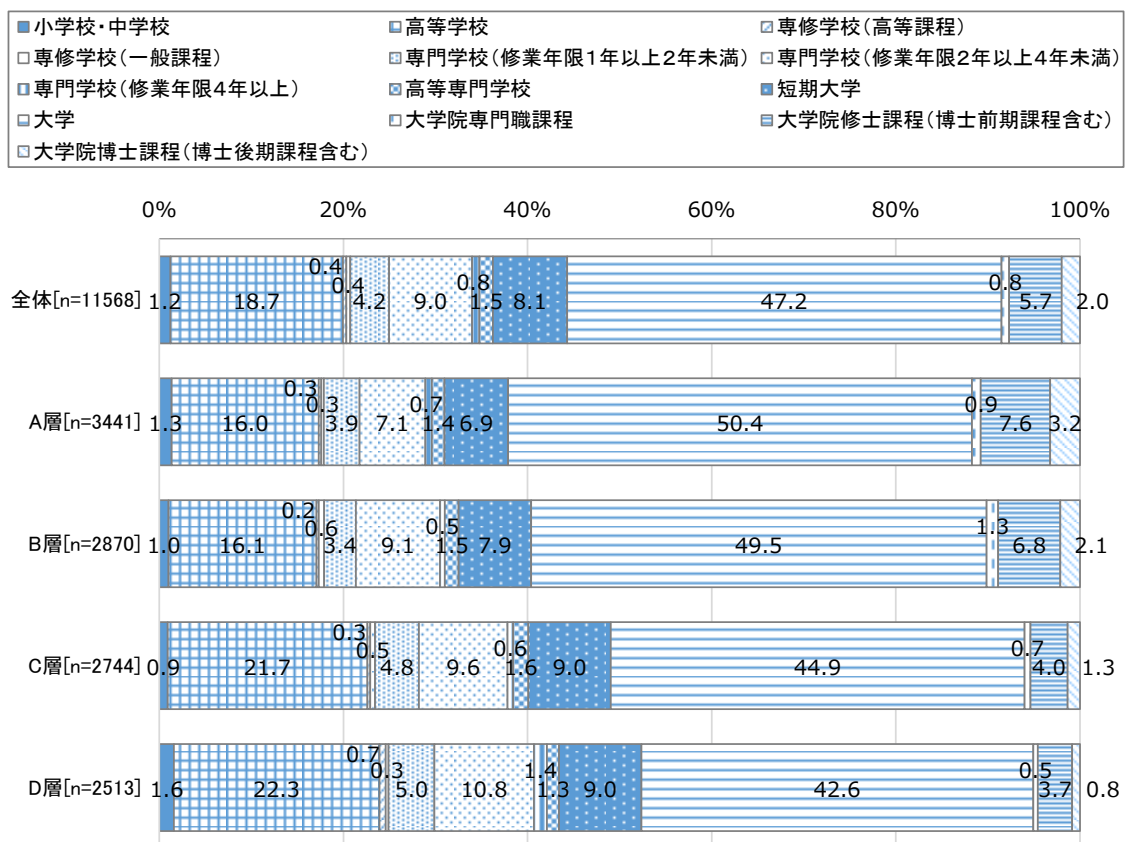


図 2-31 最終学歴

(6) 収入を伴う仕事の有無

2020年12月1日時点において、収入を伴う仕事を「している」人の割合が最も大きいのは、B層の87.2%であり、A・C・D層では80%前後である。また、「過去にしていたが現在は無職である」人の割合が最も小さいのは、B層の6.9%であり、A・C・D層は10%前後である。なお、B層の定義に「現在の業務の課題解決に直接役立つ学習であれば行う。」という文言を含むため、上記の集計結果は「現在の業務」の有無と関連していると推測される。

【Qc】 あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(2020年12月1日時点)
 もっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=11568)
 (注1)ここでいう"収入を伴う仕事"とは、自家営業(農業や店の仕事など)の手伝いや内職・パートタイム・アルバイトも含めます。
 (注2)2020年12月1日あるいはその前数日間たまたま仕事をして、「現在仕事をしている」にはなりません。季節的な仕事や病気などでたまたま仕事を休んでいる場合は「現在仕事をしている」とします。

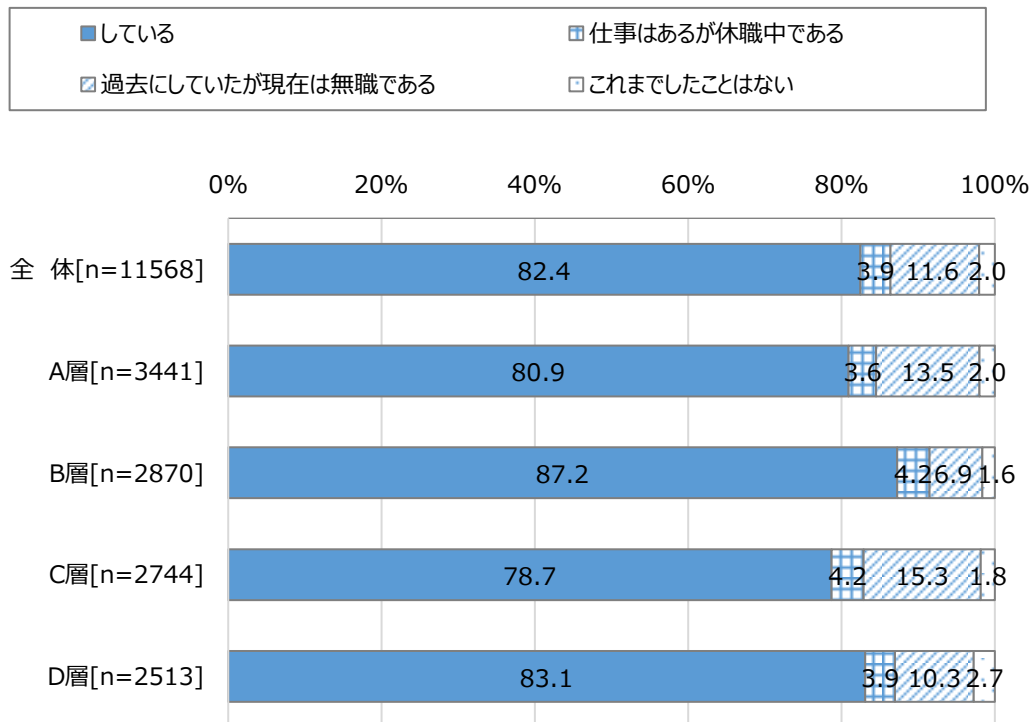


図 2-32 収入を伴う仕事の有無

(7) 職業

学び直し意欲が高い層は、低い層に比べ、「管理的職業従事者」「専門的・技術的職業従事者」の割合が高く、「サービス職業従事者」の割合が低い。

現在収入を伴う仕事を「している」人、「仕事はあるが休職中である」人の現在の職業について、「管理的職業従事者」「専門的・技術的職業従事者」の割合は、A・B層の方がC・D層よりやや大きく、「サービス職業従事者」の割合は、C・D層の方がA・B層よりやや大きい。

【Qd_1】現在のあなたの職業についてもっとも当てはまるものを1つ選択してください。
 (SA) (n=9993)
 (注)複数の仕事をしている方は、主な収入源であるものを1つ選択してください。

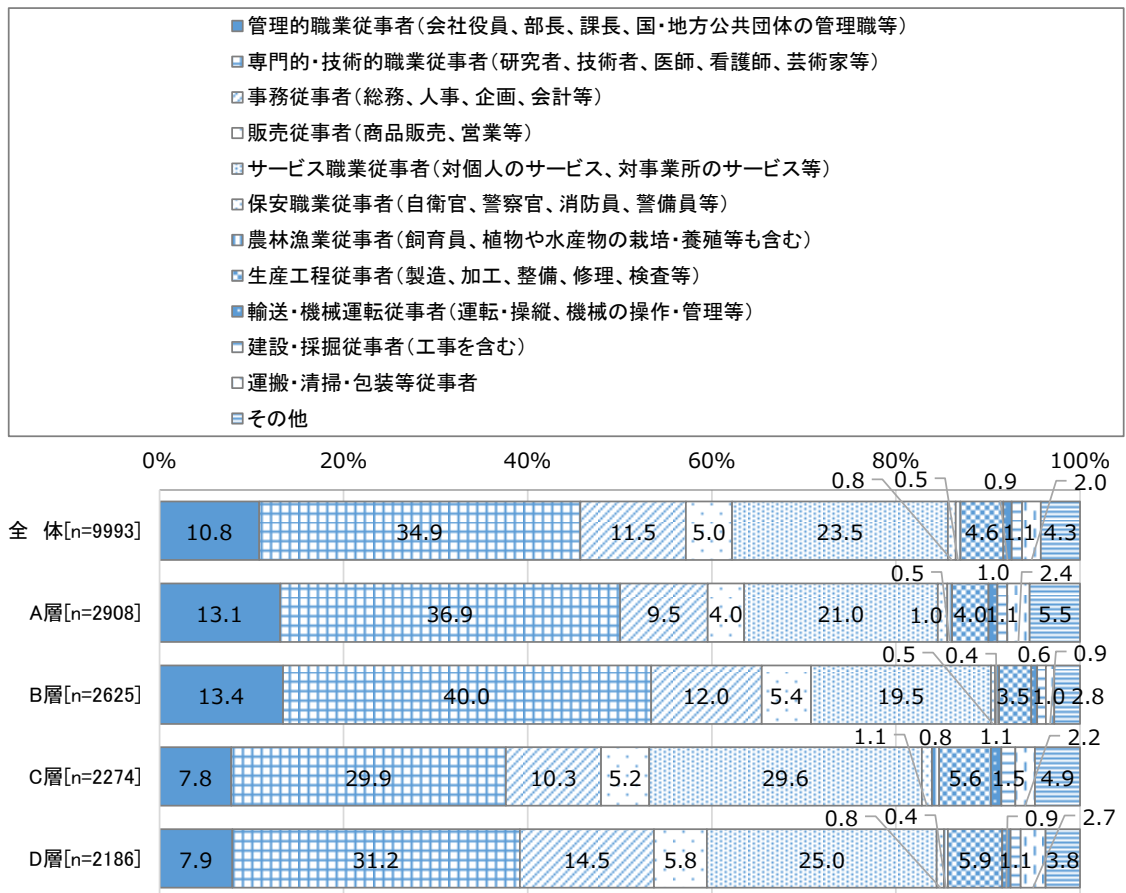


図 2-33 現在の職業

(8) 勤め先での呼称や自営であるかどうか

学び直し意欲が高い層は、低い層に比べ、「自営業主」の割合が高く、「パート、アルバイト」の割合が低い。

現在収入を伴う仕事を「している」人、「仕事はあるが休職中である」人の勤め先での呼称や自営であるかどうかについて、「パート、アルバイト」の割合はC・D層がA・B層よりやや大きく、「自営業主」の割合はA層からD層の順に大きい。

【Qg_1】現在のあなたの仕事に関して、勤め先での呼称や自営であるかどうかについて、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=9993)
 (注)フリーランスの場合は「自営業主」を選択してください。

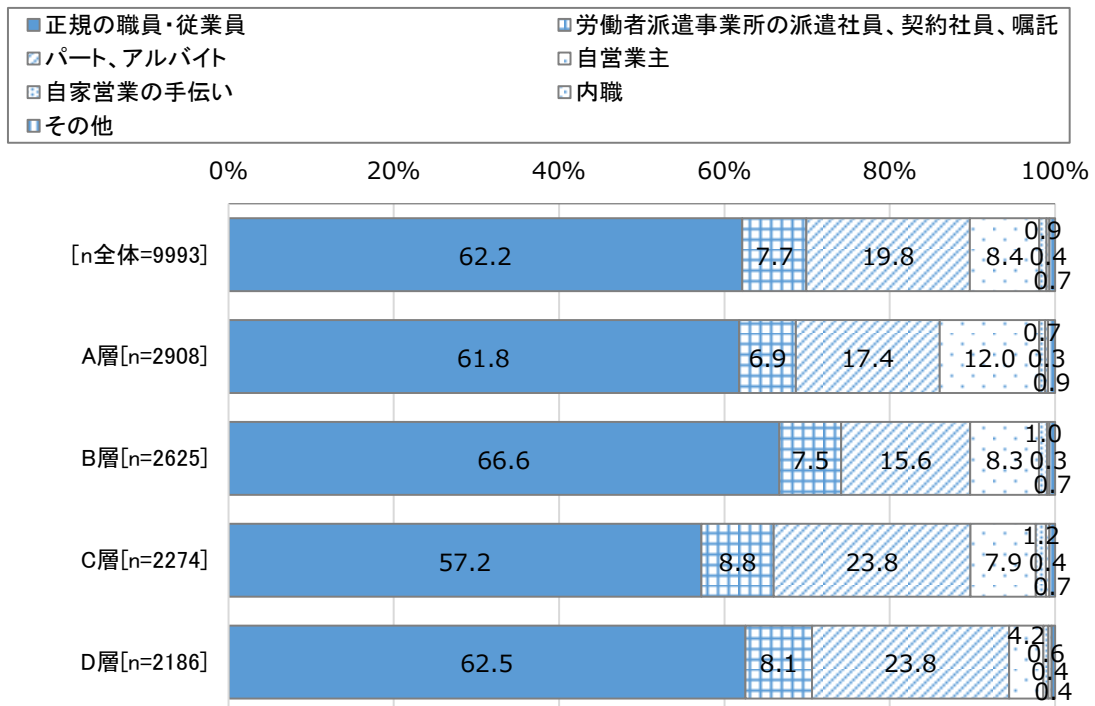


図 2-34 勤め先での呼称や自営であるかどうか

(9) 役職

学び直し意欲が高い層は、低い層に比べ、「高い役職に就く者」の割合が大きい。

現在収入を伴う仕事を「している」人、「仕事はあるが休職中である」人の現在の役職について、「最高経営責任者もしくは代表取締役社長」「専務ないし常務」「上記2つ以外の部長より上の役職」のいわゆる「高い役職に就く者」の割合は、ほぼ全て、A層からD層の順に大きい。一方、「一般職・その他」の割合は、C・D層の方がA・B層より大きい。

【Qh_1】現在のあなたの役職について、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=9993)

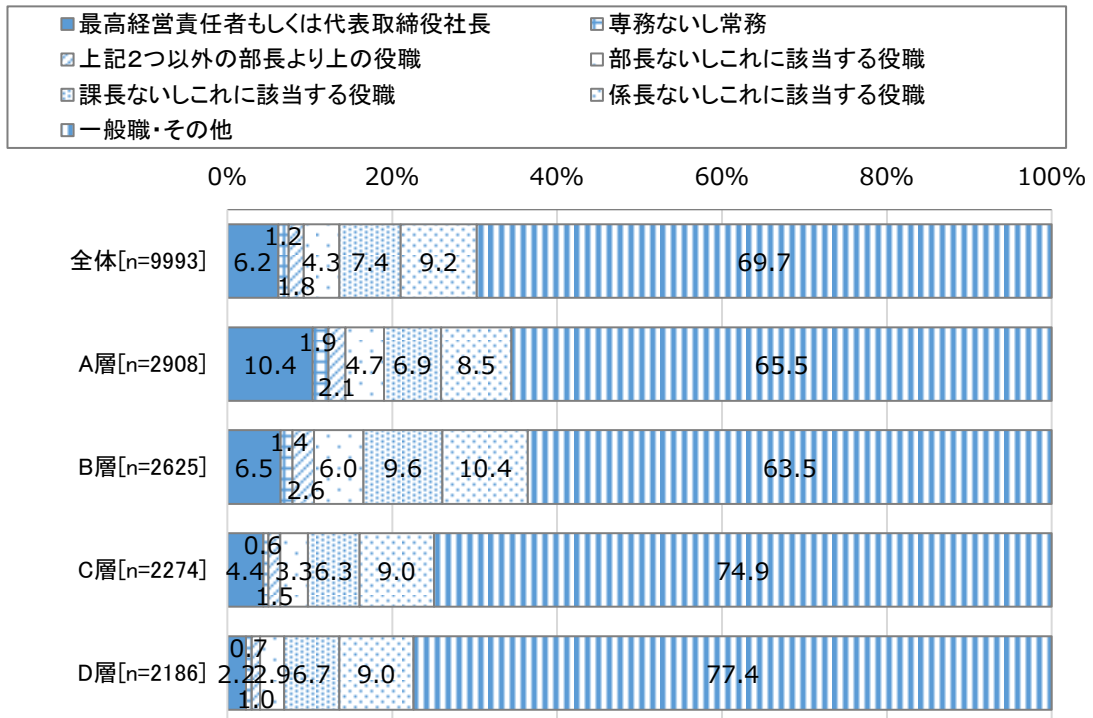


図 2-35 役職

(10) 平均就業時間

学び直し意欲が高いほど、平均的な1週間の就業時間が長い傾向にある。

現在収入を伴う仕事を「している」人の昨年1年間の平均的な1週間の就業時間については、層による大きな違いは見受けられないが、40時間以上と回答した割合は、A層からD層の順に大きい。

【QA4】 昨年1年間（2019年1～12月）における、あなたの平均的な1週間の就業時間として、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=9537）

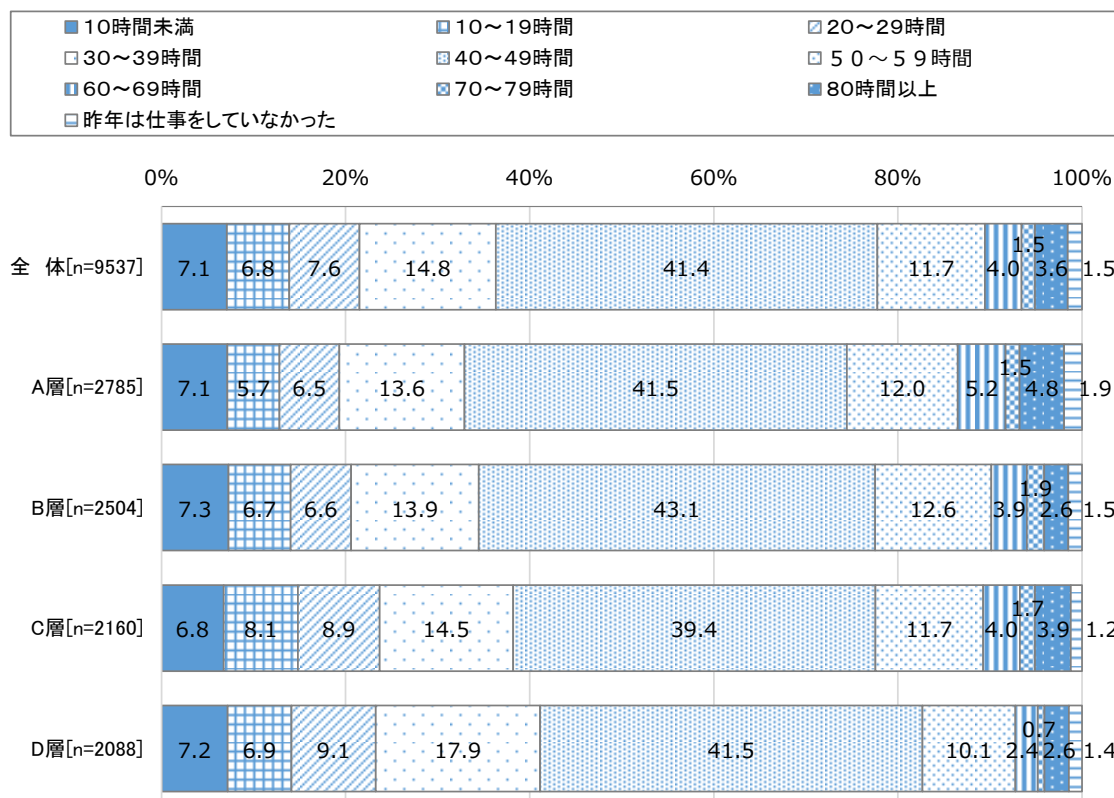


図 2-36 平均就業時間

(11) 業種

現在収入を伴う仕事を「している」人、「仕事はあるが休職中である」人の業種については、層による大きな違いは見受けられない。

【QA5】 現在のあなたのお勤め先（会社等）の業種について、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=9993）
 （注）複数の仕事をしている方は、主な収入源であるものを1つ選択してください。

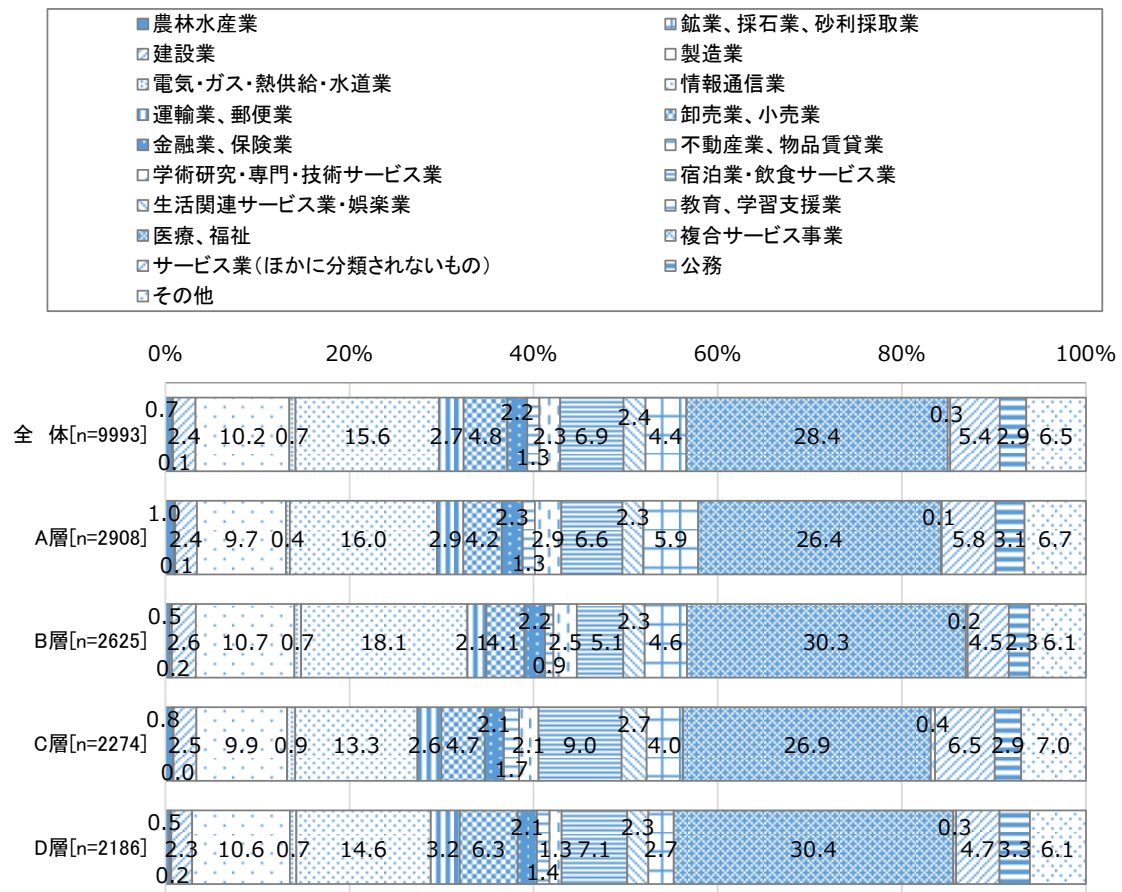


図 2-37 業種

(12) 勤め先の従業員数

現在収入を伴う仕事を「している」人、「仕事はあるが休職中である」人の勤め先の従業員数については、層による大きな違いは見受けられないが、「1人」と回答した割合は、A層からD層の順に大きい。

【QA6】 現在のあなたのお勤め先（会社等）全体の従業員数について、当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=9993）
 （注 1）本社・支社・工場なども含めた従業員総数（パートなども含む）について記入してください。
 （注 2）派遣社員の場合は、派遣元の会社についてお答えください。
 （注 3）あなた自身も従業員数に含めてお考え下さい。

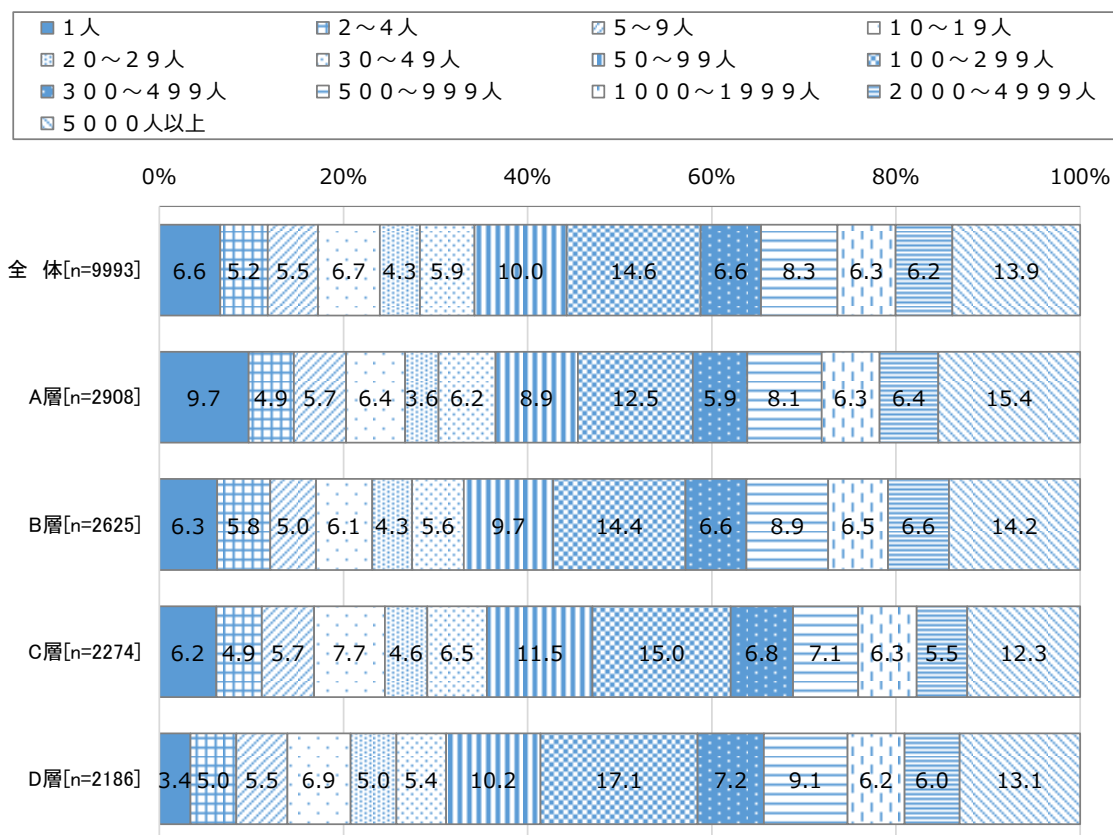


図 2-38 勤め先の従業員数

(13) 所得

学び直し意欲が高い層は、低い層に比べ、所得が高い傾向にある。

現在収入を伴う仕事を「している」人、「仕事はあるが休職中である」人の昨年1年間の所得については、層による大きな違いは見受けられないが、A・B層の方が、C・D層より、全体として所得が高い。

【QA7】 現在のあなたの仕事に関して、昨年1年間（2019年1～12月）の所得（注1）を教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=9993）
 （注1）お勤め先から受け取った給与、賃金、賞与（ボーナス）を合わせたおよその税込金額とします。
 （注2）自営業の場合は、売上高から必要経費を差し引いた営業利益について選択してください。
 「自営業主」とは、個人経営の商店主・工場主・農業主・開業医・弁護士・著述家・家政婦などをいいます。ただし、会社組織になっている商店などの経営者は、自営業主とはしないで、会社などの役員とします。

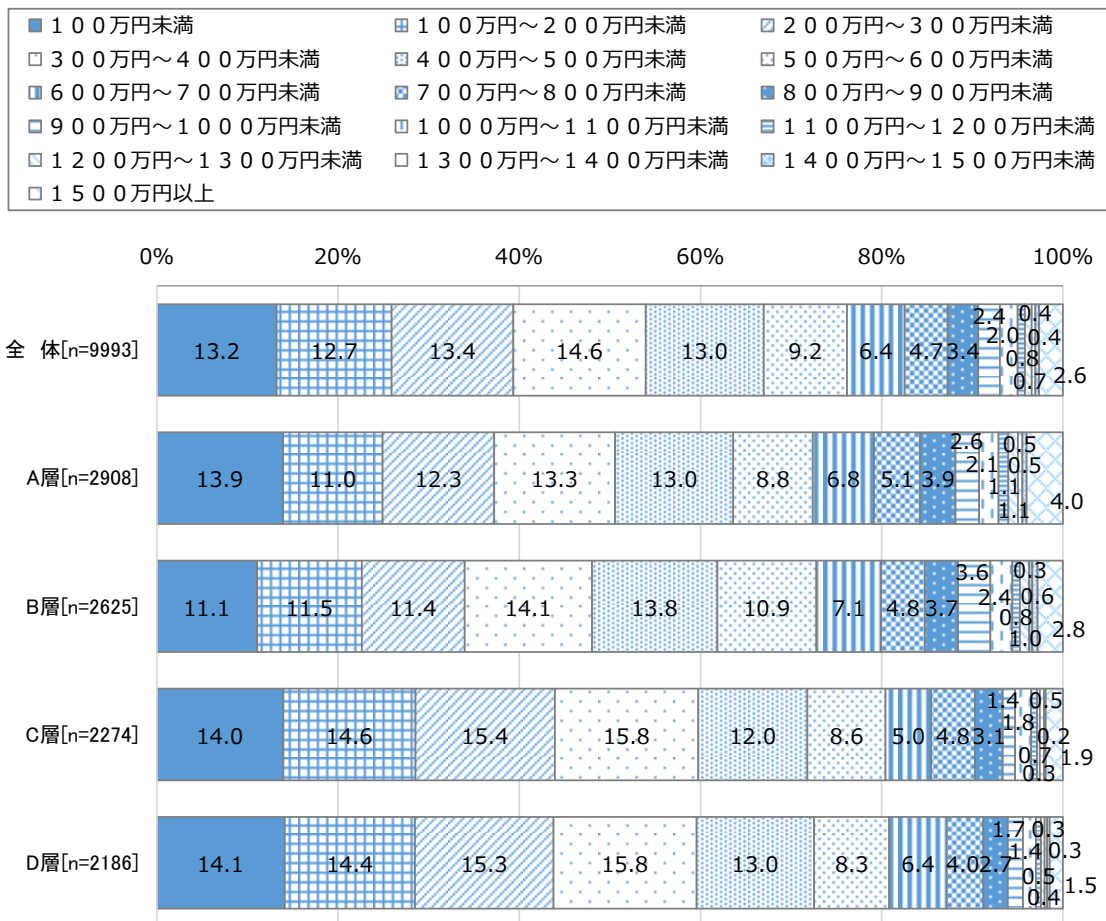


図 2-39 所得

(14) 業務の変更予定・希望

学び直し意欲が高いほど、「現在と大きく異なる業務を行う予定・希望がある」割合が大きい。

現在収入を伴う仕事を「している」人、「仕事はあるが休職中である」人のうち、「現在と大きく異なる業務を行う予定・希望がある」人の割合は、A層からD層の順に多い。

【QA13】数程度先までにおいて、あなたが現在と大きく異なる業務を行う（注）予定・希望はありますか。当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=9993）
（注）他業種や他職種への転職・出向、他部署への異動、復職、管理職等への昇進等を指します。

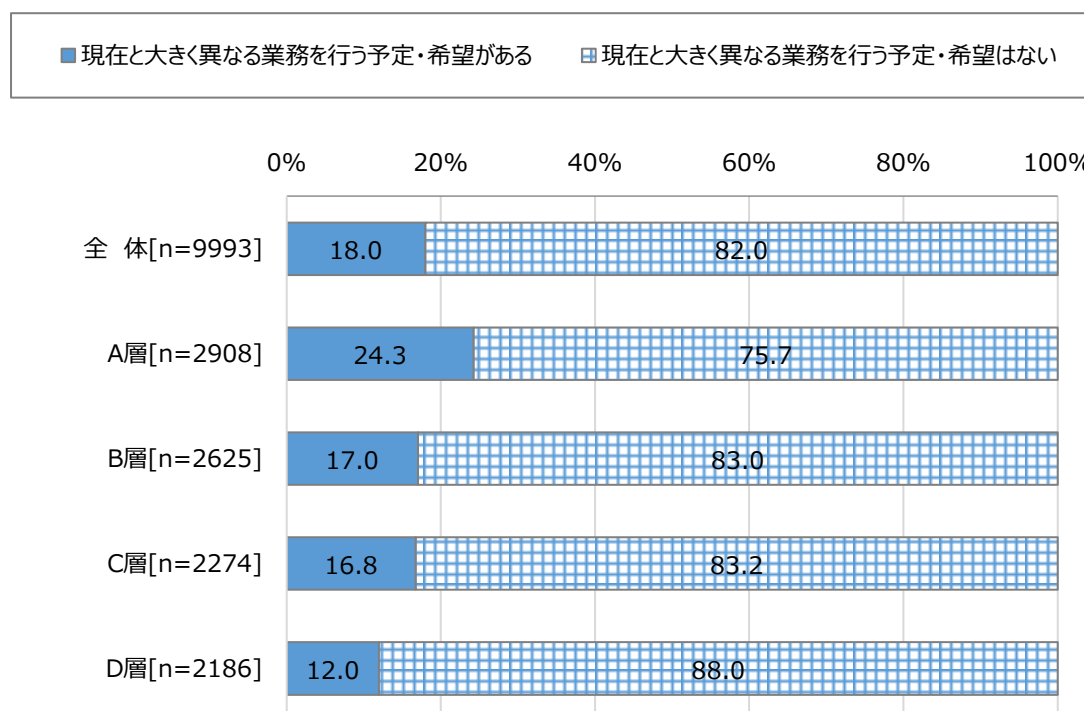


図 2-40 業務の変更予定・希望

2.2.5 「学び直し意欲が高い層」の学習関連行動の特徴

「学び直し意欲が高い層」（＝初期市場形成ターゲット）の学習関連行動は、実際に学習を実施していること、1カ月当たりの平均的な学習時間が長いこと、学習に対して自己負担を行っていること、自己負担額も大きいこと、「現在の業務に役立てるため」だけでなく「新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため」を目的としていることが特徴である。

- 学び直し意欲が高いほど、少しでも学習を行った人の割合が大きく、1カ月当たりの平均的な学習時間が長い傾向にある。
- 学び直し意欲が高いほど、学習に対して自己負担を行っている割合が大きく、自己負担額も大きい傾向にある。
- 学び直し意欲が高い層ほど、過去3年間に何らかの種類の学習を実施した割合が大きい。また、学び直し意欲が高いほど、学習の種類によらず、過去3年間に学習を実施した割合が大きい。
- 学び直し意欲の高低によらず、「現在の業務に役立てるため」に学習した人の割合が最も大きく、学び直し意欲が高いほど、「新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため」の割合が大きい。

(1) 1 カ月当たりの平均的な学習時間

学び直し意欲が高いほど、少しでも学習を行った人の割合が大きく、1 カ月当たりの平均的な学習時間が長い傾向にある。

昨年 1 年間の 1 カ月当たりの平均的な学習時間について、少しでも学習を行った人の割合は、A 層から D 層の順に大きい。また、「5 時間以上 10 時間未満」以上の学習時間においてはほぼすべて、A 層から D 層の順に大きい。

【Qj】 あなたの昨年 1 年間（2019 年 1～12 月）における、1 カ月当たりの平均的な学習時間（注）について、もっとも当てはまるものを 1 つ選択してください。（SA）（n=11568）
 （注）ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT(実務を離れて行う企業研修等)や自己啓発として学ぶものとし、教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません。
 OJT(実際の業務を通じた教育)や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとし、

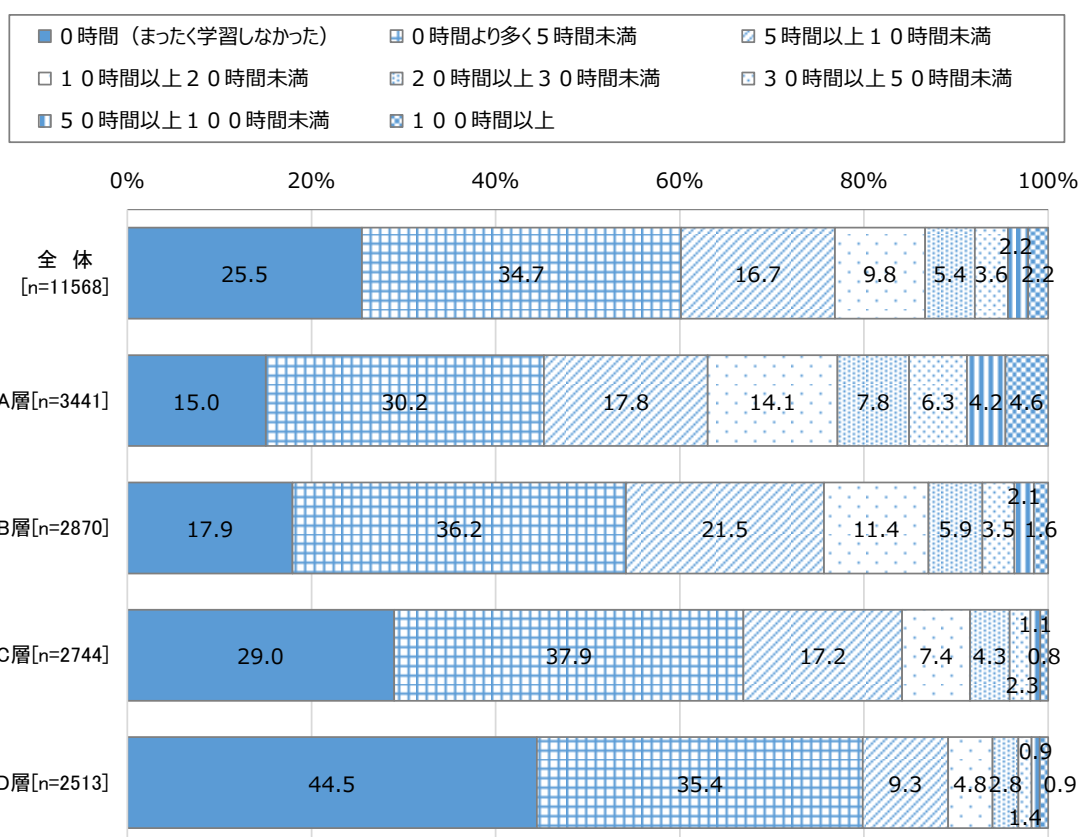


図 2-41 1 カ月当たりの平均的な学習時間

(2) 学習に対する自身の負担額

学び直し意欲が高いほど、学習に対して自己負担を行っている割合が大きく、自己負担額も大きい傾向にある。

昨年1年間に少しでも学習を行った人の、学習に対する自己負担額について、いずれの層においても「0円」の割合が最も大きい。また、「1万円以上2万円未満」以上の自己負担額においてはほぼすべて、A層からD層の順に大きい。

【Qk】 あなたの昨年1年間（2019年1～12月）の学習（注1）に対するご自身の負担額について、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=8623）
 （注1）ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT（実務を離れて行う企業研修等）や自己啓発として学ぶものとします（教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません）。
 OJT（実際の業務を通じた教育）や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとします。
 （注2）国や勤務先等からの費用補助を受けた場合、その額は自己負担額に含めません。

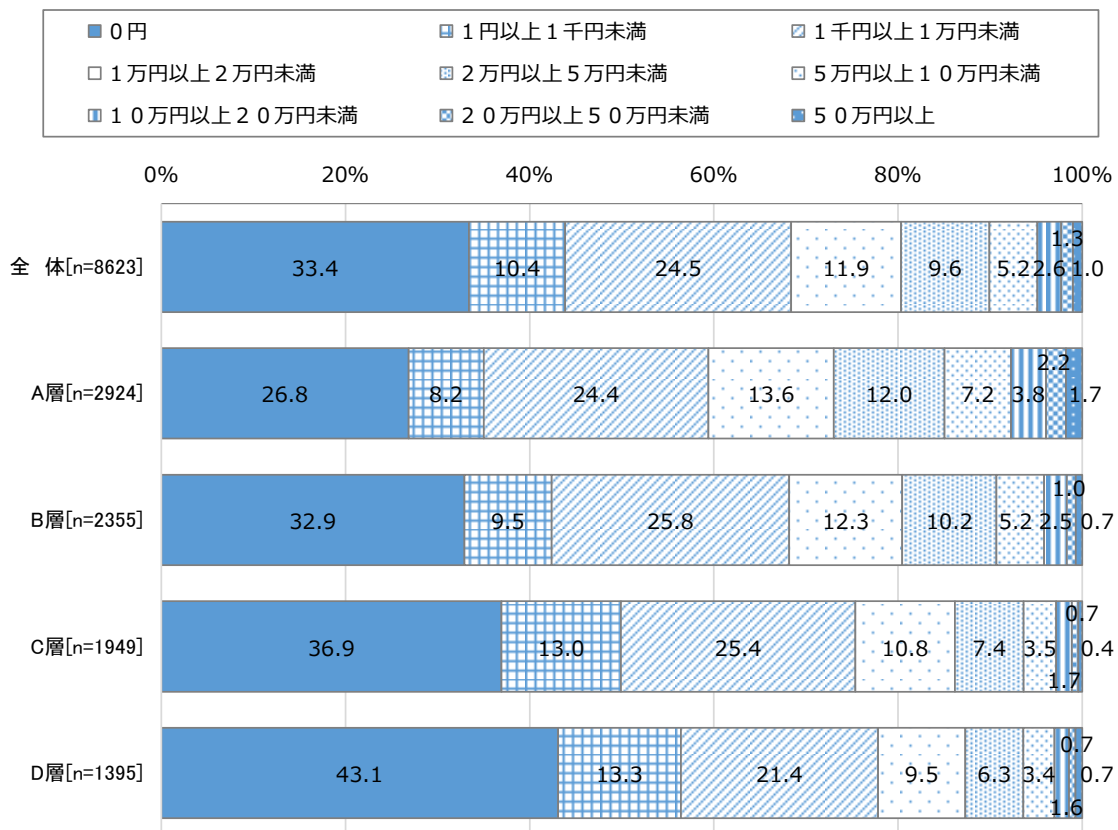


図 2-42 学習に対する自身の負担額

(3) 過去3年間の学習実施状況

学び直し意欲が高い層ほど、過去3年間に何らかの種類の学習を実施した割合が大きい。

なお、本調査における「学習」の定義として、「現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT(実務を離れて行う企業研修等)や自己啓発として学ぶものとし(教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません)。OJT(実際の業務を通じた教育)や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないもの」と注釈をつけていたが、図 2-44・図 2-45 に項目として明示的に記載されていない種類の学習(例 書籍の講読等)の実施・検討状況については回答されていない可能性、社会人経験をはさまない連続した学習経験(例 高校卒業後の大学学士課程の履修、大学学士課程卒業後の大学院修士課程の履修等)も回答されている可能性がある。

【QB1】 過去3年間(2017年12月1日～2020年11月31日)において、次のような種類の学習(注)を実施、あるいは、実施を検討しましたか。それぞれについて、当てはまるものを1つ選択してください。(各 SA) (n=11568)

(注)ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT(実務を離れて行う企業研修等)や自己啓発として学ぶものとし(教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません)。

OJT(実際の業務を通じた教育)や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとし(注)。

⇒学習の種類別の回答を統合し、学習の種類によらず、全体的な学習の実施・検討状況を集計。

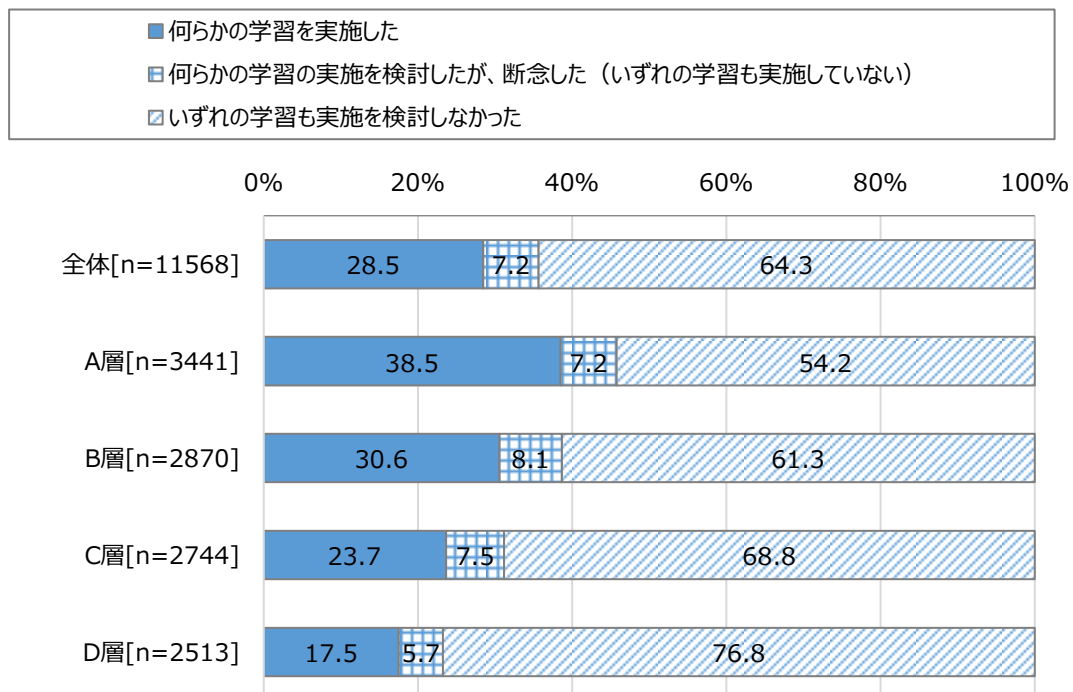


図 2-43 過去3年間の学習実施状況 (全種類統合)

学び直し意欲が高いほど、学習の種類によらず、過去3年間に学習を実施した割合が大きい。

ほぼ全ての種類において、「実施した」人の割合はA層からD層の順に多い。

A層が「実施した」学習の種類は、「学位や資格の取得とは関係のない学習（業務やキャリアに直接関係するもの）」が20.4%で最も大きく、次いで「資格取得のための学習（国家資格以外）」の16.0%、「資格取得のための学習（国家資格）」の15.0%が続く。

なお、「大学の学士課程プログラムの履修」を「実施した」と回答した人の割合は、他の学習の種類に比べると相対的に大きいですが、これは上述のとおり、社会人経験をはさまない連続した学習経験を回答している人（例 高校卒業後の大学学士課程の履修を想定している20代前半の人等）が含まれるためではないかと推測される。

【QB1】 過去3年間（2017年12月1日～2020年11月31日）において、次のような種類の学習（注）を実施、あるいは、実施を検討しましたか。それぞれについて、当てはまるものを1つ選択してください。（各SA）（n=11568）

（注）ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT（実務を離れて行う企業研修等）や自己啓発として学ぶものとし、教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません。

OJT（実際の業務を通じた教育）や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとし、

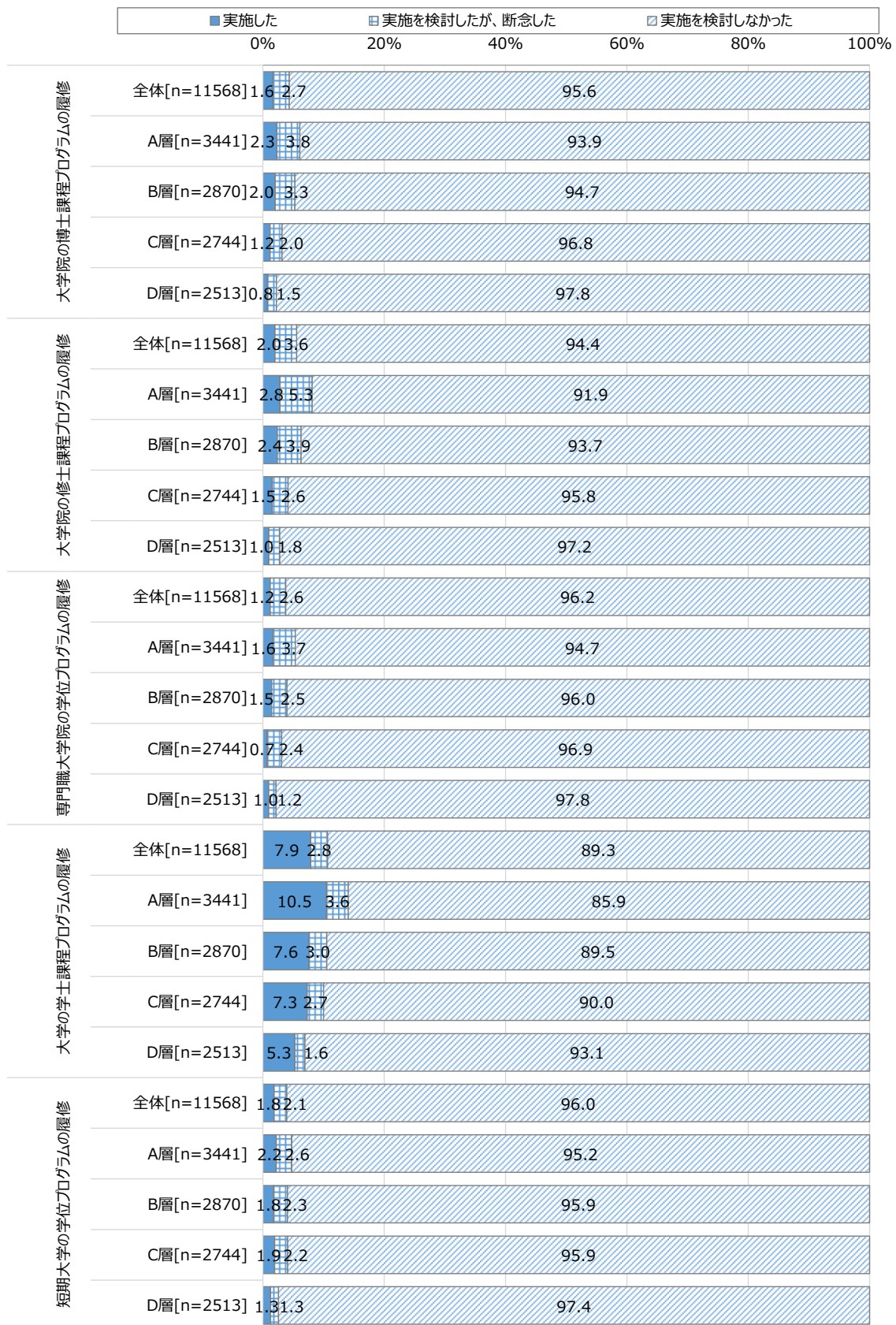


図 2-44 過去3年間の学習実施状況（種類別） 1/3

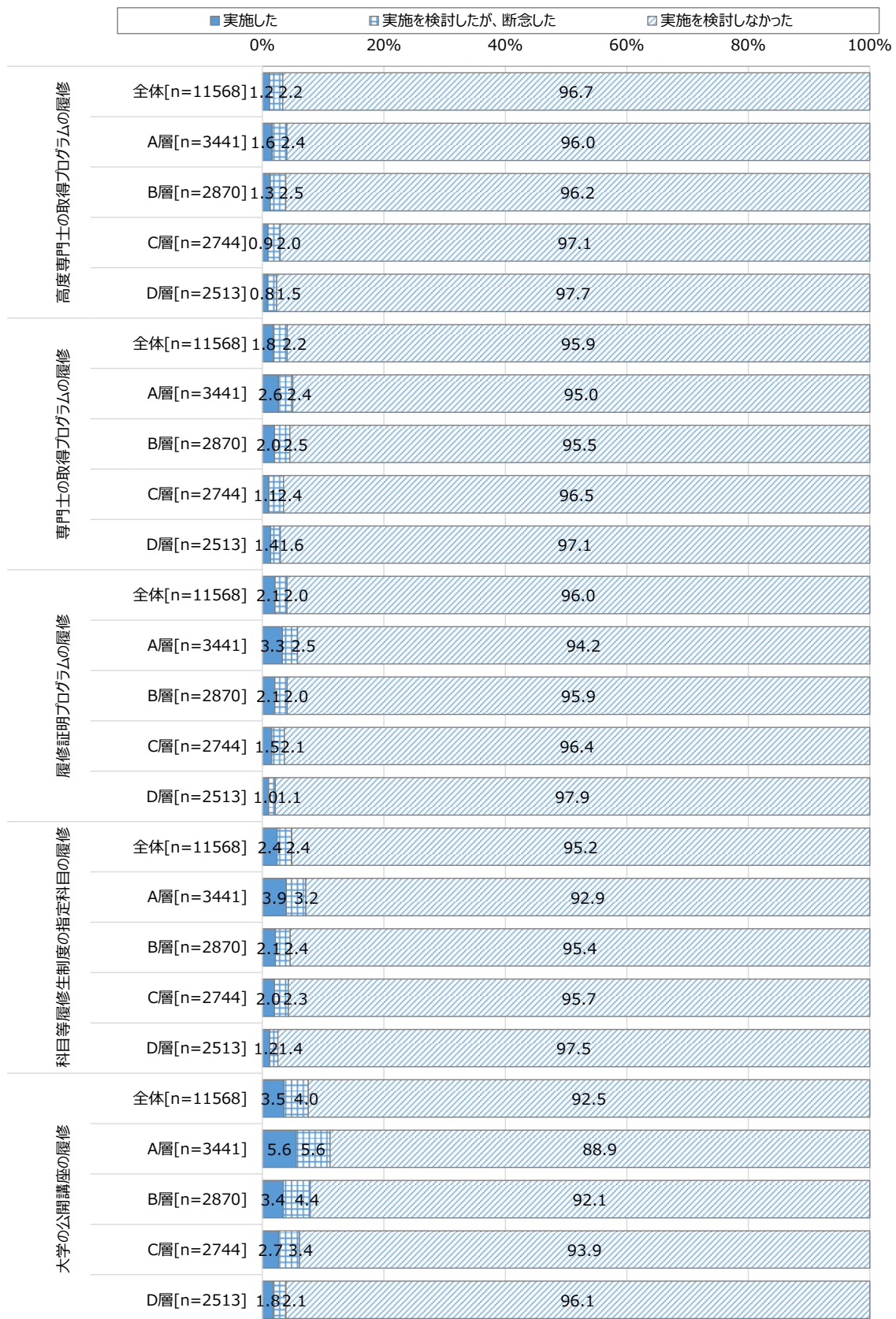


図 2-45 過去3年間の学習実施状況（種類別） 2/3

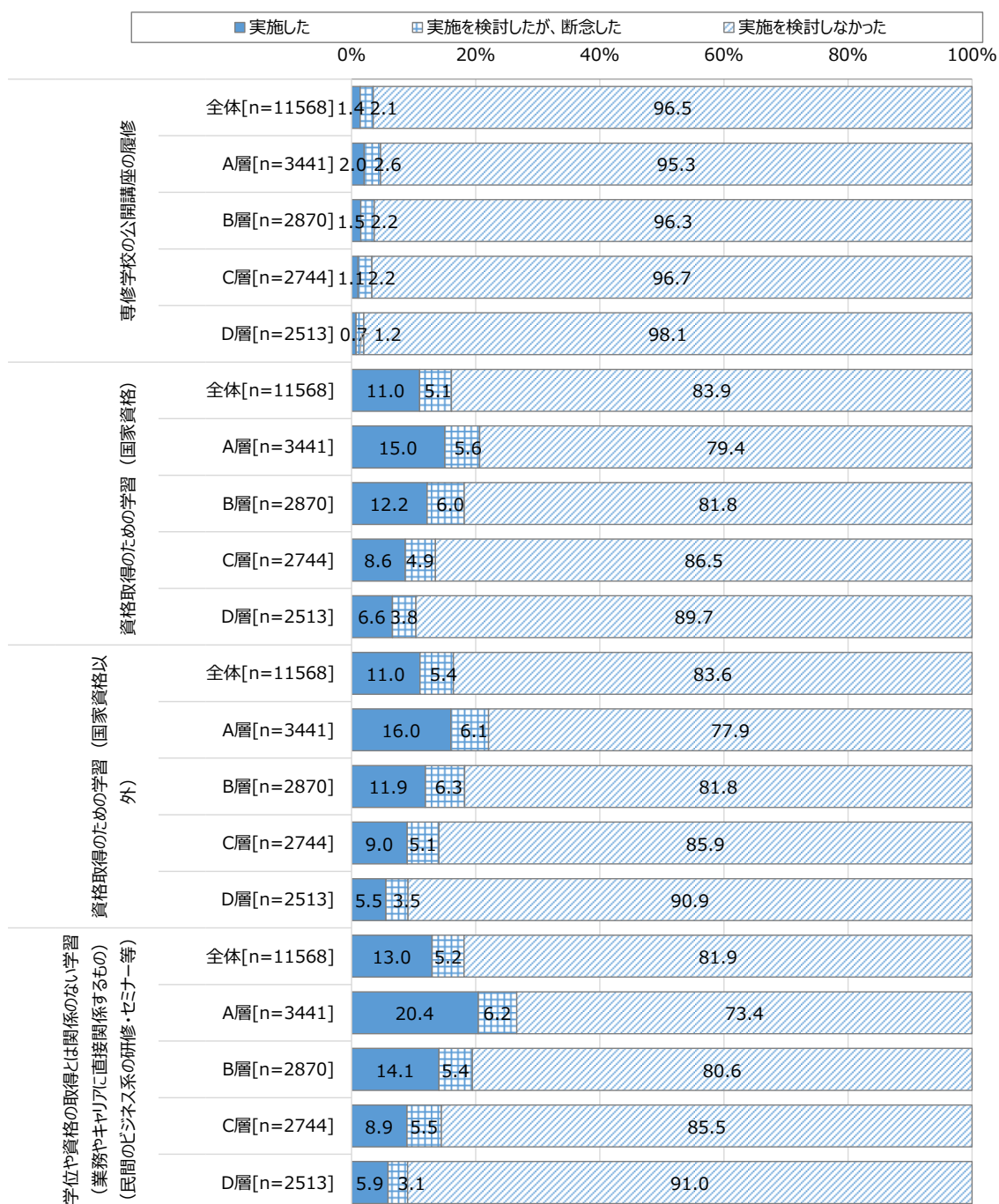


図 2-46 過去3年間の学習実施状況 (種類別) 3/3

(4) 学習によって身につけたい知識やスキル等

学習によって身につけたい知識やスキル等については、層によって大きな傾向の違いは見られないが、A層は他の層と比べ、「特定の専門分野における体系的な理論」「特定の専門分野における体系的な技能・技術」「語学（外国語）」を他の知識・スキルよりも身につけたいと考える人の割合が大きい。

【QB2】 どのような知識やスキル等を身につけるための学習をしましたか。実施した学習それぞれについて、当てはまるものをすべて選択してください。（MA）
⇒学習の種類別の回答を統合し、学習の種類によらず、身につけたい知識やスキル等を集計。

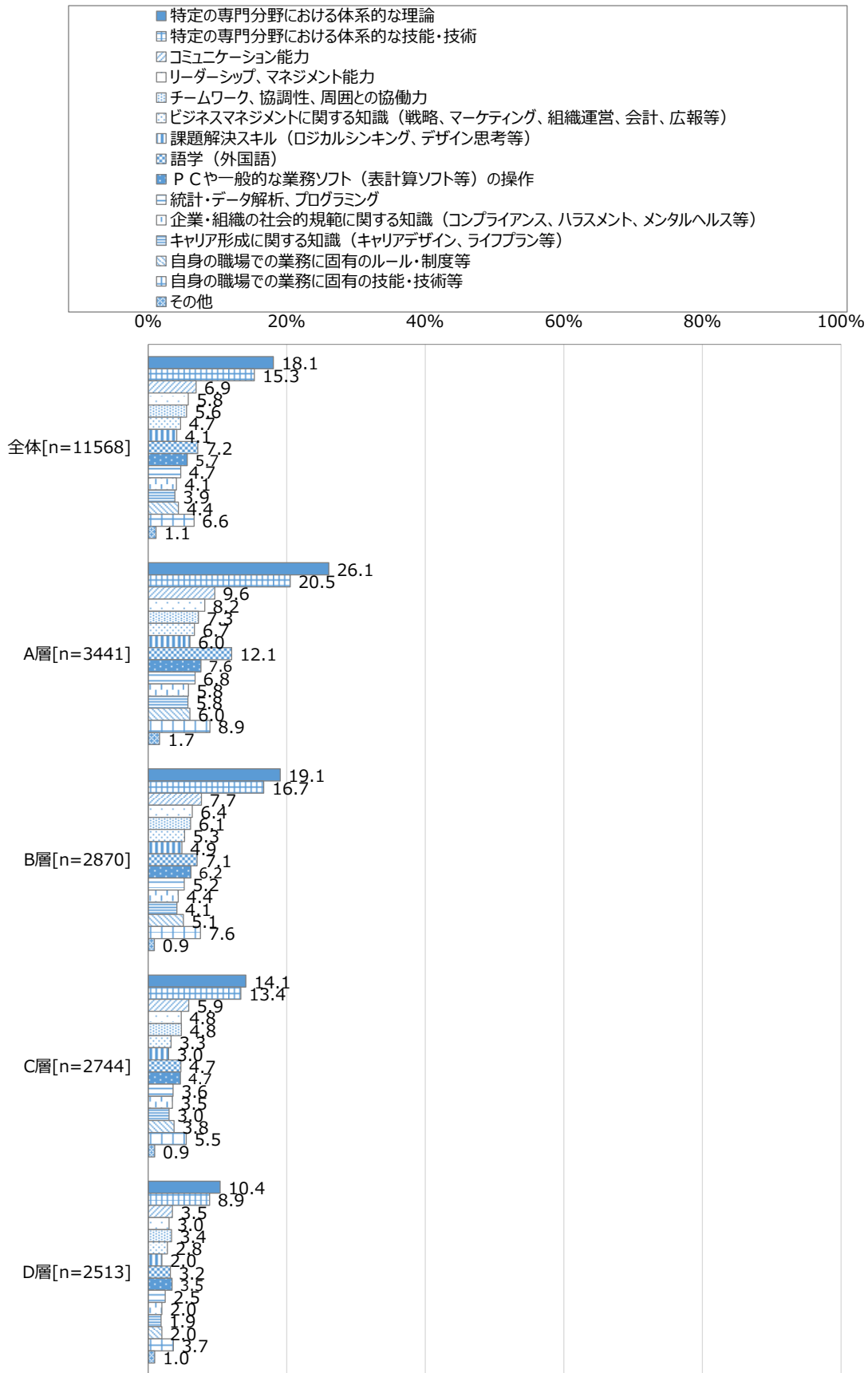


図 2-47 身につけようとした知識やスキル (各プログラムの回答を統合)

(5) 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の種類

最も重視して取り組んだ学習については、層による大きな違いは見受けられないが、「大学の学士課程プログラムの履修」を選択した人の割合は、C・D層の方が、A・B層よりやや大きい。また、「学位や資格の取得とは関係のない学習」を選択した人の割合は、A・B層の方が、C・D層よりやや大きい。

なお、「大学の学士課程プログラムの履修」を選択した層については、現役の大学生や、過去3年間に学士課程を高校卒業後に就職をはさまず経験している層の回答が含まれる可能性が高い。

【QB5】実施した学習の中で、もっとも重視して取り組んだと思う学習を1つ選択してください。(SA) (n=3294)

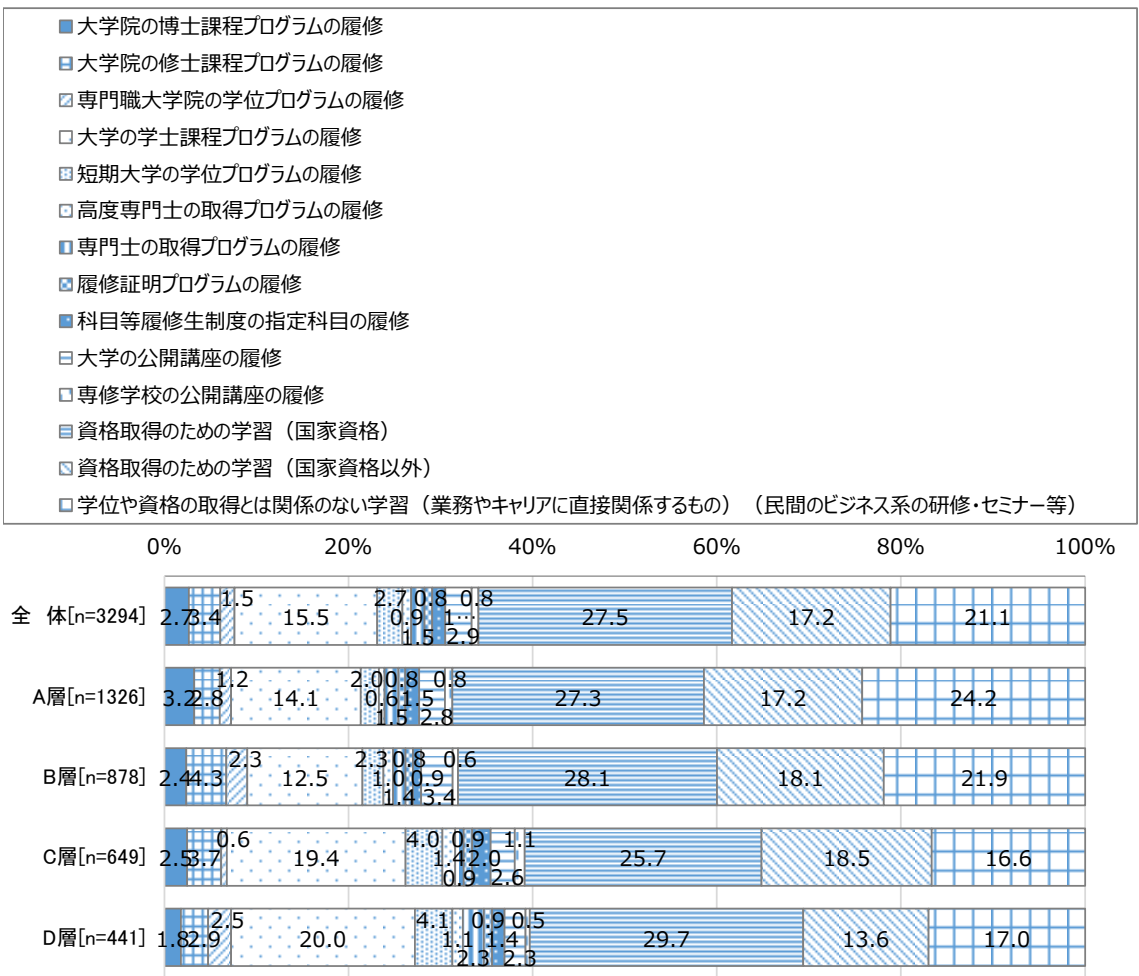


図 2-48 もっとも重視して取り組んだと思う学習

(6) 学習の主な目的

いずれの雇用形態においても、学び直し意欲の高低によらず、「現在の業務に役立てるため」に学習した人の割合が最も大きい。学び直し意欲が高いほど、「新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため」の割合が大きく、C・D層では「給与や勤務条件等の待遇向上のため」や「就職のため」の方が大きくなる傾向にある。また、現在の雇用形態が「労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託」である回答者については、いずれの層においても、他の雇用形態と比較して「定年後も働くため」の割合が大きい。

1) 正規の職員・従業員

「正規の職員・従業員」では、学び直し意欲の高低によらず、「現在の業務に役立てるため」に学習した人の割合が最も大きく、学び直し意欲が高いほど、「新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため」の割合が大きい。

「正規の職員・従業員」の「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的について、いずれの層においても、「現在の業務に役立てるため」の割合が最も大きい。また、「新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため」の割合は、A層からD層の順に大きく、C層では「給与や勤務条件等の待遇向上のため」、D層では「給与や勤務条件等の待遇向上のため」「就職のため」より小さくなる。

【QB6_1】 前問で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的について、もっとも当てはまるものを最大3つまで選択してください。(MA)

(現在または過去の雇用形態が「正規の職員・従業員」「パート、アルバイト」「自営業主」「自家営業の手伝い」「内職」「その他」である回答者が対象)

⇒「現在の雇用形態」が「正規の職員・従業員」である回答者のみで集計。

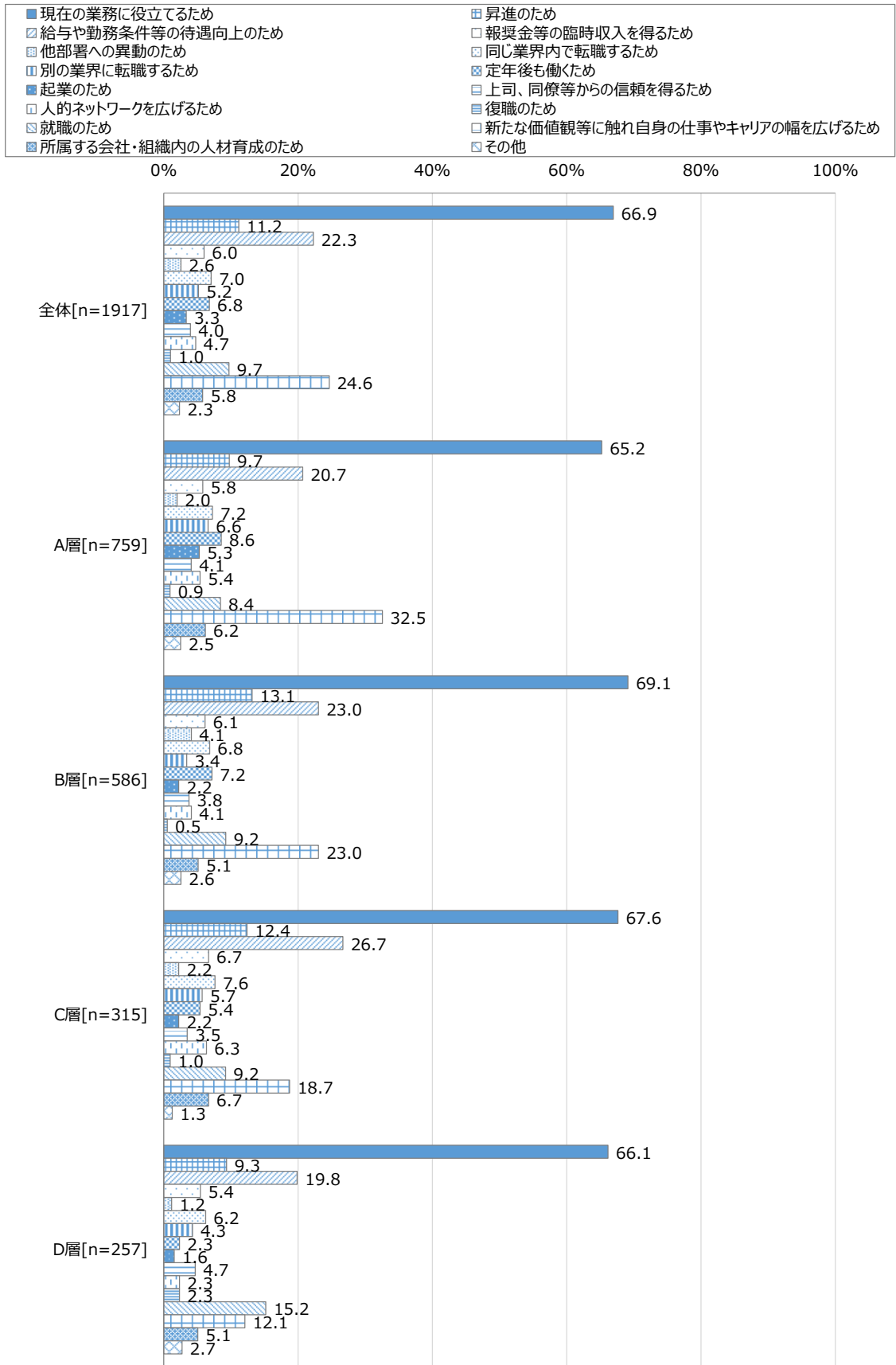


図 2-49 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的
(現在の雇用形態が「正規の職員・従業員」)

2) 労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託

「労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託」では、学び直し意欲の高低によらず、「現在の業務に役立てるため」に学習した人の割合が最も大きく（A・B層では「新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため」も同じ割合）、学び直し意欲が高いほど、「新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため」の割合が大きい。

「労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託」の「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的について、A・B・C層では、「現在の業務に役立てるため」「新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため」の割合が他の目的よりも圧倒的に大きい。D層においては「新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため」の割合は低くなり「就職のため」の割合が大きくなる。また、いずれの層においても、図 2-49 と比較して、「定年後も働くため」の割合が大きい。

【QB6_2】 QB5 で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的について、もっとも当てはまるものを最大3つまで選択してください。（MA）

（現在または過去の雇用形態が「労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託」である回答者が対象）

⇒「現在の雇用形態」が「労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託」である回答者のみで集計。

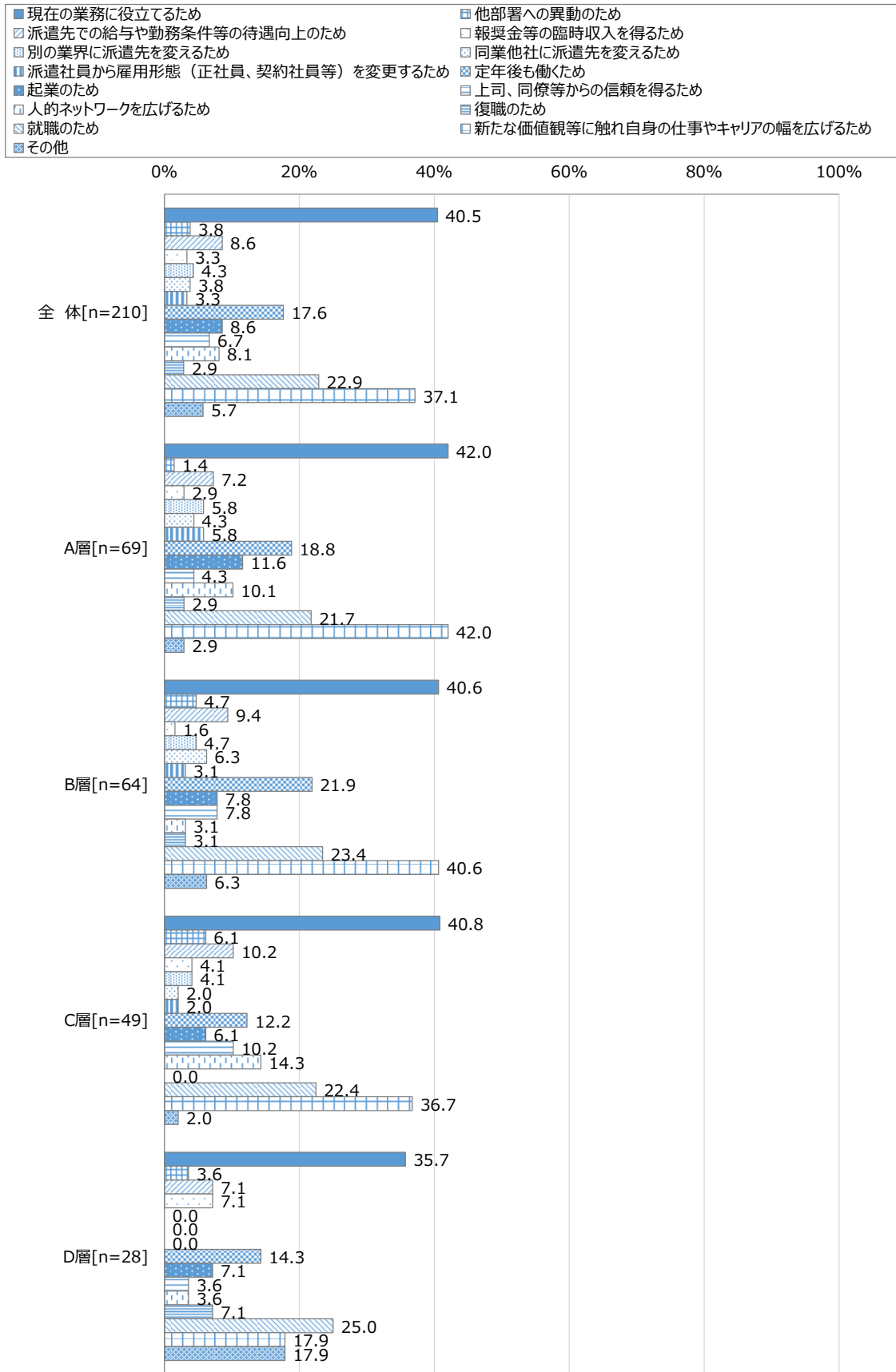


図 2-50 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的
 (現在の雇用形態が「労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託」)

3) その他の雇用形態

「その他の雇用形態」では、学び直し意欲の高低によらず、「現在の業務に役立てるため」に学習した人の割合が最も大きく、学び直し意欲が高いほど、「新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため」の割合が大きい。

「その他の雇用形態」の「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的について、いずれの層においても、「現在の業務に役立てるため」の割合が最も大きい、「新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため」の割合は、A層からD層の順に大きく、D層においては「就職のため」の割合の方が大きくなる。

【QB6_1】 前問で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的について、もっとも当てはまるものを最大3つまで選択してください。(MA)

(現在または過去の雇用形態が「正規の職員・従業員」「パート、アルバイト」「自営業主」「自家営業の手伝い」「内職」「その他」である回答者が対象)

⇒「現在の雇用形態」が「パート、アルバイト」「自営業主」「自家営業の手伝い」「内職」「その他」である回答者のみで集計。

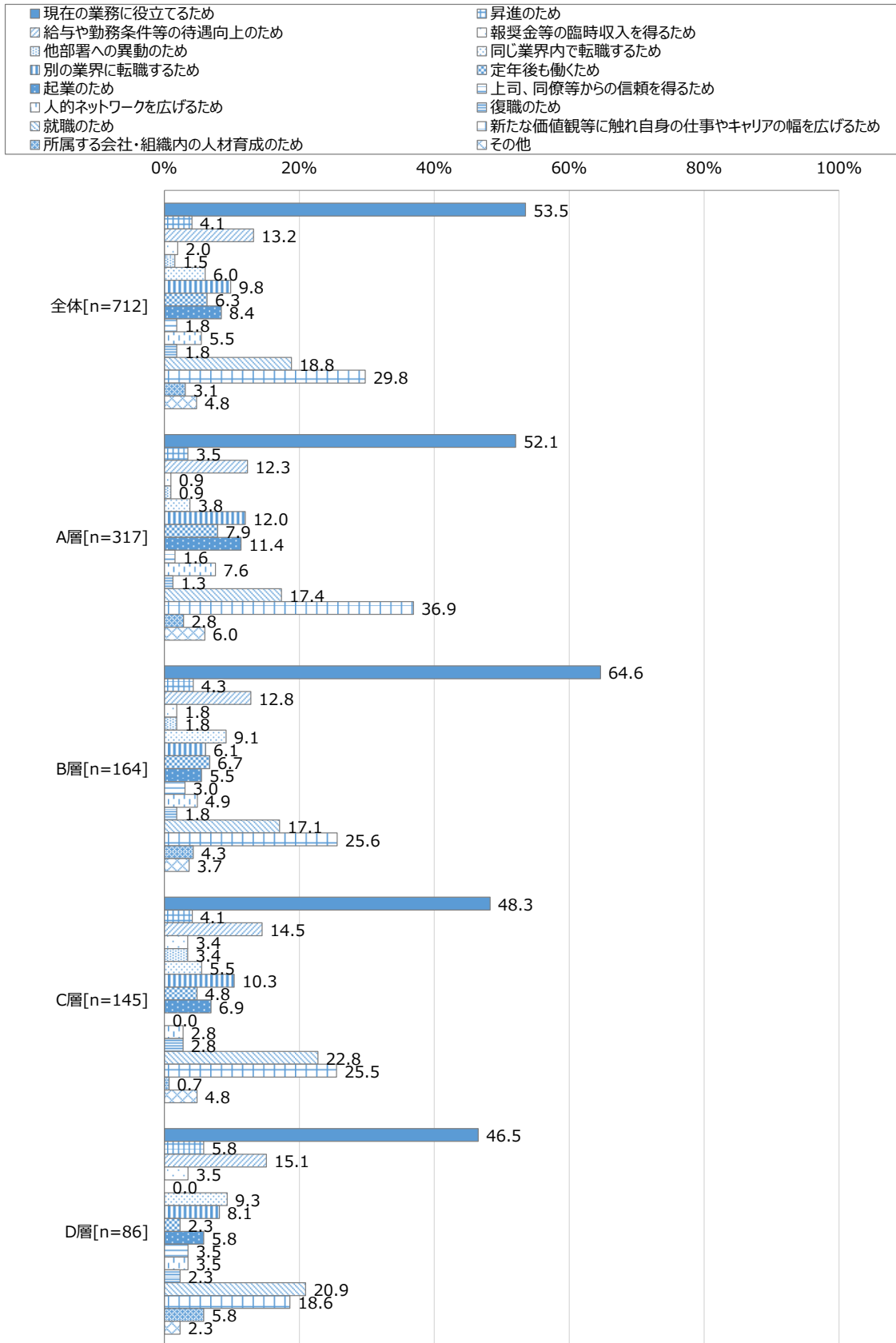


図 2-51 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的
 (現在の雇用形態が「パート、アルバイト」「自営業主」「自家営業の手伝い」「内職」「その他」)

(7) A～E 層の割合 (プレ調査)

プレ調査においては、学習に対する考えや態度について、E層が44.2%で最も多く、A層が17.7%でそれに続いている。また、「学び直し意欲の高い層」(A・B層)は、31.0%である。

【Qi】 学習 (注) に対する、あなたの考えや態度にもっとも近いと思われるものを1つ選択してください。(SA) (n=74487)
(注)ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT(実務を離れて行う企業研修等)や自己啓発として学ぶものとします(教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません)。
OJT(実際の業務を通じた教育)や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとします。

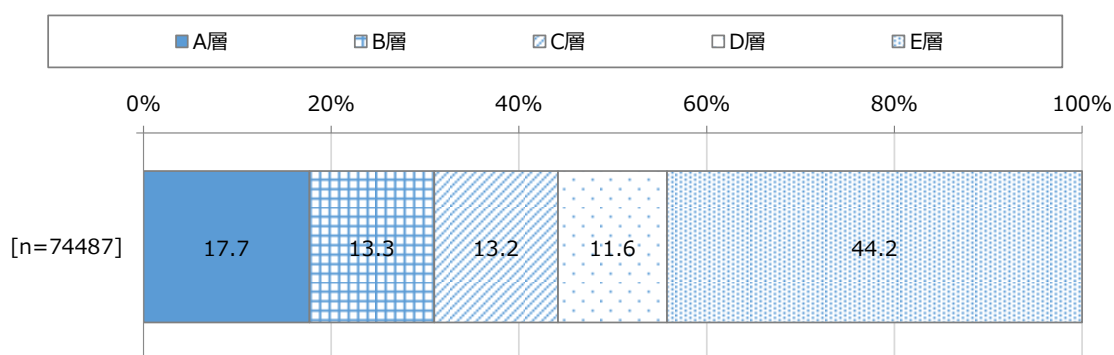


図 2-52 A～E 層の割合 (プレ調査)

(8) E 層の学習関連行動の特徴

E 層の学習への意欲がない理由は、そもそも学習したくない、学習の必要性を感じていないといった自身の意志に関することが主である。次いで、学習プログラムの見つけ方がわからない、職場からの求めが特にないためといった理由が続くことから、学習実施に対し受動的であることが伺える。

「そもそも学習したくないため」の割合が 47.2%と最も大きく、次いで「現状に満足しており、学習の必要性を感じていないため」の割合が 17.9%、「適した学習プログラムをどう見つければよいかわからなかったため」の割合が 14.4%、「職場からの求め（例：上司からの指示や同僚等からの勧め）が特にないため」の割合が 13.3%と続く。

【Q1】学習（注）への意欲がない理由について、とくに当てはまるものを3つまで選択してください。（MA）（n=32932）

（注）ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT(実務を離れて行う企業研修等)や自己啓発として学ぶものとします(教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません)。

OJT(実際の業務を通じた教育)や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとします。

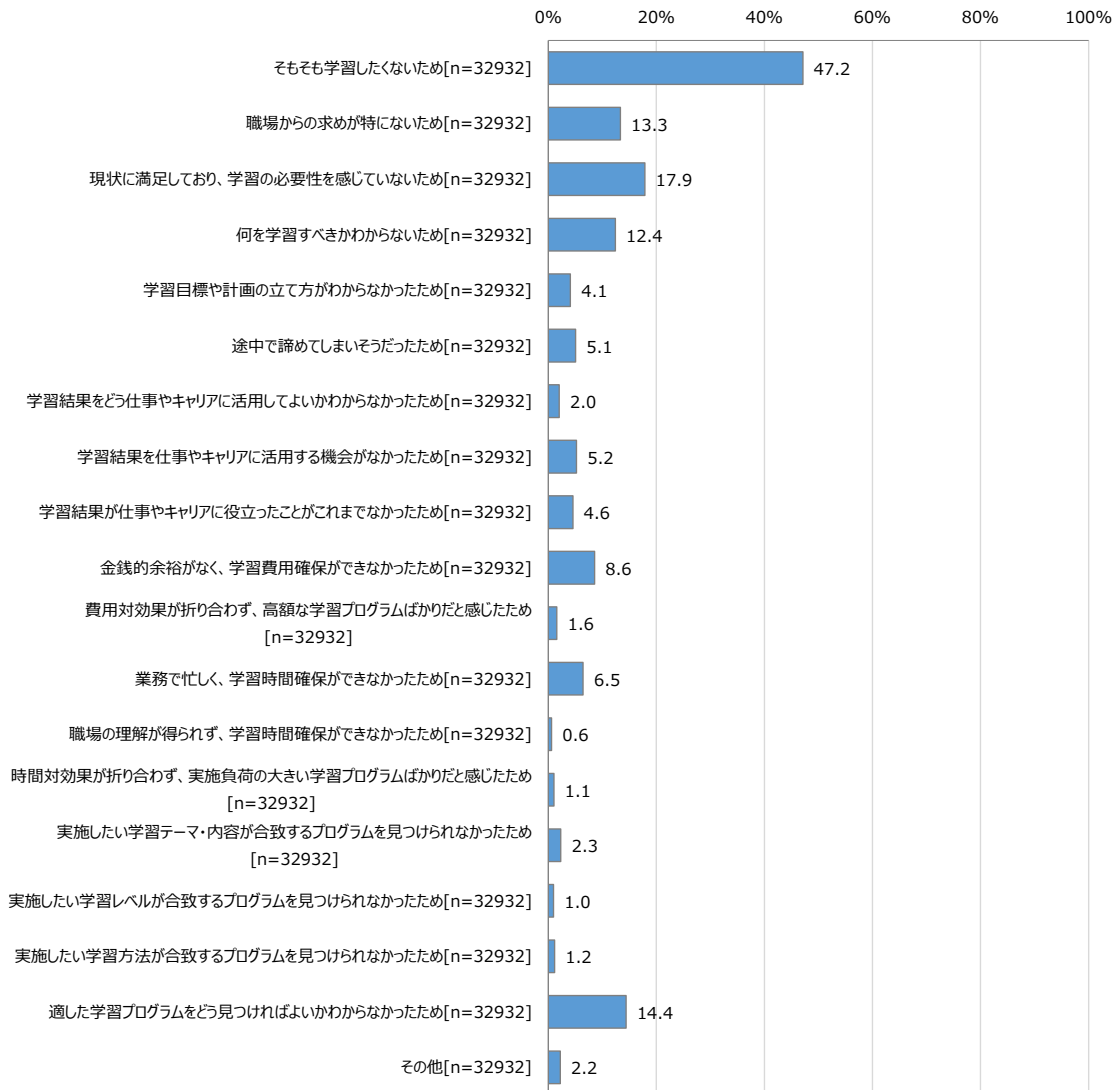


図 2-53 E 層の学習関連行動の特徴

(9) E層が今後身につけたい知識やスキル等

E層が今後身につけたい知識やスキル等では、コミュニケーション能力、PCや一般的な業務ソフトの操作、語学（外国語）といった汎用的なものが主である。

「どのような知識やスキル等も身につけたいと思わない」の割合が48.1%と最も大きい。今後身につけたい知識やスキル等では、「コミュニケーション能力」の割合が12.7%、次いで「PCや一般的な業務ソフト（表計算ソフト等）の操作」の割合が11.9%、「特定の専門分野における体系的な技能・技術」の割合が11.7%、「語学（外国語）」の割合が11.6%と続く。

【Qm】 今後何かを学習することになった場合、どのような知識やスキル等を身につけたいと思いますか。当てはまるものをすべて選択してください。（MA）（n=32932）
 （注）ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT（実務を離れて行う企業研修等）や自己啓発として学ぶものとします（教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません）。
 OJT（実際の業務を通じた教育）や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとします

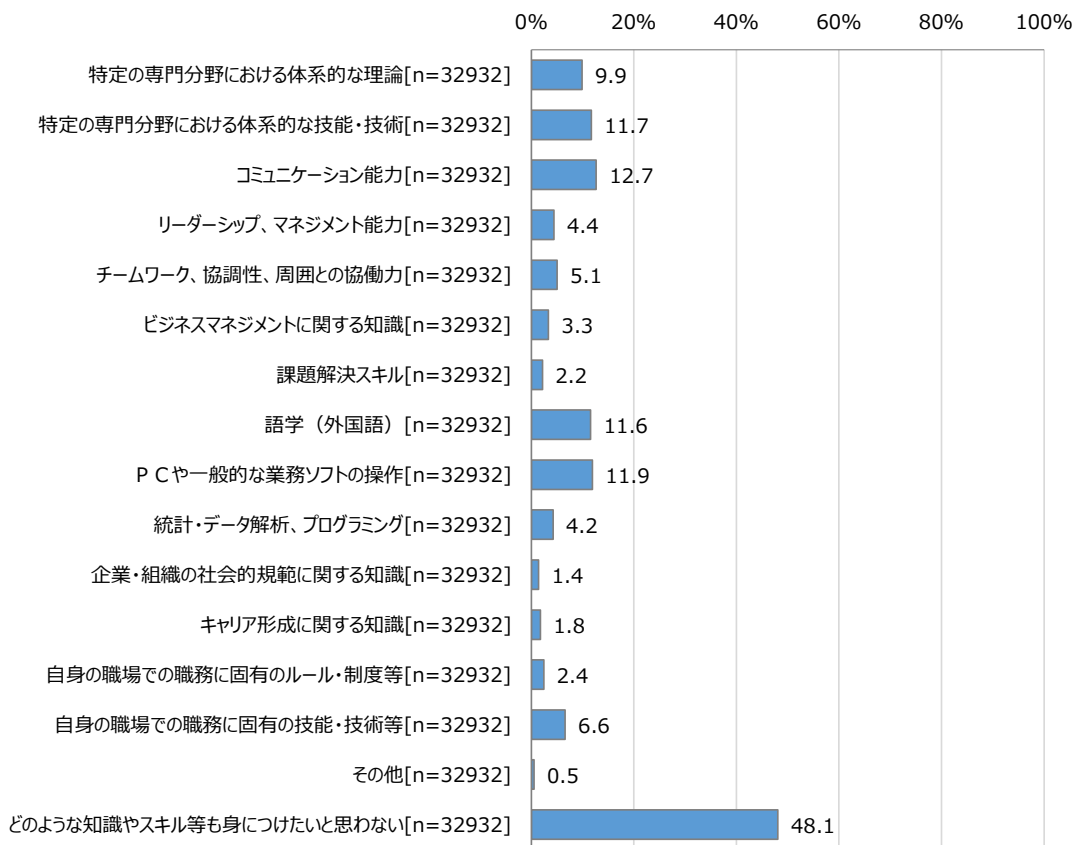


図 2-54 E層が今後身につけたい知識やスキル

2.2.6 「学び直し意欲が高い層」の受講促進要因

受講促進要因（「もっとも重視して取り組んだと思う学習」について）については、学び直し意欲の違いによらず、「業界で生き残るために必要だと感じたため」という自身の仕事に直結する理由が実施のきっかけであり、「インターネット検索」等で自身で学習の機会を探し、「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと」を重視する、ということが特徴である。なお、「学び直し意欲が高い層」（＝初期市場形成ターゲット）は、他の層に比べ、受動的な項目を重視していない。

- いずれの層においても、「業界で生き残るために必要だと感じたため」を実施のきっかけとする割合が大きい。
- いずれの層においても、「インターネット検索」の割合が最も大きく、次いで「勤め先や業界団体等からの案内」が続く。
- いずれの層においても、「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと」を重視した割合が最も大きく、「費用が効果や時間に見合っていたり、安価であること」がそれに続く。ほぼすべての項目において、他の層に比べて A 層の方が重視している割合が高いが、「勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があること」「行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があること」「選択の余地がなかった（指定されていた等）」の受動的な項目は他の層の方が重視している割合が大きい。

(1) 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」実施のきっかけ

いずれの層においても、「業界で生き残るために必要だと感じたため」を実施のきっかけとする割合が大きい。

A層では、「業界で生き残るために必要だと感じたため」の割合が20.1%と最も大きく、次いで「勤め先や業界に関係なく周囲の人や地域・社会へ貢献したかったため」の割合が17.2%と続く。

B層では、「業界で生き残るために必要だと感じたため」の割合が22.1%と最も大きく、次いで「勤め先等から指示があったため（過去の勤め先を含む）」の割合が13.8%と続く。

【QB8】QB5で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」について、その学習を実施しようと思ったきっかけは何でしたか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=3294）

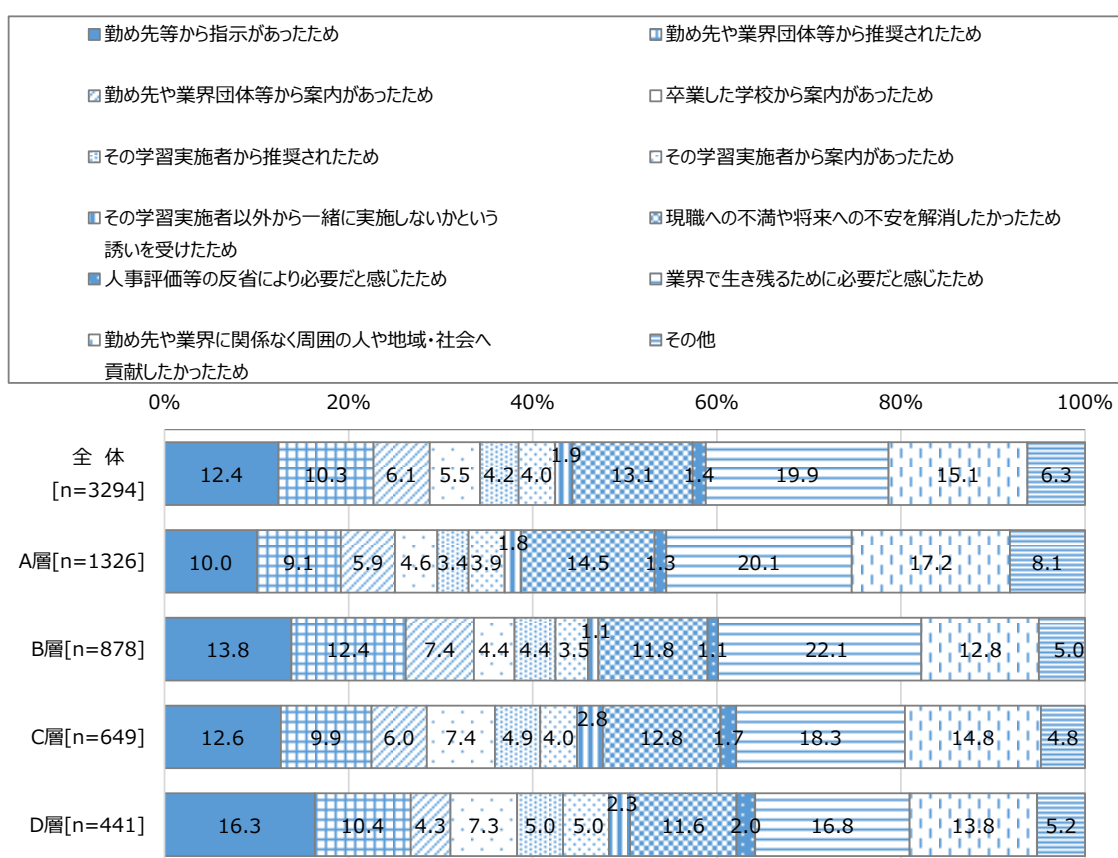


図 2-55 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」実施のきっかけ¹⁴

¹⁴ 「勤め先等から指示があったため」「勤め先や業界団体等から推奨されたため」「勤め先や業界団体等から案内があったため」は過去の勤め先を含む。

(2) 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」機会発見方法

いずれの層においても、「インターネット検索」の割合が最も大きく、次いで「勤め先や業界団体等からの案内」が続く。

【QB9】QB5 で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」について、その学習機会をどのように探して見つけましたか。もっとも当てはまるものを 1 つ選択してください。(SA) (n=3294)

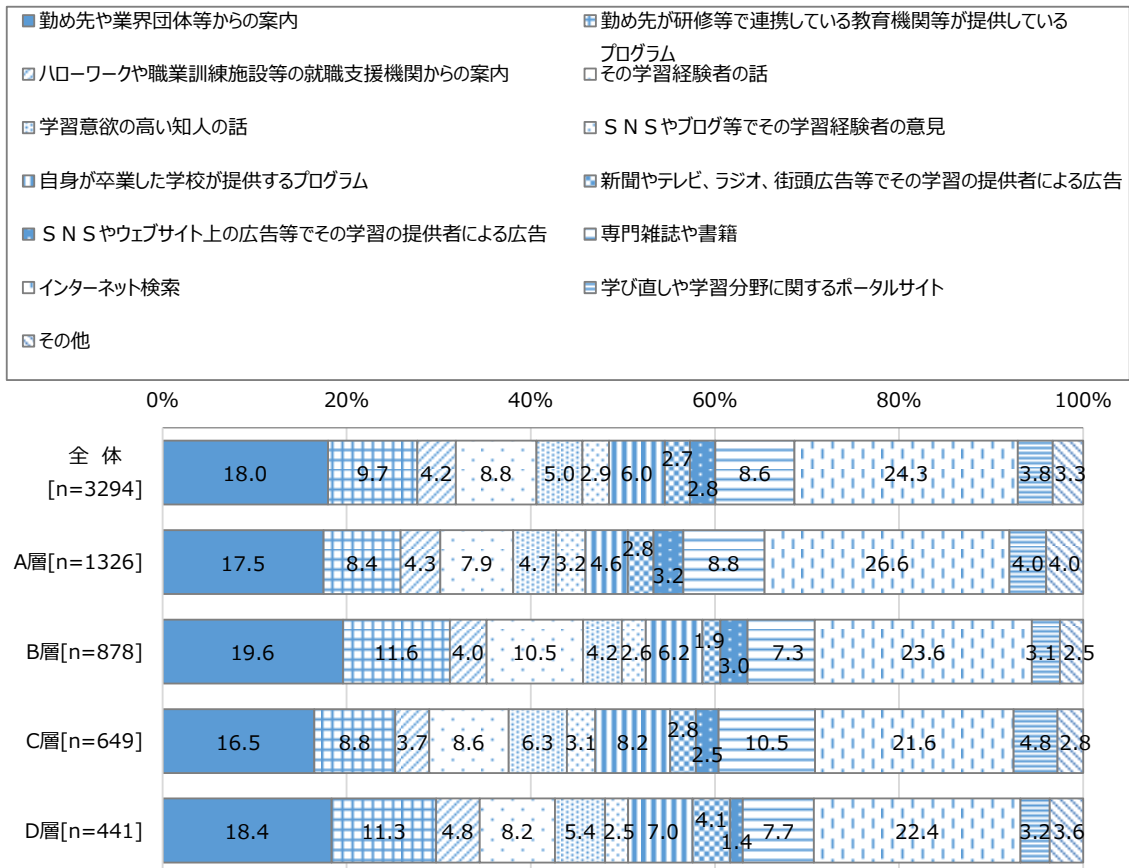


図 2-56 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」機会発見方法

(3) 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」実施決定時に重視した点

いずれの層においても、「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと」を重視した割合が最も大きく、「費用が効果や時間に見合っていたり、安価であること」がそれに続く。ほぼすべての項目において、他の層に比べて A 層の方が重視している割合が高いが、「勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があること」「行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があること」「選択の余地がなかった(指定されていた等)」の受動的な項目は他の層の方が重視している割合が大きい。

「もっとも重視して取り組んだと思う学習」実施決定時に重視した点について、「全体」を見ると、「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと」の割合が 48.3% と最も大きく、次いで「費用が効果や時間に見合っていたり、安価であること」の割合が 32.6% と続く。

層別に見ると、「勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があること」「行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があること」「選択の余地がなかった(指定されていた等)」以外の全てについて、A 層における「重視した」の割合が、他の層の「重視した」の割合より大きい。

【QB11】 QB5 で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の実施を決定する際(実際に受講する前)にとくに重視した点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。(MA) (n=3294)

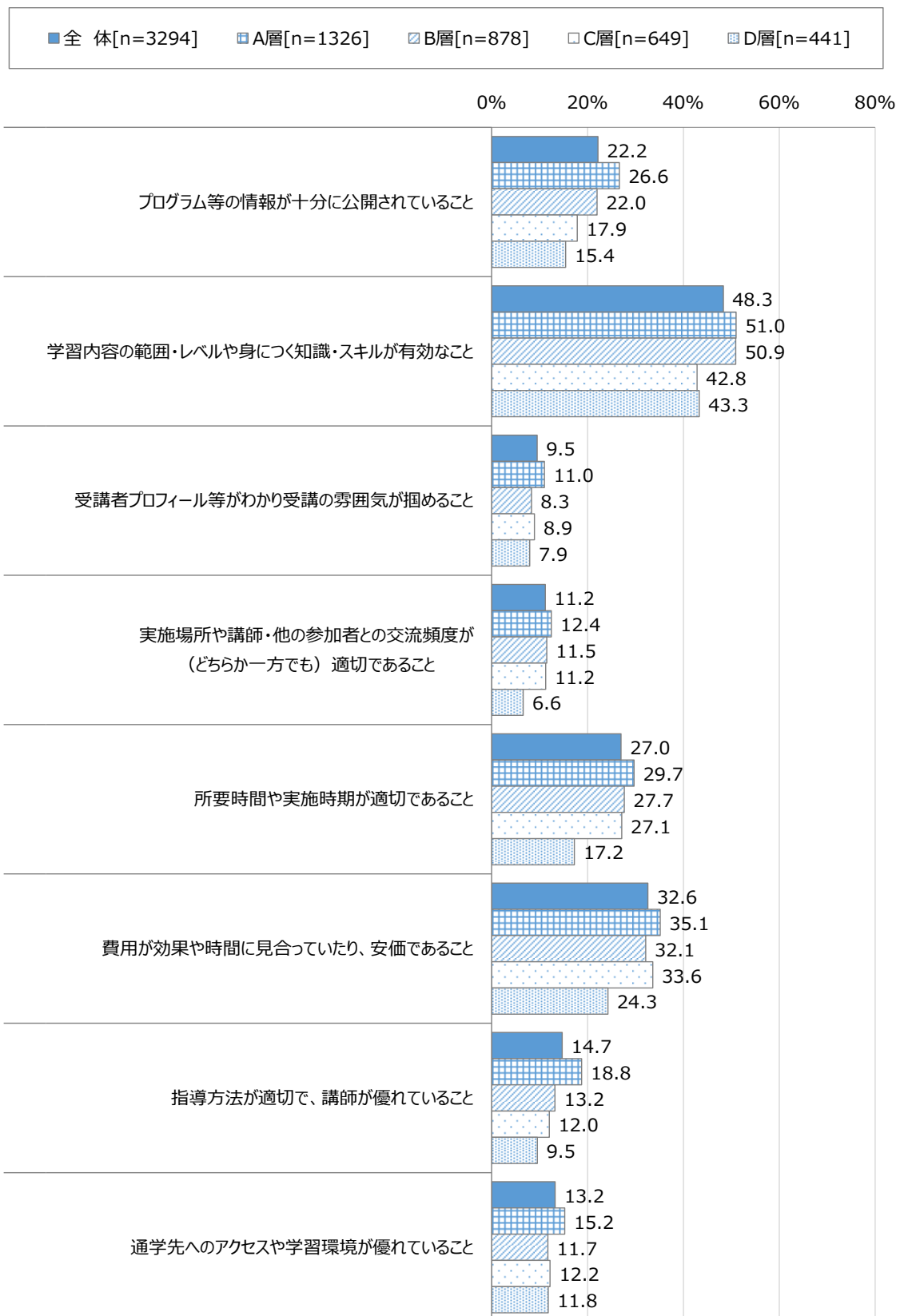


図 2-57 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」実施決定時に重視した点 (1/2)

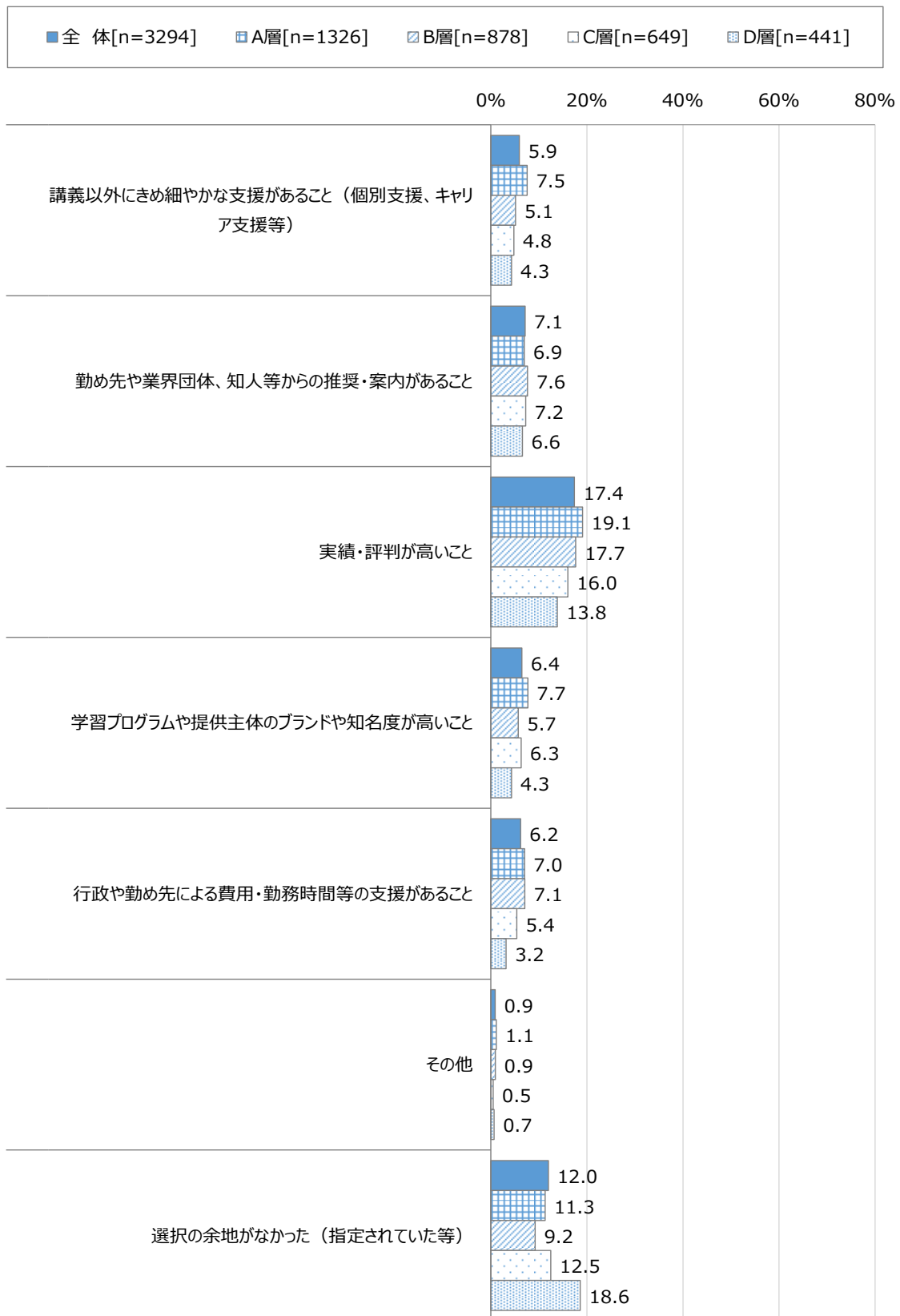


図 2-58 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」実施決定時に重視した点 (2/2)

(4) A 層が「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の実施のきっかけから受講決定に至るプロセス

学び直しの意欲が高い層のうち、特に A 層に着目し、「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の実施のきっかけから受講決定に至るプロセスを模式的に示す。具体的には、「実施のきっかけ」のうち回答の割合が大きかった上位 2 つを取り上げ、それらの「きっかけ」を選んだ回答者が「機会発見方法」ではどの選択肢を選んでいるのか（上位 3 つ）、それらを選んだ回答者が、「実施決定時」に何を重視しているのか（各上位 2 つ）を確認する。

A 層が「もっとも重視して取り組んだと思う学習」を実施しようと思ったきっかけのうち、上位 2 つは、「業界で生き残るために必要だと感じたため」（20.1%、267 人）、「勤め先や業界に関係なく周囲の人や地域・社会へ貢献したかったため」（17.2%、228 人）であった（図 2-55）。

それぞれのきっかけを選んだ回答者が、学習機会の発見方法として回答した上位 3 つ（後者のきっかけについては、学習機会の発見方法で同数 2 位が複数あったため 4 つ）を見ると、いずれも「インターネット検索で探した」と回答した人数が多く、次いで「専門雑誌や書籍で探した」が続いている。「業界で生き残るために必要だと感じたため」の回答者では、次に「勤め先や業界団体等からの案内を探した」が多く、「勤め先や業界に関係なく周囲の人や地域・社会へ貢献したかったため」の回答者では、同数で「その学習経験者に話を聞いた」「学び直しや学習分野に関するポータルサイトで探した」が多い。

実施決定時に重視した点については、「業界で生き残るために必要だと感じたため」の回答者は、学習機会発見方法によらず「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと」を最も重視しており、次に「費用が効果や時間に見合っていたり、安価であること」「所要時間や実施時期が適切であること」が続く。「勤め先や業界に関係なく周囲の人や地域・社会へ貢献したかったため」の回答者は、学習機会発見方法によらず「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと」は重視しているものの、必ずしも最も重視しているわけではない。特に、「その学習経験者に話を聞いた」を学習機会発見方法として回答した人は、「指導方法が適切で、講師が優れていること」を最も重視している。

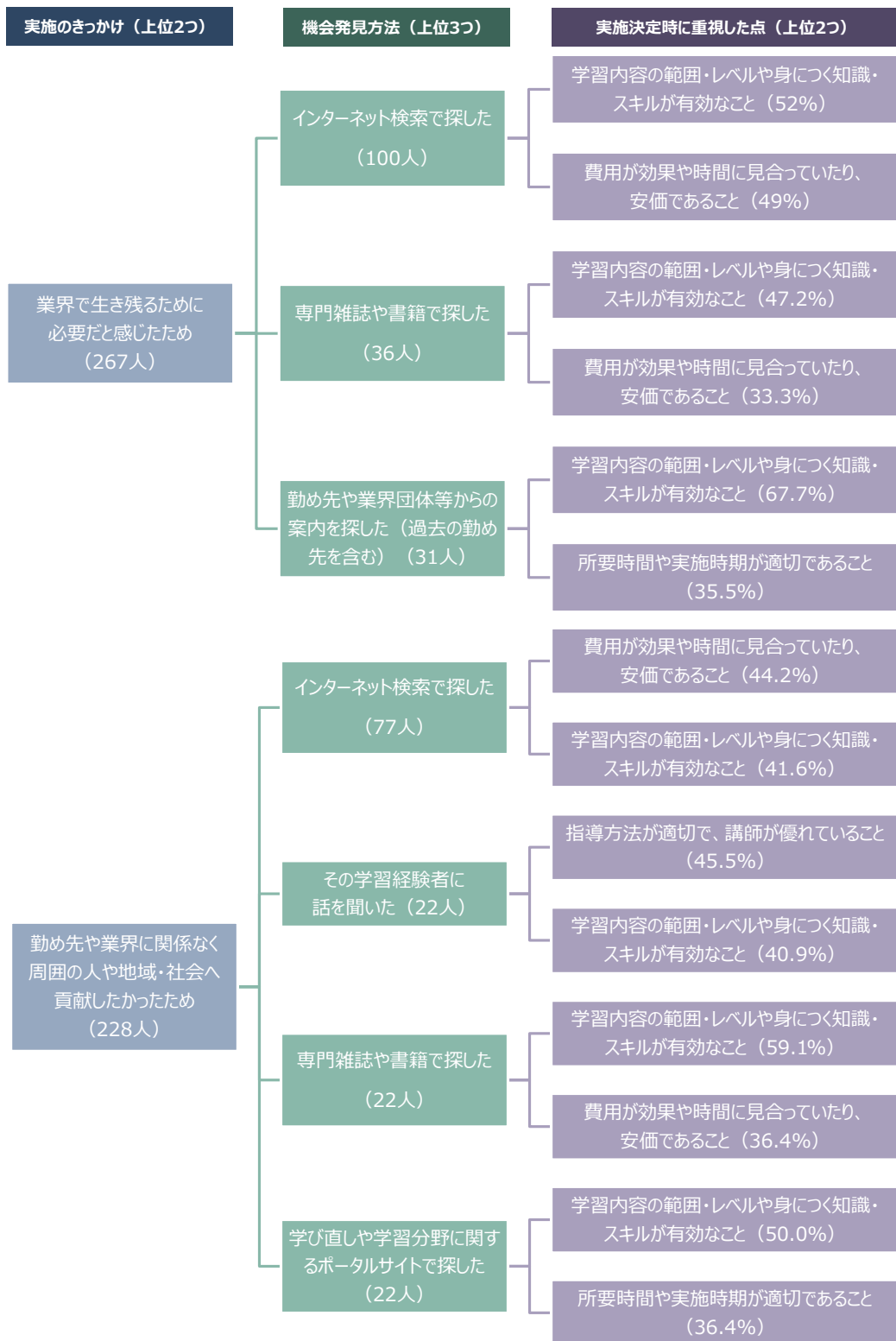


図 2-59 A層が「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の実施のきっかけから受講決定に至るプロセス

【QB9】 QB5 で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」について、その学習機会をどのように探して見つけましたか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）

【QB11】 QB5 で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の実施を決定する際（実際に受講する前）にとくに重視した点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。（MA）

- プログラム等の情報が十分に公開されていること
- 受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気が高まること
- 所要時間や実施時期が適切であること
- 指導方法が適切で、講師が優れていること
- 講義以外にきめ細やかな支援があること（個別支援、キャリア支援等）
- 実績・評判が高いこと
- 行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があること
- 選択の余地がなかった（指定されていた等）
- 学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと
- 実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が（どちらか一方でも）適切であること
- 費用が効果や時間に見合っていたり、安価であること
- 通学先へのアクセスや学習環境が優れていること
- 勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があること
- 学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高いこと
- その他

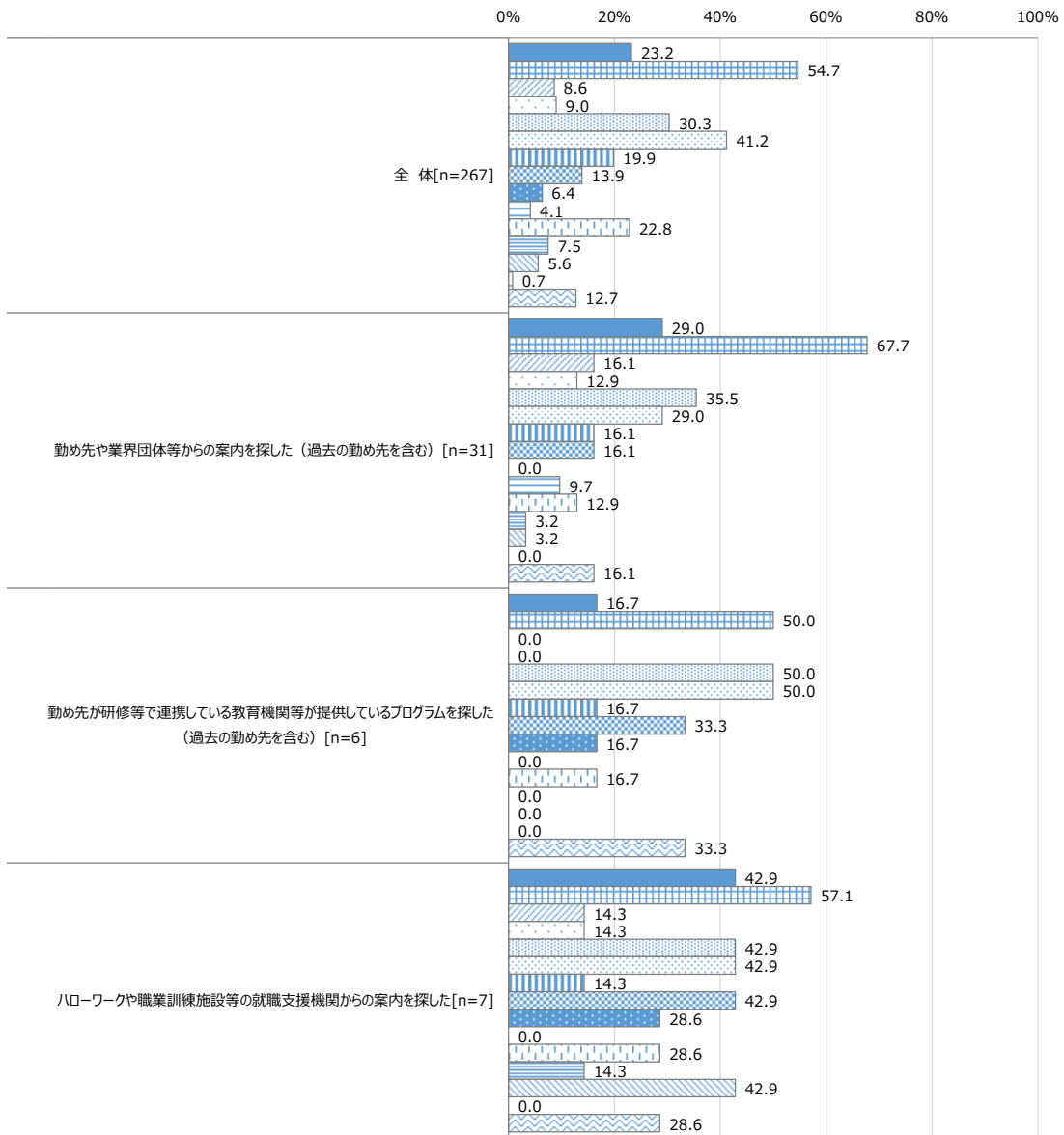


図 2-60 機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点
 (A層で学習のきっかけが「業界で生き残るために必要だと感じたため」の回答者)
 (1/4)

- プログラム等の情報が十分に公開されていること
- 受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気が高まること
- 所要時間や実施時期が適切であること
- 指導方法が適切で、講師が優れていること
- 講義以外にきめ細やかな支援があること（個別支援、キャリア支援等）
- 実績・評判が高いこと
- 行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があること
- 選択の余地がなかった（指定されていた等）
- 学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと
- 実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が（どちらか一方でも）適切であること
- 費用が効果や時間に見合っていたり、安価であること
- 通学先へのアクセスや学習環境が優れていること
- 勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があること
- 学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高いこと
- その他

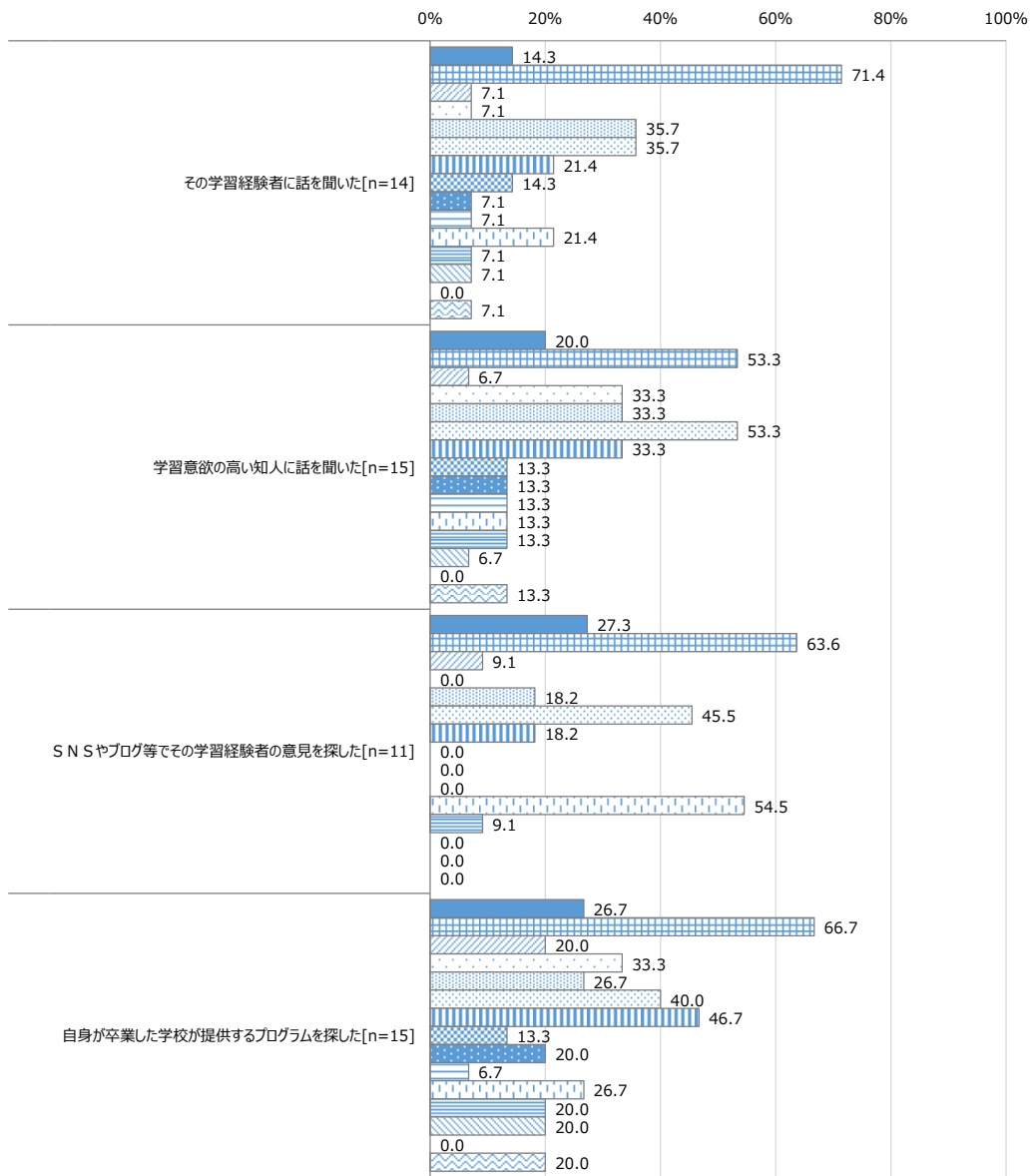


図 2-61 機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点
 (A層で学習のきっかけが「業界で生き残るために必要だと感じたため」の回答者)
 (2/4)

- プログラム等の情報が十分に公開されていること
- 受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気や狙いがあること
- 所要時間や実施時期が適切であること
- 指導方法が適切で、講師が優れていること
- 講義以外にきめ細やかな支援があること（個別支援、キャリア支援等）
- 実績・評判が高いこと
- 行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があること
- 選択の余地がなかった（指定されていた等）
- 学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと
- 実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が（どちらか一方でも）適切であること
- 費用が効果や時間に見合っていたり、安価であること
- 通学先へのアクセスや学習環境が優れていること
- 勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があること
- 学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高いこと
- その他

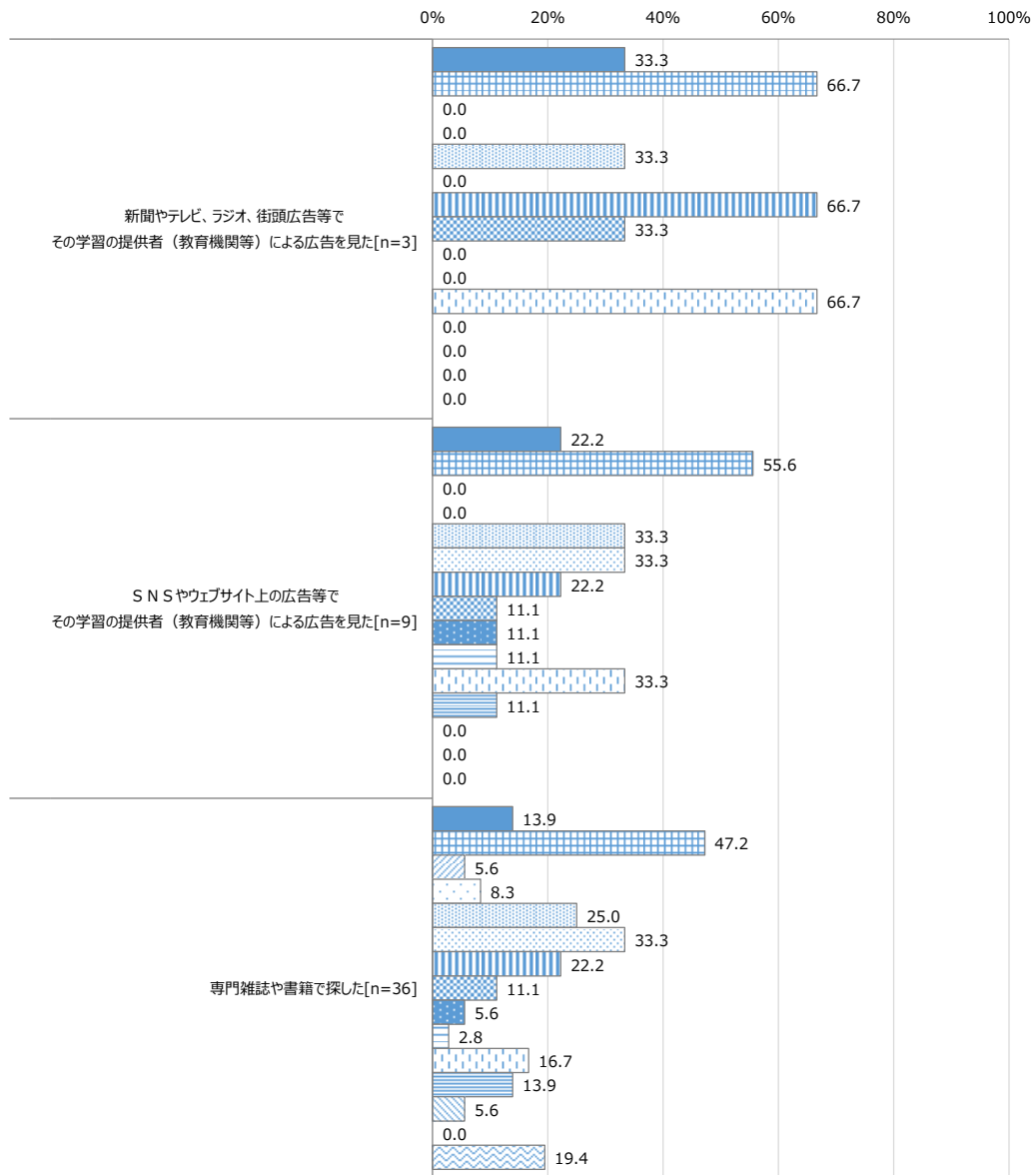


図 2-62 機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点
 (A層で学習のきっかけが「業界で生き残るために必要だと感じたため」の回答者)
 (3/4)

- プログラム等の情報が十分に公開されていること
- 受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気や狙えること
- 所要時間や実施時期が適切であること
- 指導方法が適切で、講師が優れていること
- 講義以外にきめ細やかな支援があること（個別支援、キャリア支援等）
- 実績・評判が高いこと
- 行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があること
- 選択の余地がなかった（指定されていた等）
- 学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと
- 実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が（どちらか一方でも）適切であること
- 費用が効果や時間に見合っていたり、安価であること
- 通学先へのアクセスや学習環境が優れていること
- 勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があること
- 学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高いこと
- その他

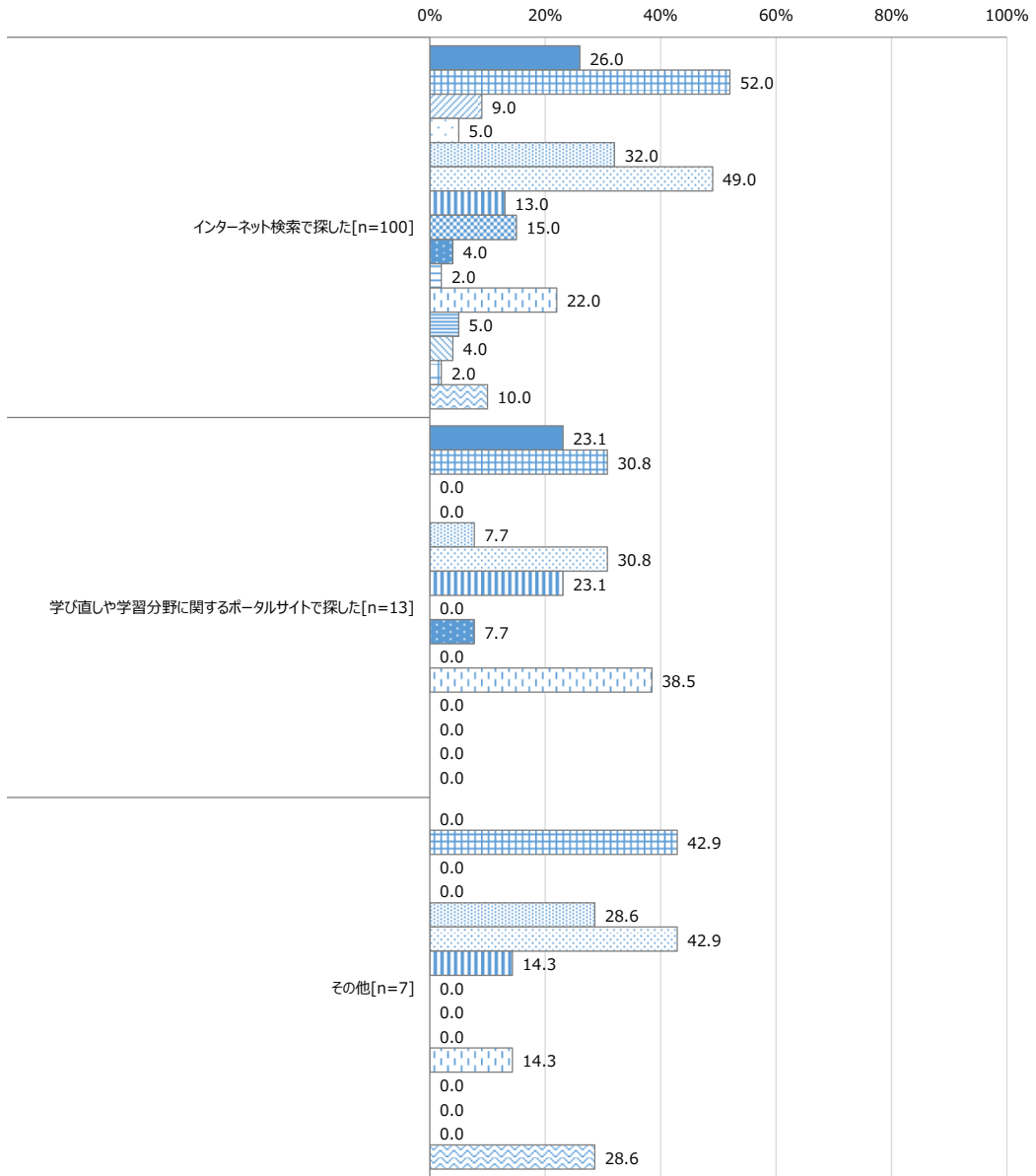


図 2-63 機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点
 (A層で学習のきっかけが「業界で生き残るために必要だと感じたため」の回答者)
 (4/4)

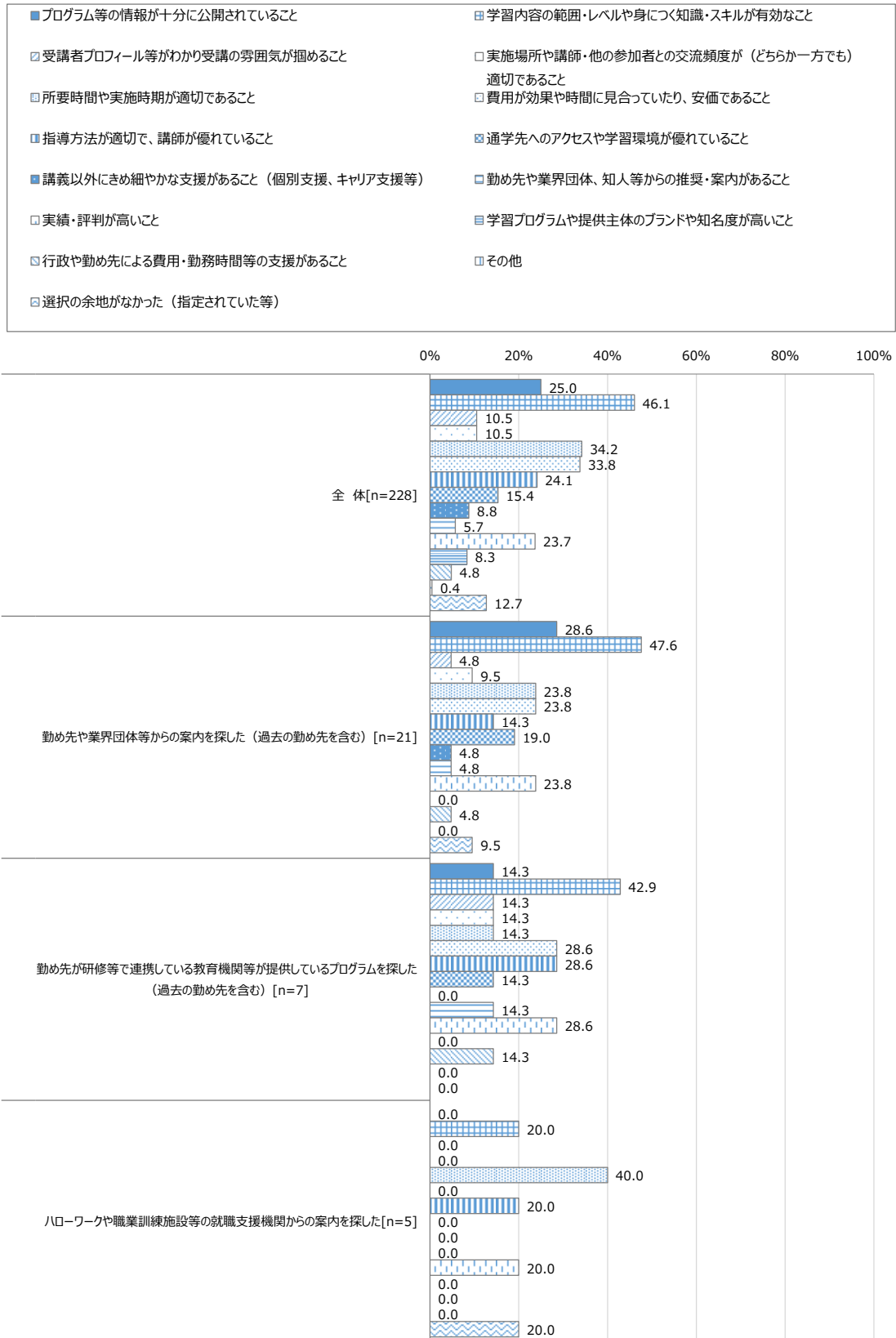


図 2-64 機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点
 (A層で学習のきっかけが「勤め先や業界に関係なく周囲の人や地域・社会へ貢献したかったため」の回答者) (1/4)

- プログラム等の情報が十分に公開されていること
- 受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気や掴めること
- 所要時間や実施時期が適切であること
- 指導方法が適切で、講師が優れていること
- 講義以外にきめ細やかな支援があること（個別支援、キャリア支援等）
- 実績・評判が高いこと
- 行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があること
- 選択の余地がなかった（指定されていた等）
- 学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと
- 実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が（どちらか一方でも）適切であること
- 費用が効果や時間に見合っていたり、安価であること
- 通学先へのアクセスや学習環境が優れていること
- 勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があること
- 学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高いこと
- その他

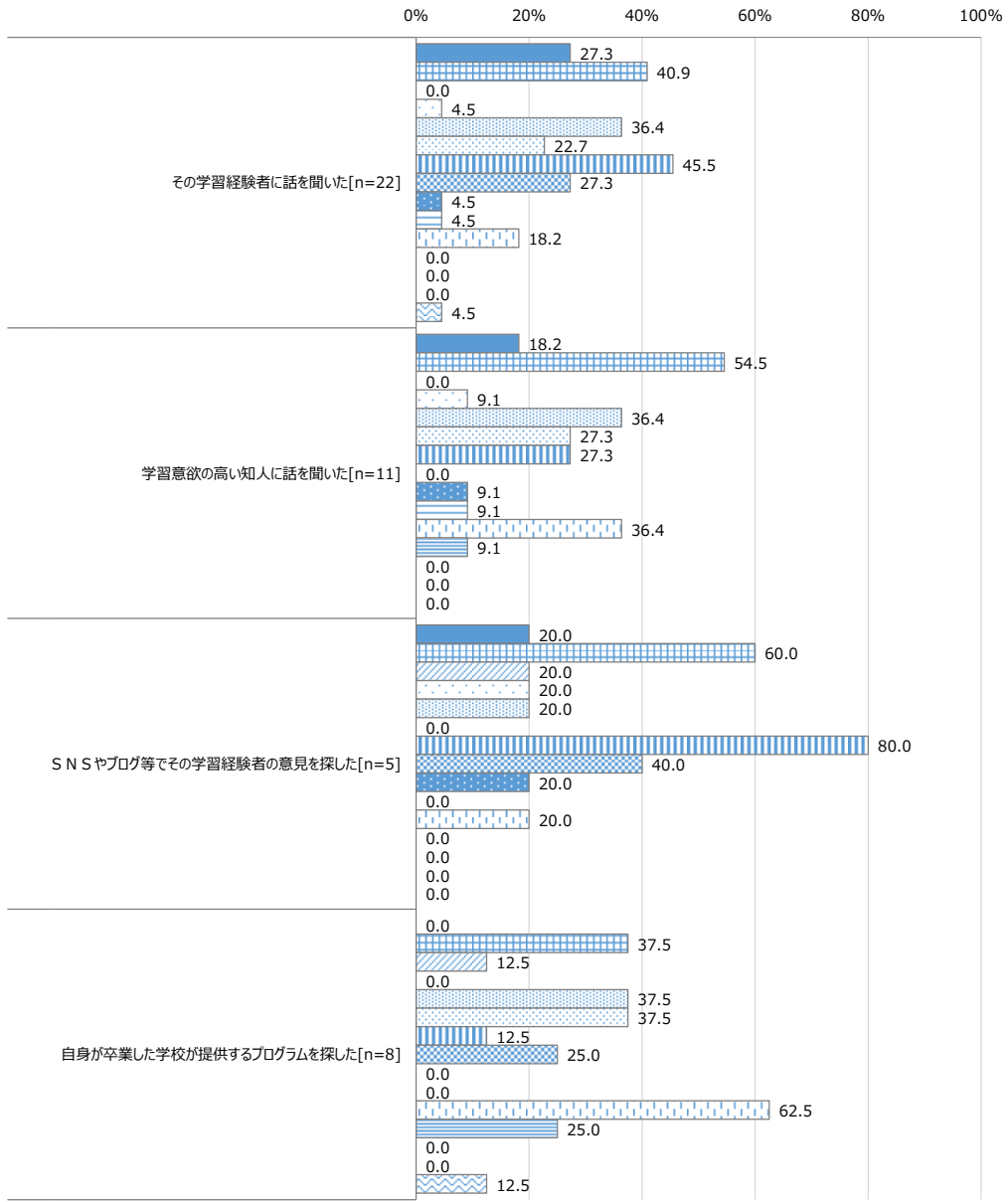


図 2-65 機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点
 (A層で学習のきっかけが「勤め先や業界に関係なく周囲の人や地域・社会へ貢献したかったため」の回答者) (2/4)

- プログラム等の情報が十分に公開されていること
- ▨ 学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと
- ▨ 受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気や担めること
- 実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が（どちらか一方でも）適切であること
- ▨ 所要時間や実施時期が適切であること
- 費用が効果や時間に見合っていたり、安価であること
- ▨ 指導方法が適切で、講師が優れていること
- ▨ 通学先へのアクセスや学習環境が優れていること
- 講義以外にきめ細やかな支援があること（個別支援、キャリア支援等）
- 勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があること
- 実績・評判が高いこと
- ▨ 学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高いこと
- ▨ 行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があること
- その他
- ▨ 選択の余地がなかった（指定されていた等）

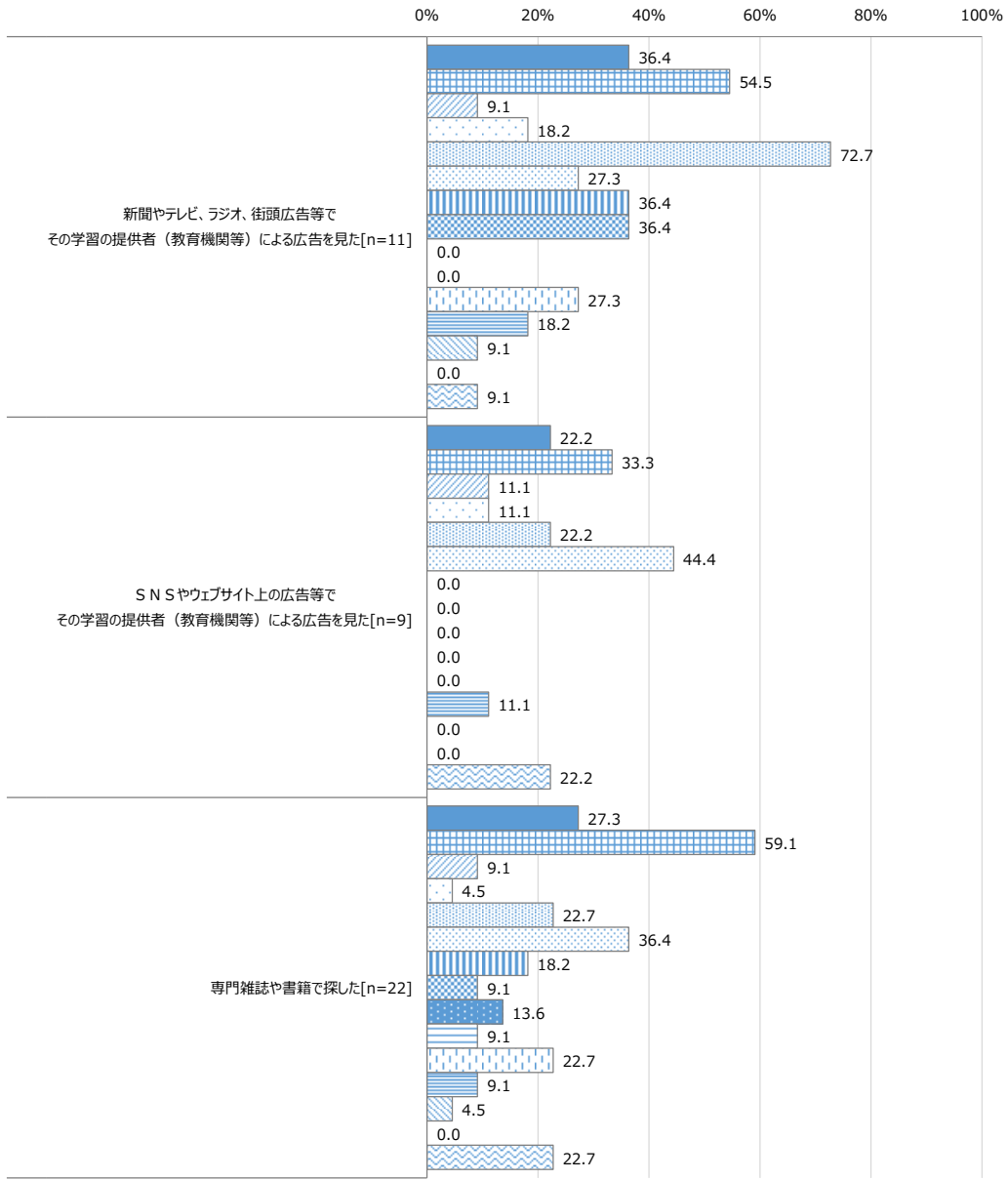


図 2-66 機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点
 (A層で学習のきっかけが「勤め先や業界に関係なく周囲の人や地域・社会へ貢献したかったため」の回答者) (3/4)

- プログラム等の情報が十分に公開されていること
- 受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気が掴めること
- 所要時間や実施時期が適切であること
- 指導方法が適切で、講師が優れていること
- 講義以外にきめ細やかな支援があること（個別支援、キャリア支援等）
- 実績・評判が高いこと
- 行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があること
- 選択の余地がなかった（指定されていた等）
- 学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと
- 実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が（どちらか一方でも）適切であること
- 費用が効果や時間に見合っていたり、安価であること
- 通学先へのアクセスや学習環境が優れていること
- 勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があること
- 学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高いこと
- その他

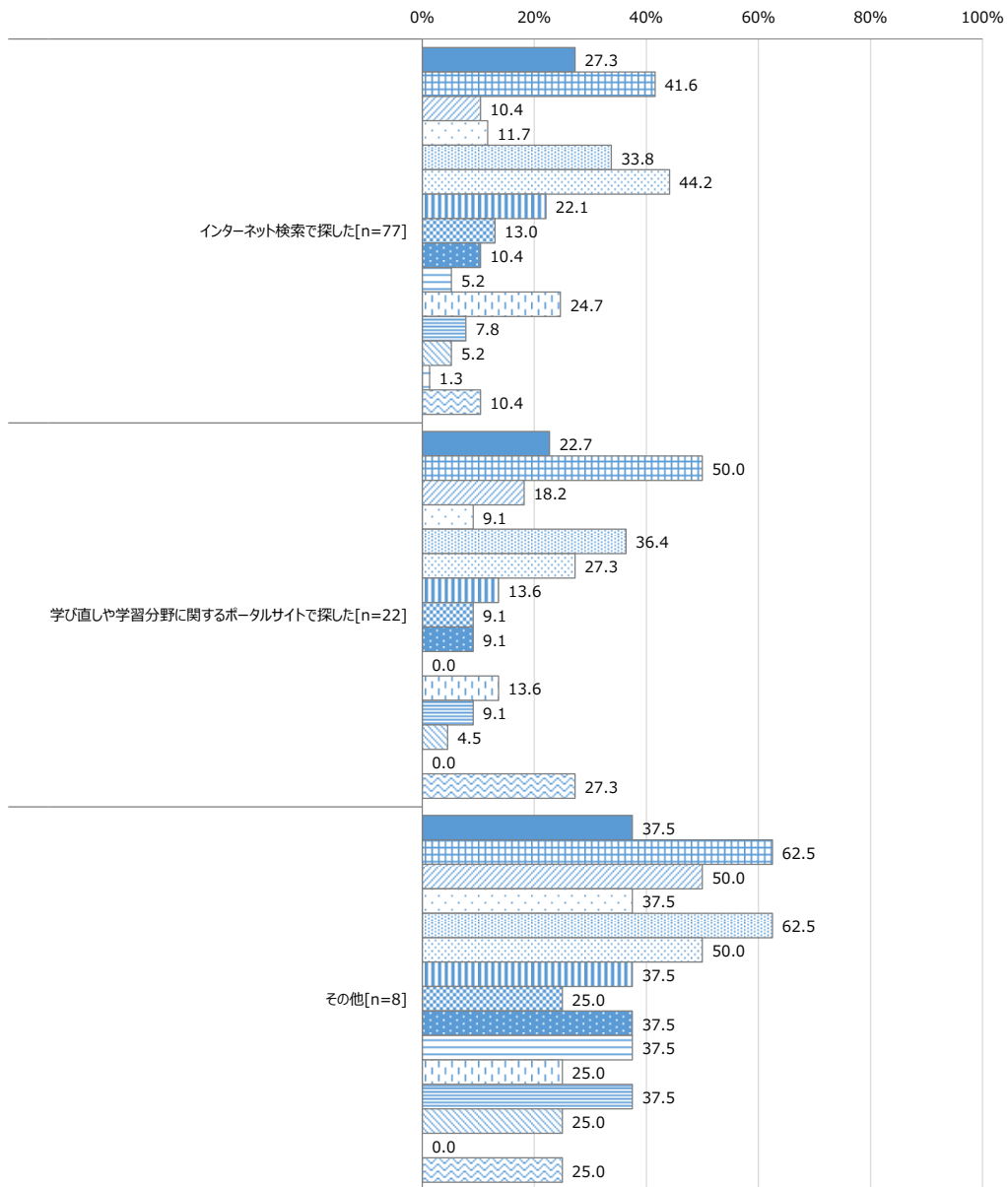


図 2-67 機会発見方法別の学習実施決定時に重視した点
 (A層で学習のきっかけが「勤め先や業界に関係なく周囲の人や地域・社会へ貢献したか
 ったため」の回答者) (4/4)

2.2.7 「学び直し意欲が高い層」の受講阻害要因

「学び直し意欲が高い層」では、「そもそも学習したくない」「学習の必要性を感じていない」という受講者自身の意志に関することと、金銭的余裕がないことや業務で忙しく時間確保ができないという費用や時間に関することが、学習実施を検討しなかった理由として大きな割合を占めている。

(1) 学習実施を検討しなかった理由

「学び直し意欲が高い層」では、「そもそも学習したくない」「学習の必要性を感じていない」と同程度、金銭的余裕がないことや業務で忙しく時間確保ができないことが学習実施を検討しなかった理由として割合が大きい。

学習実施を検討しなかった理由については、「学び直し意欲が高い層」では「現状に満足しており学習の必要性を感じていない」の割合が、「学び直し意欲が低い層」では「そもそも学習したくない」の割合が最も大きい。

「学び直し意欲が高い層」では、「金銭的余裕がなく、学習費用確保ができなかった」「業務で忙しく学習時間確保ができなかった」を理由とする割合も比較的大きく、上述の受講者自身の意志に関する理由と同程度であるが、「学び直し意欲が低い層」では、「金銭的余裕がなく、学習費用確保ができなかった」「業務で忙しく学習時間確保ができなかった」を理由とする割合は、上述の受講者自身の意志に関する理由よりも小さい。

【QB15】 過去3年間（2017年12月1日～2020年11月31日）において、学習実施を検討しなかった理由について、もっとも当てはまるものを最大3つまで選択してください。

(MA) (n=7443)

- そもそも学習したくない
- ▨ 現状に満足しており、学習の必要性を感じていない
- ▨ 学習目標や計画の立て方がわからなかった
- ▨ 学習結果をどう仕事やキャリアに活用してよかわからなかった
- 学習結果が仕事やキャリアに役立ったことがこれまでなかった
- 費用対効果が折り合わず、高額な学習プログラムばかりだと感じた
- ▨ 職場の理解が得られず、学習時間確保ができなかった
- ▨ 実施したい学習テーマ・内容が合致するプログラムを見つけられなかった
- ▨ 実施したい学習方法が合致するプログラムを見つけられなかった
- その他
- ▨ 職場からの求めが特にならない
- 何を学習すべきかわからない
- ▨ 学習目標や計画通りに実施できず、途中で諦めてしまっていた
- ▨ 学習結果を仕事やキャリアに活用する機会がなかった
- 金銭的余裕がなく、学習費用確保ができなかった
- ▨ 業務で忙しく、学習時間確保ができなかった
- ▨ 時間対効果が折り合わず、実施負荷の大きい学習プログラムばかりだと感じた
- ▨ 実施したい学習レベルが合致するプログラムを見つけられなかった
- ▨ 適した学習プログラムをどう見つければよかわからなかった

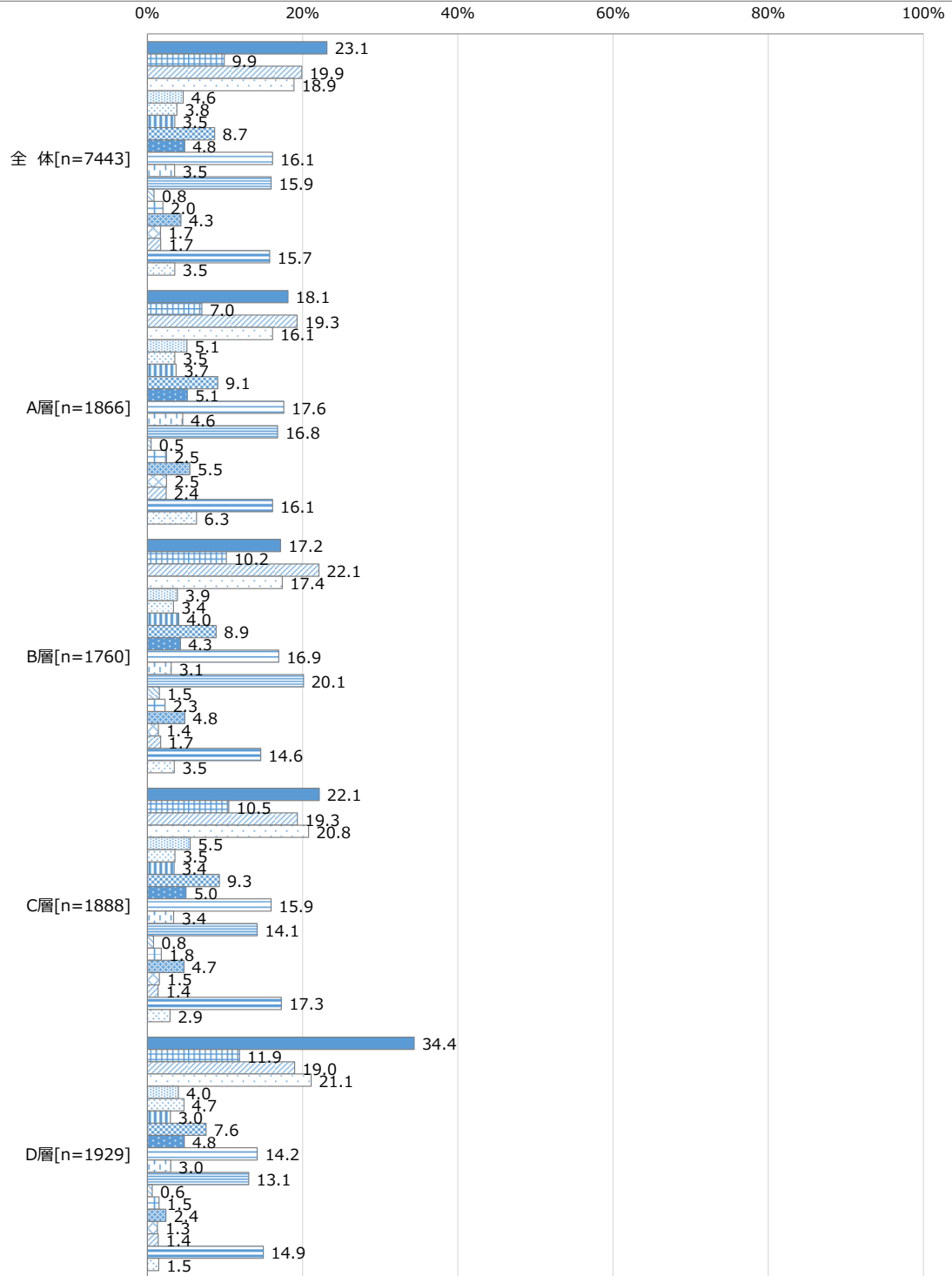


図 2-68 学習実施を検討しなかった理由

2.2.8 「学び直し意欲が高い層」の受講負担

「学び直し意欲が高い層」（＝初期市場形成ターゲット）の受講負担は、自己負担額については学び直し意欲が低い層とあまり大きな違いはないものの、所要時間については学び直し意欲が低い層よりも長い特徴がある。

- いずれの学習の種類においても、学び直し意欲の高低による自己負担額の大きな違いは見られない。
- いずれの学習の種類においても、学び直し意欲が高いほど所要時間が長い傾向が見られる。

(1) 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の費用（自己負担額）

いずれの学習の種類においても、学び直し意欲の高低による自己負担額の大きな違いは見られない。

「資格取得のための学習（国家資格）」については、いくらかの自己負担を行っている人の割合はB層で最も大きく、「無料」の割合はD層で最も大きい。A・C層においては、あまり大きな傾向の違いは見られない。

「資格取得のための学習（国家資格以外）」については、いくらかの自己負担を行っている人の割合はD層で最も多いが、n数が少ないことには注意を要する。D層を除くと、いくらかの自己負担を行っている人の割合は、学び直しの意欲が高いほど大きい。

「学位や資格の取得とは関係のない学習」については、いくらかの自己負担を行っている人の割合はA層で最も多く、2万円以上の自己負担を行っている割合は、学び直しの意欲が高いほど大きい。

【QB4R】QB1 「(学習の種類)」で「実施した」を選んだ方にお伺いします。かかった費用（自己負担額）でもっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA)

(注 1)1項目につき複数の実施経験がある場合は、もっとも直近に実施した学習についてお答えください。

(注 2)<かかった費用(自己負担額)>は、その学習を開始してから終了するまでにかかる費用の総額をお答えください。また、国や勤務先等からの費用補助を受けた場合、その額は自己負担額に含めません。

⇒QB5「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の上位3つである「資格取得のための学習（国家資格）」「資格取得のための学習（国家資格以外）」「学位や資格の取得とは関係のない学習」について、それぞれを「もっとも重視して取り組んだ学習」として選択した人のみを対象として集計。

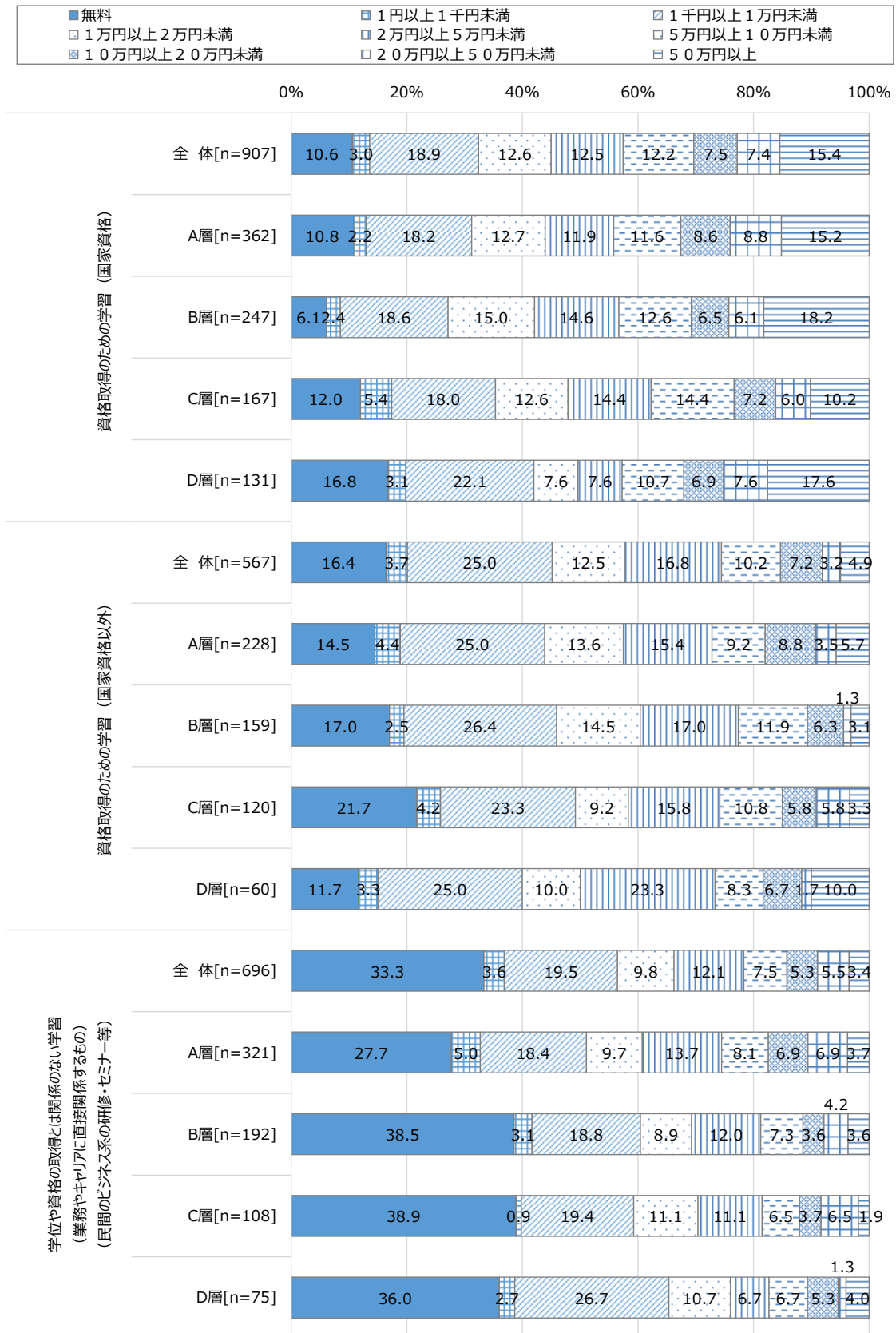


図 2-69 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の費用（自己負担額）

(2) 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の所要時間

いずれの学習の種類においても、学び直し意欲が高いほど所要時間が長い傾向が見られる。

「資格取得のための学習（国家資格）」については、いずれの層においても「200 時間以上」の割合が最も大きく、さらに学び直し意欲が高いほどその割合が大きい。

「資格取得のための学習（国家資格以外）」については、A 層では「200 時間以上」の割合が最も大きい、B・C 層では「30 時間以上 50 時間未満」、D 層では「50 時間以上 100 時間未満」の割合が最も大きい。

「学位や資格の取得とは関係のない学習」については、A 層では「20 時間以上 30 時間未満」の割合が最も大きく、B・C 層では「0 時間より多く 5 時間未満」、D 層では「10 時間以上 20 時間未満」の割合が最も大きい。20 時間以上と回答した人の割合は、学び直しの意欲が高いほど大きい。

【QB4R】QB1 「(学習の種類)」で「実施した」を選んだ方にお伺いします。かかった時間でもっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA)

(注 1)1 項目につき複数の実施経験がある場合は、もっとも直近に実施した学習についてお答えください。

(注 2)<かかった時間>は、その学習を開始してから終了するまでにかかる時間の合計をお答えください。この時間には、関連する自習時間も含まれます。

⇒QB5 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の上位3つである「資格取得のための学習（国家資格）」「資格取得のための学習（国家資格以外）」「学位や資格の取得とは関係のない学習」について、それぞれを「もっとも重視して取り組んだ学習」として選択した人のみを対象として集計。

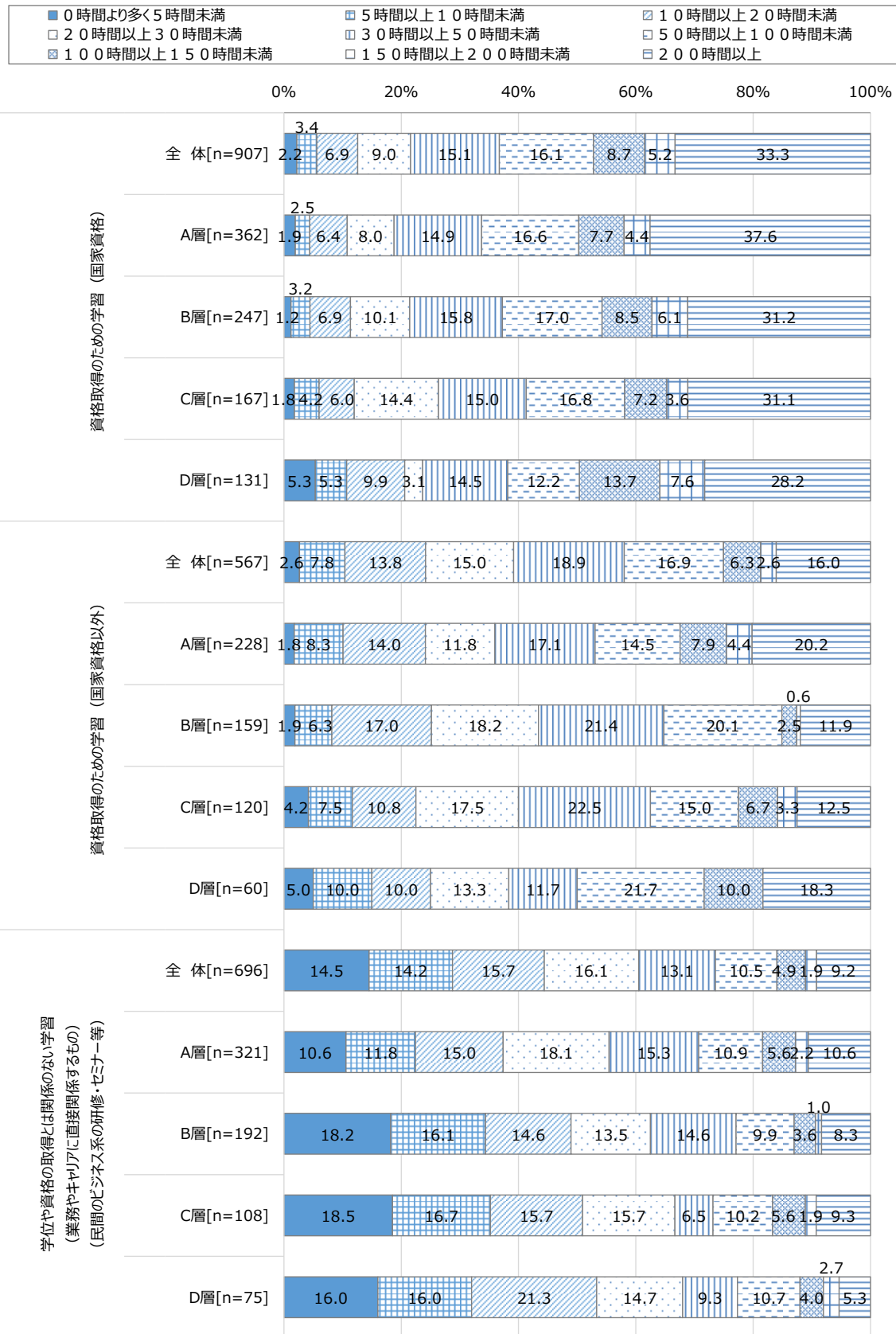


図 2-70 「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の所要時間

2.2.9 職業別の学習実施目的

現在の雇用形態が「正規の職員・従業員」である回答者においては、いずれの職業においても、「現在の業務に役立てるため」の割合が最も大きく、多くの場合「新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため」がそれに続く。

(1) 正規の職員・従業員

いずれの職業においても、「現在の業務に役立てるため」の割合が最も大きく、多くの場合「新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため」がそれに続く。

「正規の職員・従業員」の「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的について、いずれの職業においても、「現在の業務に役立てるため」の割合が最も大きい。多くの職業では、「新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため」がそれに続いているが、「サービス職業従事者」では「給与や勤務条件等の待遇向上のため」が2番目に割合が大きい（n数が小さい職業は割愛）。

【QB6_1】 前問で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的について、もっとも当てはまるものを最大3つまで選択してください。（MA）
（現在または過去の雇用形態が「正規の職員・従業員」「パート、アルバイト」「自営業主」「自家営業の手伝い」「内職」「その他」である回答者が対象）
⇒「現在の雇用形態」が「正規の職員・従業員」である回答者のみで、職業別に集計。

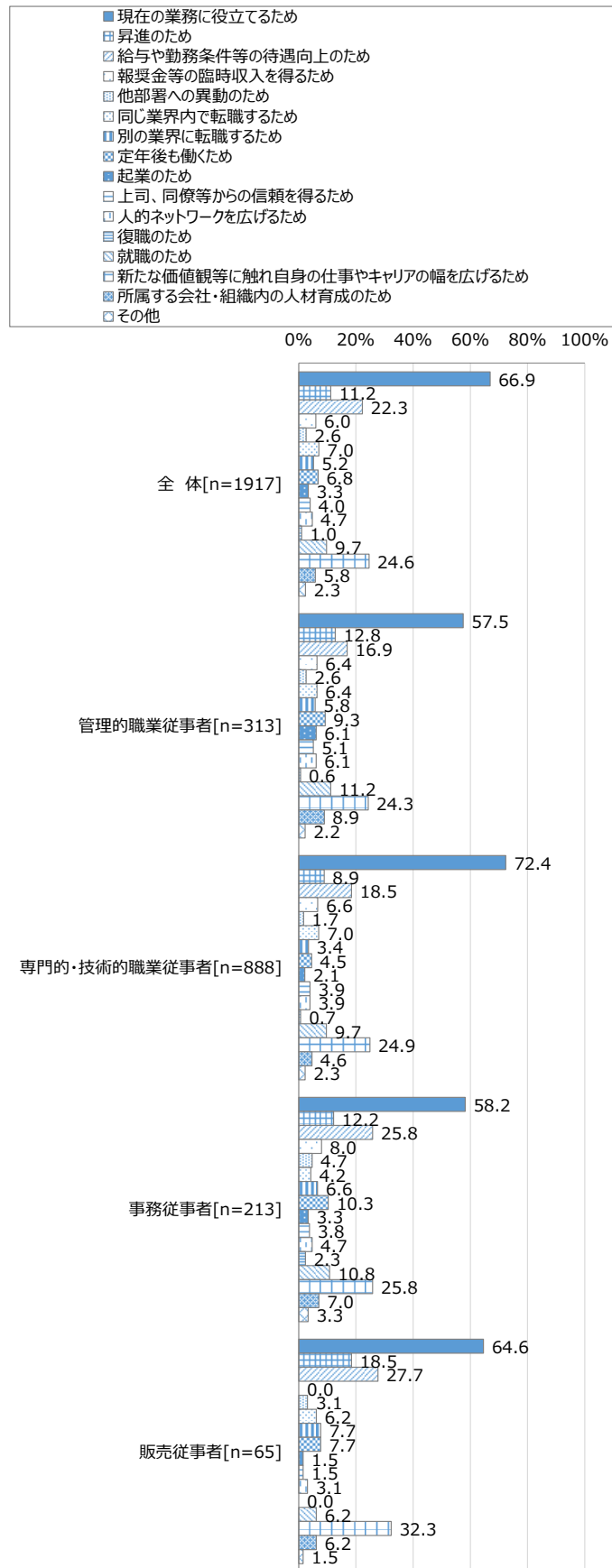


図 2-71 職業別の学習実施目的（現在の雇用形態が「正規の職員・従業員」）（1/3）

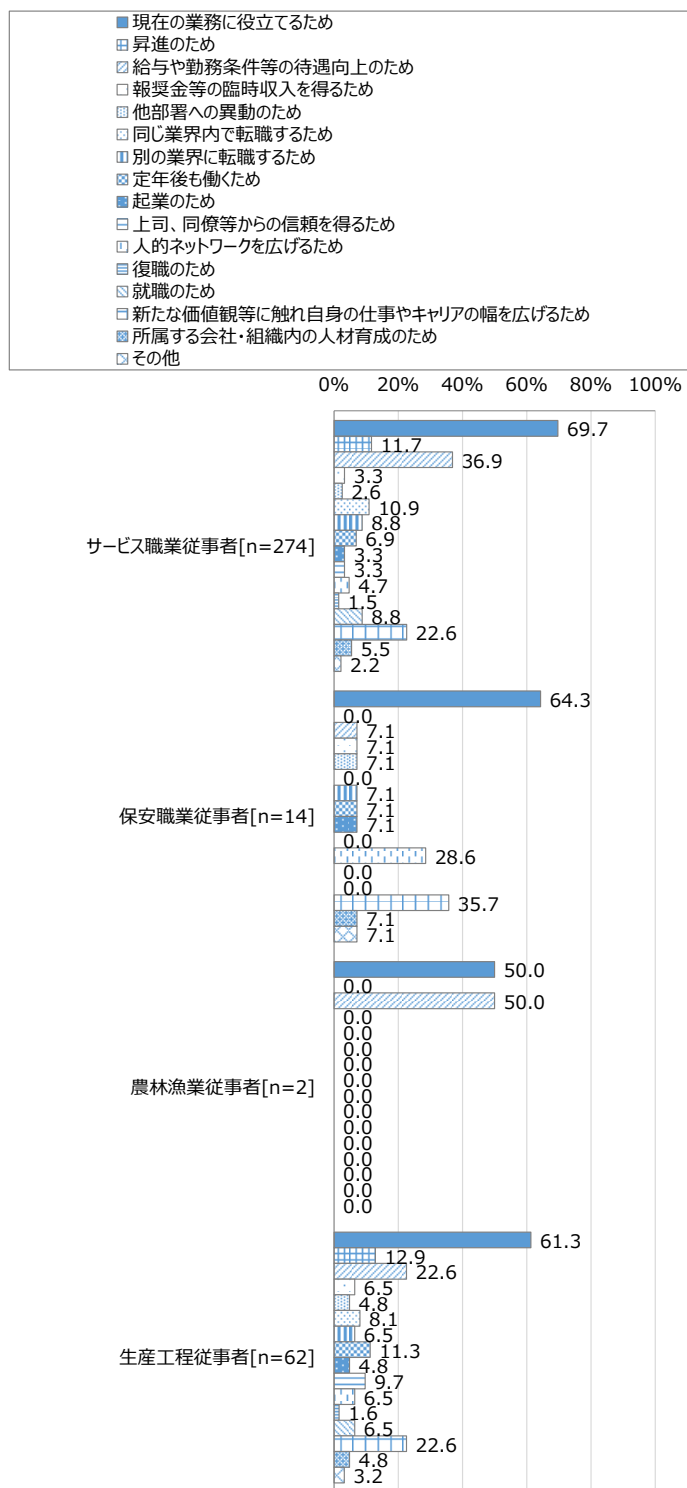


図 2-72 職業別の学習実施目的（現在の雇用形態が「正規の職員・従業員」）（2/3）

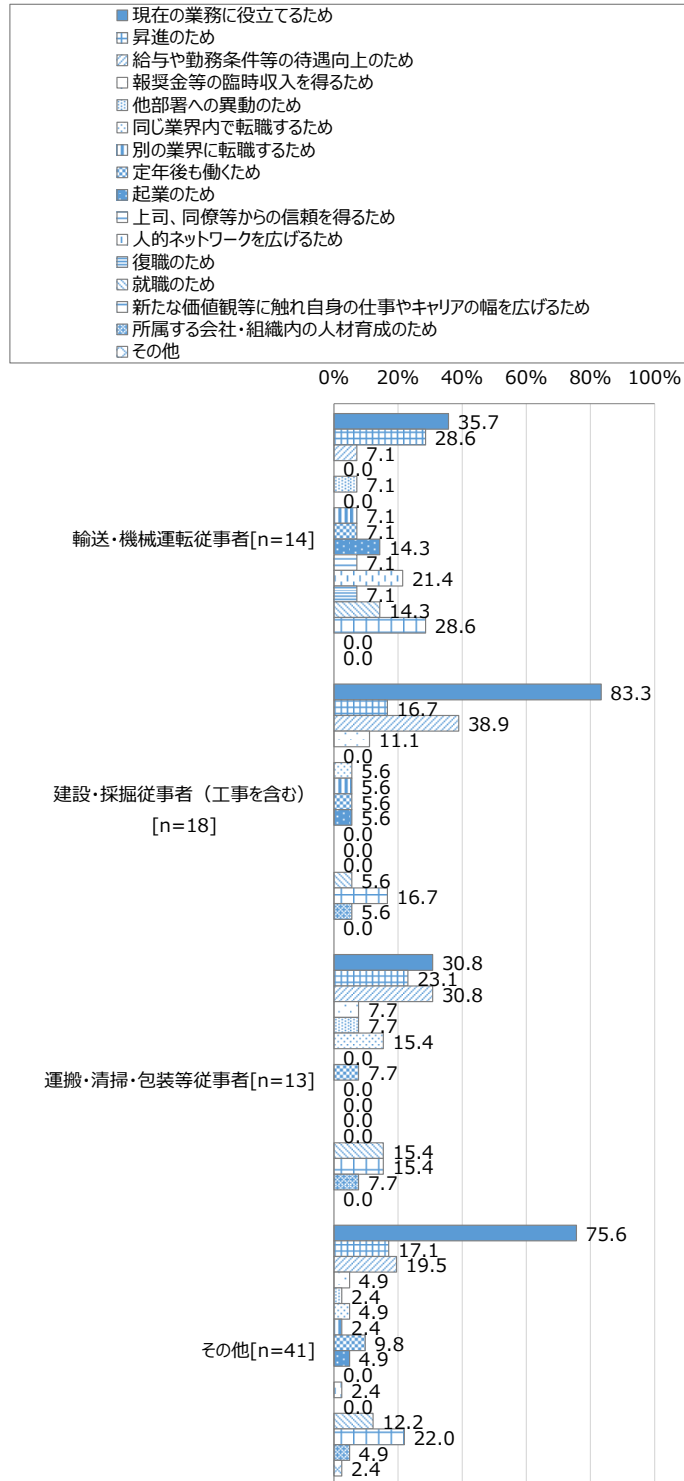


図 2-73 職業別の学習実施目的（現在の雇用形態が「正規の職員・従業員」）（3/3）

(2) 労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託

「労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託」の「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的については、いずれの職業も n 数が小さいため傾向をつかむことが難しい。

【QB6_2】 QB5 で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的について、もっとも当てはまるものを最大3つまで選択してください。(MA)

(現在または過去の雇用形態が「労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託」である回答者が対象)

⇒「現在の雇用形態」が「労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託」である回答者のみで職業別に集計。

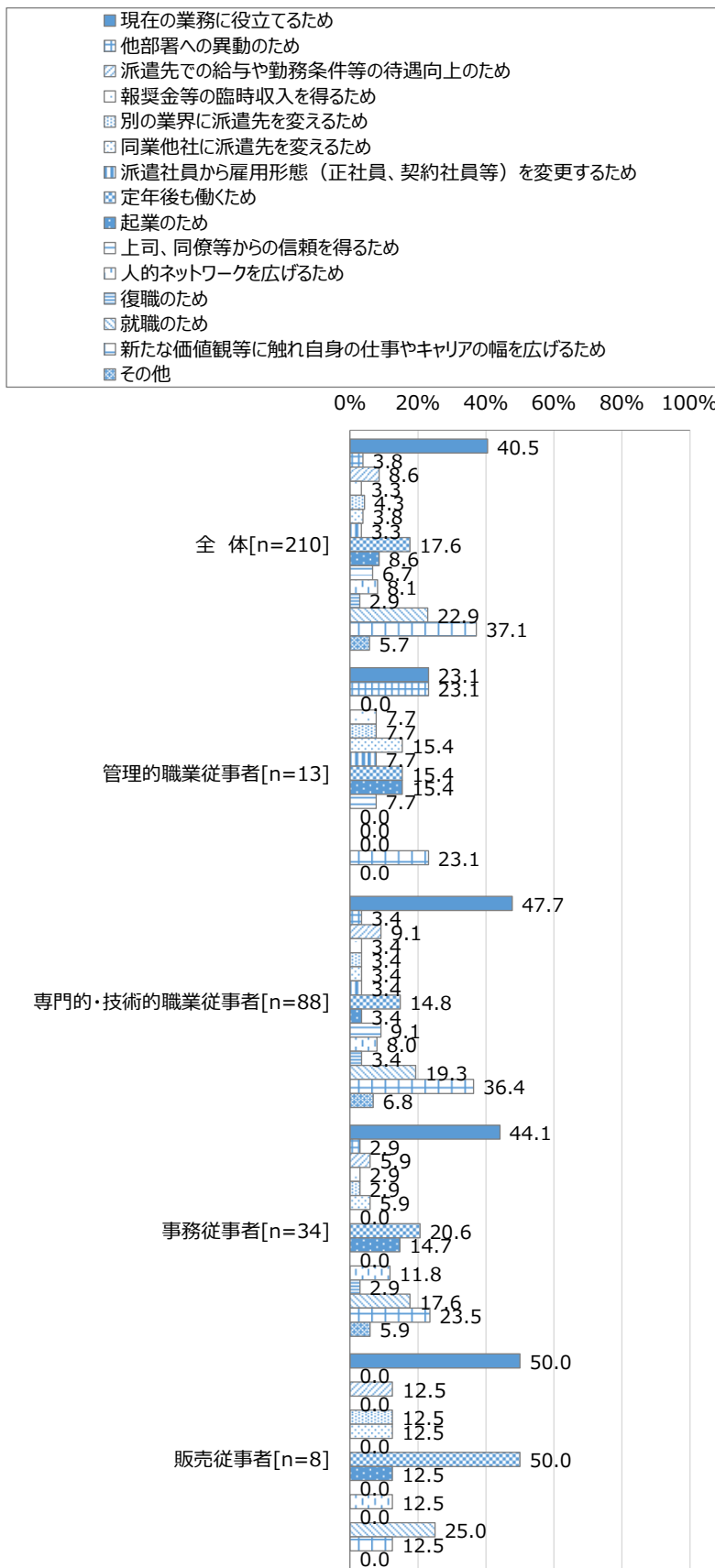


図 2-74 職業別の学習実施目的
 （現在の雇用形態が「労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託」）（1/3）

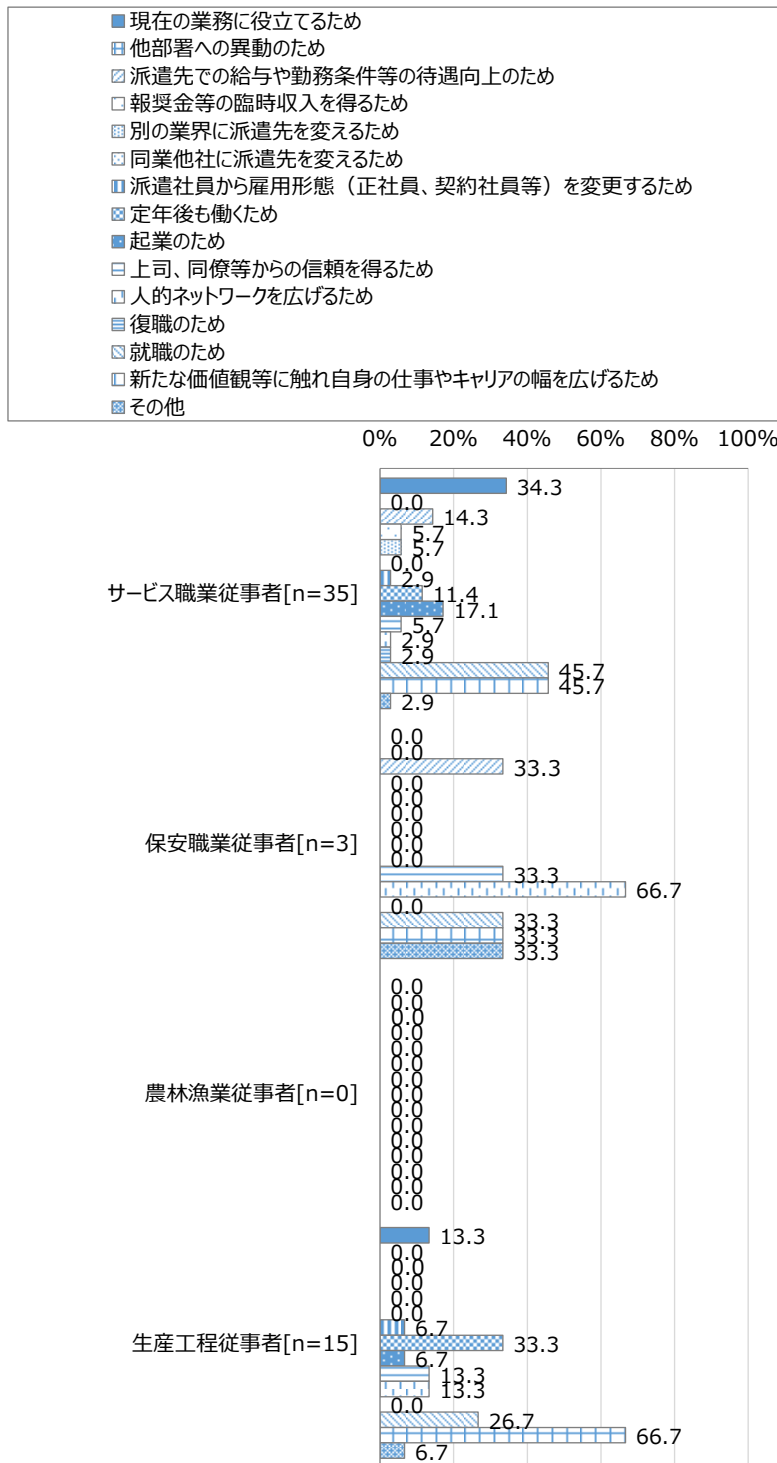


図 2-75 職業別の学習実施目的

(現在の雇用形態が「労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託」) (2/3)

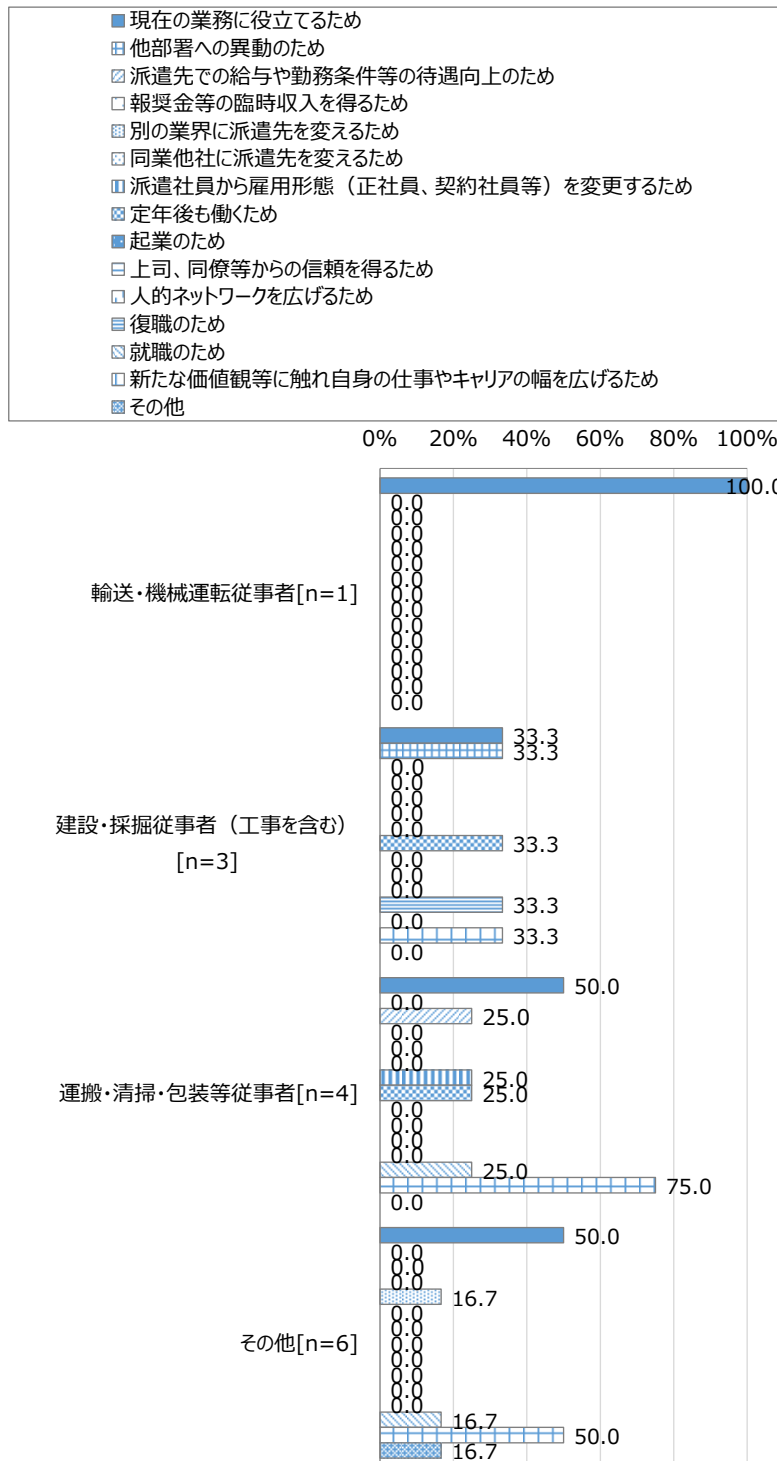


図 2-76 職業別の学習実施目的

(現在の雇用形態が「労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託」) (3/3)

(3) その他の雇用形態

「その他の雇用形態」の「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的について、比較的 n 数の大きい「専門的・技術的職業従事者」「サービス職業従事者」においては、「現在の業務に役立てるため」の割合が最も大きく、「新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため」がそれに続いている（n 数が小さい職業は割愛）。

【QB6_1】 前問で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的について、もっとも当てはまるものを最大3つまで選択してください。（MA）

（現在または過去の雇用形態が「正規の職員・従業員」「パート、アルバイト」「自営業主」「自家営業の手伝い」「内職」「その他」である回答者が対象）

⇒「現在の雇用形態」が「パート、アルバイト」「自営業主」「自家営業の手伝い」「内職」「その他」である回答者のみで職業別に集計。

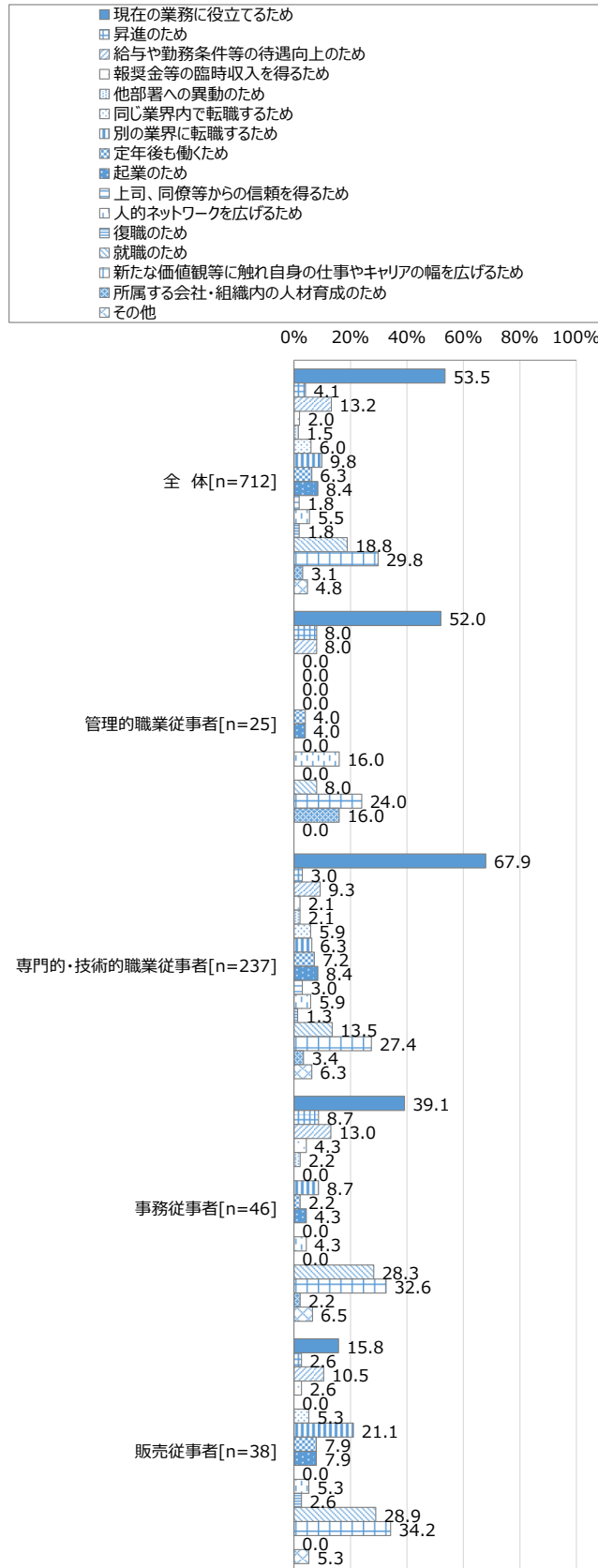


図 2-77 職業別の学習実施目的
 (現在の雇用形態が「パート、アルバイト」「自営業主」「自家営業の手伝い」「内職」「その他」) (1/3)

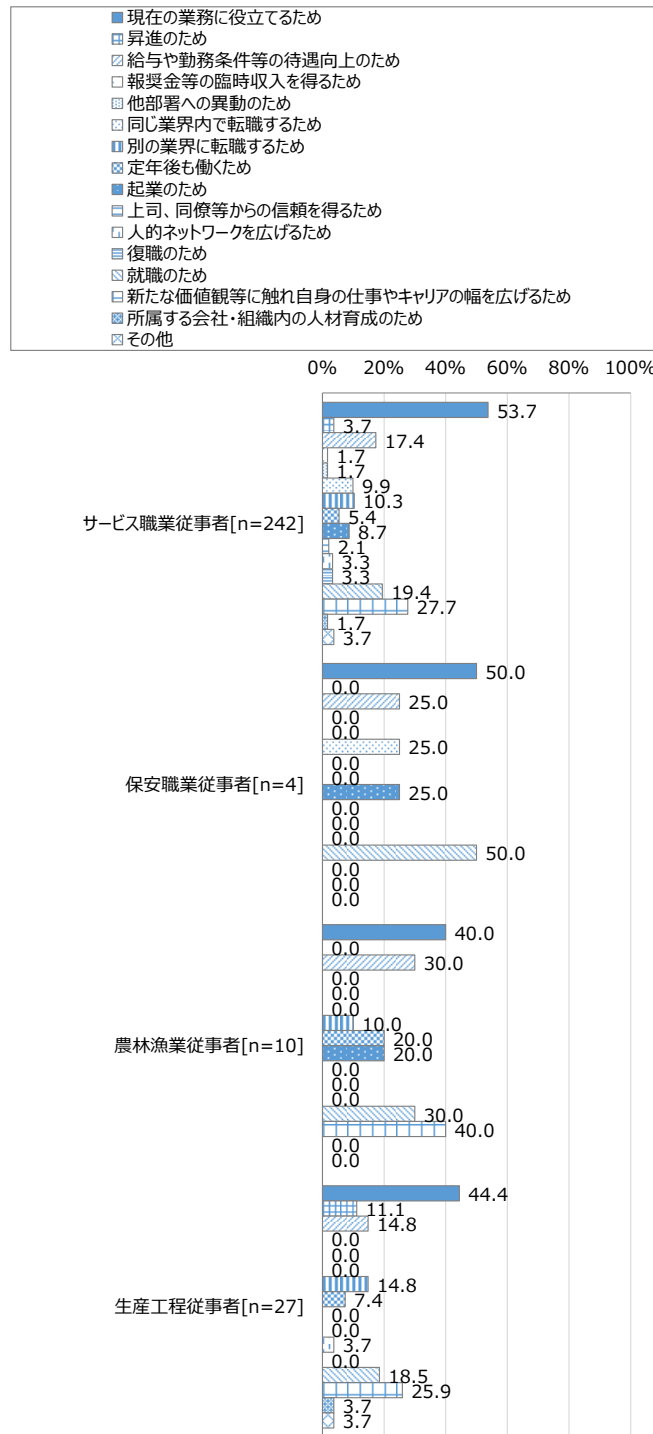


図 2-78 職業別の学習実施目的
 (現在の雇用形態が「パート、アルバイト」「自営業主」「自家営業の手伝い」「内職」「その他」) (2/3)

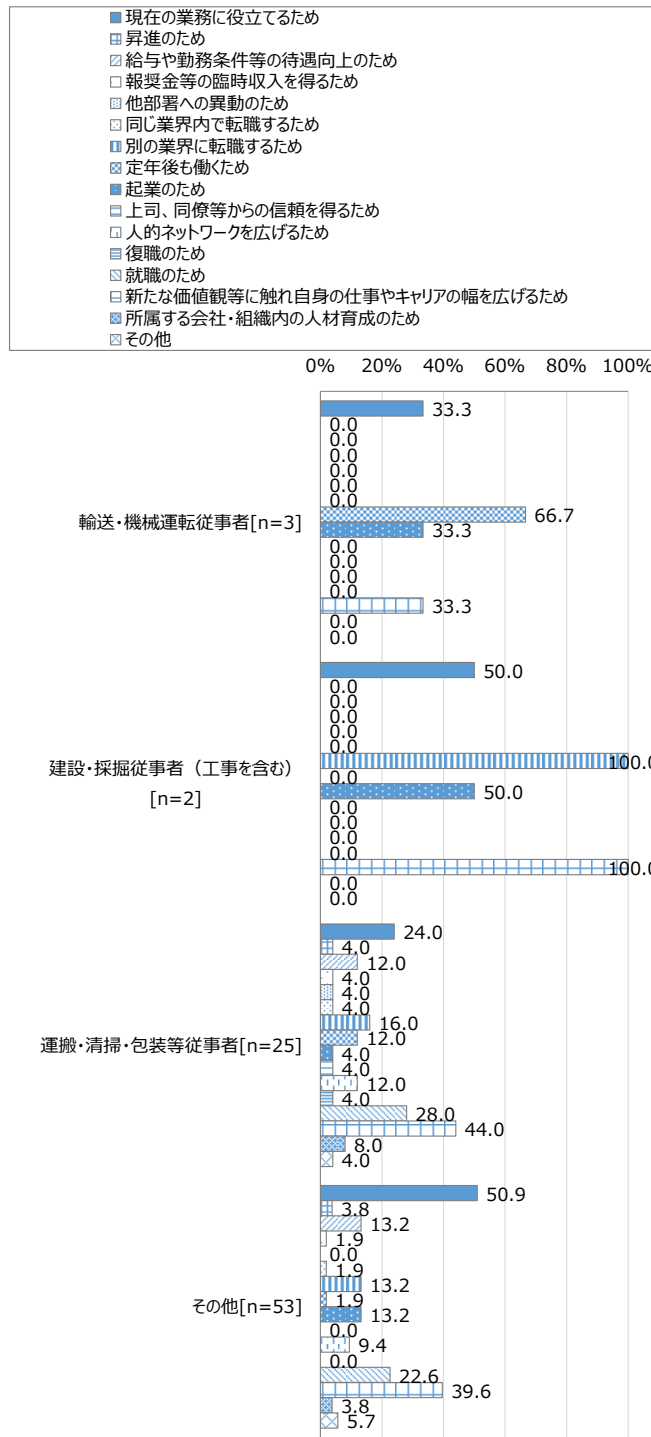


図 2-79 職業別の学習実施目的
 (現在の雇用形態が「パート、アルバイト」「自営業主」「自家営業の手伝い」「内職」「その他」) (3/3)

2.2.10 【IT 分野詳細】 学びたい具体的なプログラム内容・方法

過去3年間において、「IT 業界関係者」のうち仕事やキャリアに役立てるため「IT 分野に関する学習」を実施した割合は17.7%、「IT 分野に関する学習」以外の学習を実施した割合は11.2%であった。ほぼ全ての事業・業務において、20%以上が IT 関連の学習を実施しており、多くの事業・業務において、IT 関連学習以外の学習の実施者はそれより少ない、

過去に IT 分野に関する学習を実施した人が今後身につけたい IT 分野に関する知識・スキルは、以下である。

- IT 基礎
- ソフトウェアの構築技術
- クラウドコンピューティングの構築技術
- セキュリティ基礎

(1) 受講者層の IT 関連業界との関係性

現在収入を伴う仕事を「している」人、「仕事はあるが休職中である」人のうち、「『IT 企業』に所属している」「『ユーザー企業の IT 人材』である」「『フリーランス（個人事業主等）の IT 人材』である」の割合は 21.5%であった。これらの回答者を「IT 業界関係者」と定義し、IT 分野に関する学習ニーズの深掘を実施した。

【QC1_1】現在のあなたと IT 関連業界との関係性について、もっとも当てはまるものを 1 つ選択してください。（SA）（n=9993）

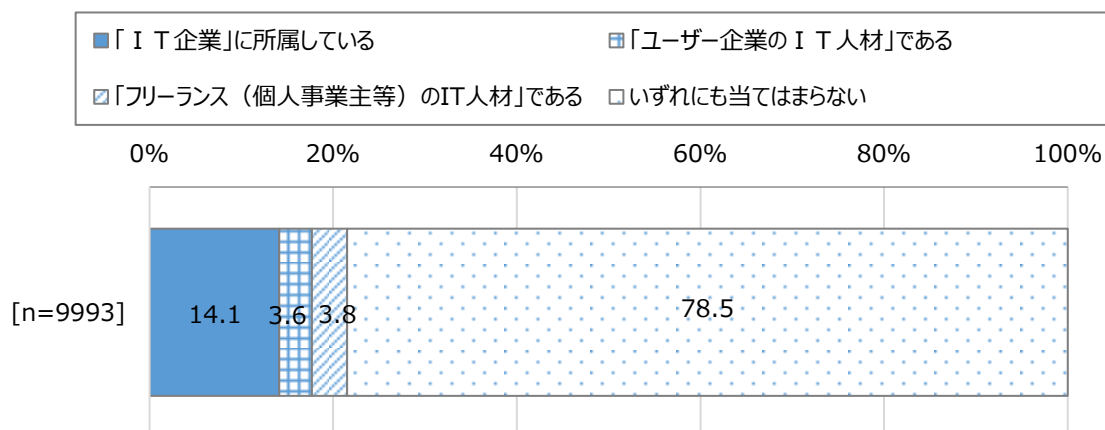


図 2-80 受講者層の IT 関連業界との関係性¹⁵

¹⁵ ①IT 企業：「IT 提供側」として以下の事業を実施する会社・組織（ソフトウェア/情報処理・提供サービス/インターネット付随サービス/情報通信関連製造/情報通信関連サービス）

②ユーザー企業の IT 人材：「IT 企業」以外の会社・組織で、IT 関連業務を担当する人材（IT 関連業務:社内 IT 戦略策定・企画・マネジメント・設計、社内システム導入・開発・保守、社内システム運用管理、AI 等の先端技術開発・新規事業開発、社内 IT 人材育成、情報セキュリティ専門技術者等）

③フリーランス(個人事業主等)の IT 人材：会社・組織等に所属せず、IT 関連業務を実施している人材（IT 関連業務:社内 IT 戦略策定・企画・マネジメント・設計、社内システム導入・開発・保守、社内システム運用管理、AI 等の先端技術開発・新規事業開発、社内 IT 人材育成、情報セキュリティ専門技術者等）

(2) 事業内容別の学習実施状況

ほぼ全ての事業において、20%以上が IT 関連の学習を実施しており、多くの事業において、IT 関連学習以外の学習の実施者はそれより少ない。

現在所属している会社・組織が実施している IT 関連事業別の学習実施状況について、「その他の事業内容」を除く全ての事業において、20%以上が IT 関連の学習を実施したと回答している。IT 関連学習実施割合が大きいのは、「ブロックチェーンの開発・提供など」「PaaS サービスの構築・運用など」「パブリック IaaS サービスの提供など」等の事業であるが、n 数が少ないことには注意を要する。

また、IT 関連学習以外の学習を実施したと回答した人の割合は、「その他の事業内容」を除く全ての事業において IT 関連学習の実施者より小さく、多くの事業において 10%未満である。なお、「IDC サービス (ハウジング、ホスティング等)、その他運用サービス等」「ビジネスプロセスアウトソーシング (コールセンター運営、データ入力等を含む)」等においては、他の事業に比べて、IT 関連学習以外の学習を実施したと回答した人の割合が大きい。

なお、現在所属している会社・組織が実施している IT 関連事業については、複数選択で尋ねているため、同一の回答者が複数の事業に含まれている。

【QC1_2】 あなたが現在所属している会社・組織ではどのような IT 分野に関連する事業を実施していますか。所属する会社・組織の事業内容として当てはまるものをすべて選択してください。(MA) (n=1413) (「IT 業界関係者」のうち「IT 企業」に所属している人のみ回答)

【QC1_4】 過去3年間(2017年12月1日~2020年11月31日)において、あなたは仕事やキャリアに役立てるための学習(注1)を実施しましたか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=2152)

(注1)ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT(実務を離れて行う企業研修等)や自己啓発として学ぶものとします(教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません)。

OJT(実際の業務を通じた教育)や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとします。

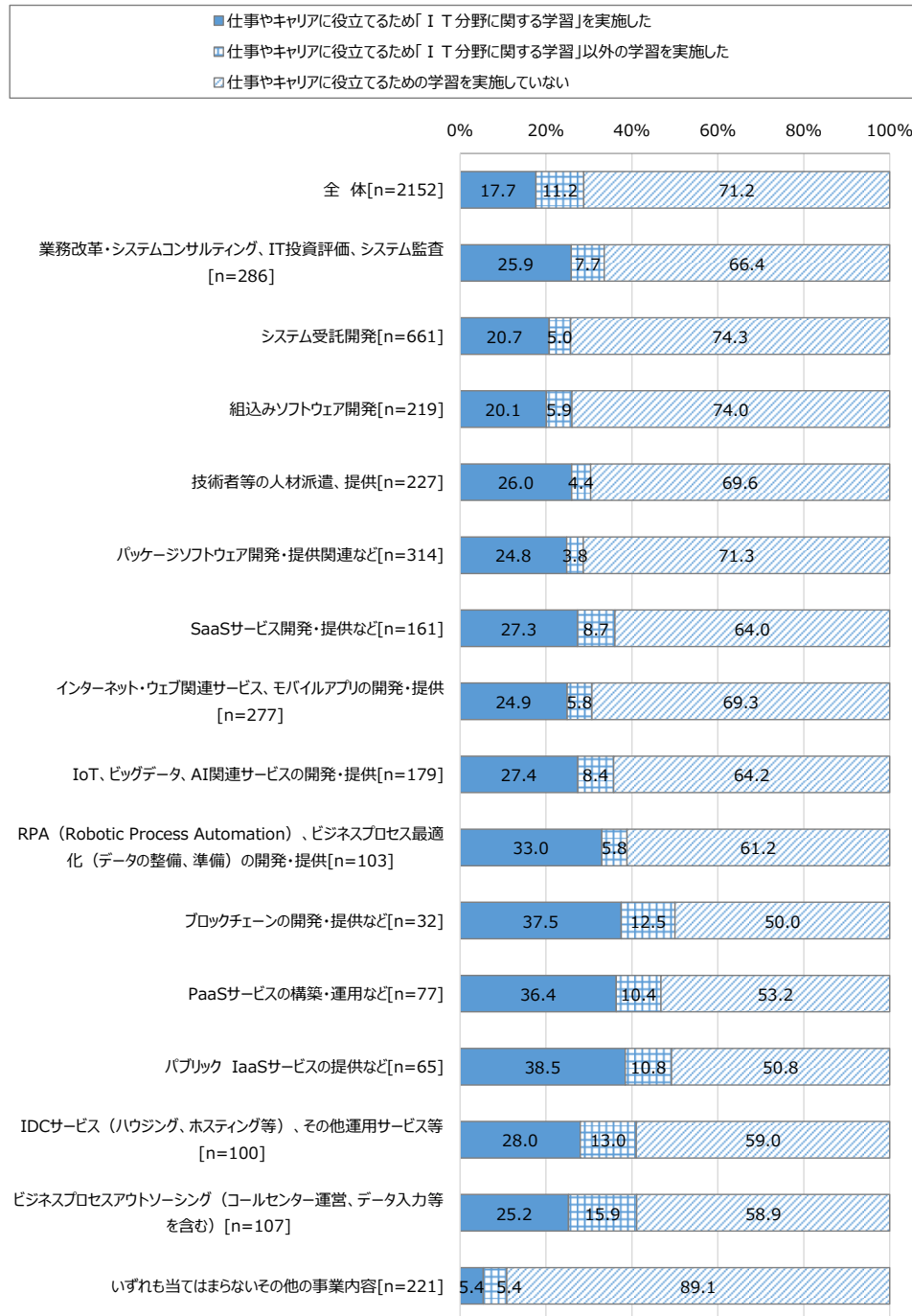


図 2-81 事業内容別の学習実施状況¹⁶

¹⁶ 「IT 分野に関する学習」とは、以下に関する学習を指します。

<技術>システム(基礎、構築、利用)/開発/保守・運用/非機能要件/組込み・計測・制御/共通技術

<方法論>戦略/企画/実装/利活用/支援活動

<業界・ユーザー企業等関連知識>IT 業界動向・競合分析/ユーザー企業エンジニアリング・ビジネスシステム関連知識/産業機器・民生機器等関連知識/IT 関連法規・基準・標準

(3) 業務内容別の学習実施状況

ほぼ全ての業務において、20%以上が IT 関連の学習を実施しており、多くの業務において、IT 関連学習以外の学習の実施者はそれより少ない。

自身の業務内容別の学習実施状況について、「IT 関連のマーケティング・営業・仕事の獲得（受注）」と「その他」を除く全ての業務内容において、20%以上が IT 関連の学習を実施したと回答している。IT 関連学習実施割合が大きいのは、「システム監査」「教育研修サービス提供」「DX 推進等による新規事業開発」等であるが、n 数が少ないことには注意を要する。

また、IT 関連学習以外の学習を実施したと回答した人の割合は、ほとんど全ての事業において IT 関連学習の実施者より小さいが、「IT 関連のマーケティング・営業・仕事の獲得（受注）」では前者が後者を上回っている。

なお、自身の業務内容については、複数選択で尋ねているため、同一の回答者が複数の業務内容に含まれている。

【QC1_3】 ご自身の現在の業務内容について、当てはまるものをすべて選択してください。（MA）（n=2152）

【QC1_4】 過去3年間（2017年12月1日～2020年11月31日）において、あなたは仕事やキャリアに役立てるための学習（注1）を実施しましたか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=2152）

（注1）ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT（実務を離れて行う企業研修等）や自己啓発として学ぶものとします（教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません）。

OJT（実際の業務を通じた教育）や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとします。

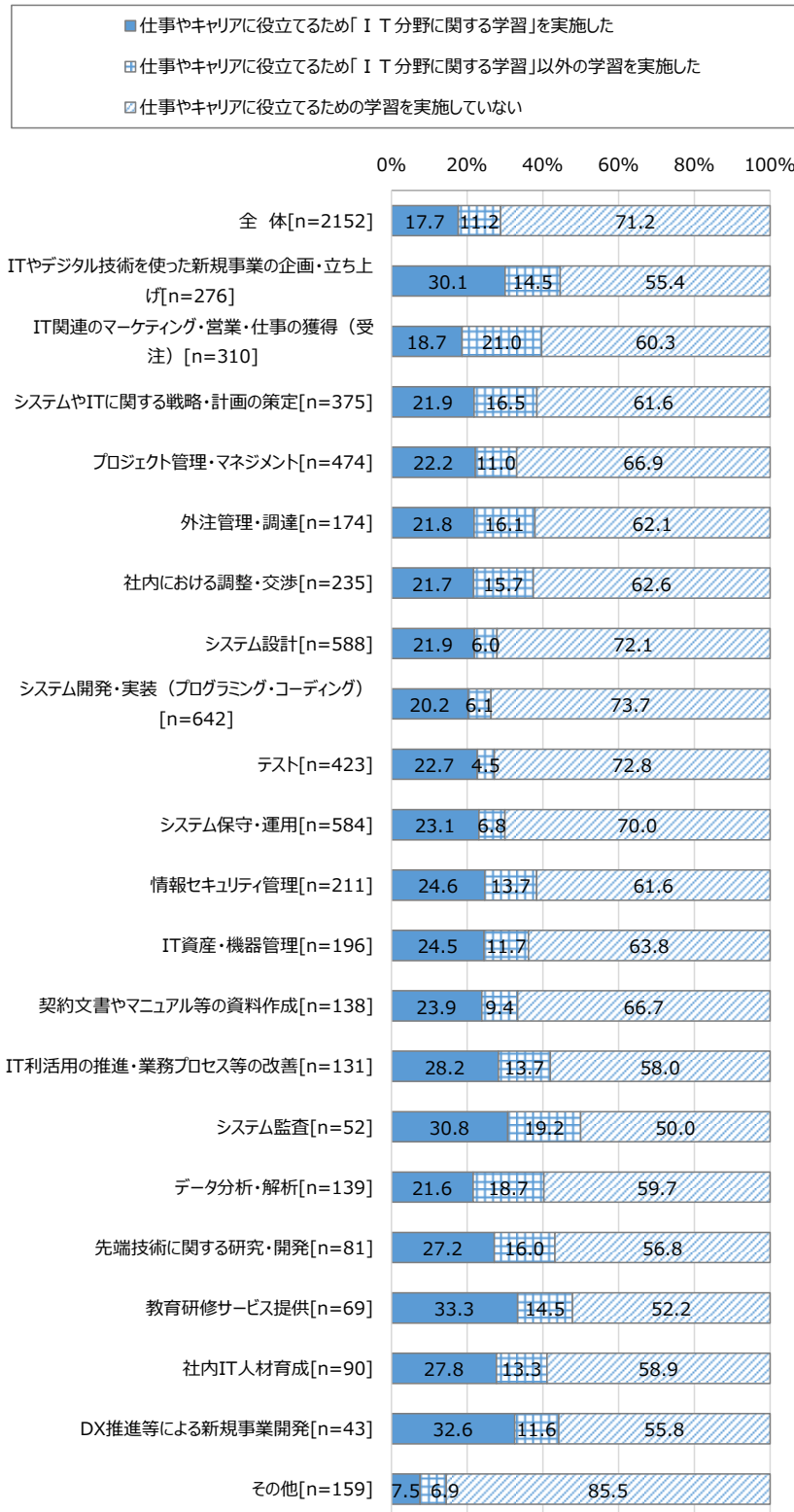


図 2-82 業務内容別の学習実施状況¹⁶¹⁷

¹⁷ 先端技術：データサイエンス/AI・人工知能/IoT/デジタルビジネス/X-Tech/アジャイル開発/DevOps/AR/VR/ブロックチェーン/自動運転/MaaS/5G に関する技術

(4) 「IT 関連学習実施者」が身につけたい知識・スキル

過去に IT 分野に関する学習を実施した人が今後身につけたい IT 分野に関する知識・スキルは、以下である。

- IT 基礎（情報の基礎理論、プログラミングやコンピュータ基礎、コンピュータ構成に関する知識）
- ソフトウェアの構築技術（設計の基礎知識、システム開発のアプローチ、プログラミング基礎技術、ソフトウェアエンジニアリング、非機能要件）
- クラウドコンピューティングの構築技術（クラウドサービス知識、クラウドデータベース技術、構築技術、アプリケーション実装技術）
- セキュリティ基礎（情報セキュリティ技術、情報保証知識、情報倫理）

過去 3 年間に於いて、仕事やキャリアに役立てるため「IT 分野に関する学習」を実施したと回答した人が、今後実施したい、もしくは現在実施中である仕事やキャリアに役立てるための「IT 分野に関する学習」内容は、「IT 基礎」の割合が 56.6%で最も大きく、次いで「ソフトウェアの構築技術」「クラウドコンピューティングの構築技術」「セキュリティ基礎」の割合が 50.8%と続く。

【QC1_4】過去 3 年間（2017 年 12 月 1 日～2020 年 11 月 31 日）において、あなたは仕事やキャリアに役立てるための学習（注 1）を実施しましたか。もっとも当てはまるものを 1 つ選択してください。（SA）（n=2152）

（注 1）ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT(実務を離れて行う企業研修等)や自己啓発として学ぶものとします(教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません)。

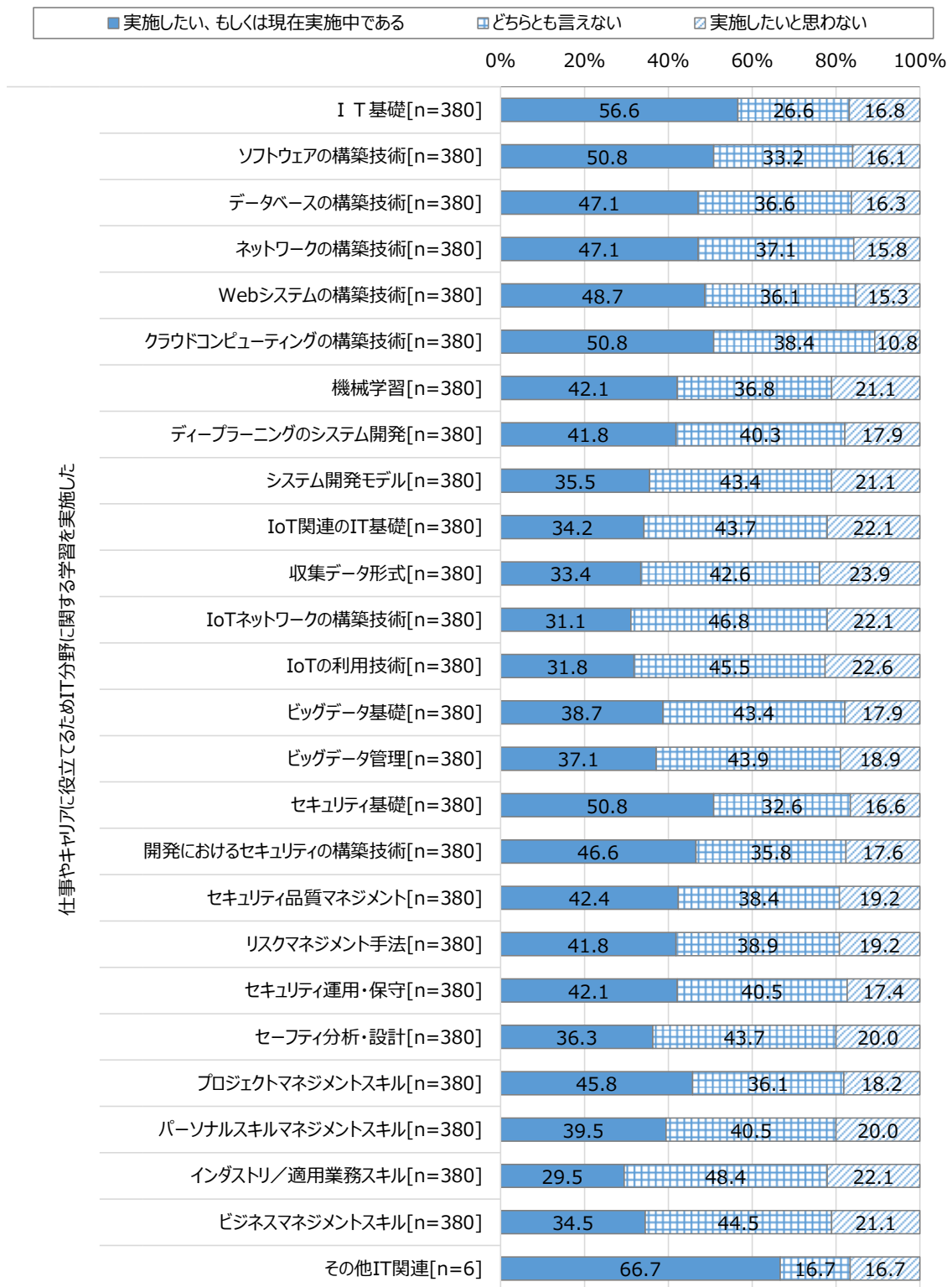
OJT(実際の業務を通じた教育)や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとします。

【QC1_5】今後、仕事やキャリアに役立てるため IT 分野に関連する学習（注）を実施したいと思いますか。それぞれについてもっとも当てはまるものを 1 つ選択してください。

（SA）（n=2152）

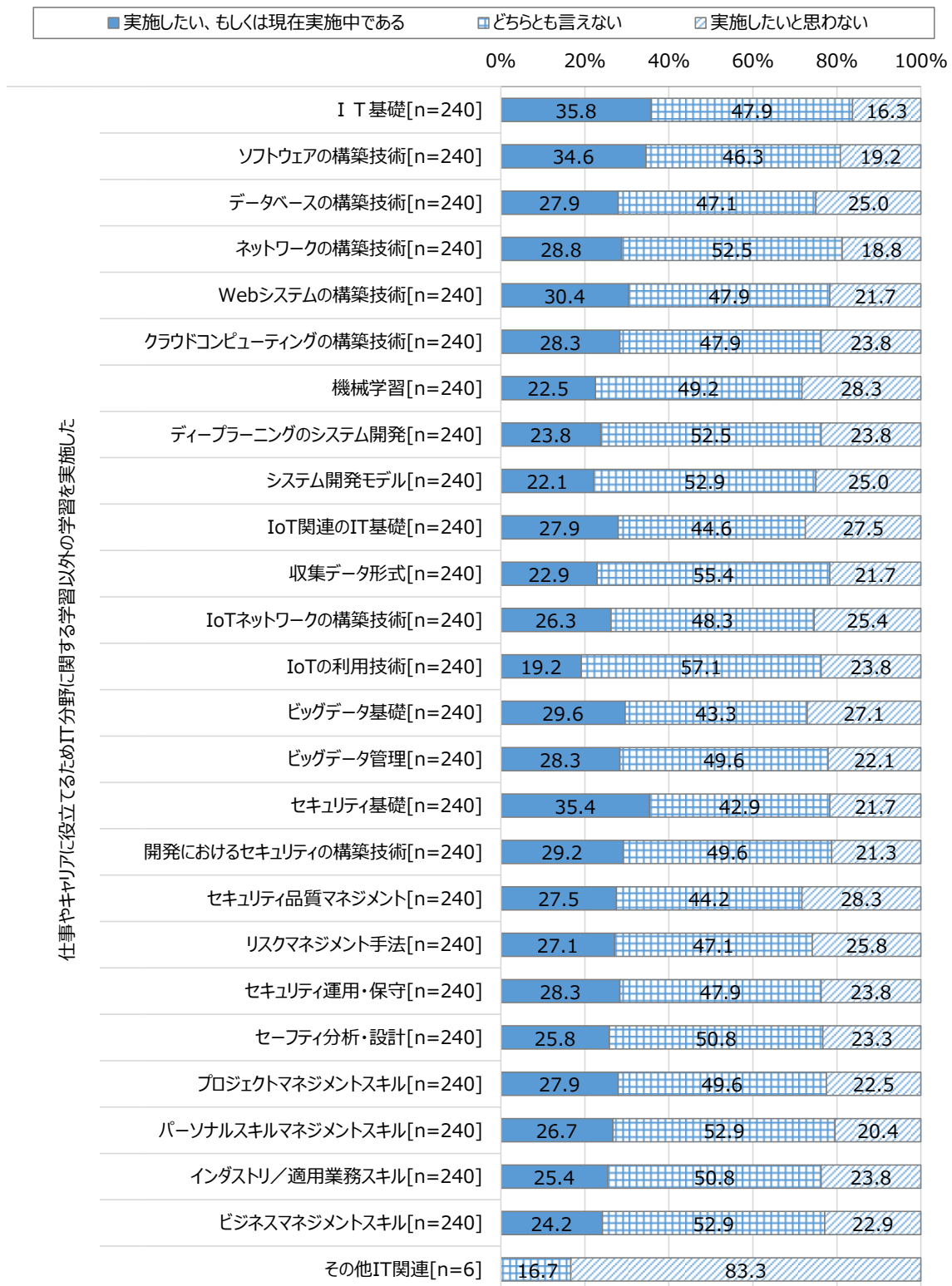
（注）ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT(実務を離れて行う企業研修等)や自己啓発として学ぶものとします(教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません)。

OJT(実際の業務を通じた教育)や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとします。



仕事やキャリアに役立てるためIT分野に関する学習を実施した

図 2-83 「IT 関連学習実施者」が身につけたい知識・スキル¹⁶ (1/3)



仕事やキャリアに役立てるためIT分野に関する学習以外の学習を実施した

図 2-84 「IT 関連学習実施者」が身につけたい知識・スキル¹⁶ (2/3)

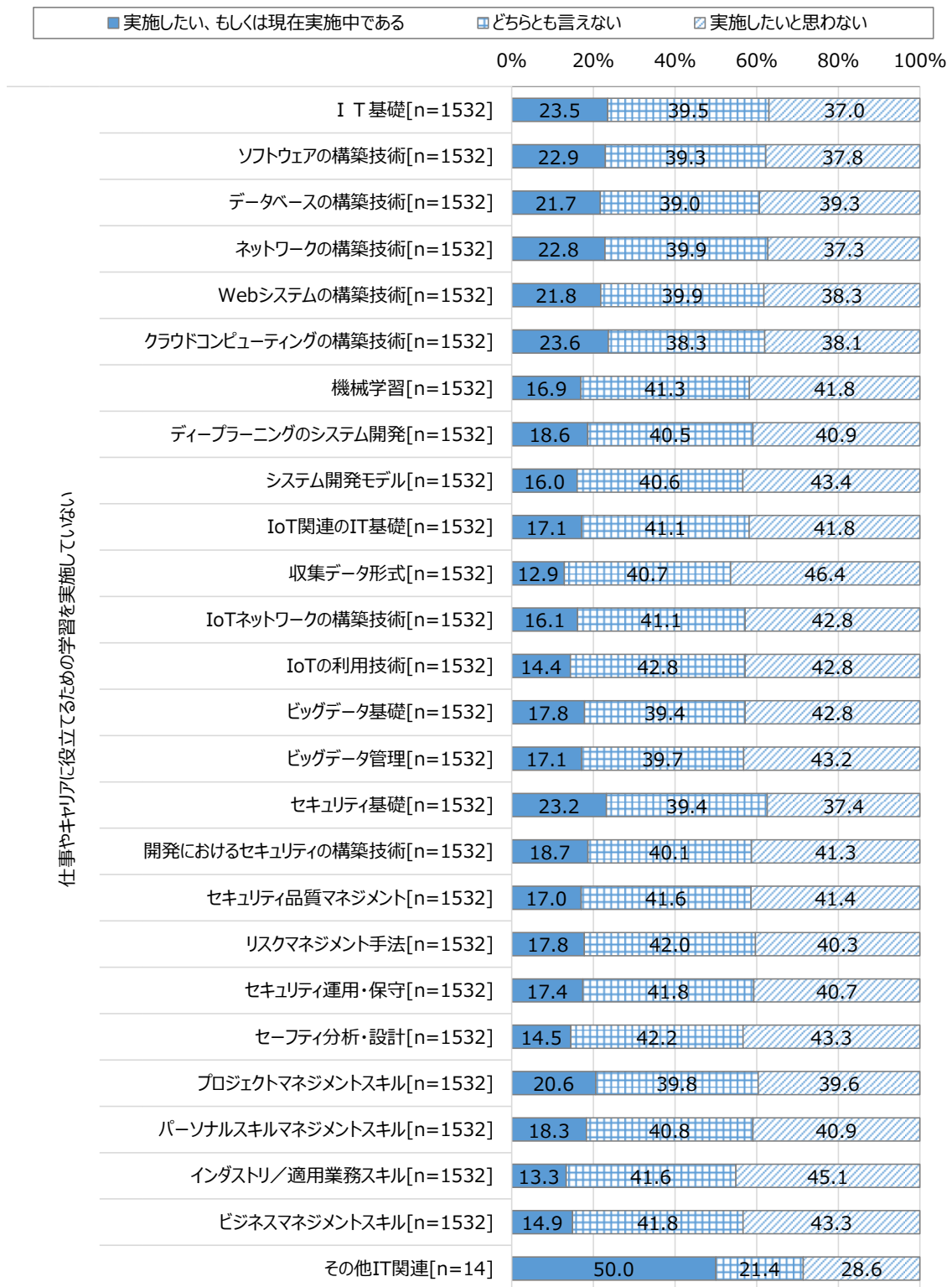


図 2-85 「IT 関連学習実施者」が身につけたい知識・スキル¹⁶ (3/3)

2.2.11 【介護分野詳細】学びたい具体的なプログラム内容・方法

「介護業界関係者」かつ介護分野の学習意欲が高い人が、今後身につけたい介護分野に関する知識・スキルは、比較的汎用性が高いコミュニケーションの知識・技術、認知症の理解に関する知識、介護の基礎的な知識・技術である。

過去3年間において、受講者層のうち仕事やキャリアに役立てるため「介護分野に関する学習」を実施した割合は13.1%、「介護分野に関する学習」以外の学習を実施した割合は10.9%であった。

「介護教室の講師等地域福祉活動」「ボランティアの受け入れ調整や指導」を自身の業務とする「介護業界関係者」は、約4割が過去3年間において仕事やキャリアに役立てるための何らかの学習を実施しており、学習意欲が高いことが伺える。

過去に介護分野に関する学習を実施した人が今後身につけたい介護分野に関する知識・スキルは、以下である。

- コミュニケーションの知識・技術
- 認知症の理解に関する知識
- 介護の基礎的な知識・技術

「介護業界関係者」が現在保有している資格で多いものは「介護福祉士」「ホームヘルパー2級」「看護師・准看護師」であった。

「介護業界関係者」が今後保有したい資格で多いものは、「介護支援専門員」「介護福祉士」「社会福祉士」であった。

(1) 受講者層の介護関連業界との関係性

受講者層のうち、「入所・入居系サービス、その他の生活施設等」「医療施設」「居宅系サービス、相談支援等の事業所等」「その他の関連施設」を職場としている、もしくは以前職場としていた、もしくは今後職場としたい希望がある回答者の割合は27.4%であった。これらの回答者を「介護業界関係者」と定義し、介護分野に関する学習ニーズの深掘を実施した。

【QC2_1】現在のあなたと介護関連業界との関係性について、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=11568)

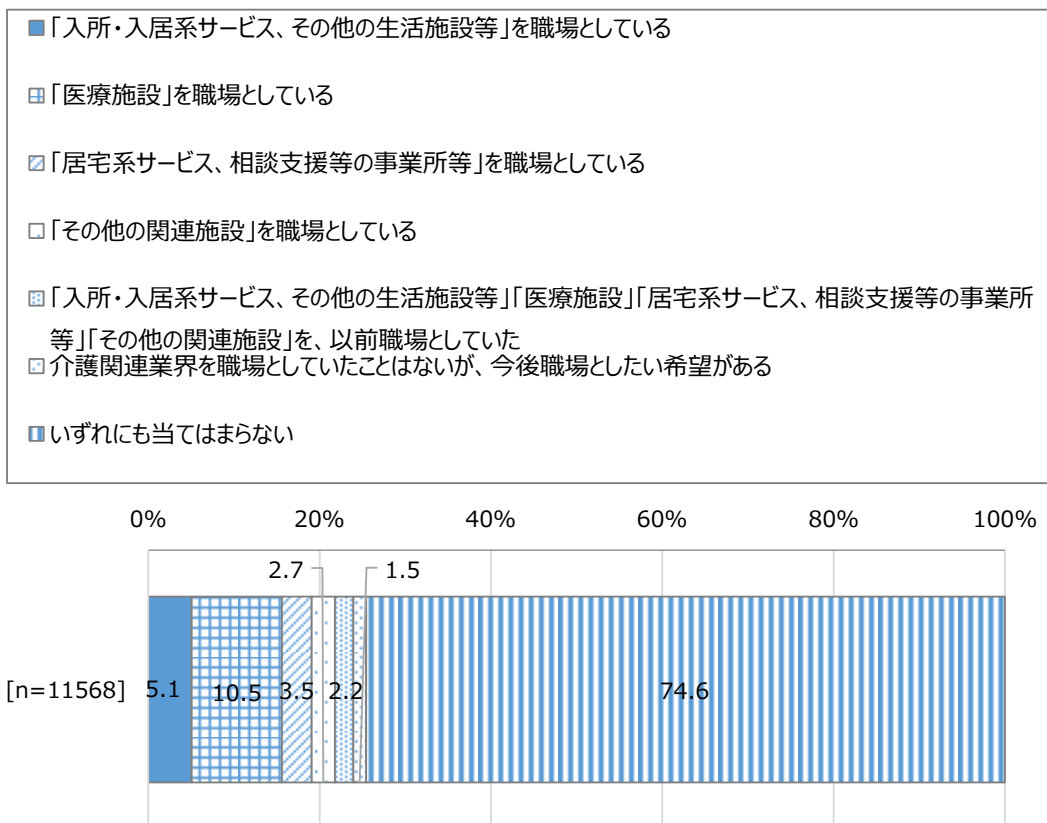


図 2-86 業務内容別の学習実施状況¹⁸

¹⁸ ①入所・入居系サービス、その他の生活施設等：介護老人福祉施設/介護老人保健施設/介護療養型医療施設/介護医療院/養護老人ホーム/軽費老人ホーム、ケアハウス/認知症高齢者グループホーム/有料老人ホーム/サービス付き高齢者向け住宅

②医療施設：一般病院/医療療養方病院/回復期リハビリテーション病院(病棟)

③居宅系サービス、相談支援等の事業所等：訪問介護事業所/訪問入浴介護事業所/通所介護事業所/通所リハビリテーション事業所/短期入所生活介護事業所/短期入所療養介護事業所/福祉用具貸与事業所/特定福祉用具販売事業所/居宅介護支援事業所/定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所/夜間対応型訪問介護事業所/認知症対応型通所介護事業所/小規模多機能型居宅介護事業所/看護小規模多機能型居宅介護/地域包括支援センター/その他の在宅サービス提供機関

④その他の関連施設：社会福祉協議会/公共団体(公務員や公益法人等)/教育・研究機関

(2) 業務内容別の学習実施状況

「介護教室の講師等地域福祉活動」「ボランティアの受け入れ調整や指導」を自身の業務とする「介護人材」は、約4割が過去3年間において仕事やキャリアに役立てるための何らかの学習を実施しており、学習意欲が高いことが伺える。

自身の業務内容別の学習実施状況について、ほとんど全ての業務内容において、20%以上が仕事やキャリアに役立てるため「介護分野に関する学習」を実施したと回答している。特に割合が大きいのは、「介護教室の講師等地域福祉活動」「介護過程の展開（アセスメント～モニタリングまで）」「ボランティアの受け入れ調整や指導」である。

また、仕事やキャリアに役立てるため「介護分野に関する学習」以外の学習を実施したと回答した人の割合は、多くの事業において仕事やキャリアに役立てるため「介護分野に関する学習」を実施したと回答した人の割合より小さい。

自身の業務内容については、複数選択で尋ねているため、同一の回答者が複数の業務内容に含まれていることに留意が必要である。

【QC2_2】 あなたが現在職場としている（過去に職場としていた場合は直近の）事業所・組織でのご自身の業務内容について、実施しているもの（実施していたもの）をすべて選択してください。（MA）（n=2769）

【QC2_4】 過去3年間（2017年12月1日～2020年11月31日）において、あなたは仕事やキャリアに役立てるための学習（注1）を実施しましたか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=2941）

（注1）ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT（実務を離れて行う企業研修等）や自己啓発として学ぶものとします（教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません）。

OJT（実際の業務を通じた教育）や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとします。

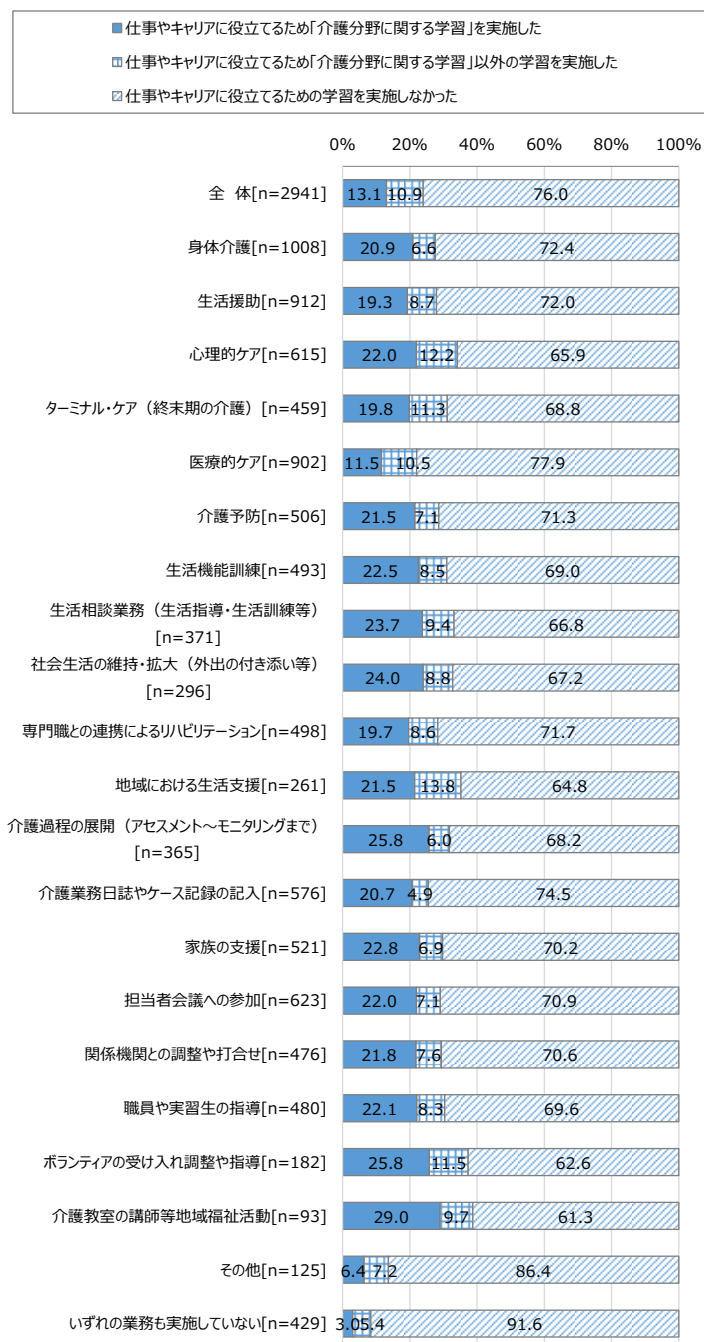


図 2-87 業務内容別の学習実施状況¹⁹

¹⁹ 「介護分野に関する学習」とは、以下に関する学習を指します。

介護の基礎的な知識・技術/コミュニケーションの知識・技術/生活支援技術/介護過程の展開に関する知識・技術/介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能の理解/発達と老化の理解に関する知識/認知症の理解に関する知識/障害の理解に関する知識/介護機器、福祉機器、生活環境整備の知識・技術/介護実践に必要な社会保障の制度・施策の知識/医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術/対象者の生活を地域の中で支えていくための知識・技術/チームマネジメントの知識・技術/多職種連携に必要な知識・技術/ケアマネジメントに関する知識・技術/リスクマネジメント/後継者(人材)の育成に関する知識/施設・事業所の管理運営

(3) 「介護関連学習実施者」が身につけたい知識・スキル

過去に介護分野に関する学習を実施した人が今後身につけたい介護分野に関する知識・スキルは、以下である。

- コミュニケーションの知識・技術
- 認知症の理解に関する知識
- 介護の基礎的な知識・技術

過去3年間において、仕事やキャリアに役立てるため「介護分野に関する学習」を実施したと回答した人が、今後実施したい、もしくは現在実施中である仕事やキャリアに役立てるための「介護分野に関する学習」内容は、「コミュニケーションの知識・技術」の割合が67.2%で最も大きく、次いで「認知症の理解に関する知識」の割合が65.1%、「介護の基礎的な知識・技術」の割合が62.2%と続く。

【QC2_4】過去3年間（2017年12月1日～2020年11月31日）において、あなたは仕事やキャリアに役立てるための学習（注1）を実施しましたか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=2941）

（注1）ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT（実務を離れて行う企業研修等）や自己啓発として学ぶものとします（教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません）。

OJT（実際の業務を通じた教育）や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとします。

【QC2_5】今後、仕事やキャリアに役立てるため介護分野に関連する学習（注）を実施したいと思いますか。それぞれについてもっとも当てはまるものを1つ選択してください。

（SA）（n=2941）

（注）ここでいう「学習」とは、現在または将来の業務・キャリアに役立つ知識・スキル等を、Off-JT（実務を離れて行う企業研修等）や自己啓発として学ぶものとします（教育プログラムの受講、書籍の講読等、形式は問いません）。

OJT（実際の業務を通じた教育）や、業務とは直接関係のない趣味的な内容の学習は含まないものとします。

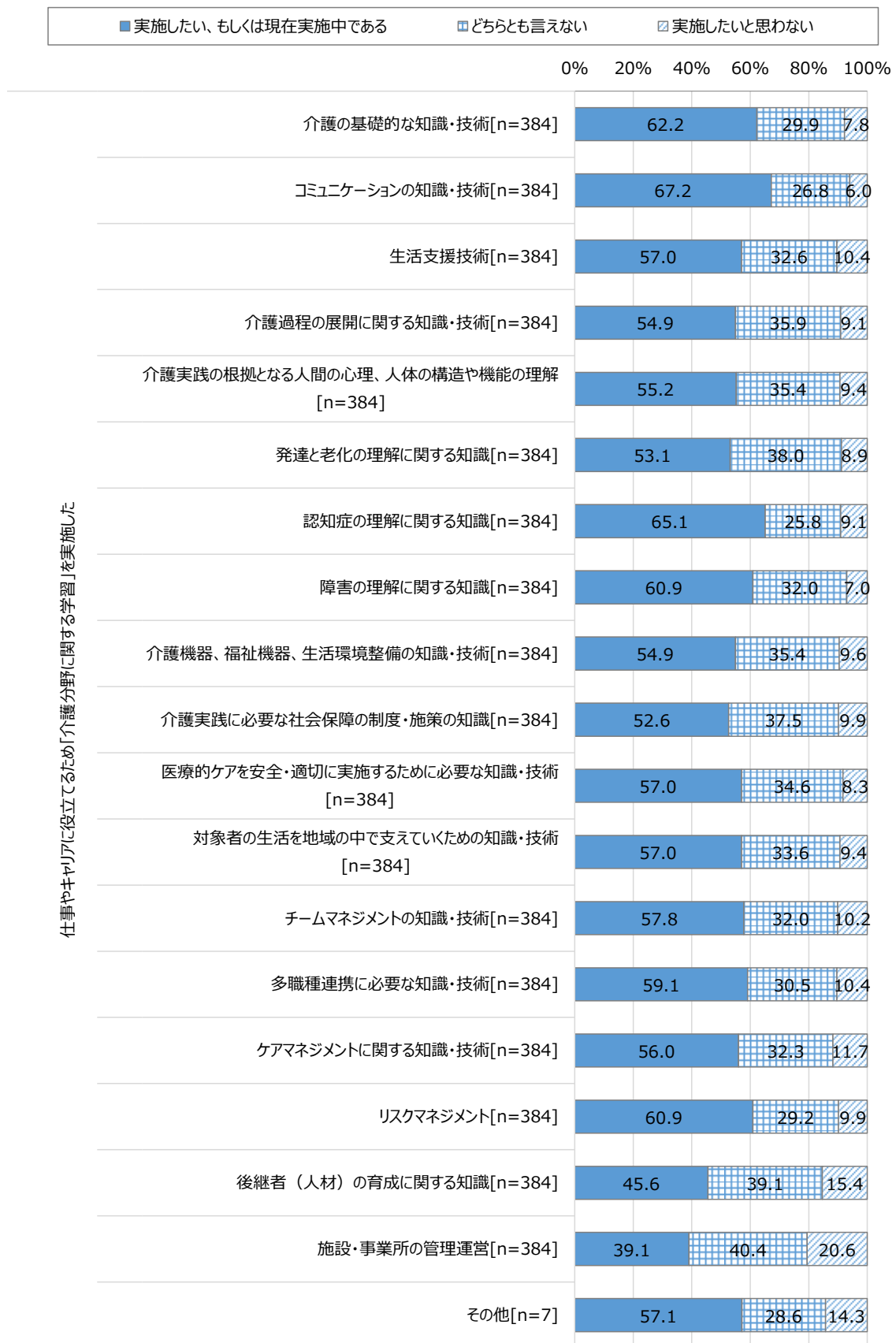
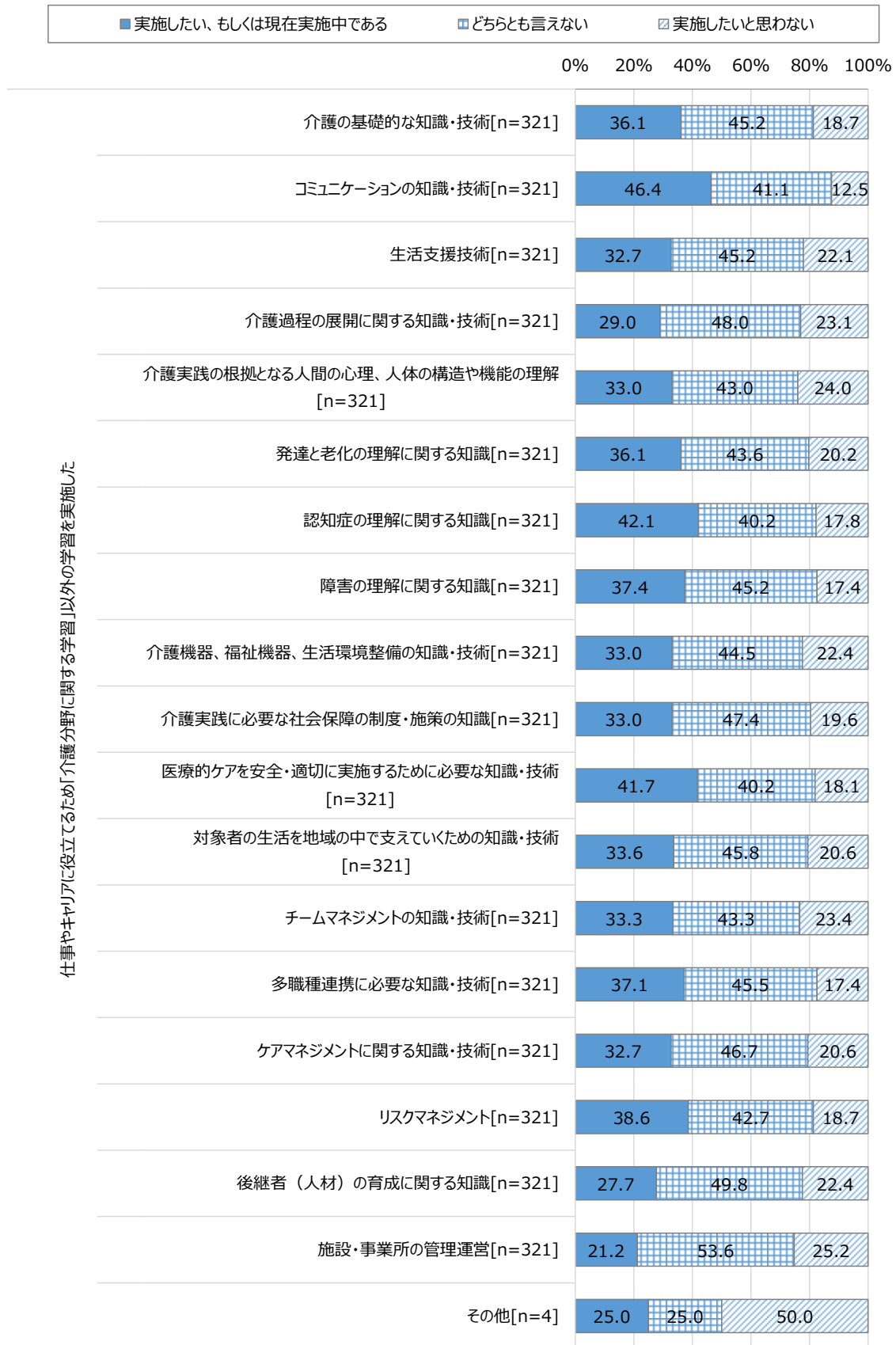
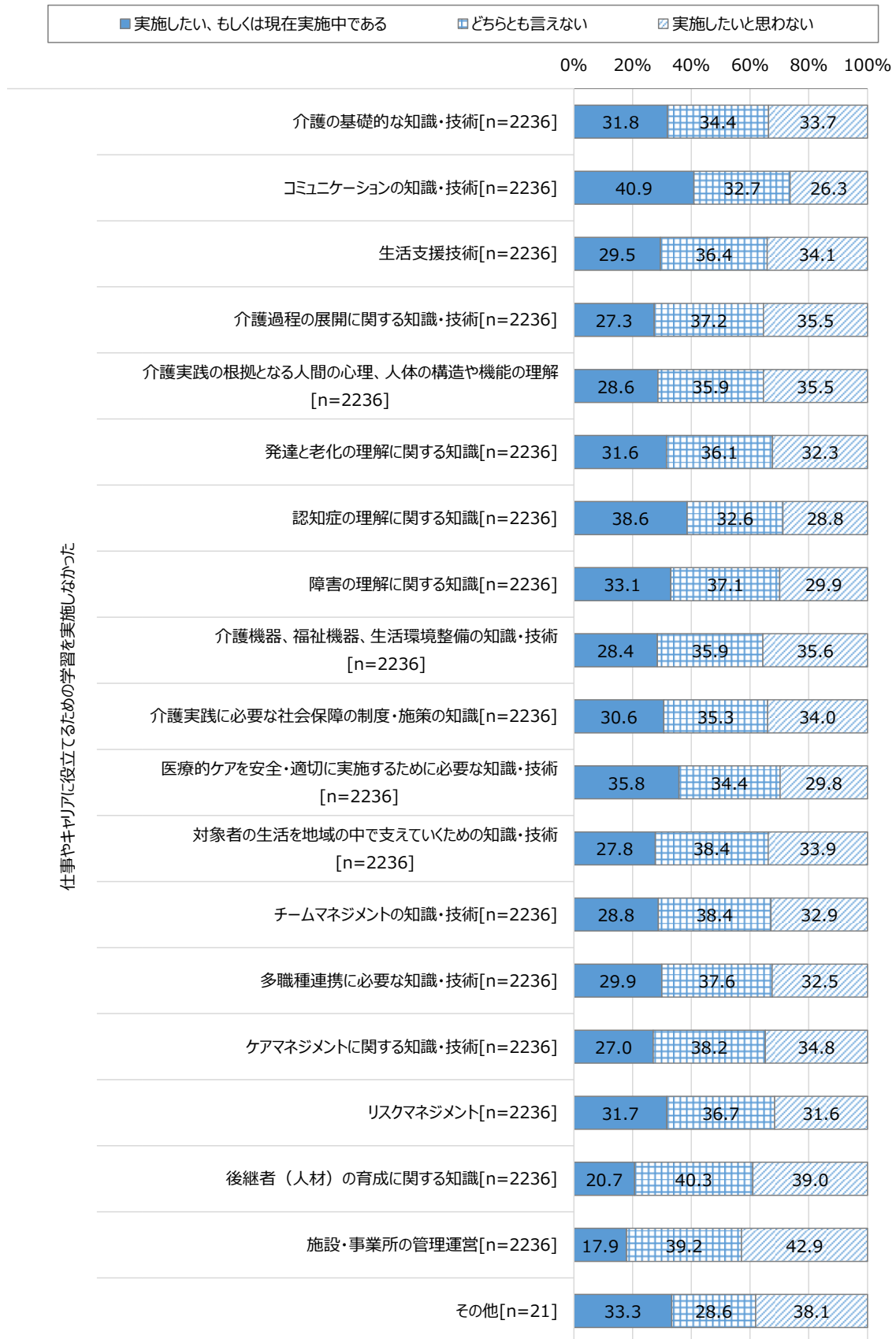


図 2-88 「介護関連学習実施者」が身につけたい知識・スキル¹⁹ (1/3)



仕事やキャリアに役立てるため「介護分野に関する学習」以外の学習を実施した

図 2-89 「介護関連学習実施者」が身につけたい知識・スキル¹⁹ (2/3)



仕事やキャリアに役立てるための学習を実施しなかった

図 2-90 「介護関連学習実施者」が身につけたい知識・スキル¹⁹ (3/3)

(4) 「介護業界関係者」が取得している資格

「介護業界関係者」が現在保有している資格について、「介護福祉士」の割合が 22.2%と最も大きく、次いで「ホームヘルパー2 級」が 15.3%、「看護師・准看護師」が 15.1%と続く。なお、「保有資格なし」の割合は 35.0%であった。

【QC2_3_1】あなたが現在保有している資格について、当てはまるものをすべて選択してください。(MA) (n=2941)

- 介護福祉士
- ▨ 社会福祉士
- ▩ 主任介護支援専門員
- ▧ 介護福祉士実務者研修
- 介護職員基礎研修
- ホームヘルパー 2 級
- ▨ 社会福祉主事
- レクリエーションインストラクター
- ▨ 喀痰吸引等研修修了
- ▨ 認知症介護実践者研修修了
- ▨ 教員免許
- 介護福祉士実習指導者講習会修了
- ▨ 介護技術講習主任指導者
- ▨ 介護系教員講習会修了
- 看護師・准看護師
- 保育士
- ▨ 栄養士
- 保有資格・取得予定資格ともになし
- ▨ 認定介護福祉士
- 精神保健福祉士
- ▨ 介護支援専門員
- ▨ 介護職員初任者研修
- ホームヘルパー 1 級
- ▨ ガイドヘルパー
- ▨ 福祉レクワーカー
- ▨ 福祉住環境コーディネーター
- ▨ 認知症介護実践リーダー研修修了
- 認知症ケア専門士
- ▨ 幼稚園教諭免許
- 介護技術講習指導者
- ▨ 実務者研修教員講習会修了
- 認定看護師・専門看護師
- ▨ 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士
- ▨ 管理栄養士
- 調理師

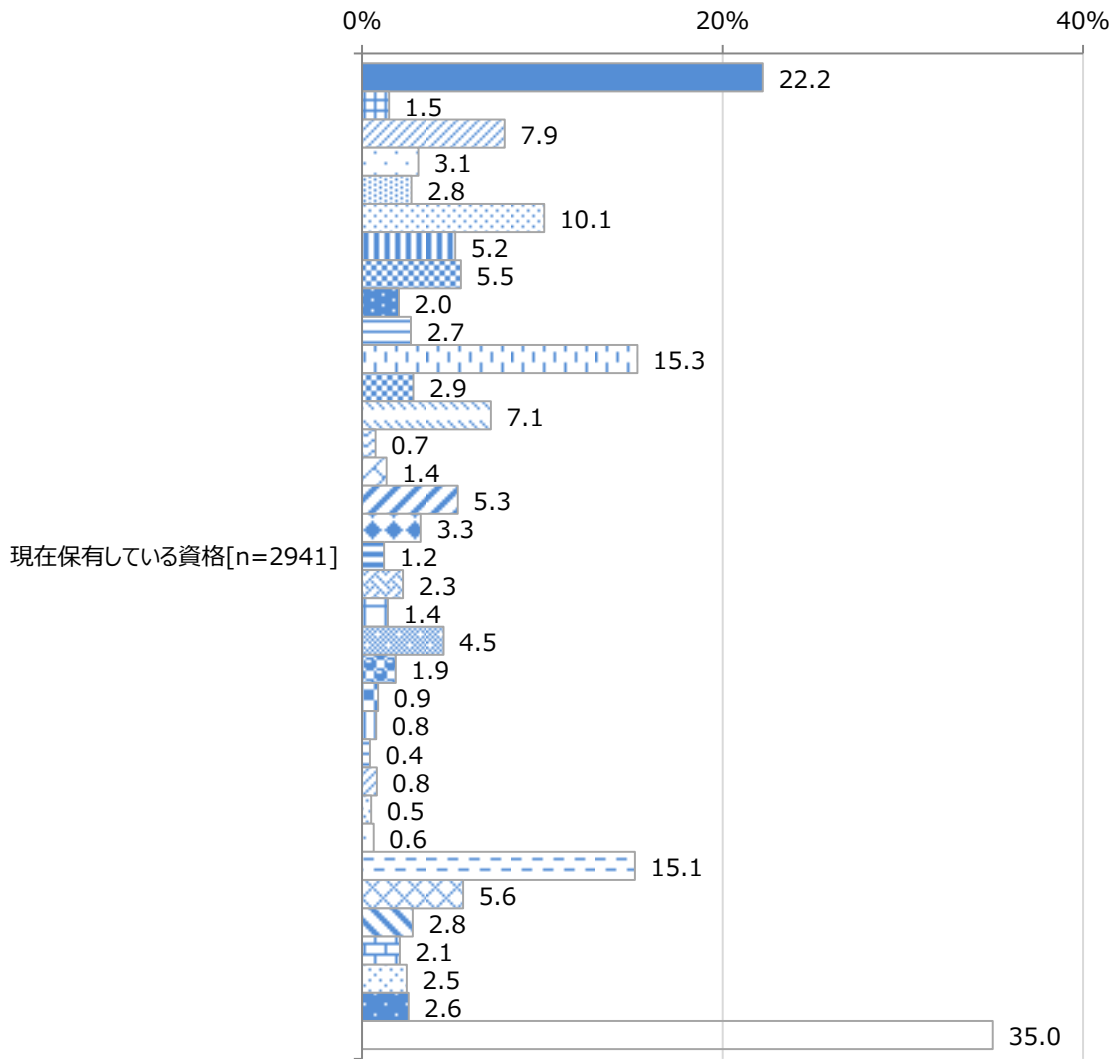


図 2-91 「介護業界関係者」が取得している資格

(5) 「介護業界関係者」が取得したい資格

「介護業界関係者」が今後保有したい資格について、「介護支援専門員」の割合が 11.6%と最も大きく、次いで「介護福祉士」が 9.1%、「社会福祉士」が 8.9%と続く。なお、「取得予定資格なし」の割合は 55.2%であった。

【QC2_3_2】あなたが今後取得したい資格について、当てはまるものをすべて選択してください。(MA) (n=2941)

- 介護福祉士
- ▣ 社会福祉士
- ▨ 主任介護支援専門員
- ▤ 介護福祉士実務者研修
- 介護職員基礎研修
- ホームヘルパー 2 級
- ▣ 社会福祉主事
- レクリエーションインストラクター
- ▣ 喀痰吸引等研修修了
- ▣ 認知症介護実践者研修修了
- ▣ 教員免許
- 介護福祉士実習指導者講習会修了
- ▣ 介護技術講習主任指導者
- ▣ 介護系教員講習会修了
- 看護師・准看護師
- 保育士
- ▣ 栄養士
- 保有資格・取得予定資格ともになし
- ▣ 認定介護福祉士
- 精神保健福祉士
- ▣ 介護支援専門員
- ▣ 介護職員初任者研修
- ▣ ホームヘルパー 1 級
- ▣ ガイドヘルパー
- ▣ 福祉レクワーカー
- ▣ 福祉住環境コーディネーター
- ▣ 認知症介護実践リーダー研修修了
- 認知症ケア専門士
- ▣ 幼稚園教諭免許
- 介護技術講習指導者
- ▣ 実務者研修教員講習会修了
- 認定看護師・専門看護師
- ▣ 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士
- ▣ 管理栄養士
- 調理師

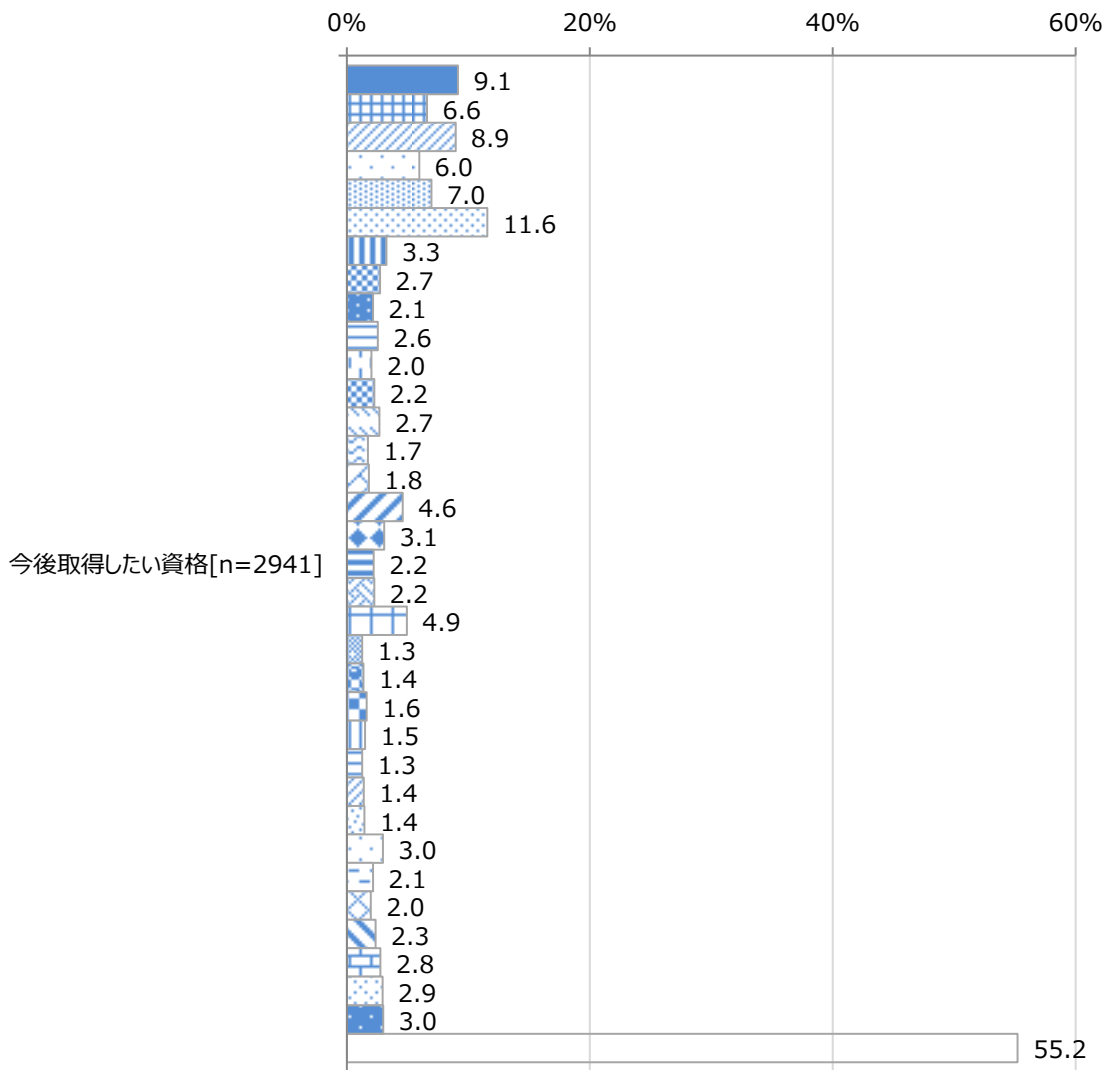


図 2-92 「介護業界関係者」が今後取得したい資格

2.2.12 回答者（人事研修担当者）の基本情報

(1) 能力開発・教育訓練業務への関与状況

所属組織の職員の能力開発・教育訓練業務に現在関与している回答者のうち、「所属部署の能力開発・教育訓練業務に関与はしていないが、実績や計画を把握する立場にある」割合が 5.4%と最も大きく、次いで「全社の職員の能力開発・教育訓練業務の決裁権を持つ」割合が 4.9%と続く。

【Qn】 所属組織の職員の能力開発・教育訓練業務に現在関与していますか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=9537）

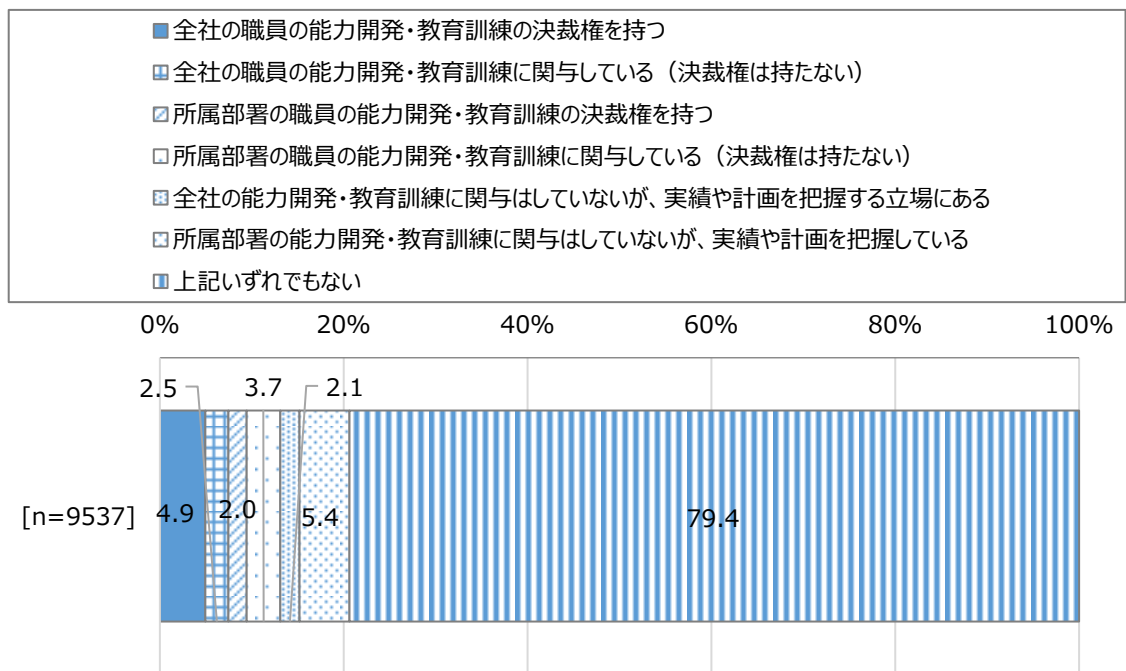


図 2-93 能力開発・教育訓練業務への関与の状況

(2) 能力開発・教育訓練業務の拡充意向

Off-JT や自己啓発支援などの OJT 以外の教育訓練について、「ある程度は拡充すべきである」割合が 46.3%と最も大きく、次いで「現状程度でよい」割合が 35.4%と続く。

なお、本設問以降は、所属組織の職員の能力開発・教育訓練業務に少しでも関与している人を回答対象者としているため、2.2.12(1)で「上記いずれでもない」以外の選択肢回答者を母数としている。

【Qo】 所属組織の職員の能力開発・教育訓練のうち、Off-JT（注 1）や自己啓発支援（注 2）などの OJT 以外の教育訓練について、今後どのようにすべきと考えていますか。あなたの考えにもっとも近いものをそれぞれ 1 つ選択してください。（SA）（n=1965）

（注 1）本調査における「Off-JT」とは、業務命令に基づき、通常の仕事を一時的に離れて行う教育訓練(研修)のことを言い、例えば、社内で実施する教育訓練(労働者を 1 か所に集合させて実施する集合訓練など)や、社外で実施する教育訓練(業界団体や民間の教育訓練機関など社外の教育訓練機関が実施する教育訓練に労働者を派遣することなど)を含みます。

（注 2）本調査における「自己啓発」とは、労働者が職業生活を継続するために行う、職業に関する能力を自発的に開発し、向上させるための活動を言います(職業に関係ない趣味、娯楽、スポーツ健康増進等のためのものは含みません)。

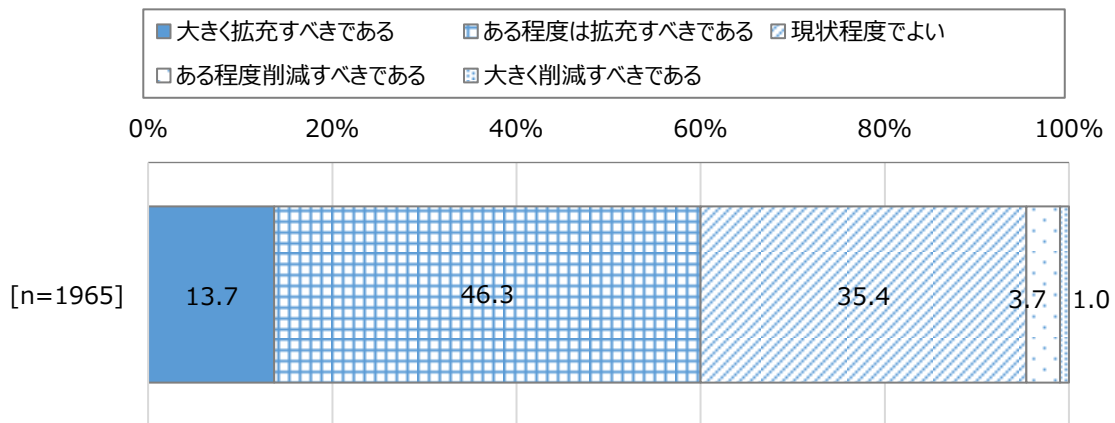


図 2-94 能力開発・教育訓練業務の拡充意向

2.2.13 「Off-JT 意欲が高い層」のプロフィール

「Off-JT 意欲が高い層」（＝初期市場形成ターゲット）のプロフィールは、所属部署の職員の能力開発・教育訓練業務を把握するだけでなく実際に関与していること、何らかの役職者であること、「大企業」の所属が多いことが特徴である。

- 能力開発・教育訓練業務の拡充意向が強くなるほど、全社もしくは所属部署の職員の能力開発・教育訓練業務に関与している回答者の割合が大きい。
- 能力開発・教育訓練業務の拡充意向が強くなるほど、何らかの役職者の割合が大きい。
- 能力開発・教育訓練業務の拡充意向が強くなるほど、「大企業」の占める割合が大きい。

(1) 能力開発業務への関与状況

能力開発・教育訓練業務の拡充意向が強くなるほど、全社もしくは所属部署の職員の能力開発・教育訓練業務に関与している回答者の割合が大きい。

Off-JTを「大きく拡充すべきである」回答者では、「全社の職員の能力開発・教育訓練業務の決裁権を持つ」割合が37.9%と最も大きく、次いで「所属部署の能力開発・教育訓練業務に関与はしていないが、実績や計画を把握している」割合が20.8%と続く。

【Qn】所属組織の職員の能力開発・教育訓練業務に現在関与していますか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=1965)

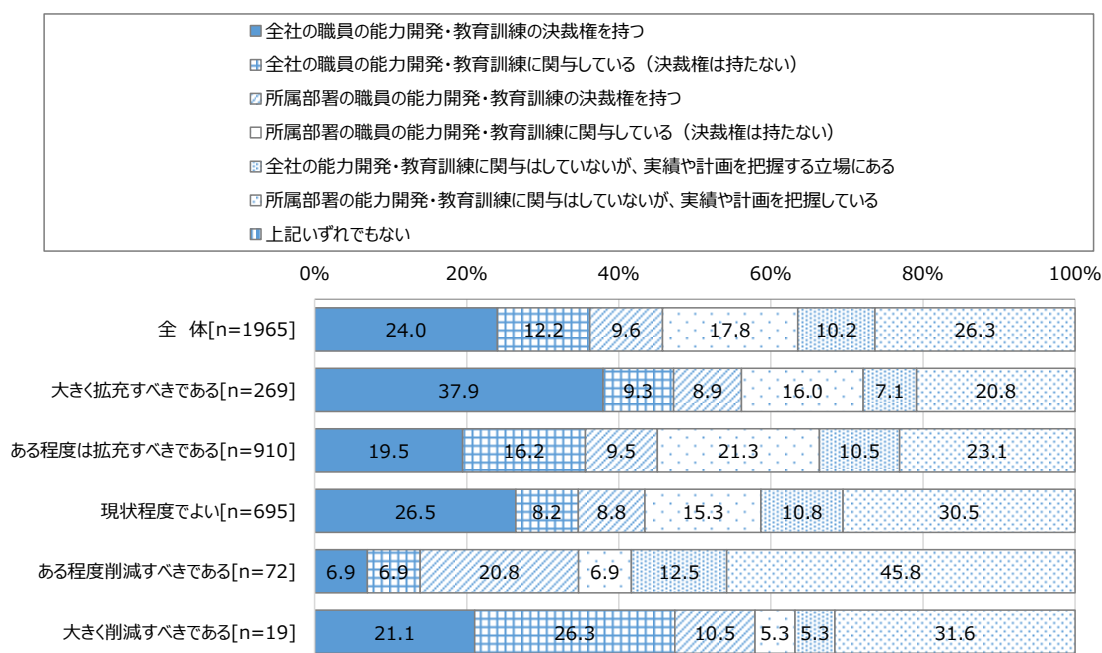


図 2-95 能力開発業務への関与状況

(2) 業種

「全体」で見ると、「医療、福祉」の割合が 26.6%と最も大きく、次いで「情報通信業」の割合が 19.1%と続く。なお、本調査においては、IT 分野の従事者、介護分野の従事者の回答者を多く確保するよう配信・回収を行ったため、上記 2つの割合が大きくなっていると考えられる。

【QA5】 現在のあなたのお勤め先（会社等）の業種について、もっとも当てはまるものを 1つ選択してください。（SA）（n=1965）
 （注）複数の仕事をしている方は、主な収入源であるものを 1つ選択してください。

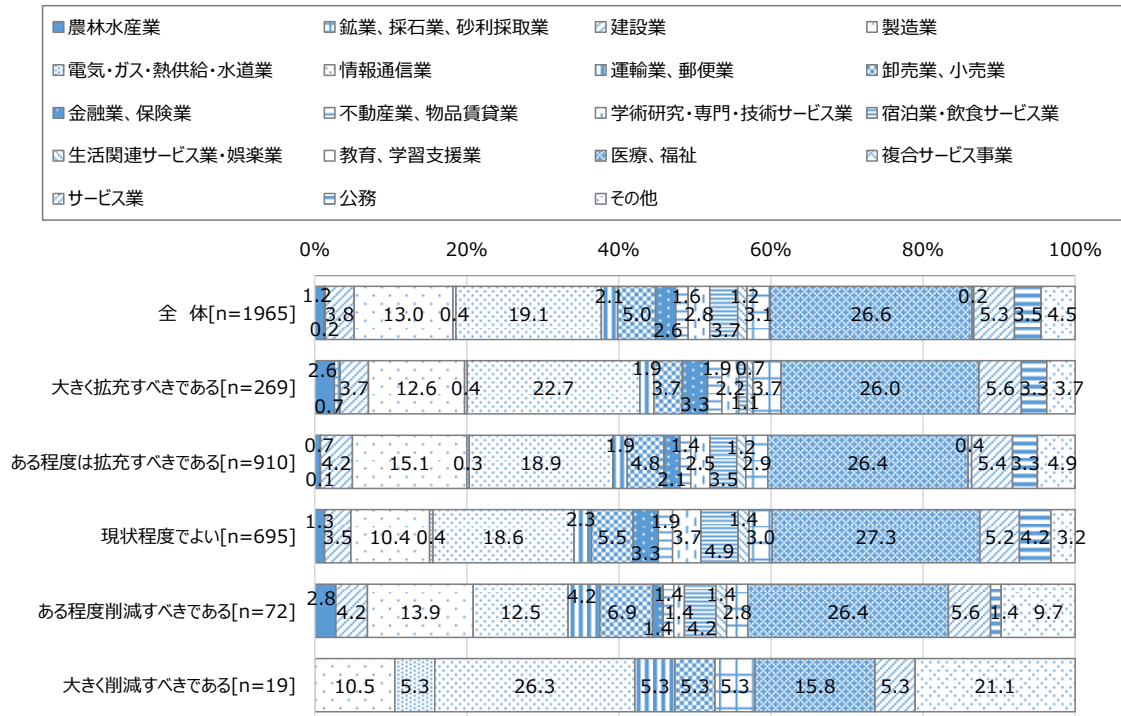


図 2-96 業種

(3) 役職

能力開発・教育訓練業務の拡充意向が強くなるほど、何らかの役職者の割合が大きい。

「全体」と比較すると、Off-JTを「大きく拡充すべきである」回答者では、「最高経営責任者もしくは代表取締役社長」「専務ないし常務」「部長ないしこれに該当する役職」の割合が大きい。

【Qh_1】現在のあなたの役職について、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=1965)

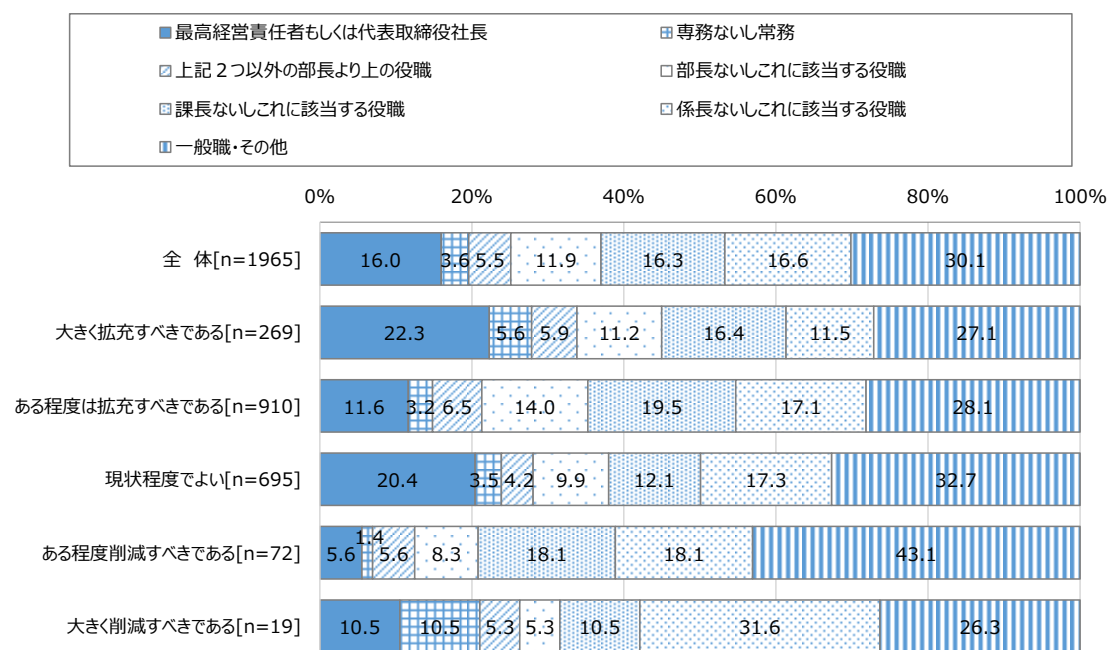


図 2-97 役職

(4) 勤め先従業員数

能力開発・教育訓練業務の拡充意向が強くなるほど、「大企業」の占める割合が大きい。

Off-JTを「大きく拡充すべきである」回答者では、「300～499人以上」「500～999人」「1000～1999人」「2000～4999人」「5000人以上」を合計した割合が最も大きく43.9%である。

【QA6】 現在のあなたのお勤め先（会社等）全体の従業員数について、当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=1965）
 （注1）本社・支社・工場なども含めた従業員総数（パートなども含む）について記入してください。
 （注2）派遣社員の場合は、派遣元の会社についてお答えください。
 （注3）あなた自身も従業員数に含めてお考え下さい。

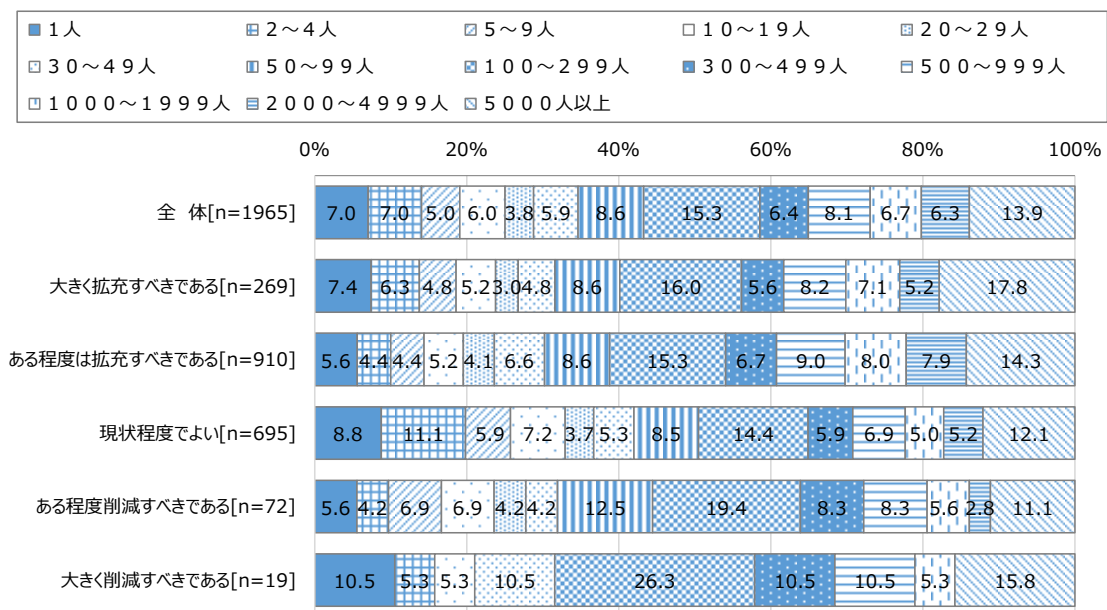


図 2-98 勤め先従業員数

2.2.14 「Off-JT 意欲が高い層」の能力開発業務志向

「Off-JT 意欲が高い層」（＝初期市場形成ターゲット）は、管理職未満と管理職以上で拡充したい Off-JT 内容の傾向が異なる。拡充意欲が最も強い層では「経営方針で強化すべきと位置づけられた」という理由が多く、導入検討方法は業界団体等からの案内やインターネット検索等自身で探すことが多い。

- 能力開発・教育訓練業務の拡充意向がある回答者では、新卒採用者や中途採用者には「特定の専門分野における体系的な知識」や「コミュニケーション能力」を、管理職以上には「リーダーシップ、マネジメント能力」や「ビジネスマネジメントに関する知識」を拡充したいと考えている。
- 能力開発・教育訓練業務の拡充意向によらず、従業員全体の能力底上げが理由として多い。一方、能力開発・教育訓練業務を大きく拡充すべきと考える回答者では、経営方針で強化すべきと位置づけられたためも理由として多い。
- 能力開発・教育訓練業務の拡充意向によらず、どの対象者にどの知識やスキルを身につけさせるべきかの特定と、対象者の時間確保に課題を感じている。
- 能力開発・教育訓練業務の拡充意向によらず、業界団体等からの案内を探すケースが多い。一方、能力開発・教育訓練業務の拡充意向がある回答者では、インターネット検索等自身で探すケースが多い。
- 約 8 割が外部機関活用意向がある。能力開発・教育訓練業務の拡充意向がある回答者ほど、すでに外部機関を活用している。
- 能力開発・教育訓練業務の拡充意向によらず、高い専門性、柔軟なプログラム設計が期待されている。
- DX 関連 Off-JT を実施しているのは約 2 割である。能力開発・教育訓練業務の拡充意向がある回答者ほど、DX 関連 Off-JT の実施率が高い。
- 能力開発・教育訓練業務の拡充意向がある回答者ほど、DX 関連 Off-JT を拡充すべきと考えている。
- 能力開発・教育訓練業務の拡充意向によらず、DX 関連 Off-JT 実施において、どの対象者にどの知識やスキルを身につけさせるべきかの特定に課題を感じている。

(1) 今後拡充したい Off-JT の対象者、内容

Off-JT 意欲が高い層が今後拡充したい Off-JT 内容は、新卒採用者や中途採用者には業務上必要な専門分野の知識・技術やコミュニケーション能力を、管理職以上にはリーダーシップ・マネジメント能力や業務上必要な専門分野の知識である。

対象者	拡充したい内容
新卒採用者	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の専門分野における体系的な理論 (28.6%) ・コミュニケーション能力 (27.1%) ・特定の専門分野における体系的な技能・技術 (20.1%)
中途採用者	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の専門分野における体系的な理論 (25.3%) ・特定の専門分野における体系的な技能・技術 (23.0%) ・コミュニケーション能力 (22.3%)
管理職未満	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力 (24.2%) ・特定の専門分野における体系的な理論 (23.4%) ・リーダーシップ・マネジメント能力 (21.2%)
管理職(部長・課長ないしこれに該当する役職)	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ・マネジメント能力 (27.5%) ・ビジネスマネジメントに関する知識 (19.3%) ・特定の専門分野における体系的な理論 (17.8%)
経営層(最高経営責任者・代表取締役社長・専務・常務ないしこれに該当する役職)	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ・マネジメント能力 (19.3%) ・特定の専門分野における体系的な理論 (17.5%) ・企業・組織の社会的規範に関する知識 (16.0%)

【QD1_1】あなたの所属組織における Off - JT (注) への取組について伺います。今後 Off - JT を拡充したい対象者と内容について、当てはまるものをすべて選択してください。

(MA) (n=1965)

(注)本調査における「Off-JT」とは、業務命令に基づき、通常の仕事を一時的に離れて行う教育訓練(研修)のことを言い、例えば、社内で実施する教育訓練(労働者を1か所に集合させて実施する集合訓練など)や、社外で実施する教育訓練(業界団体や民間の教育訓練機関など社外の教育訓練機関が実施する教育訓練に労働者を派遣することなど)を含みます。

- 特定の専門分野における体系的な理論
- リーダーシップ、マネジメント能力
- 課題解決スキル
- 統計・データ解析、プログラミング
- 自身の職場での職務に固有のルール・制度等
- 拡充の必要はない
- 特定の専門分野における体系的な技能・技術
- チームワーク、協調性、周囲との協働力
- 語学（外国語）
- 企業・組織の社会的規範に関する知識
- 自身の職場での職務に固有の技能・技術等
- コミュニケーション能力
- ビジスマネジメントに関する知識
- P C や一般的な業務ソフトの操作
- キャリア形成に関する知識
- その他

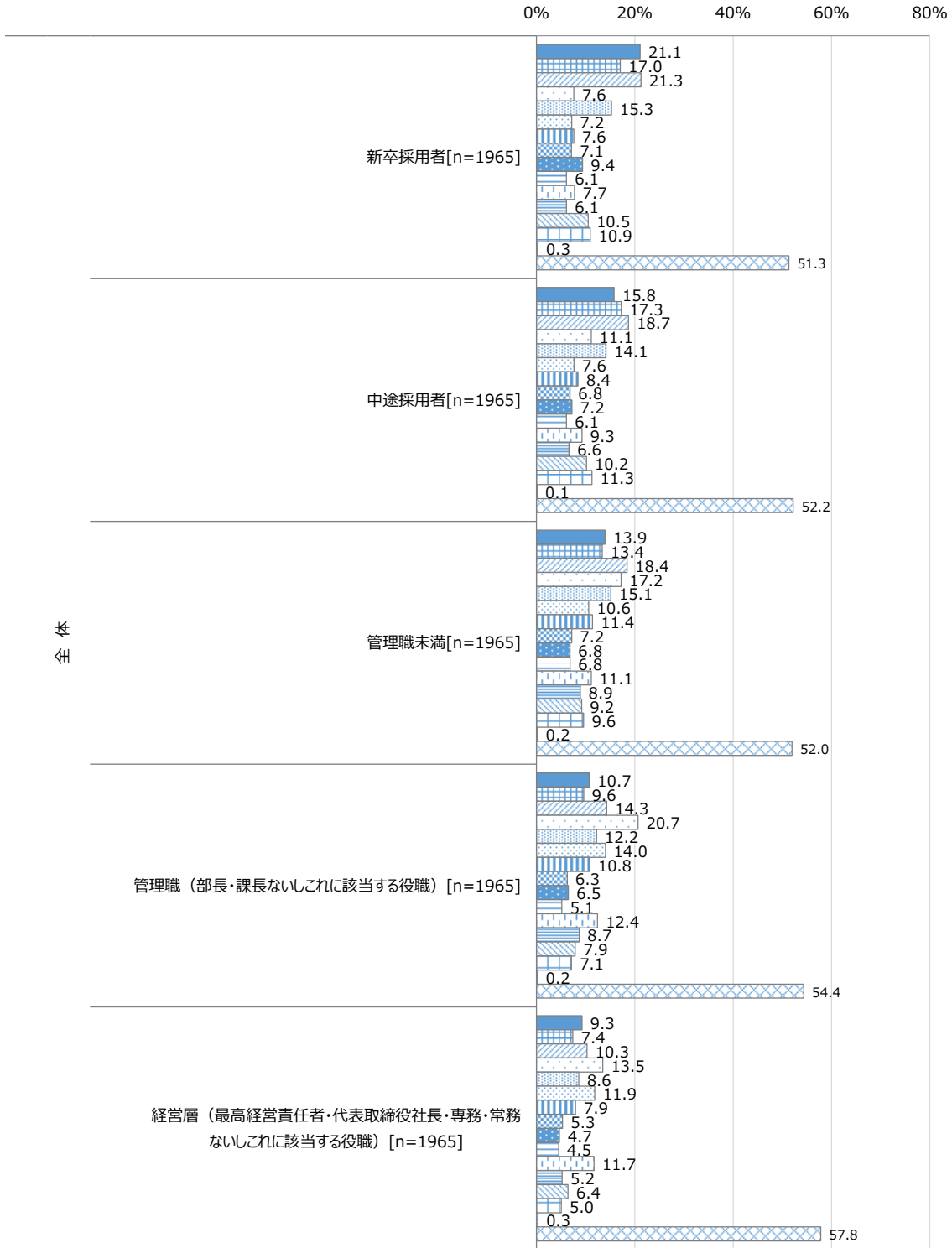


図 2-99 今後拡充したい Off-JT の対象者、内容 (1/6)

- 特定の専門分野における体系的な理論
- リーダーシップ、マネジメント能力
- 課題解決スキル
- 統計・データ解析、プログラミング
- 自身の職場での職務に固有のルール・制度等
- 拡充の必要はない
- 特定の専門分野における体系的な技能・技術
- チームワーク、協調性、周囲との協働力
- 語学（外国語）
- 企業・組織の社会的規範に関する知識
- 自身の職場での職務に固有の技能・技術等
- コミュニケーション能力
- ビジネスマネジメントに関する知識
- P C や一般的な業務ソフトの操作
- キャリア形成に関する知識
- その他

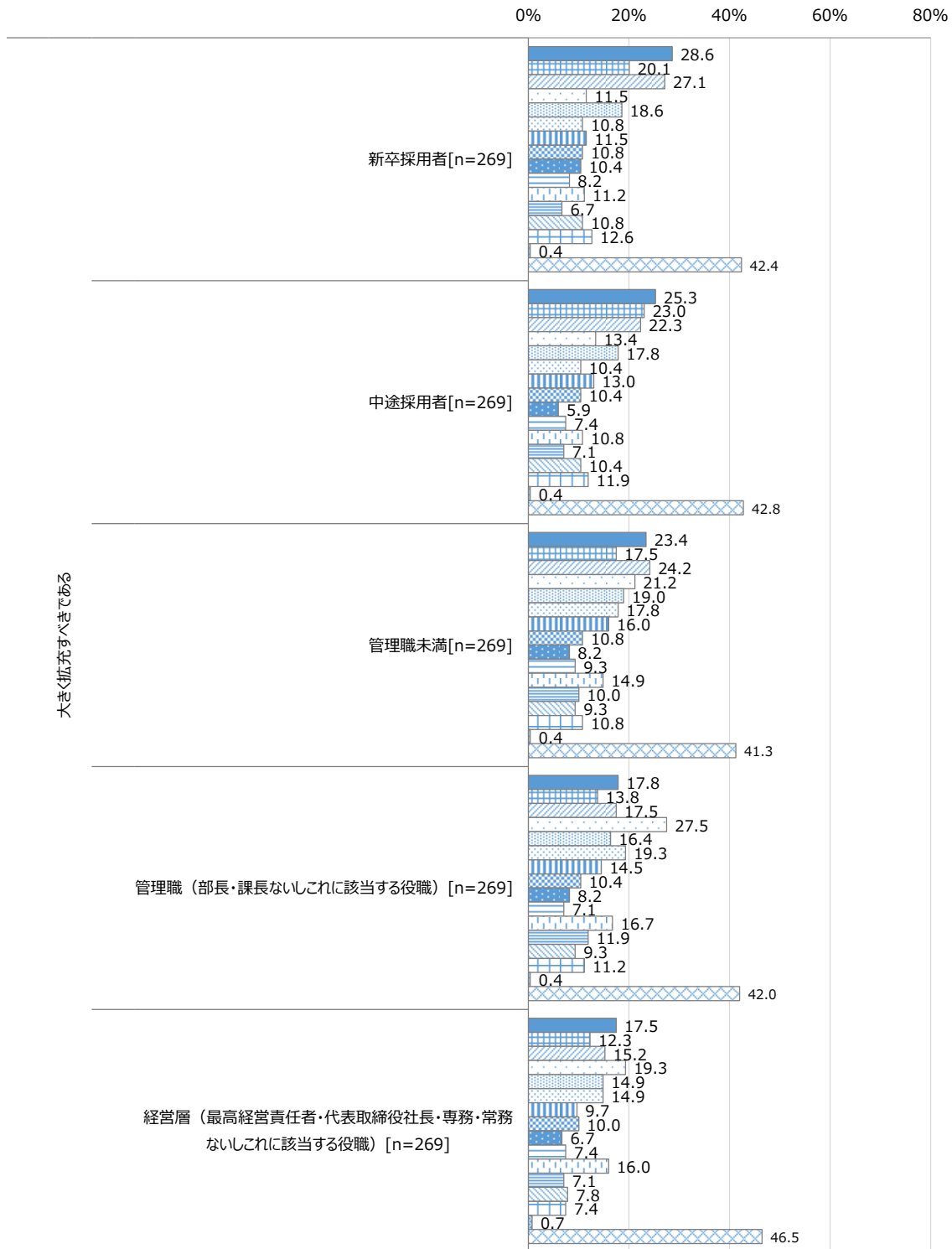


図 2-100 今後拡充したい Off-JT の対象者、内容 (2/6)

- 特定の専門分野における体系的な理論
- リーダーシップ、マネジメント能力
- 課題解決スキル
- ▨ 統計・データ解析、プログラミング
- ▨ 自身の職場での職務に固有のルール・制度等
- ▨ 拡充の必要はない
- 特定の専門分野における体系的な技能・技術
- ▨ チームワーク、協調性、周囲との協働力
- ▨ 語学（外国語）
- ▨ 企業・組織の社会的規範に関する知識
- ▨ 自身の職場での職務に固有の技能・技術等
- ▨ コミュニケーション能力
- ▨ ビジネスマネジメントに関する知識
- ▨ P C や一般的な業務ソフトの操作
- ▨ キャリア形成に関する知識
- ▨ その他

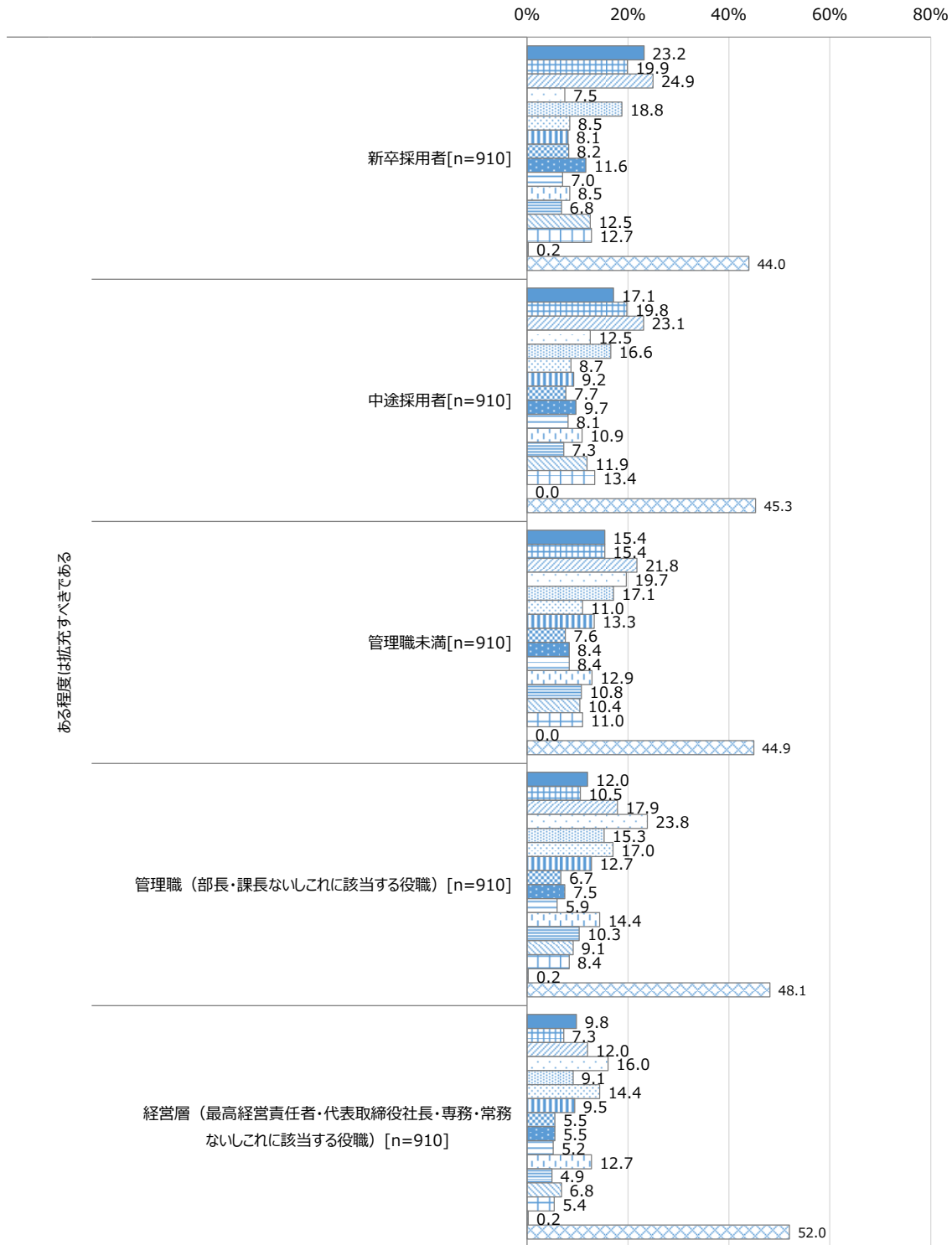


図 2-101 今後拡充したい Off-JT の対象者、内容 (3/6)

- 特定の専門分野における体系的な理論
- リーダーシップ、マネジメント能力
- 課題解決スキル
- 統計・データ解析、プログラミング
- 自身の職場での職務に固有のルール・制度等
- 拡充の必要はない
- 特定の専門分野における体系的な技能・技術
- チームワーク、協調性、周囲との協働能力
- 語学（外国語）
- 企業・組織の社会的規範に関する知識
- 自身の職場での職務に固有の技能・技術等
- コミュニケーション能力
- ビジネスマネジメントに関する知識
- P C や一般的な業務ソフトの操作
- キャリア形成に関する知識
- その他

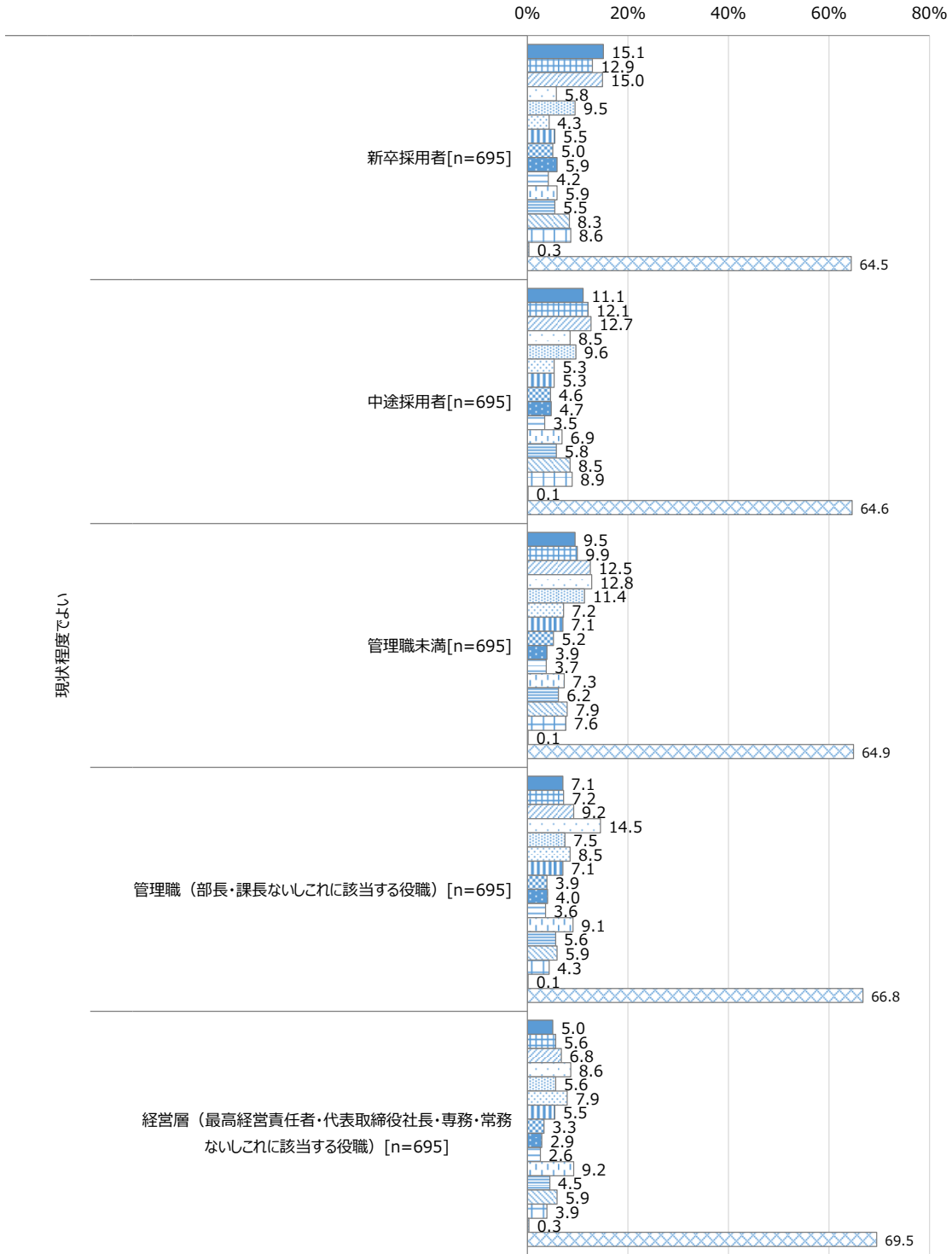


図 2-102 今後拡充したい Off-JT の対象者、内容 (4/6)

- 特定の専門分野における体系的な理論
- リーダーシップ、マネジメント能力
- 課題解決スキル
- 統計・データ解析、プログラミング
- 自身の職場での職務に固有のルール・制度等
- 拡充の必要はない
- 特定の専門分野における体系的な技能・技術
- チームワーク、協調性、周囲との協働力
- 語学（外国語）
- 企業・組織の社会的規範に関する知識
- 自身の職場での職務に固有の技能・技術等
- コミュニケーション能力
- ビジスマネジメントに関する知識
- PCや一般的な業務ソフトの操作
- キャリア形成に関する知識
- その他

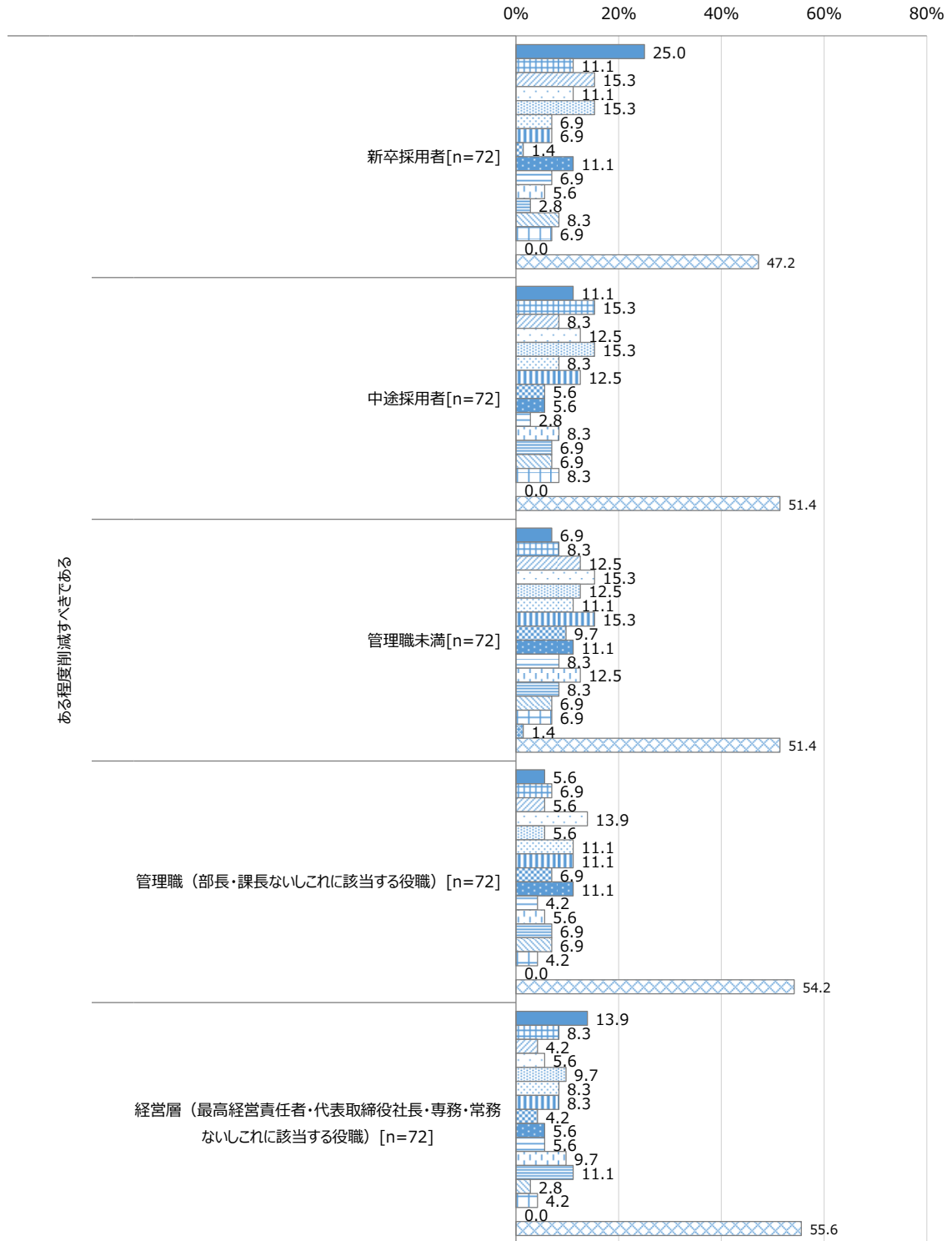


図 2-103 今後拡充したい Off-JT の対象者、内容（5/6）

- 特定の専門分野における体系的な理論
- リーダーシップ、マネジメント能力
- ▨ 課題解決スキル
- ▨ 統計・データ解析、プログラミング
- ▨ 自身の職場での職務に固有のルール・制度等
- ▨ 拡充の必要はない
- ▨ 特定の専門分野における体系的な技能・技術
- ▨ チームワーク、協調性、周囲との協働力
- ▨ 語学（外国語）
- ▨ 企業・組織の社会的規範に関する知識
- ▨ 自身の職場での職務に固有の技能・技術等
- ▨ コミュニケーション能力
- ▨ ビジネスマネジメントに関する知識
- ▨ P C や一般的な業務ソフトの操作
- ▨ キャリア形成に関する知識
- ▨ その他

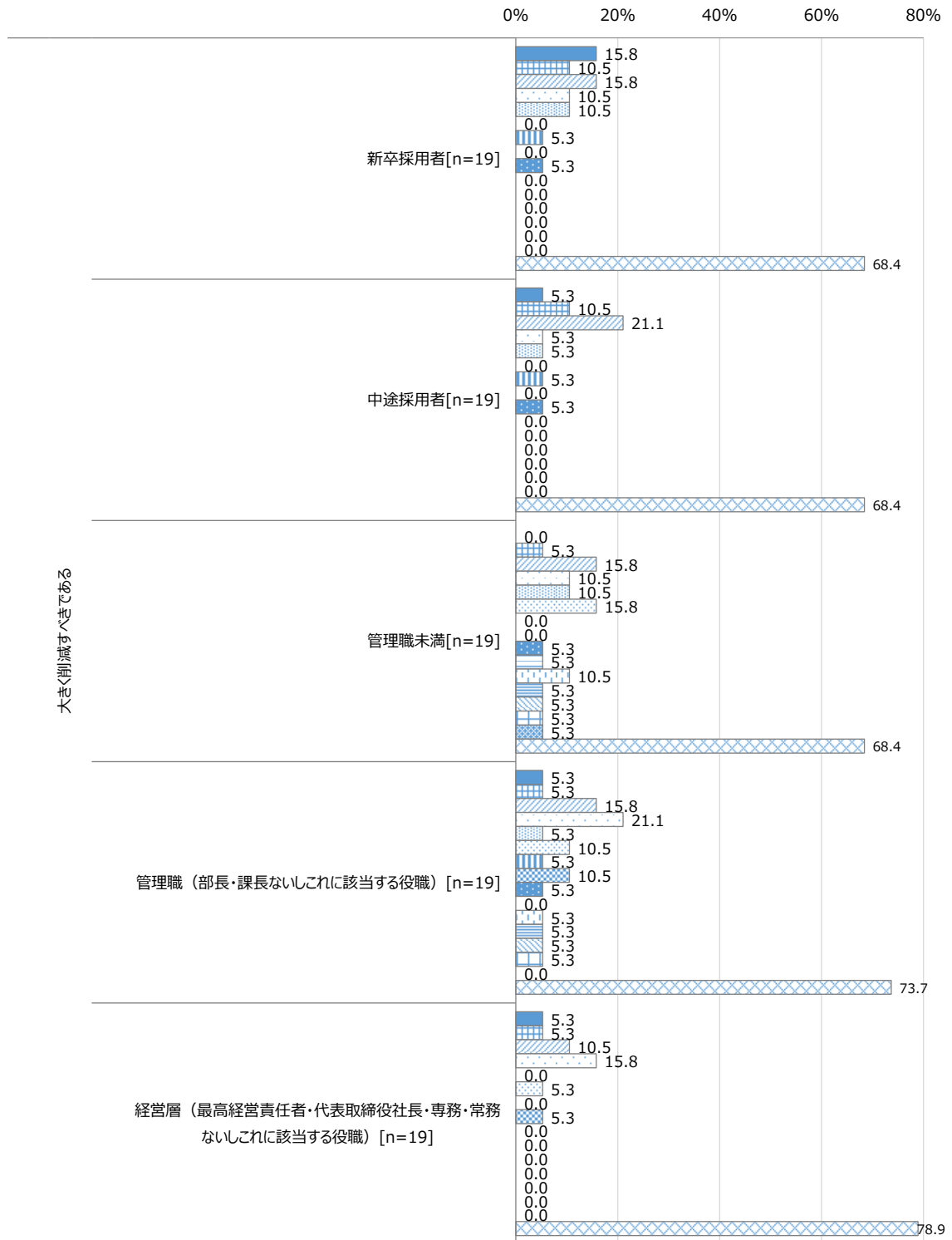


図 2-104 今後拡充したい Off-JT の対象者、内容 (6/6)

(2) 今後 Off-JT を拡充したい理由

能力開発・教育訓練業務の拡充意向によらず、「従業員全体の能力底上げ」が理由として多い。一方、能力開発・教育訓練業務を大きく拡充すべきと考える回答者では、「経営方針で強化すべきと位置づけられたため」という理由の割合が大きい。

【QD4】 QD1R で、今後 Off-JT を拡充したい対象者と内容を選択していただきましたが、Off-JT を拡充したい理由は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。(MA)
(n=1074)

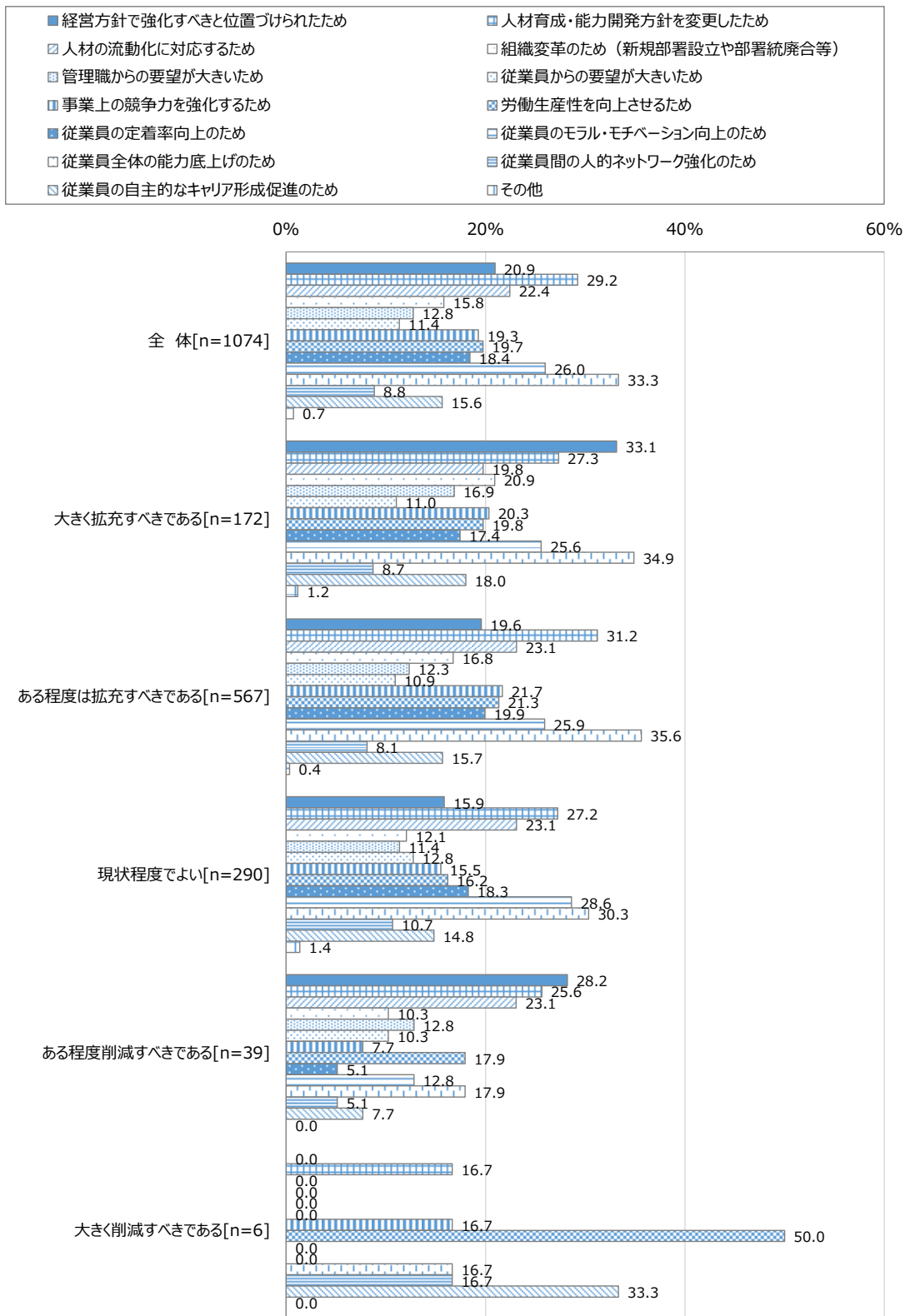


図 2-105 今後 Off-JT を拡充したい理由

(3) Off-JT を実施するうえでの課題

能力開発・教育訓練業務の拡充意向によらず、どの対象者にどの知識やスキルを身に着けさせるべきかの特定と、対象者の時間確保に課題を感じている。

能力開発・教育訓練業務の拡充意向によらず、「身につけさせるべき知識やスキルの特定が難しい」「対象者の時間確保が困難である」「適切な対象者の特定が難しい」の割合が大きい。

【QD2】Off-JT を実施するうえで感じている課題はありますか。当てはまるものをすべて選択してください。（MA）(n=1170)

- 身につけさせるべき知識やスキルの特定が難しい
- 適切な教育プログラムが見つからない
- 予算が少ない
- 対象者の学習意欲が低い
- 現場管理職がOff-JTを重視していない
- 育成しても辞めてしまう
- その他
- 適切な対象者の特定が難しい
- Off-JTを企画・管理できる人材がない
- 対象者の時間確保が困難である
- 経営層がOff-JTを重視していない
- Off-JTの制度がない（または不十分）
- 事業や技術の変化が速く、対応しきれない
- 特に課題はない

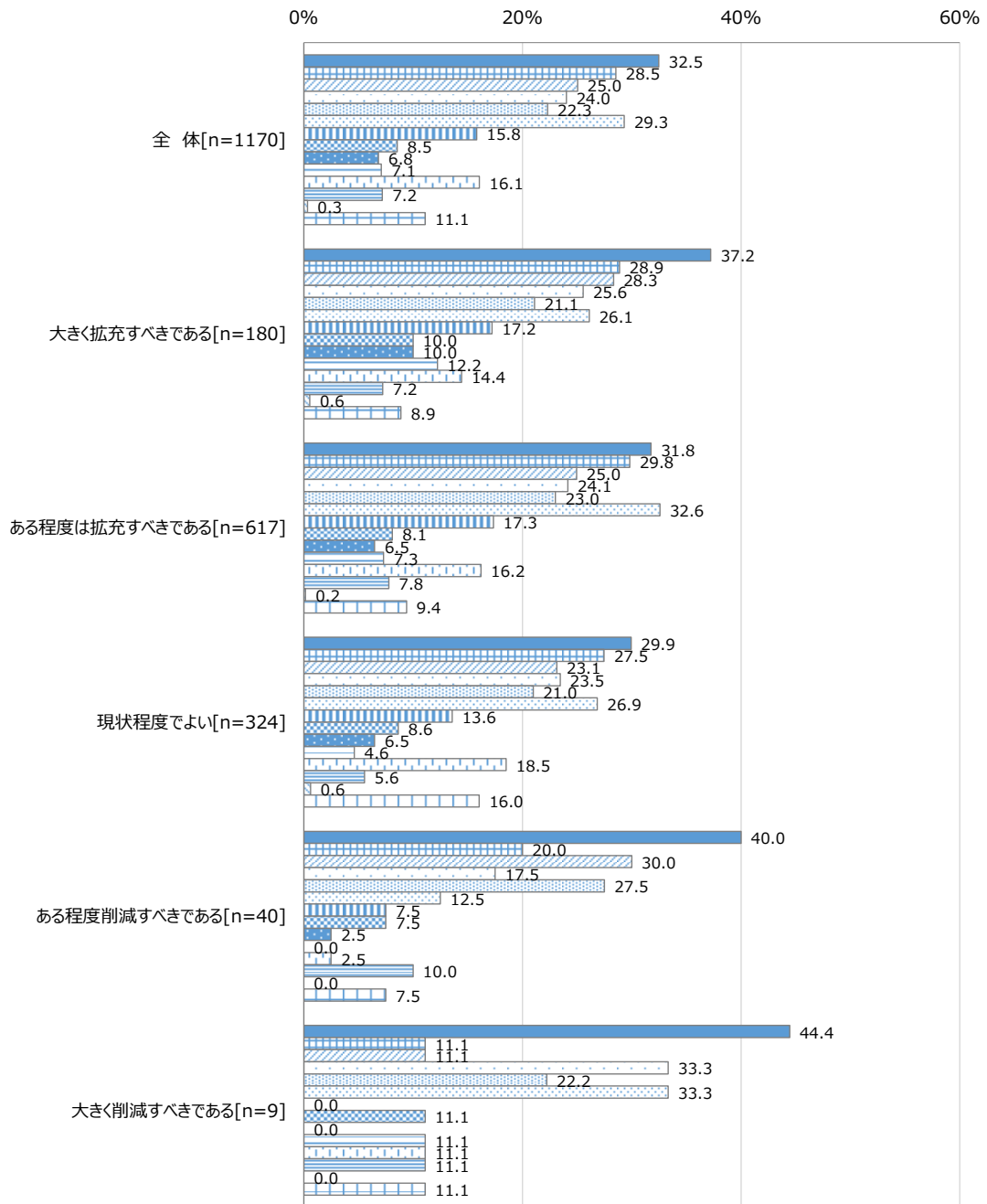


図 2-106 Off-JT を実施するうえでの課題

(4) Off-JT 導入のための情報収集方法

能力開発・教育訓練業務の拡充意向によらず、業界団体等からの案内を探すケースが多い。一方、能力開発・教育訓練業務の拡充意向がある回答者では、インターネット検索等自身で探すケースが多い。

【QD3】 あなたの所属組織において Off-JT (注) を導入する際、どのようにして導入のための情報収集を行いましたか。当てはまるものをすべて選択してください。(MA) (n=1170)
(注)本調査における「Off-JT」とは、業務命令に基づき、通常の仕事を一時的に離れて行う教育訓練(研修)のことを言い、例えば、社内で実施する教育訓練(労働者を 1 か所に集合させて実施する集合訓練など)や、社外で実施する教育訓練(業界団体や民間の教育訓練機関など社外の教育訓練機関が実施する教育訓練に労働者を派遣することなど)を含みます。

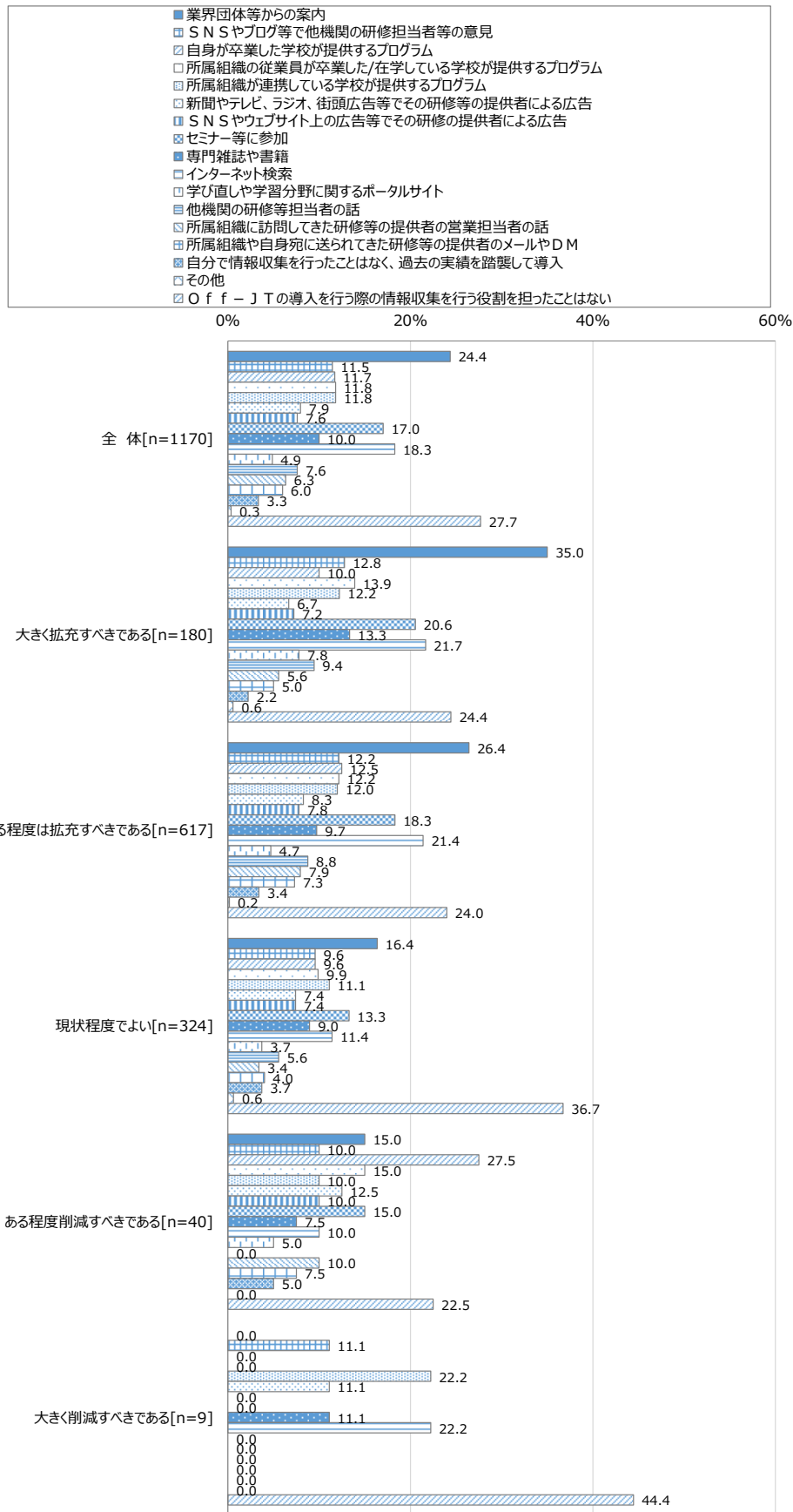


図 2-107 Off-JT 導入のための情報収集方法

(5) Off-JT 実施における外部機関活用可能性

全体のうち約 8 割が外部機関活用意向がある。能力開発・教育訓練業務の拡充意向がある回答者ほど、すでに外部機関を活用している。

【QD5】 その Off-JT を今後拡充していくに当たり、外部機関活用（注）の可能性はありますか。もっとも当てはまるものを 1 つ選択してください。（SA）（n=1074）
 (注) 「外部機関活用」とは、以下を指します。
 社内で実施する教育訓練(労働者を 1 か所に集合させて実施する集合訓練など)を外部機関に委託して企画・実施することや、社外で実施する教育訓練(大学、専門学校、業界団体や民間の教育訓練機関など社外の教育訓練機関が実施する教育訓練に労働者を派遣することなど)を企画・実施すること。

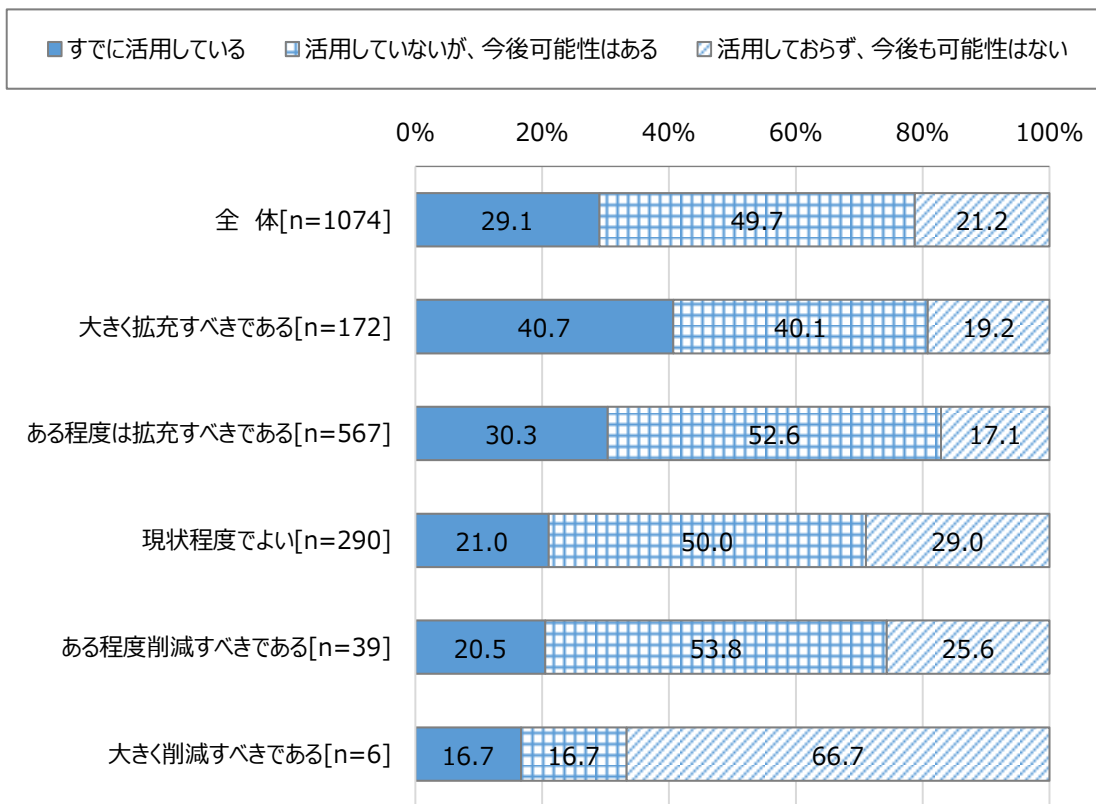


図 2-108 Off-JT 実施における外部機関活用可能性

(6) Off-JT 実施において外部機関に期待する条件

能力開発・教育訓練業務の拡充意向によらず、高い専門性、柔軟なプログラム設計が期待されている。

【QD6】活用に当たり外部機関に期待する条件は何ですか。もっとも重視するものを最大3つまで選択してください。(MA) (n=846)

- 従業員の希望や能力水準、業務内容を踏まえた柔軟なプログラム設計ができる
- 人事研修担当の業務負担が軽減される
- 過去に所属組織が同じ目的で活用した実績がある
- 過去に所属組織の採用・人材育成業務上での連携がある
- 講師に豊富な指導経験がある
- 教育実績が明確に示されている
- 従業員のモチベーションを向上させられる
- 料金体系や契約に至るまでのプロセスが明確である
- 育成したい能力・スキルに関する高い専門性を有している
- 想定する予算から大きく乖離しない
- 過去に所属組織と事業活動上での連携がある
- 講師に豊富な実務経験がある
- 活用により期待できる効果が明確に示されている
- 補助金支給等の公的支援対象となる
- 活用後のフォローや効果検証がある
- その他

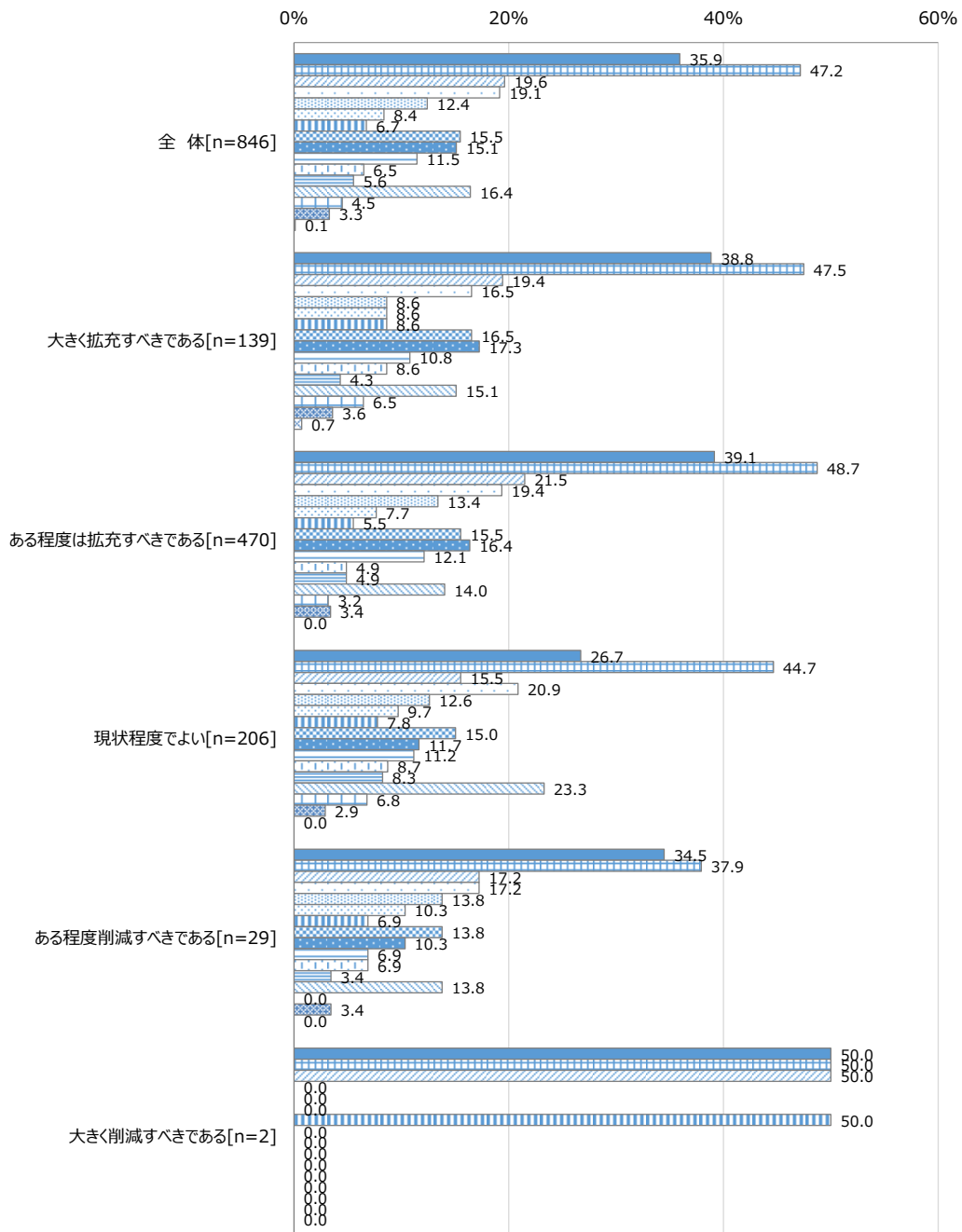


図 2-109 Off-JT において外部機関に期待する条件

(7) DX 関連 Off-JT 実施状況

DX 関連 Off-JT を実施しているのは全体のうち約 2 割である。能力開発・教育訓練業務の拡充意向が強いほど、DX 関連 Off-JT の実施率が高い。

【QD8A】あなたの所属組織において、デジタル・トランスフォーメーション（注 1）に対応する人材育成を目的とする Off-JT（注 2）を実施していますか。（SA）（n=1965）
 （注 1）デジタル・トランスフォーメーション（DX: Digital Transformation）とは、デジタル技術を前提として、顧客価値の実現に向け、ビジネスモデルや組織、業務、企業文化・風土等を抜本的に変革し、新たな成長・競争力強化につなげる取組を指します。
 （注 2）本調査における「Off-JT」とは、業務命令に基づき、通常の仕事を一時的に離れて行う教育訓練（研修）のことを言い、例えば、社内で実施する教育訓練（労働者を 1 か所に集合させて実施する集合訓練など）や、社外で実施する教育訓練（業界団体や民間の教育訓練機関など社外の教育訓練機関が実施する教育訓練に労働者を派遣することなど）を含みます。

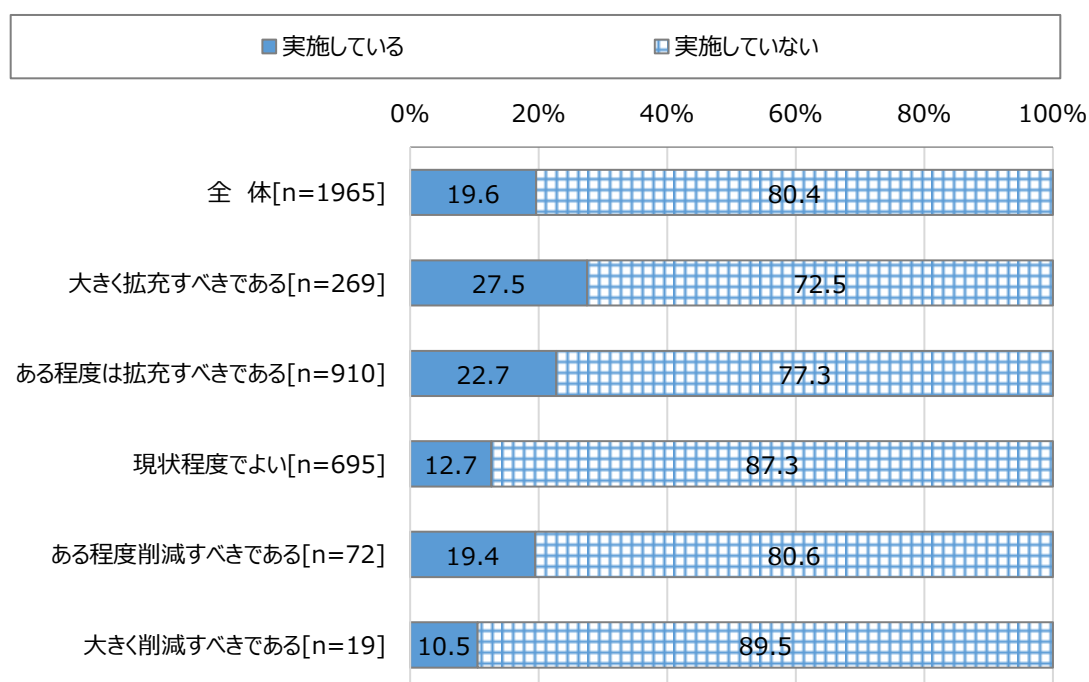


図 2-110 DX 関連 Off-JT 実施状況

(8) DX 関連 Off-JT 拡充意向

能力開発・教育訓練業務の拡充意向が強いほど、DX 関連 Off-JT の拡充意向も強い。

【QD8】 あなたの所属組織におけるデジタル・トランスフォーメーション（注1）に対応する人材育成を目的とする Off-JT（注2）について、あなたのお考えにもっとも近いものはどれですか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=1965）
 （注1）デジタル・トランスフォーメーション（DX: Digital Transformation）とは、デジタル技術を前提として、顧客価値の実現に向け、ビジネスモデルや組織、業務、企業文化・風土等を抜本的に変革し、新たな成長・競争力強化につなげる取組を指します。
 （注2）本調査における「Off-JT」とは、業務命令に基づき、通常の仕事を一時的に離れて行う教育訓練（研修）のことを言い、例えば、社内で実施する教育訓練（労働者を1か所に集合させて実施する集合訓練など）や、社外で実施する教育訓練（業界団体や民間の教育訓練機関など社外の教育訓練機関が実施する教育訓練に労働者を派遣することなど）を含みます。

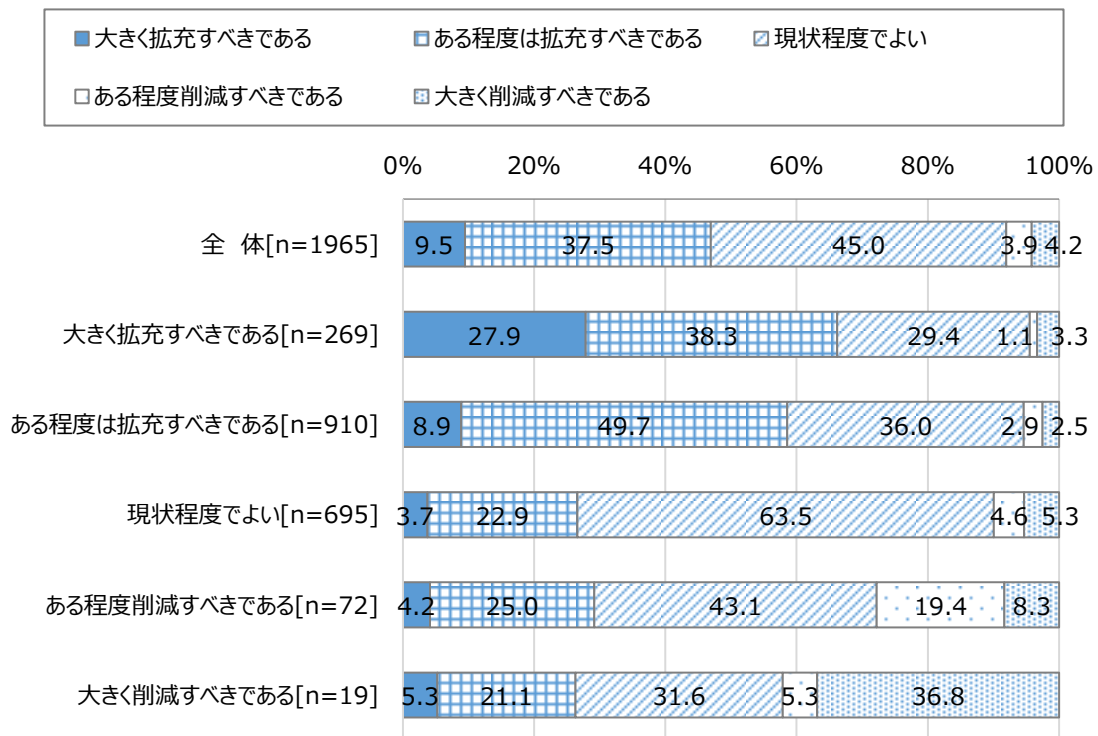


図 2-111 DX 関連 Off-JT の拡充意向

(9) DX 関連 Off-JT 拡充における課題

能力開発・教育訓練業務の拡充意向によらず、どの対象者にどの知識やスキルを身に着けさせるべきかの特定に課題を感じている。

3 番目に多かった課題は、「大きく拡充すべきである」回答者では「適切な教育プログラムが見つからない」、「ある程度拡充すべきである」回答者では「対象者の時間確保が困難である」、「現状程度でよい」回答者では「予算が少ない」となった。

【QD9】 DX に対応する人材育成を目的とする Off-JT を今後拡充していくうえでの課題はありますか。当てはまるものをすべて選択してください。(MA) (n=922)

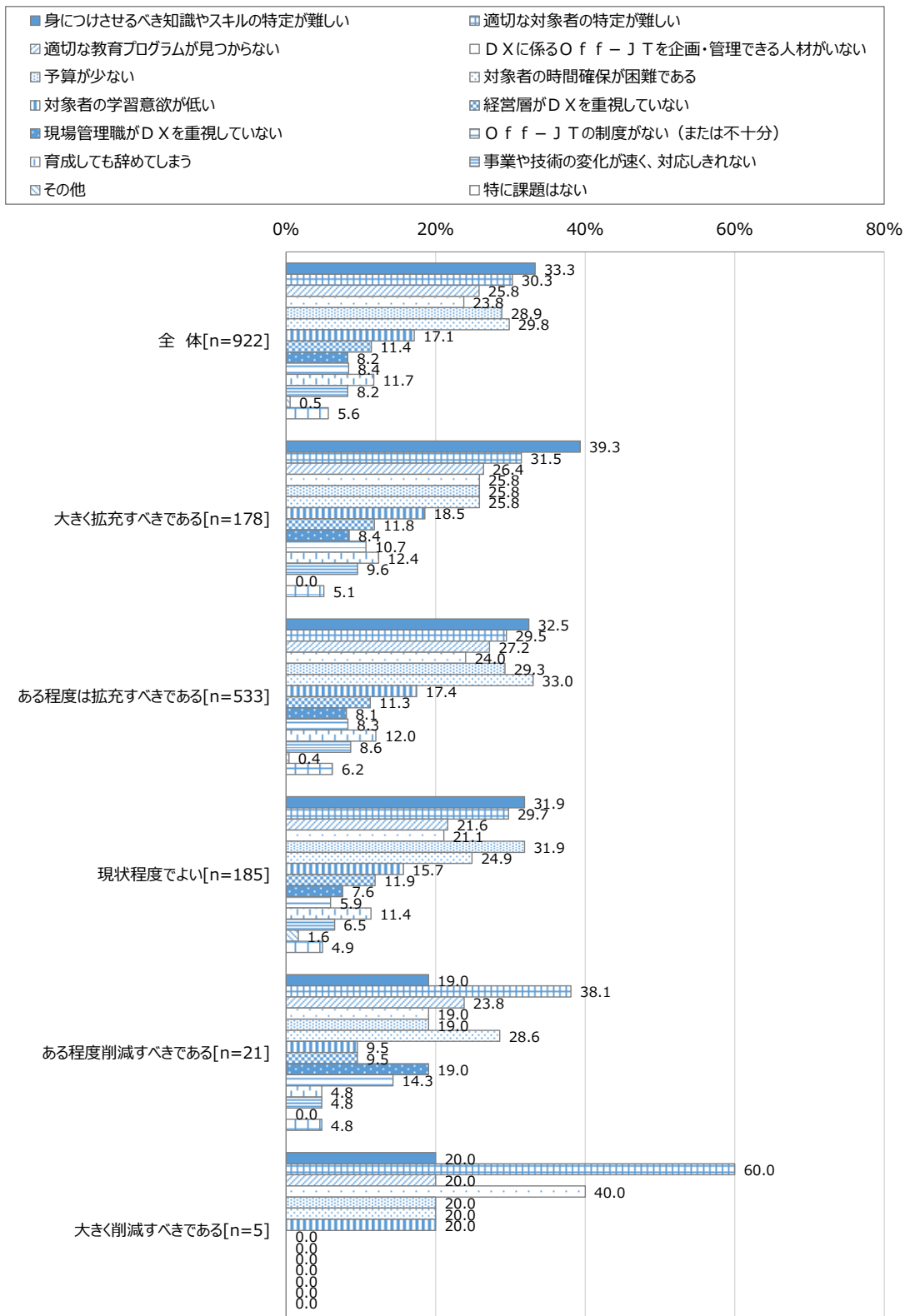


図 2-112 DX 関連 Off-JT 拡充における課題

2.2.15 受講者から見た「専修学校の強み」

受講者から見た「専修学校の強み」は、学習における所要時間や実施時期の適切さ、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ、であり、専修学校教育経験者が評価あるいは未経験者が期待している。

「専修学校教育経験者」のうち「学び直し意欲が高い層」は、上記（学習における所要時間や実施時期の適切さ、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ）のほか、プログラム等の情報の充実も評価している。

「専修学校教育未経験者」のうち「学び直し意欲が高い層」は、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さのほか、効果や時間に見合った費用や安価であること、指導方法の適切さ・講師の優秀さも期待している。

- 「専修学校教育経験者」が評価する強みは、学習における所要時間や実施時期の適切さ、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ、通学先へのアクセスや学習環境のよさであり、このうち、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さを最も評価している。
- 「専修学校教育経験者」は、いずれの項目についても A 層が最も高く評価しており、多くの項目では学び直し意欲が高いほど評価が高い。特に「学び直し意欲が高い層」が評価する強みは、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ、学習における所要時間や実施時期の適切さ、プログラム等の情報の充実である。
- 「専修学校教育未経験者」が期待する点は、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ、効果や時間に見合った費用や安価であること、学習における所要時間や実施時期の適切さである。
- 「専修学校教育未経験者」は、いずれの項目においても、学び直し意欲が高いほど強く期待しているが、特に「学び直し意欲が高い層」の持つ期待は、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ、効果や時間に見合った費用や安価であること、指導方法の適切さ・講師の優秀さである。

(1) 「専修学校教育経験者」が評価した点

「専修学校教育経験者」が評価する強みは、学習における所要時間や実施時期の適切さ、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ、通学先へのアクセスや学習環境のよさである。

専修学校が提供する学習プログラムを実施した評価について、「十分だった」の割合が最も大きいのは「所要時間や実施時期が適切だったか」で33.2%、次いで「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか」で33.0%、「通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか」で31.5%と続く。

一方、「不十分だった」の割合が最も大きいのは「行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか」で20.8%、次いで「勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか」で18.0%、「講義意外にきめ細やかな支援（個別支援、キャリア支援等）があったか」で16.1%と続く。

【QE1_1】 これまでの設問で、最終学歴を専修学校と回答した方、もしくは過去3年間で提供主体が専修学校である学習を実施したと回答した方にお伺いします。あなたが実施した専修学校が提供する学習プログラム（注）に対する評価について、それぞれもっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=2017）

（注）複数の実施経験がある場合は、もっとも直近のものについてお答えください。

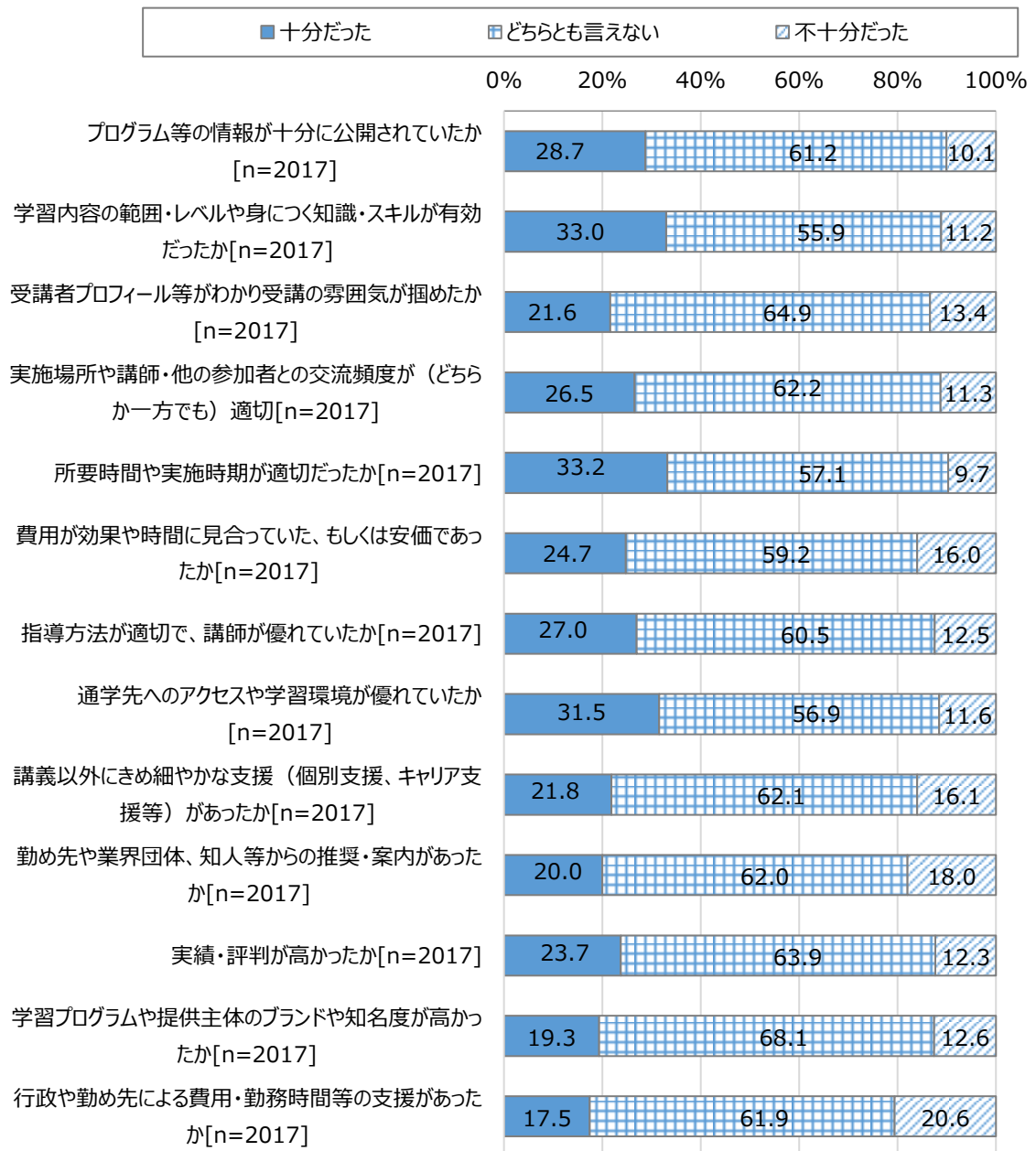


図 2-113 「専修学校教育経験者」が評価した点

(2) 「専修学校教育経験者」がより具体的に評価した点

「専修学校教育経験者」が評価するより具体的な強みは、学習の開始時期の適切さ・柔軟さ、学習内容のレベルの適切さ・柔軟さ、身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っていること、である。(2.2.15(1)の上位3つにおいて「十分だった」の割合が最も大きかった項目)

2.2.15(1)において各項目を「十分だった」と評価した専修学校教育経験者が、より具体的に「十分だった」と評価した点は以下の通りである。

大項目	左記のうち「十分だった」の割合が最も大きい項目
プログラム等の情報が十分に公開されていたか	事前説明会や体験学習参加、試用ができた (59.9%)
学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか	学習内容のレベルが適切であった、もしくは柔軟に選択できた (48.7%)
受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気が掴めたか	受講の様子がわかるようなコンテンツ紹介があった (57.3%)
実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切であること	通学による対面指導が受けられた (53.6%)
所要時間や実施時期が適切だったか	学習の開始時期が適切だった、もしくは柔軟に選択できた (70.3%)
費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価であったか	費用対効果が折り合った (55.9%)
指導方法が適切で、講師が優れていたか	指導法が実践的であること (43.8%)
通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか	身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っていた (52.2%)
講義以外にきめ細やかな支援(個別支援、キャリア支援等)があったか	質問にきめ細かく対応してもらえた (47.0%)
勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか	勤め先や業界団体等からの推奨・案内があった (54.6%)
実績・評判が高かったか	学習経験者数が多かった (48.0%)
学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高かったか	学習プログラムの知名度が高かった (57.7%)
行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか	国や自治体等からの費用補助があった (38.1%)

【QE1_3】QE1_1で「十分だった」を選択した項目それぞれについて、より具体的に「十分だった」と感じた点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。(各 MA)

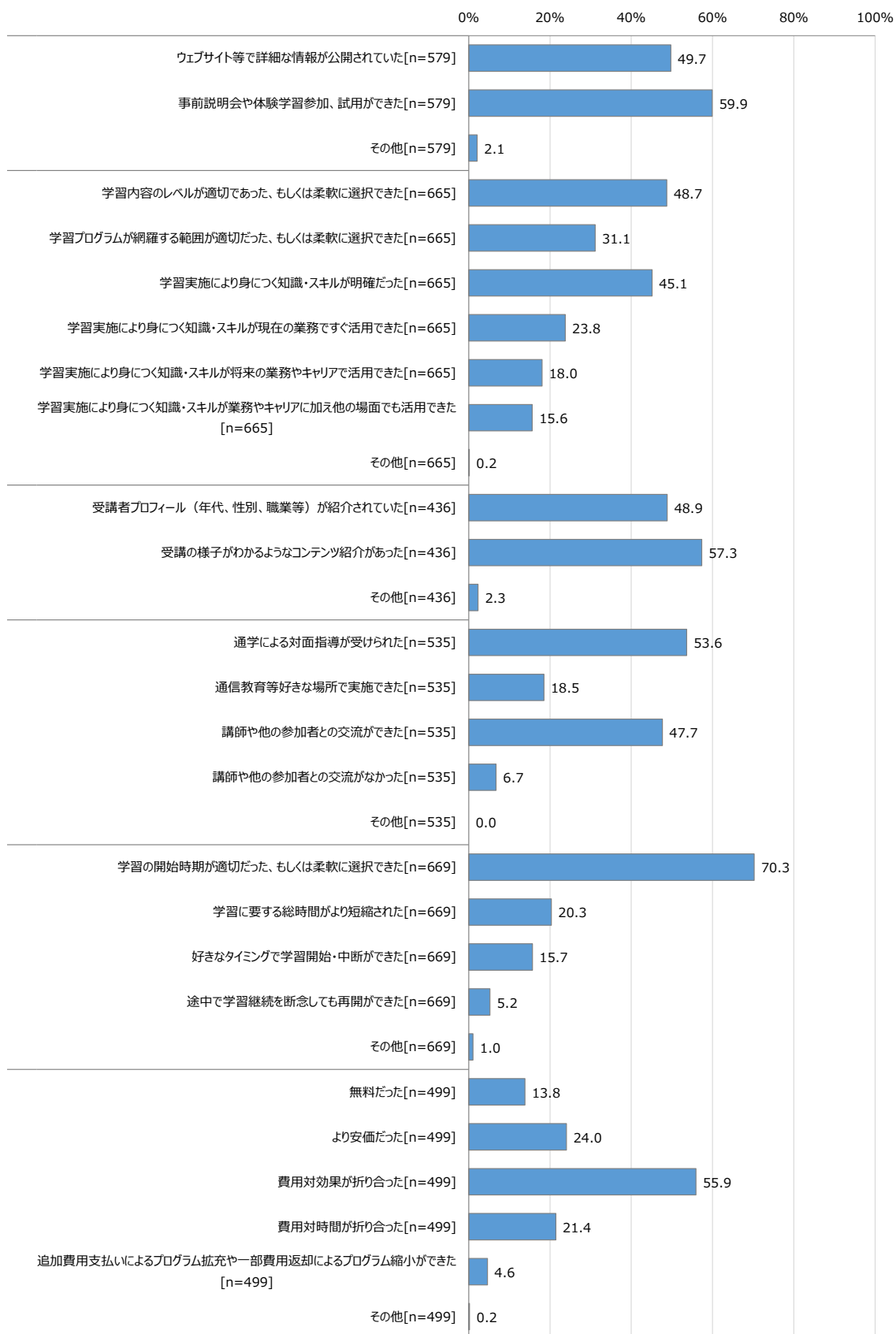


図 2-114 「専修学校教育経験者」がより具体的に評価した点（1/2）

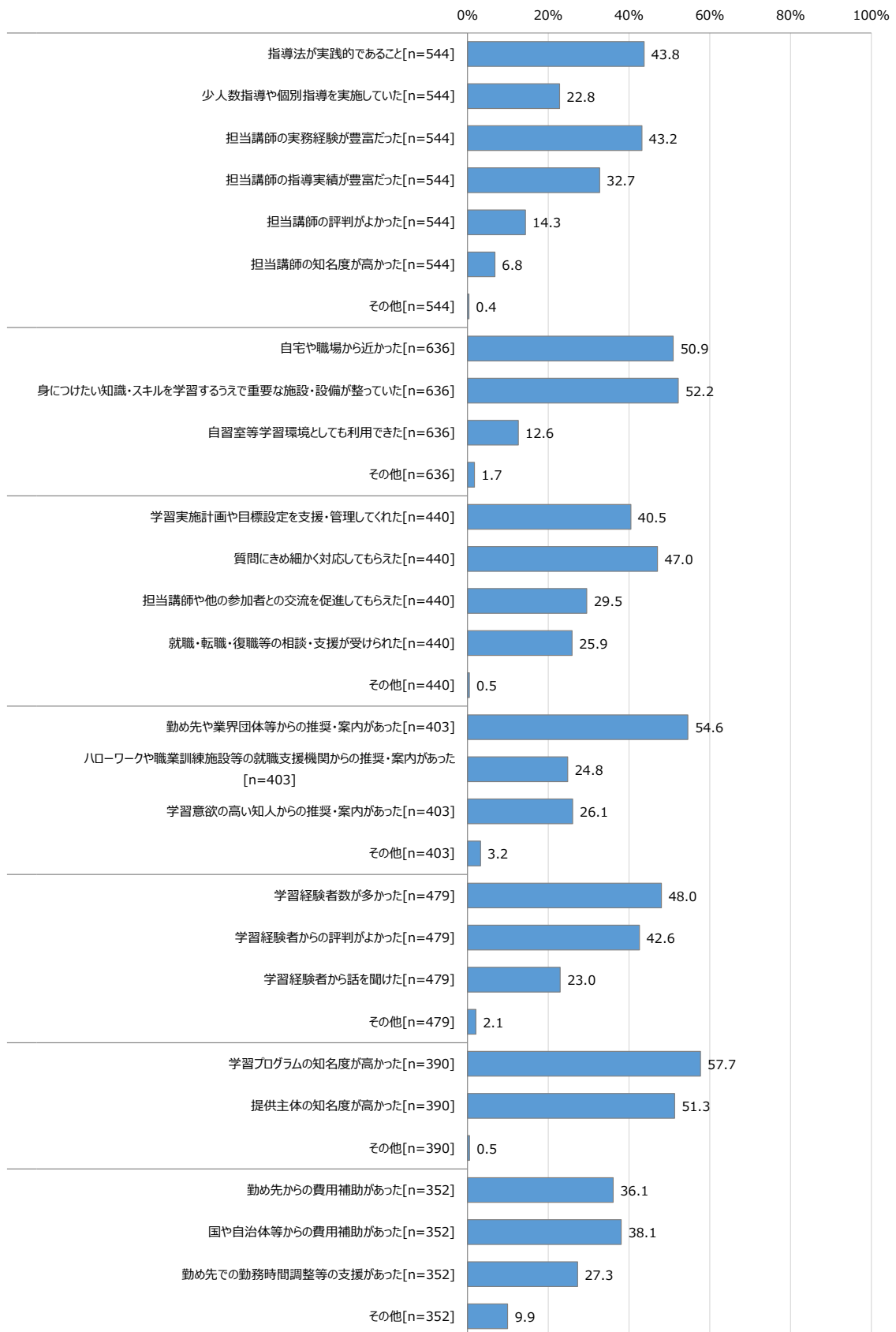


図 2-115 「専修学校教育経験者」がより具体的に評価した点 (2/2)

(3) 「専修学校教育経験者」が最も評価した点

「専修学校教育経験者」が最も評価した点は、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さである。

専修学校が提供する学習プログラムを実施した評価のうち、最も満足した点で最も割合が大きいのは、「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか」で26.2%、次いで「通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか」が11.8%と続く。

【QE1_6】QE1_1で選択した「十分だった」点のうちもっとも満足した点、選択した「不十分だった」点のうちもっとも不満だった点はそれぞれ何ですか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。(各SA) (n=1142)
⇒もっとも満足した点のみを集計。

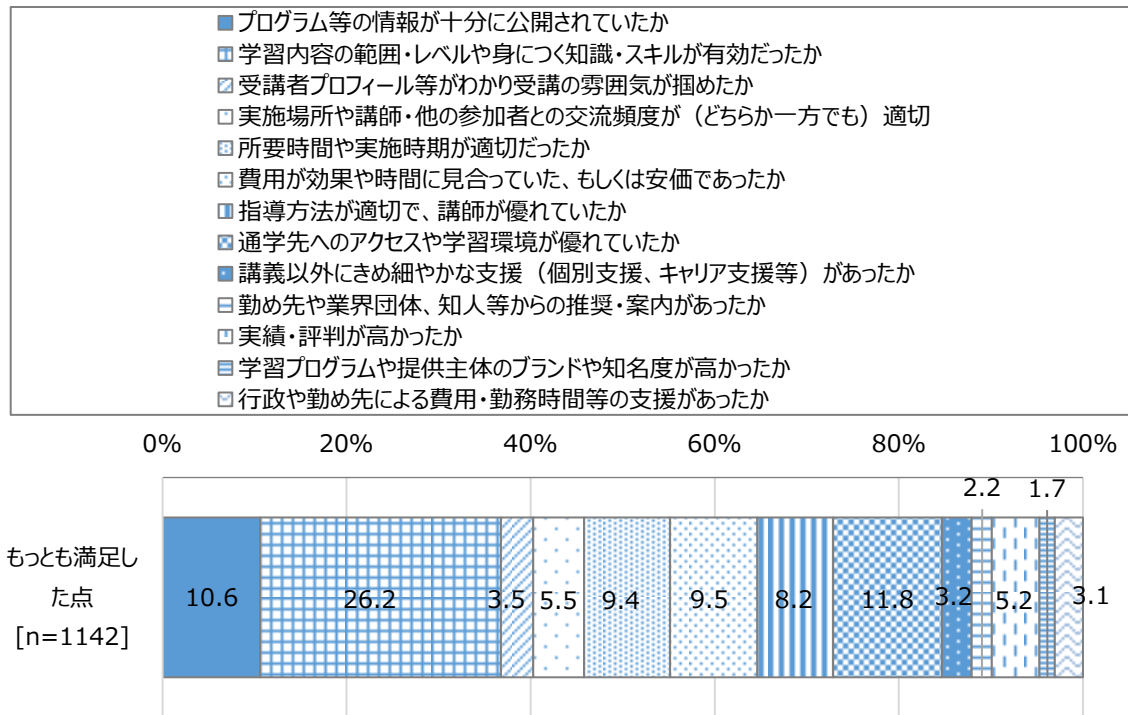


図 2-116 「専修学校教育経験者」が最も評価した点

(4) 「専修学校教育未経験者」が期待する点

「専修学校教育未経験者」が期待する点は、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ、効果や時間に見合った費用や安価であること、学習における所要時間や実施時期の適切さである。

専修学校が提供する学習プログラムに対する期待について、「期待する」の割合が最も大きいのは「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効である」で43.4%、次いで「費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価である」で41.3%、「所要時間や実施時期が適切である」で39.6%と続く。

一方、「期待しない」の割合が最も大きいのは「受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気は掴める」で21.5%、次いで「勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内がある」で21.0%、「実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が（どちらか一方でも）適切」で20.1%と続く。

【QE1_2】あなたは専修学校が提供する学習プログラムに対してどのような期待をお持ちですか。それぞれもっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=9551)
(注)専門学校(専修学校専門課程)は、全国に2,777校、約60万人の生徒を抱える実践的な職業教育、専門的な技術教育を行う教育機関です(数値はいずれも令和2年度学校基本調査に基づく)。

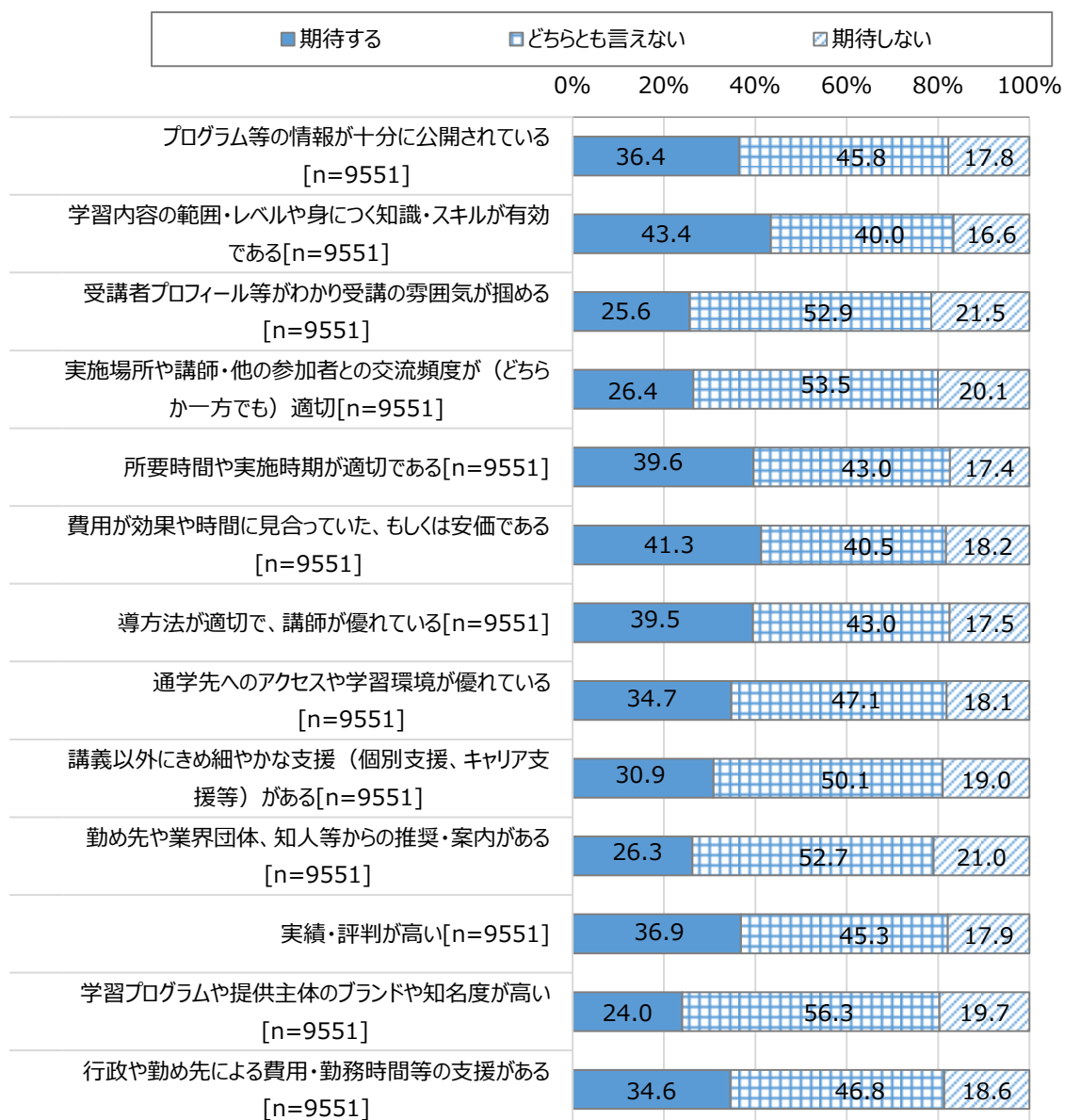


図 2-117 「専修学校教育未経験者」が期待する点

(5) 「専修学校教育未経験者」がより具体的に期待する点

「専修学校教育未経験者」のより具体的な期待は、身につく知識・スキルの明確さ、費用対効果、学習の開始時期の適切さ・柔軟さ、である。(2.2.15(4)の上位3つにおいて「期待する」の割合が最も大きかった項目)

2.2.15(4)において各項目を「期待する」と評価した専修学校教育未経験者がより具体的に期待する点は以下の通りである。

大項目	左記のうち「期待する」の割合が最も大きい項目
プログラム等の情報が十分に公開されている	Web サイト等で詳細な情報が公開されている (82.9%)
学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効である	学習実施により身につく知識・スキルが明確である (56.2%)
受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気がある	受講の様子がわかるようなコンテンツ紹介がある (71.5%)
実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切であること	通信教育等好きな場所で実施できる (68.5%)
所要時間や実施時期が適切である	学習の開始時期が適切だった、もしくは柔軟に選択できる (58.0%)
費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価である	費用対効果が折り合う (64.0%)
指導方法が適切で、講師が優れている	指導方法が適切である (70.6%)
通学先へのアクセスや学習環境が優れている	自宅や職場から近い (77.6%)
講義以外にきめ細やかな支援(個別支援、キャリア支援等)がある	質問にきめ細かく対応してもらえる (63.4%)
勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内がある	勤め先や業界団体等からの推奨・案内がある (70.2%)
実績・評判が高い	学習経験者からの評判がよい (77.7%)
学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高い	学習プログラムの知名度が高い (76.3%)
行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援がある	国や自治体等からの費用補助がある (75.1%)

【QE1_5】QE1_2で「期待する」を選択した項目それぞれについて、より具体的に期待したい点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。(各 MA)

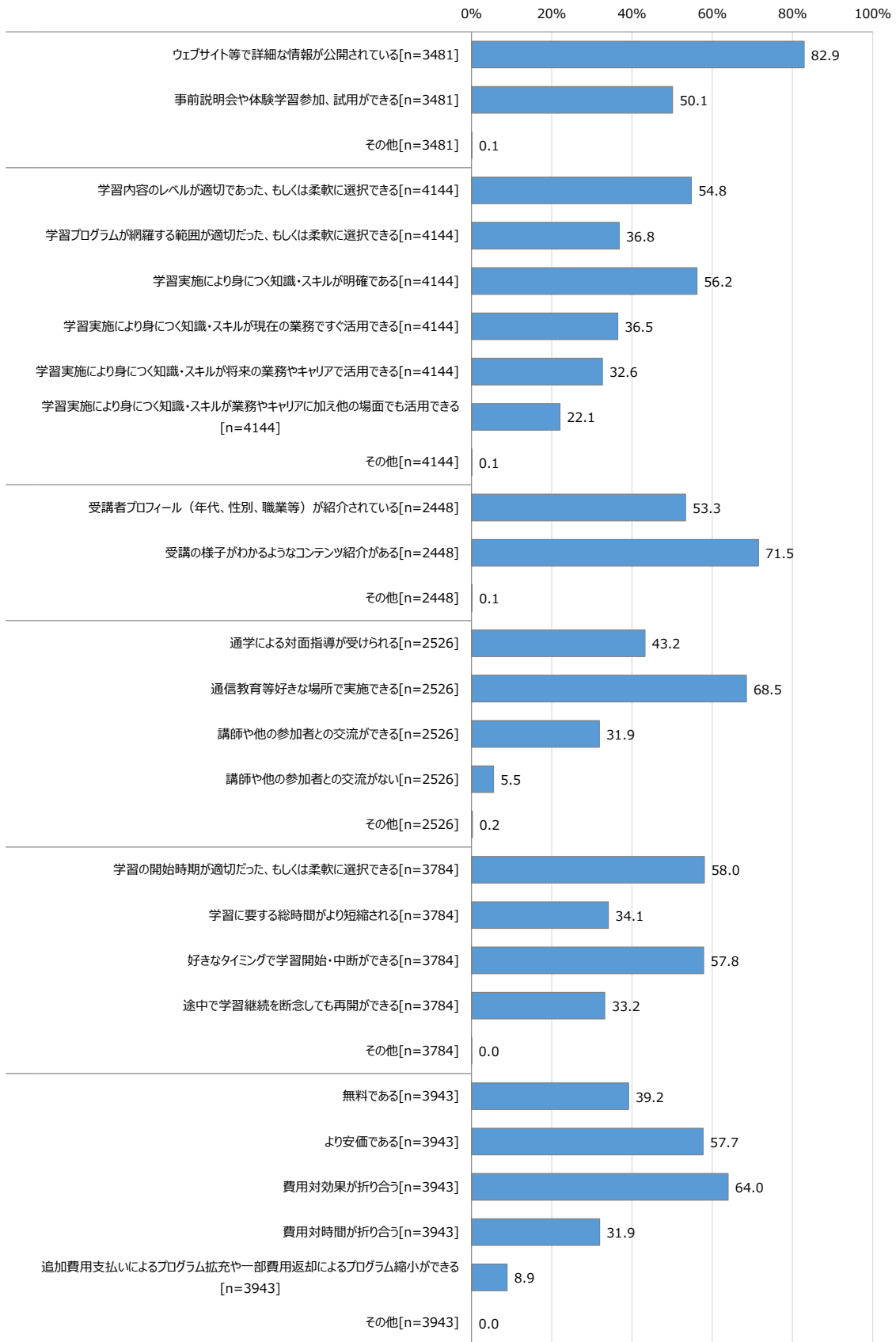


図 2-118 「専修学校教育未経験者」がより具体的に期待する点（1/2）

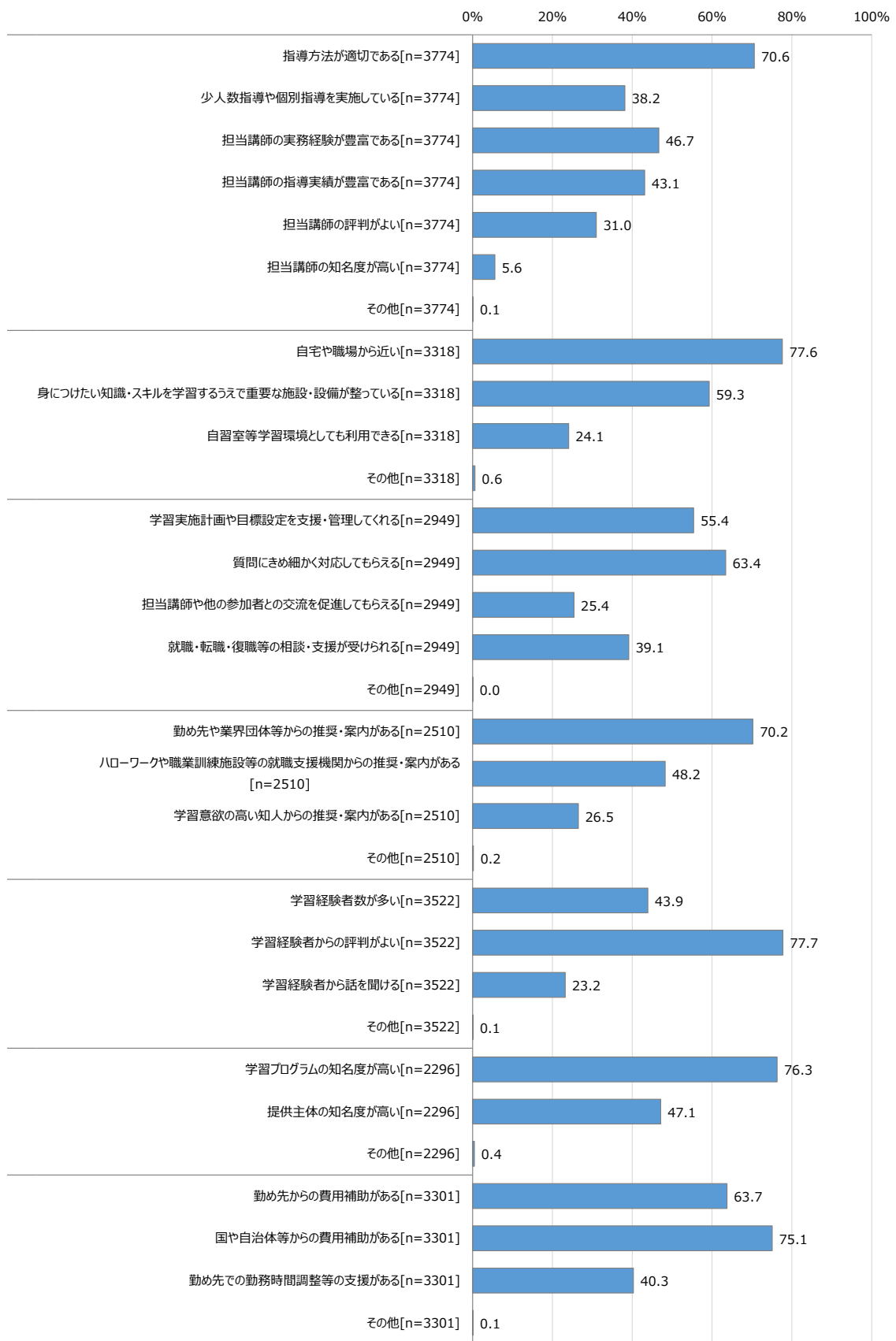


図 2-119 「専修学校教育未経験者」がより具体的に期待する点 (2/2)

(6) 「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育経験者」が評価した点

「専修学校教育経験者」は、いずれの項目についても A 層が最も高く評価しており、多くの項目では学び直し意欲が高いほど評価が高い。特に「学び直し意欲が高い層」が評価する強みは、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ、学習における所要時間や実施時期の適切さ、プログラム等の情報の充実である。

専修学校が提供する学習プログラムを実施した評価について、いずれの項目においても、A 層の「十分だった」の割合が最も大きく、多くの項目において、A 層から D 層の順に「十分だった」の割合が大きい。

特に「学び直し意欲が高い層」における「十分だった」の割合が大きいのは、「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか」（A 層 40.1%、B 層 36.3%）、「所要時間や実施時期が適切だったか」（A 層 38.8%、B 層 34.2%）、「プログラム等の情報が十分に公開されていたか」（A 層 37.6%、B 層 27.7%）等である。

【QE1_1】 これまでの設問で、最終学歴を専修学校と回答した方、もしくは過去 3 年間で提供主体が専修学校である学習を実施したと回答した方にお伺いします。あなたが実施した専修学校が提供する学習プログラム（注）に対する評価について、それぞれもっとも当てはまるものを 1 つ選択してください。（SA）（n=2017）

（注）複数の実施経験がある場合は、もっとも直近のものについてお答えください。

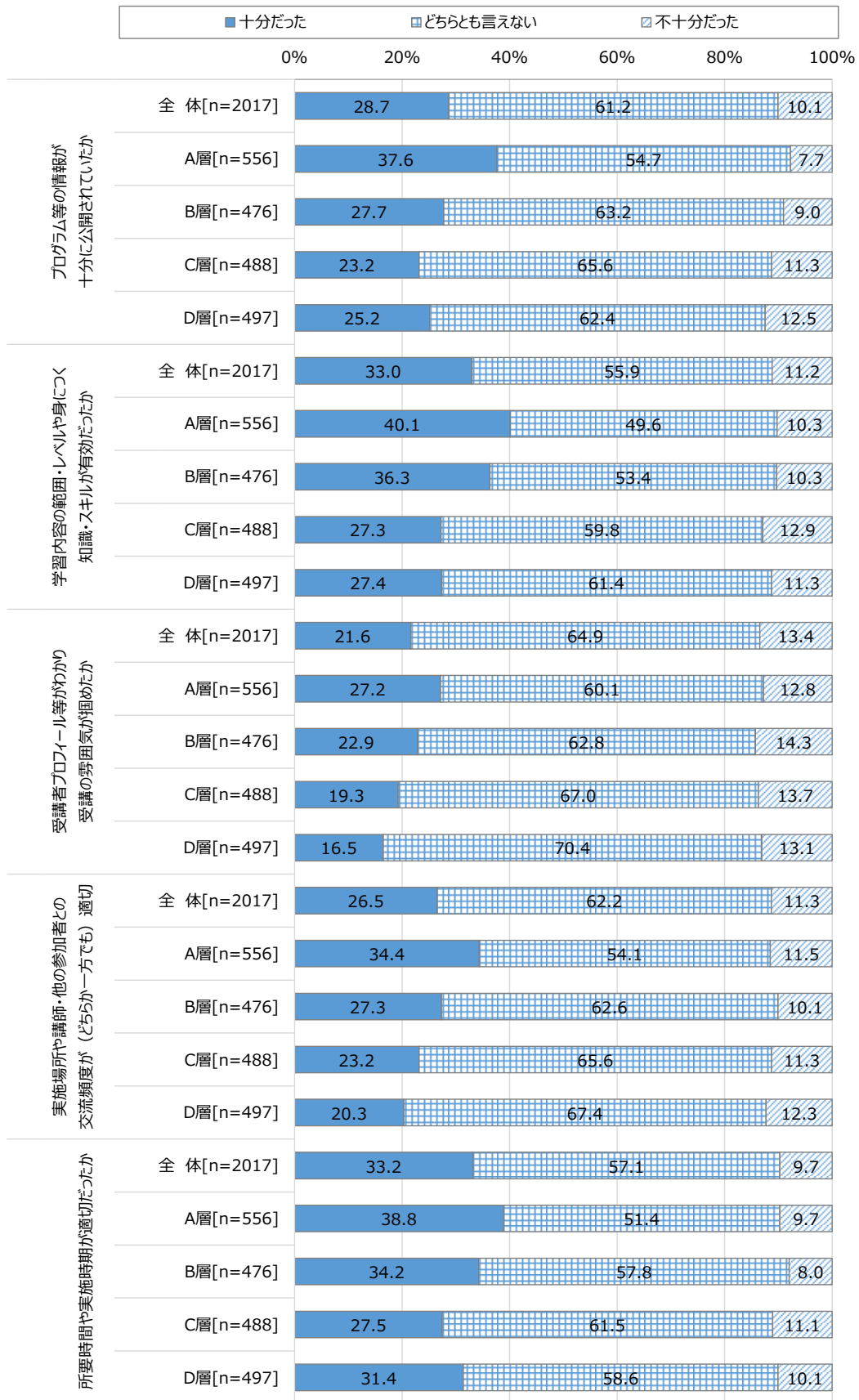


図 2-120 「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育経験者」が評価した点 (1/3)

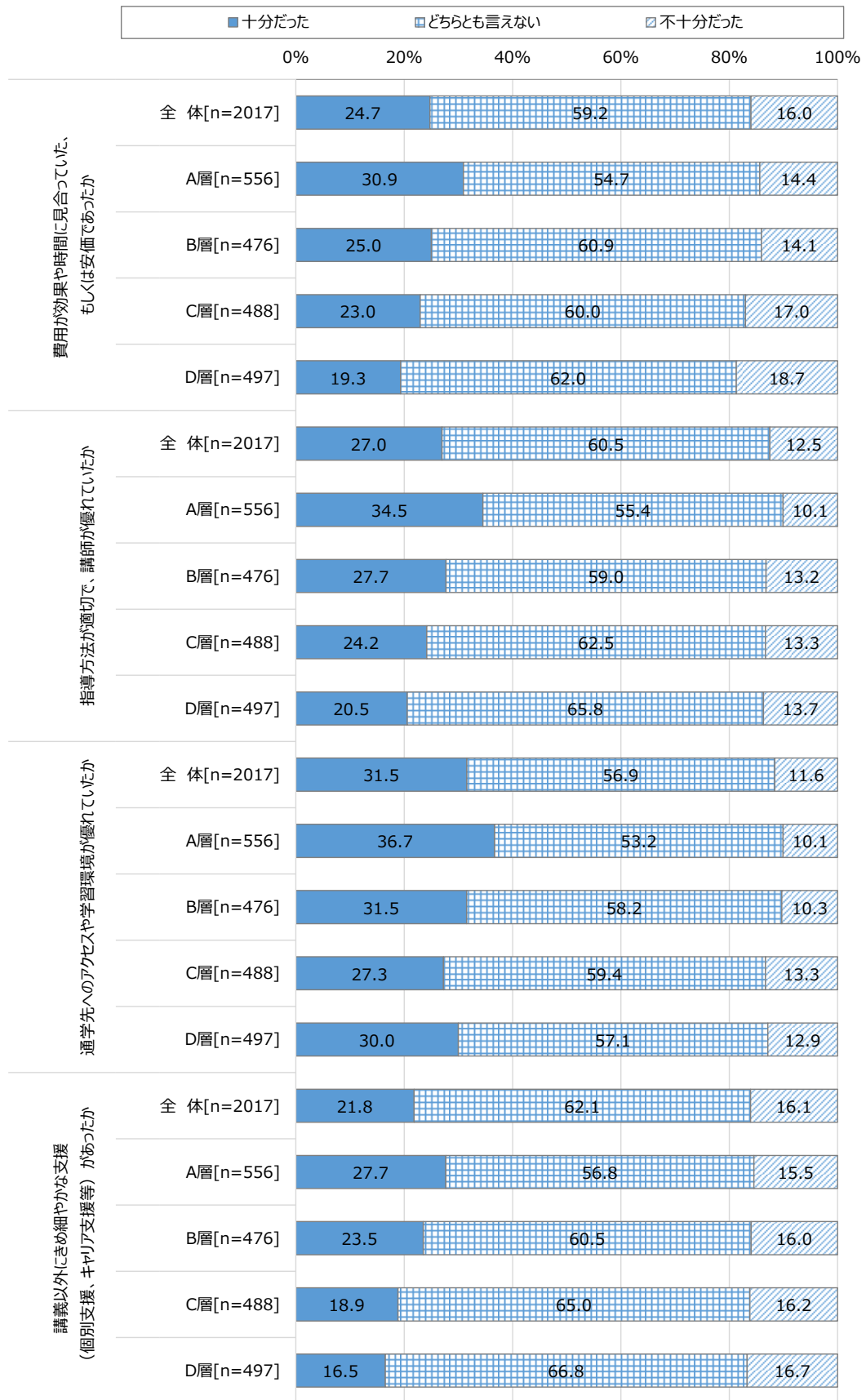


図 2-121 「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育経験者」が評価した点 (2/3)

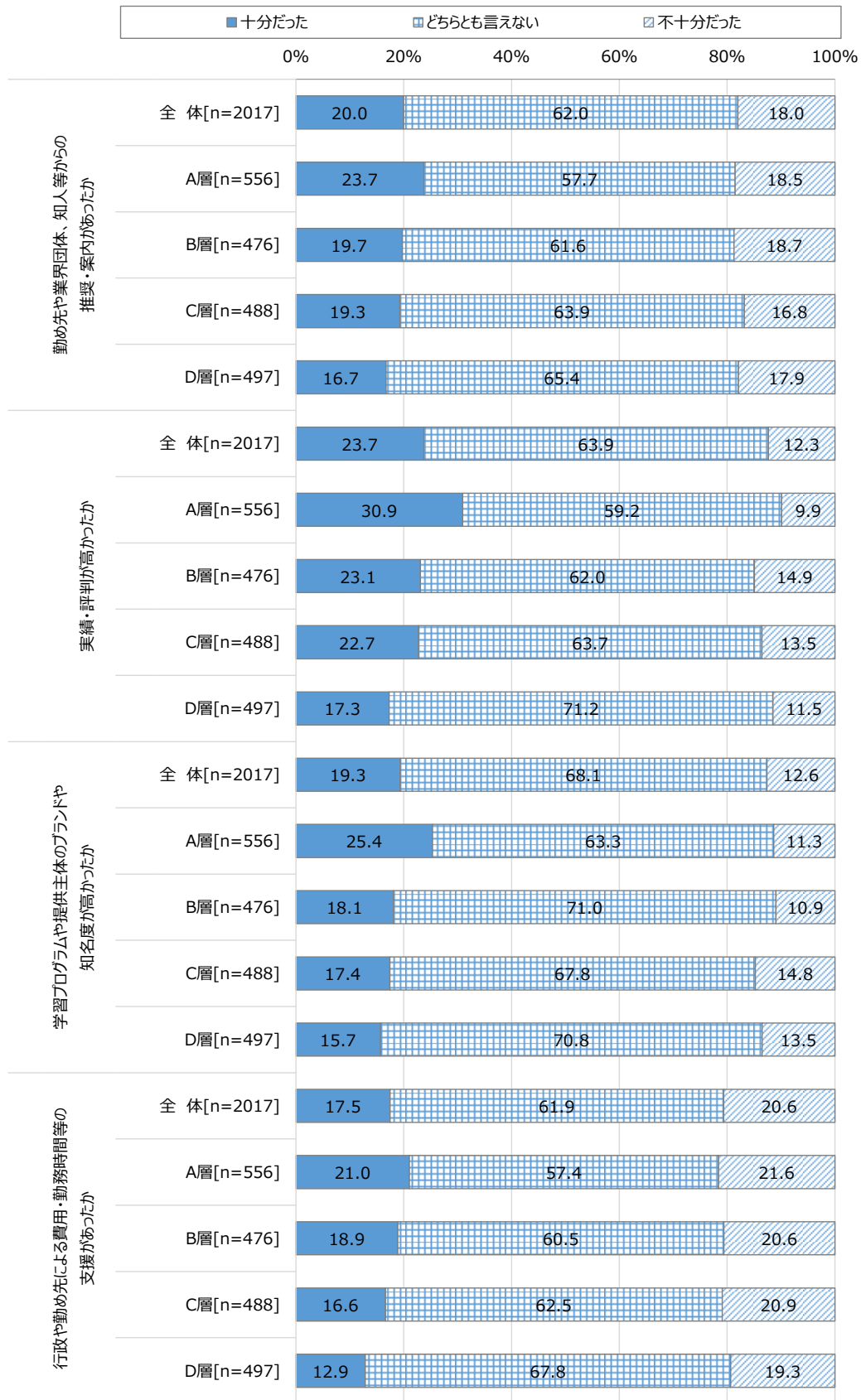


図 2-122 「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育経験者」が評価した点 (3/3)

(7) 「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育経験者」がより具体的に評価した点

「専修学校教育経験者」のうち A 層が評価するより具体的な強みは、学習内容のレベルの適切さ・柔軟さ、学習の開始時期の適切さ・柔軟さ、Web サイト等の情報の詳細さ、である。(2.2.16(6)の上位 3 つにおいて「十分だった」の割合が最も大きかった項目)

2.2.16(6)において各項目を「十分だった」と評価した専修学校教育経験者のうち、特に A 層に着目すると、より具体的に「十分だった」と評価した点は以下の通りである。

大項目	左記のうち「十分だった」の割合が最も大きい項目
プログラム等の情報が十分に公開されていたか	Web サイト等で詳細な情報が公開されていた (62.2%)
学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか	学習内容のレベルが適切であった、もしくは柔軟に選択できた (55.6%)
受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気が出たか	受講者プロフィール (年代、性別、職業等) が紹介されていた (58.3%)
実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が (どちらか一方でも) 適切であること	通学による対面指導が受けられた (56.0%)
所要時間や実施時期が適切だったか	学習の開始時期が適切だった、もしくは柔軟に選択できた (70.4%)
費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価であったか	費用対効果が折り合った (51.7%)
指導方法が適切で、講師が優れていたか	指導法が実践的であること (48.4%)
通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか	自宅や職場から近かった (53.4%)
講義以外にきめ細やかな支援 (個別支援、キャリア支援等) があったか	質問にきめ細かく対応してもらえた (53.2%)
勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか	勤め先や業界団体等からの推奨・案内があった (56.8%)
実績・評判が高かったか	学習経験者数が多かった (51.2%)
学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高かったか	学習プログラムの知名度が高かった (65.2%)
行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか	勤め先からの費用補助があった 国や自治体等からの費用補助があった (41.9%)

【QE1_3】 QE1_1 で「十分だった」を選択した項目それぞれについて、より具体的に「十分だった」と感じた点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。(MA) ⇒A 層のみを集計。

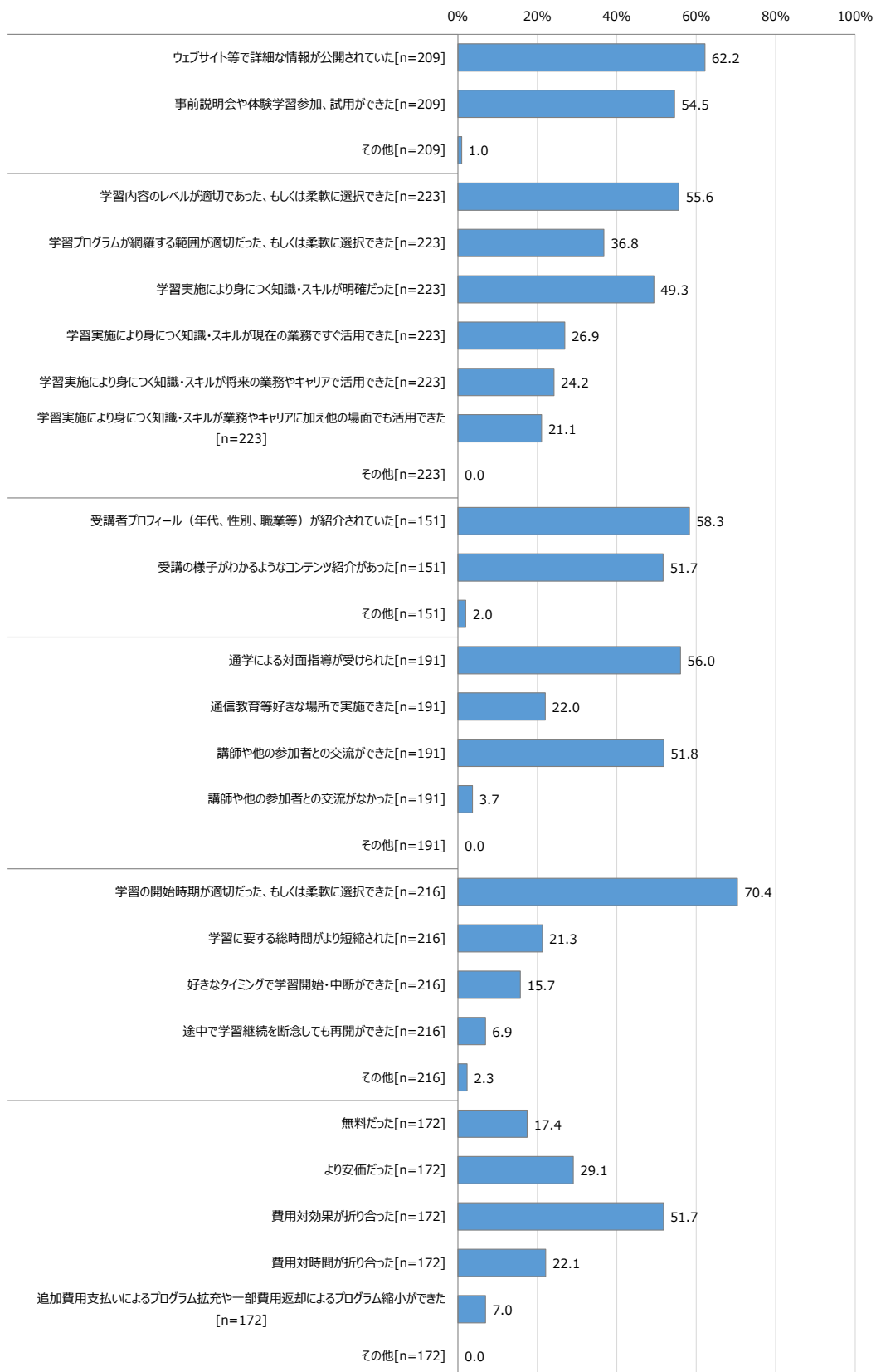


図 2-123 「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育経験者」がより具体的に評価した点（A層のみ）（1/2）

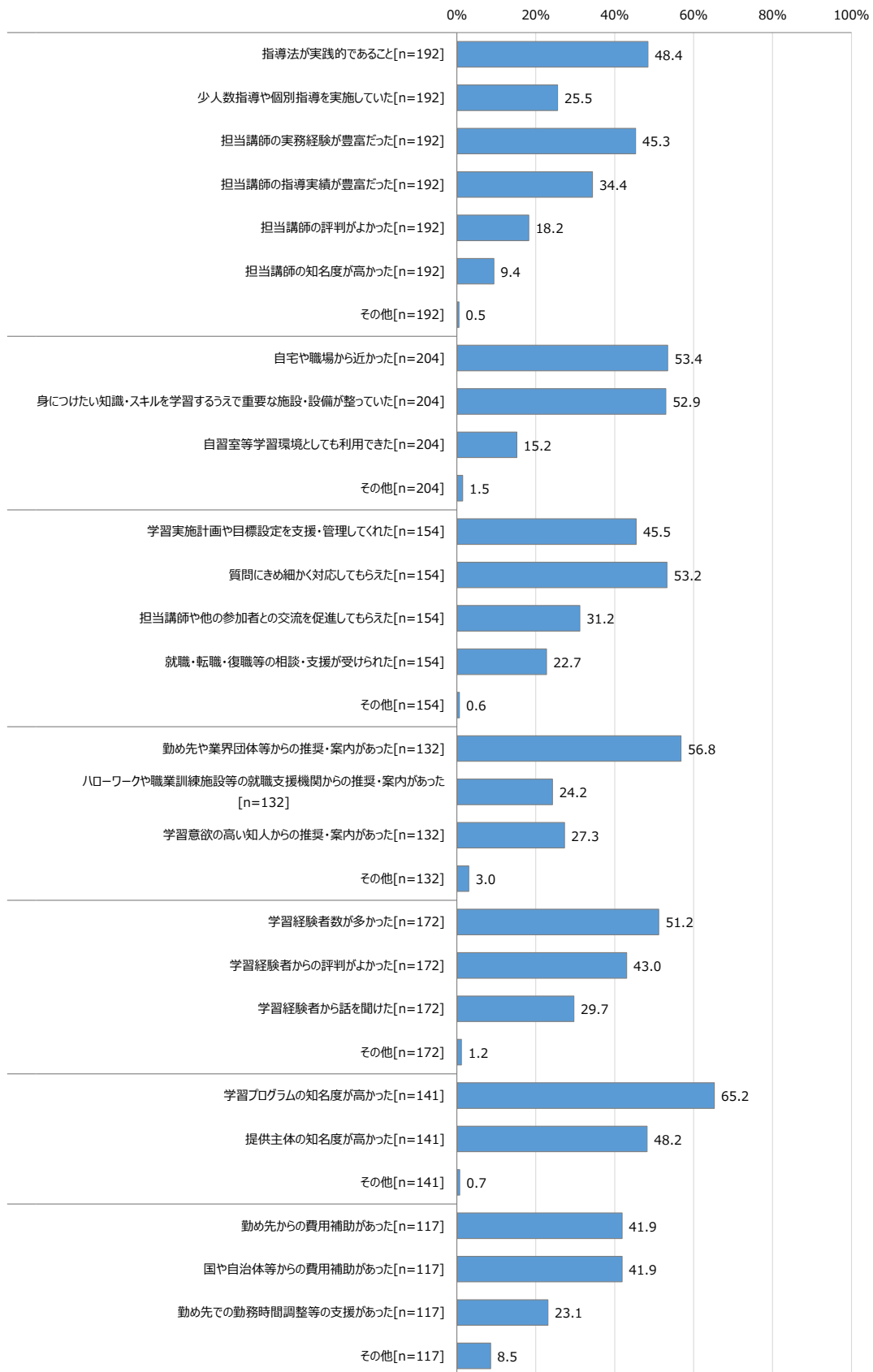


図 2-124 「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育経験者」がより具体的に評価した点（A層のみ）（2/2）

(8) 「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育経験者」が最も評価した点

専修学校が提供する学習プログラムの最も満足した点について、いずれの層においても、「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか」の割合が最も大きい。また、A層では、「プログラム等の情報が十分に公開されていたか」の割合が、他の層と比較して大きい。

学び直し意欲が高い層では、低い層に比べ、「通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか」「勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか」の割合が小さい。

【QE1_6】 QE1_1 で選択した「十分だった」点のうちもっとも満足した点、選択した「不十分だった」点のうちもっとも不満足だった点はそれぞれ何ですか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=1142)

⇒上記のうち、「もっとも満足した点」のみを集計。

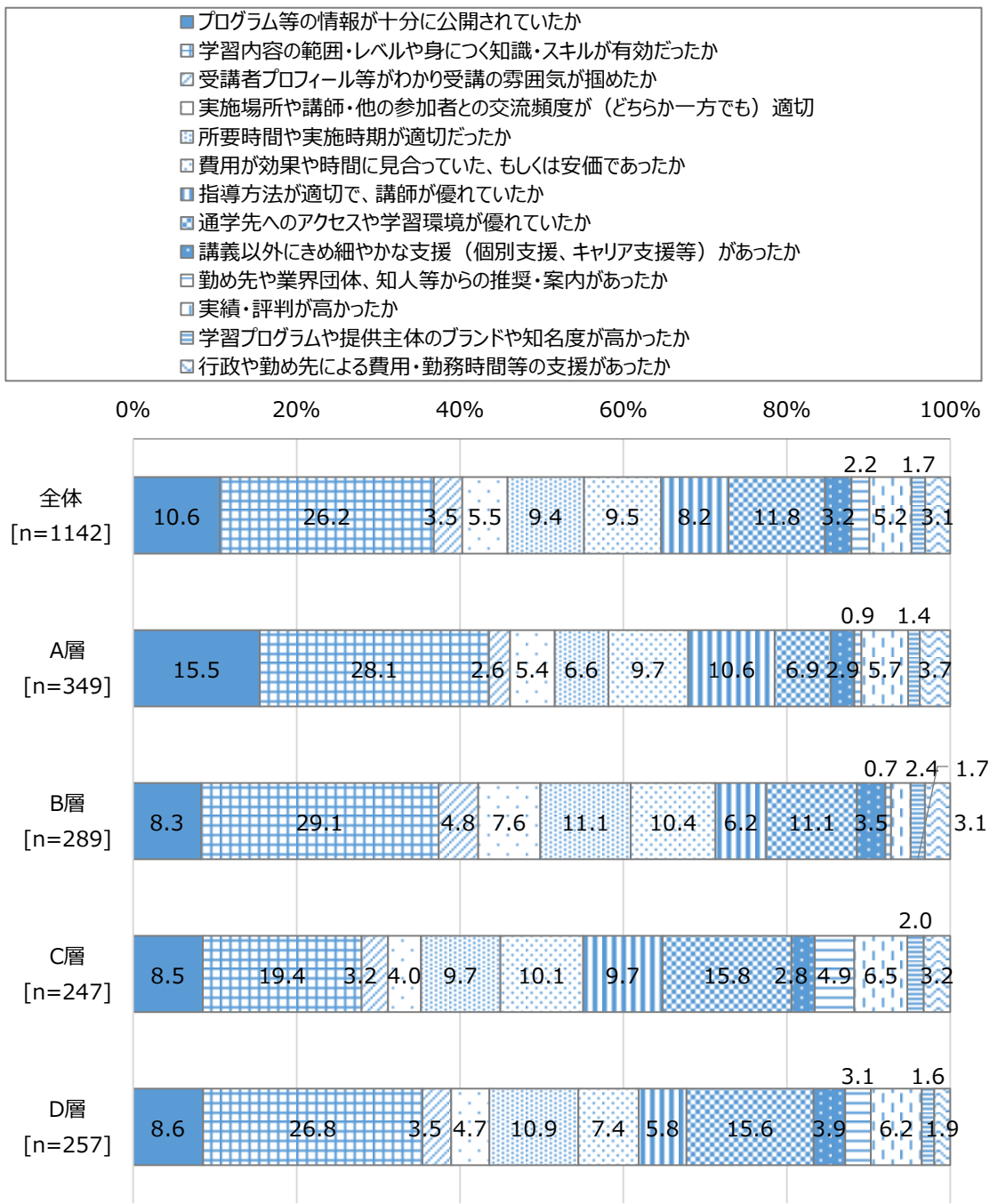


図 2-125 「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育経験者」が最も評価した点

(9) 「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育未経験者」が期待する点

「専修学校教育未経験者」は、いずれの項目においても、学び直し意欲が高いほど強く期待しているが、特に「学び直し意欲が高い層」の持つ期待は、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ、効果や時間に見合った費用や安価であること、指導方法の適切さ・講師の優秀さである。

専修学校が提供する学習プログラムへの期待について、いずれの項目においても、学び直し意欲が高いほど「期待する」の割合が大きい。

特に「学び直し意欲が高い層」における「期待する」の割合が大きいのは、「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効である」（A層 48.1%、B層 45.0%）、「費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価である」（A層 45.0%、B層 43.5%）、「指導方法が適切で、講師が優れている」（A層 44.3%、B層 41.8%）等である。

【QE1_2】あなたは専修学校が提供する学習プログラムに対してどのような期待をお持ちですか。それぞれもっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=9551)
(注)専門学校(専修学校専門課程)は、全国に2,777校、約60万人の生徒を抱える実践的な職業教育、専門的な技術教育を行う教育機関です(数値はいずれも令和2年度学校基本調査に基づく)。

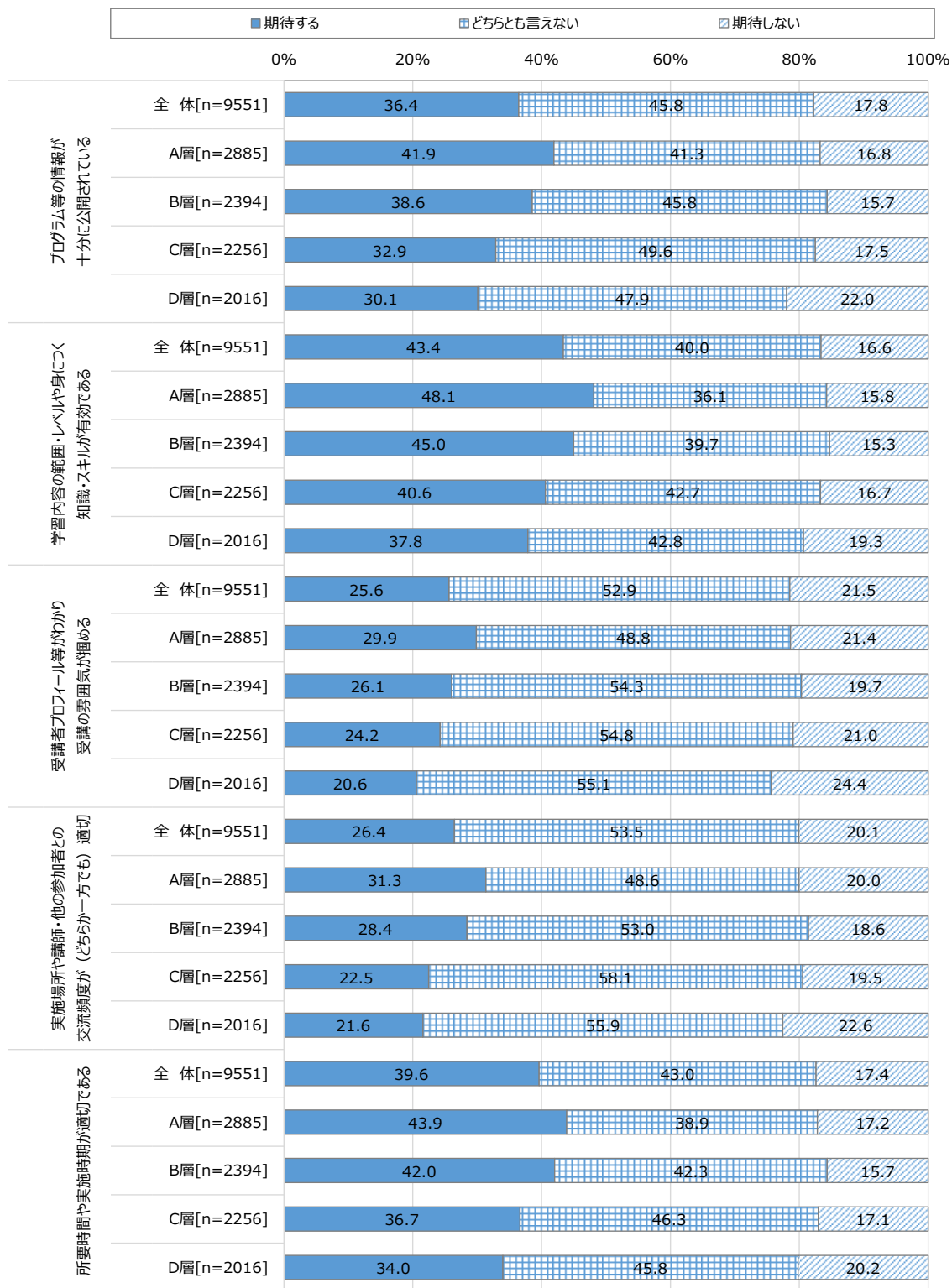


図 2-126 「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育未経験者」が期待する点 (1/3)

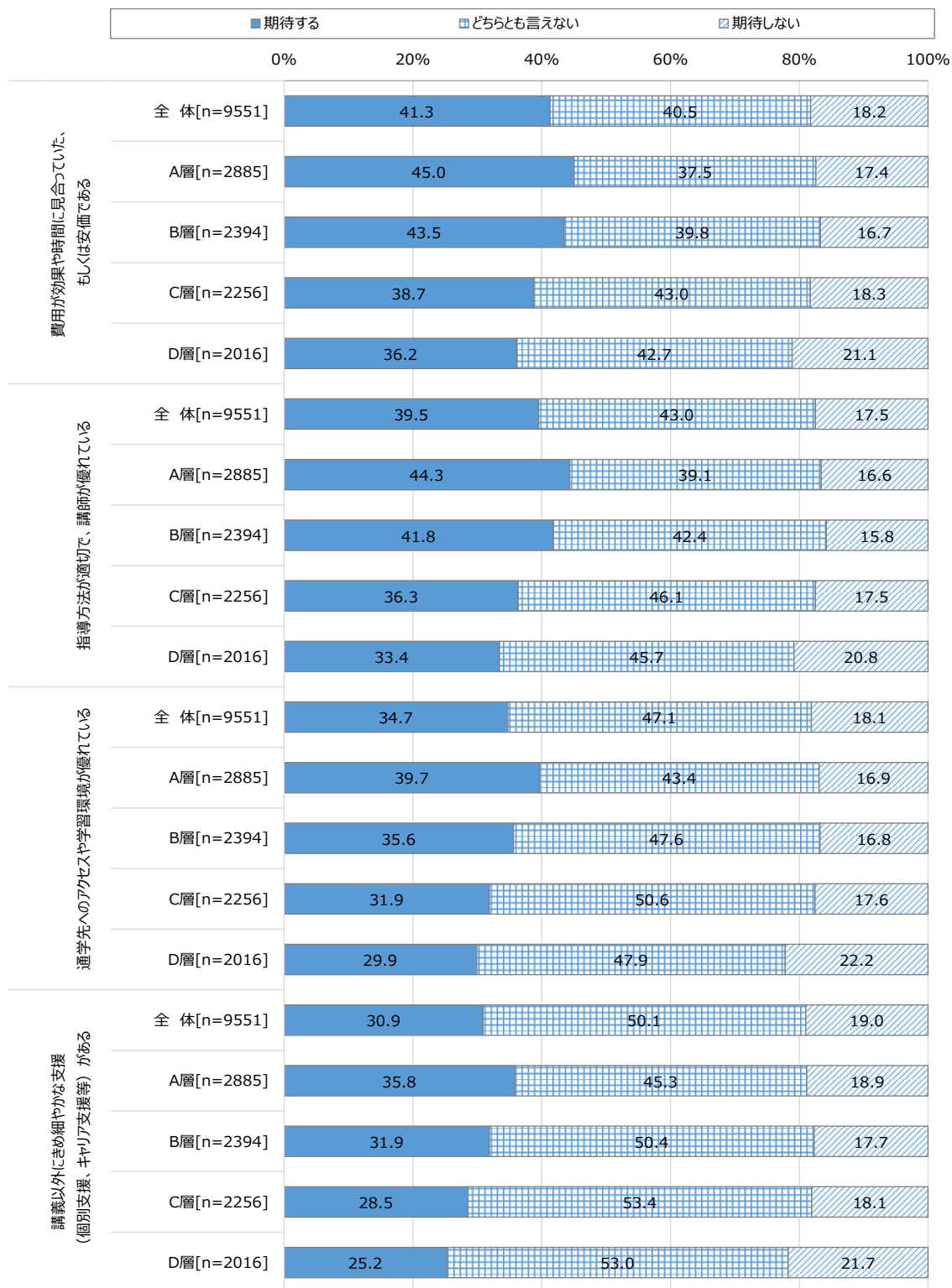


図 2-127 学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育未経験者」が期待する点 (2/3)

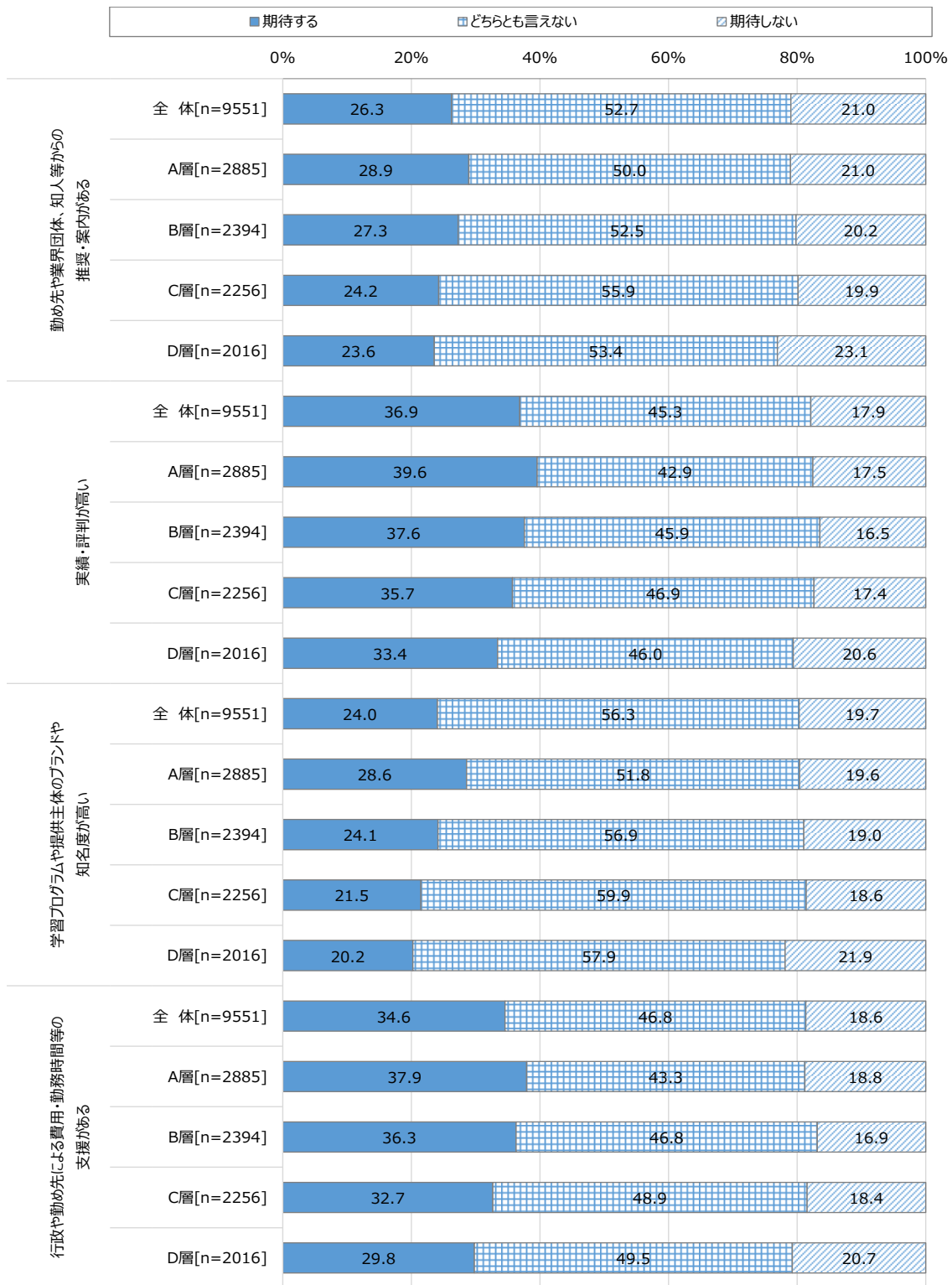


図 2-128 学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育未経験者」が期待する点 (3/3)

(10) 「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育未経験者」がより具体的に期待する点

「専修学校教育未経験者」のうち A 層が持つより具体的な期待は、学習内容のレベルの適切さ・柔軟さ、費用対効果、指導方法の適切さ、である。(2.2.15(9)の上位3つにおいて「期待する」の割合が最も大きかった項目)

2.2.15(9)において各項目を「期待する」と評価した専修学校教育未経験者のうち、特に A 層に着目すると、より具体的に期待する点は以下の通りである。

大項目	左記のうち「期待する」の割合が最も大きい項目
プログラム等の情報が十分に公開されている	Web サイト等で詳細な情報が公開されている (85.4%)
学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効である	学習内容のレベルが適切であった、もしくは柔軟に選択できる (58.3%)
受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気がある	受講の様子がわかるようなコンテンツ紹介がある (69.5%)
実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切であること	通信教育等好きな場所で実施できる (67.1%)
所要時間や実施時期が適切である	学習の開始時期が適切だった、もしくは柔軟に選択できる (61.1%)
費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価である	費用対効果が折り合う (65.9%)
指導方法が適切で、講師が優れている	指導方法が適切である (73.9%)
通学先へのアクセスや学習環境が優れている	自宅や職場から近い (65.9%)
講義以外にきめ細やかな支援(個別支援、キャリア支援等)がある	質問にきめ細かく対応してもらえる (63.4%)
勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内がある	勤め先や業界団体等からの推奨・案内がある (67.8%)
実績・評判が高い	学習経験者からの評判がよい (76.4%)
学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高い	学習プログラムの知名度が高い (77.5%)
行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援がある	国や自治体等からの費用補助がある (75.1%)

【QE1_5】QE1_2で「期待する」を選択した項目それぞれについて、より具体的に期待したい点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。/プログラム等の情報が十分に公開されている (MA)
⇒A 層のみを集計。

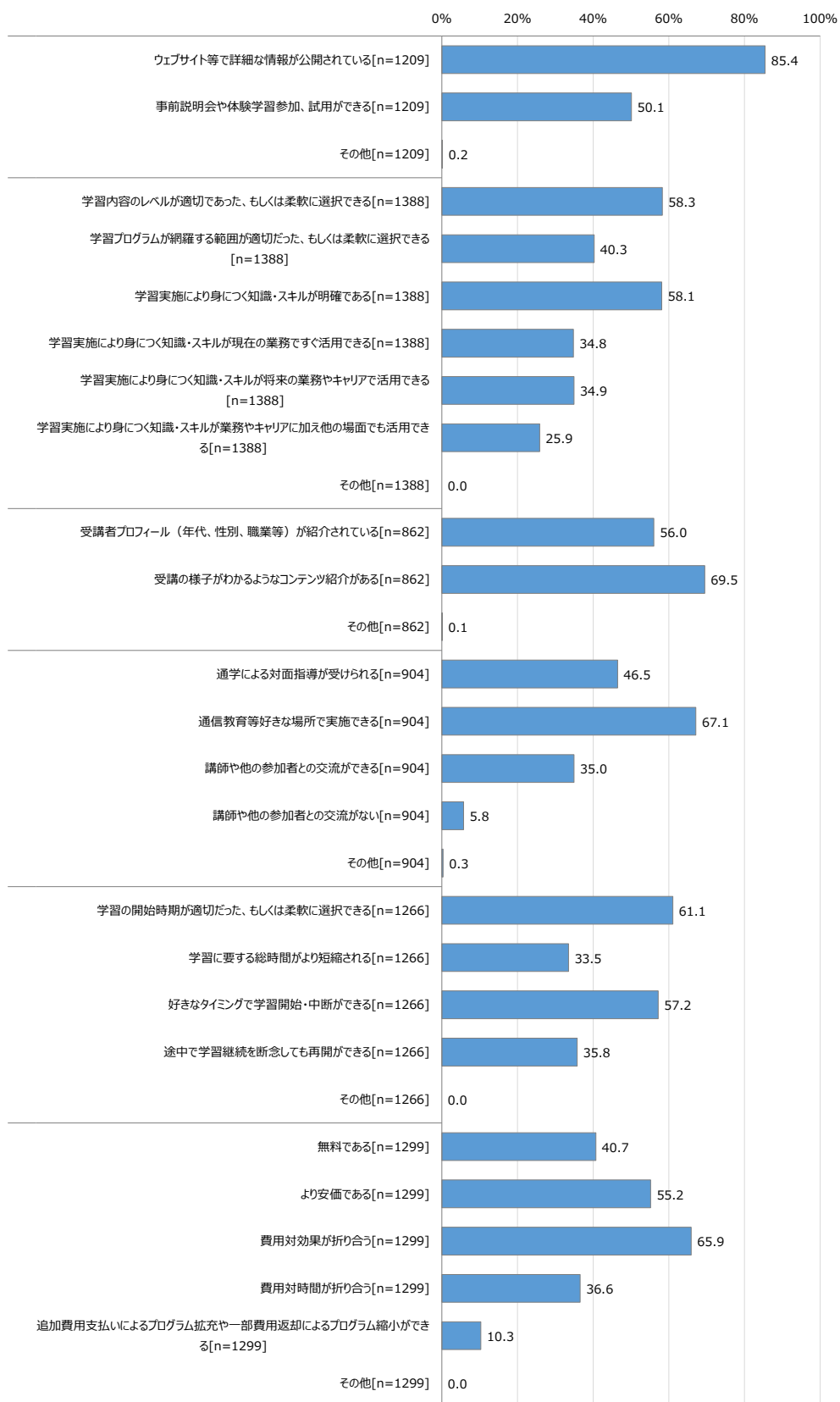


図 2-129 「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育未経験者」がより具体的に期待する点（1/2）

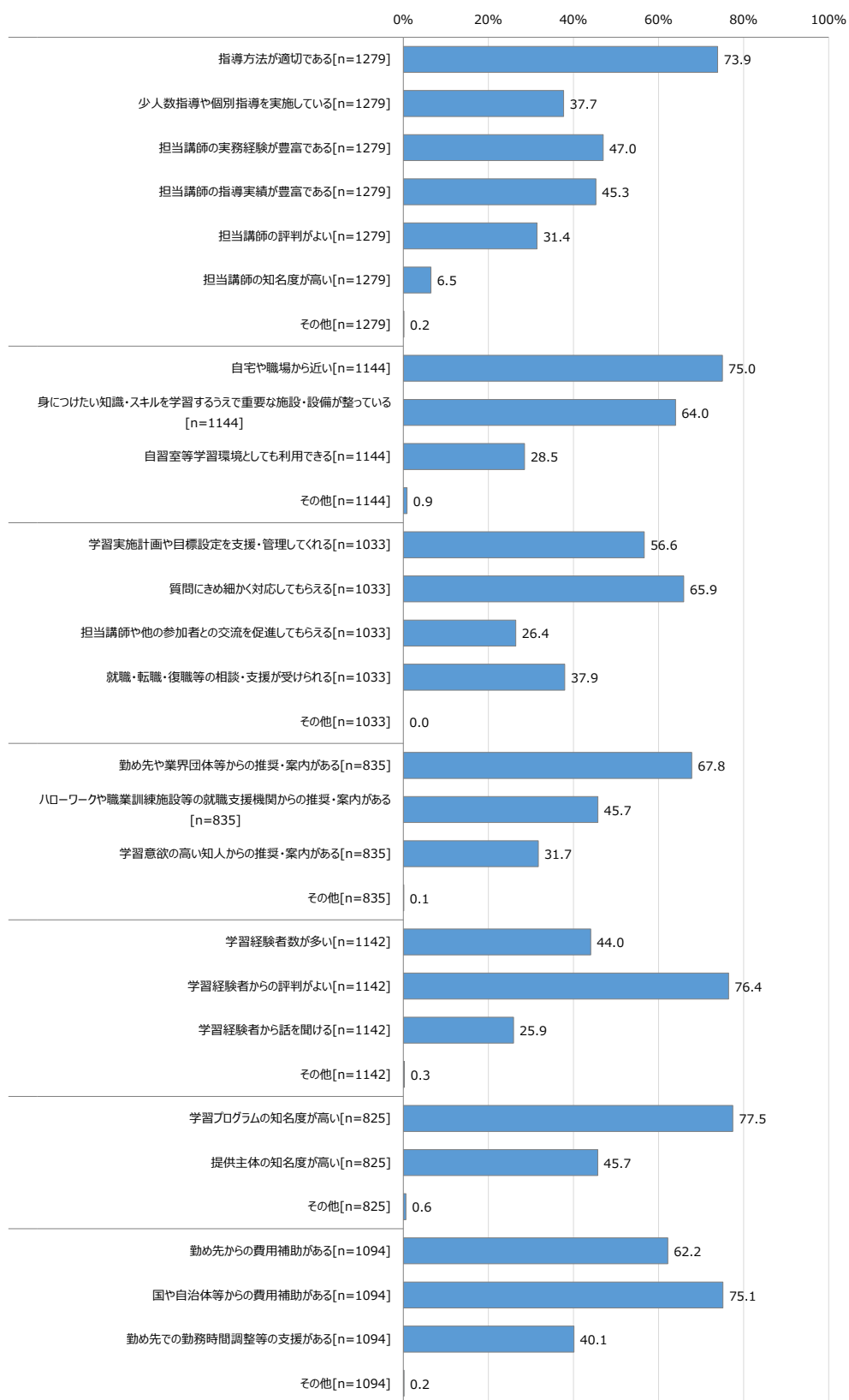


図 2-130 「学び直し意欲が高い層」かつ「専修学校教育未経験者」がより具体的に期待する点 (2/2)

2.2.16 人事研修担当者から見た「専修学校の強み」

人事研修担当者から見た「専修学校の強み」は、プログラム等の情報が十分に公開されており、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効であることである。

評価者	評価する点
Off-JT 意欲が高い専修学校活用者	<ul style="list-style-type: none"> ◎プログラム等の情報が十分に公開されていること →Web サイト等で詳細な情報が公開されていること ・学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効であること →学習内容のレベル設定が適切であることや柔軟に選択できること ・通学先へのアクセスや学習環境が優れていること →身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っていること
専修学校活用者	<ul style="list-style-type: none"> ◎プログラム等の情報が十分に公開されていること →Web サイト等で詳細な情報が公開されていること ・学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ →学習内容のレベルの適切さや柔軟に選択できること

評価者	期待する点
Off-JT 意欲が高い専修学校未活用者	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効であること ・プログラム等の情報が十分公開されていること ・所要時間や実施時期が適切であること
専修学校未活用者	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効であること →学習内容のレベル設定が適切であることや柔軟に選択できること ・プログラム等の情報が十分に公開されていること →Web サイト等で詳細な情報が公開されていること

(1) 「専修学校活用者」が評価した点

「専修学校活用者」が評価した点は、プログラム等の情報が十分に公開されていること、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さである。

専修学校が提供する学習プログラムに対する評価について、「十分だった」の割合が最も大きいのは、「プログラム等の情報が十分に公開されていたか」で51.5%、次いで「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか」で47.3%、「実施場所が講師・他の参加者との交流頻度が（どちらか一方でも）適切」で41.2%と続く。

【QE2_2】あなたが Off-JT、自己啓発支援の取組に活用した専修学校が提供する学習プログラム（注）に対する評価について、それぞれもっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=262）

（注）複数の実施経験がある場合は、もっとも直近のものについてお答えください。

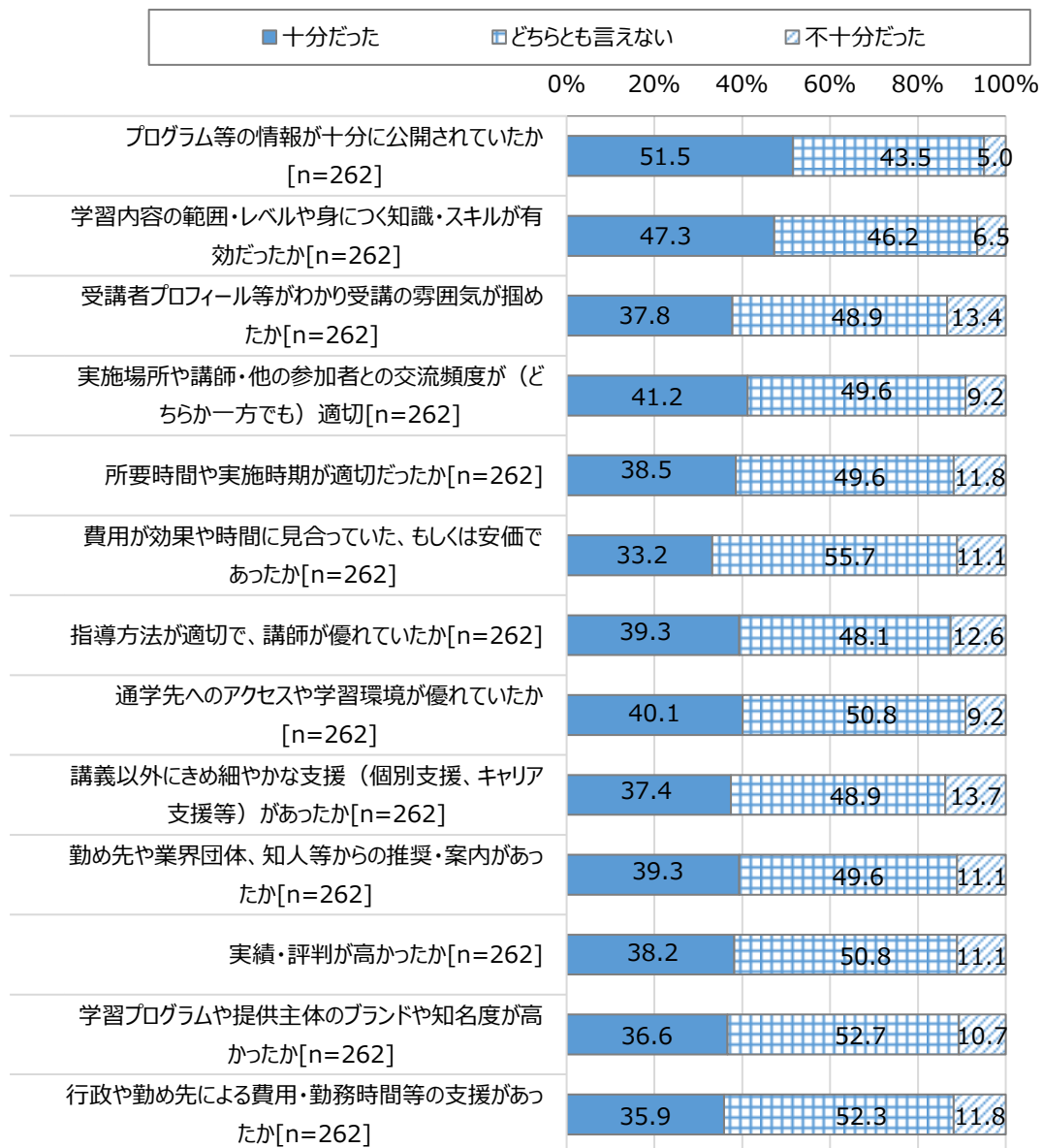


図 2-131 「専修学校活用者」が評価した点

(2) 「専修学校活用户」がより具体的に評価した点

「専修学校活用户」がより具体的に評価した点は、Web サイト等で詳細な情報が公開されていること、学習内容のレベルの適切さや柔軟に選択できることである。

2.2.16(1)において各項目を「十分だった」と評価した専修学校活用户在、より具体的に「十分だった」と評価した点は以下の通りである。

大項目	左記のうち「十分だった」の割合が最も大きい項目
プログラム等の情報が十分に公開されていたか	Web サイト等で詳細な情報が公開されていた (78.5%)
学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか	学習内容のレベルが適切であった、もしくは柔軟に選択できた (48.4%)
受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気 が掴めたか	受講者プロフィール (年代、性別、職業等) が紹介されていた (69.7%)
実施場所や講師・他の参加者との交流頻度 (どちらか一方でも) 適切であること	通学通信教育等好きな場所 で実施できた (50.9%)
所要時間や実施時期が適切だったか	学習の開始時期が適切だった、もしくは柔軟に選択できた (56.4%)
費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価であったか	費用対効果が折り合った (52.9%)
指導方法が適切で、講師が優れていたか	指導法※が実践的であること (49.5%) ※講義・実習・演習・ディスカッション・ケーススタディ等
通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか	身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っていた (63.8%)
講義以外にきめ細やかな支援 (個別支援、キャリア支援等) があったか	学習実施計画や目標設定を支援・管理してくれた (54.1%)
勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか	勤め先や業界団体等からの推奨・案内があった (69.9%)
実績・評判が高かったか	学習経験者数が多かった (56.0%) 学習経験者からの評判がよかった (56.0%)
学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高かったか	学習プログラムの知名度が高かった (75.0%)
行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか	勤め先からの費用補助があった (58.5%)

【QE2_3】QE2_2 で「十分だった」を選択した項目それぞれについて、より具体的に「十分だった」と感じた点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。(各 MA)

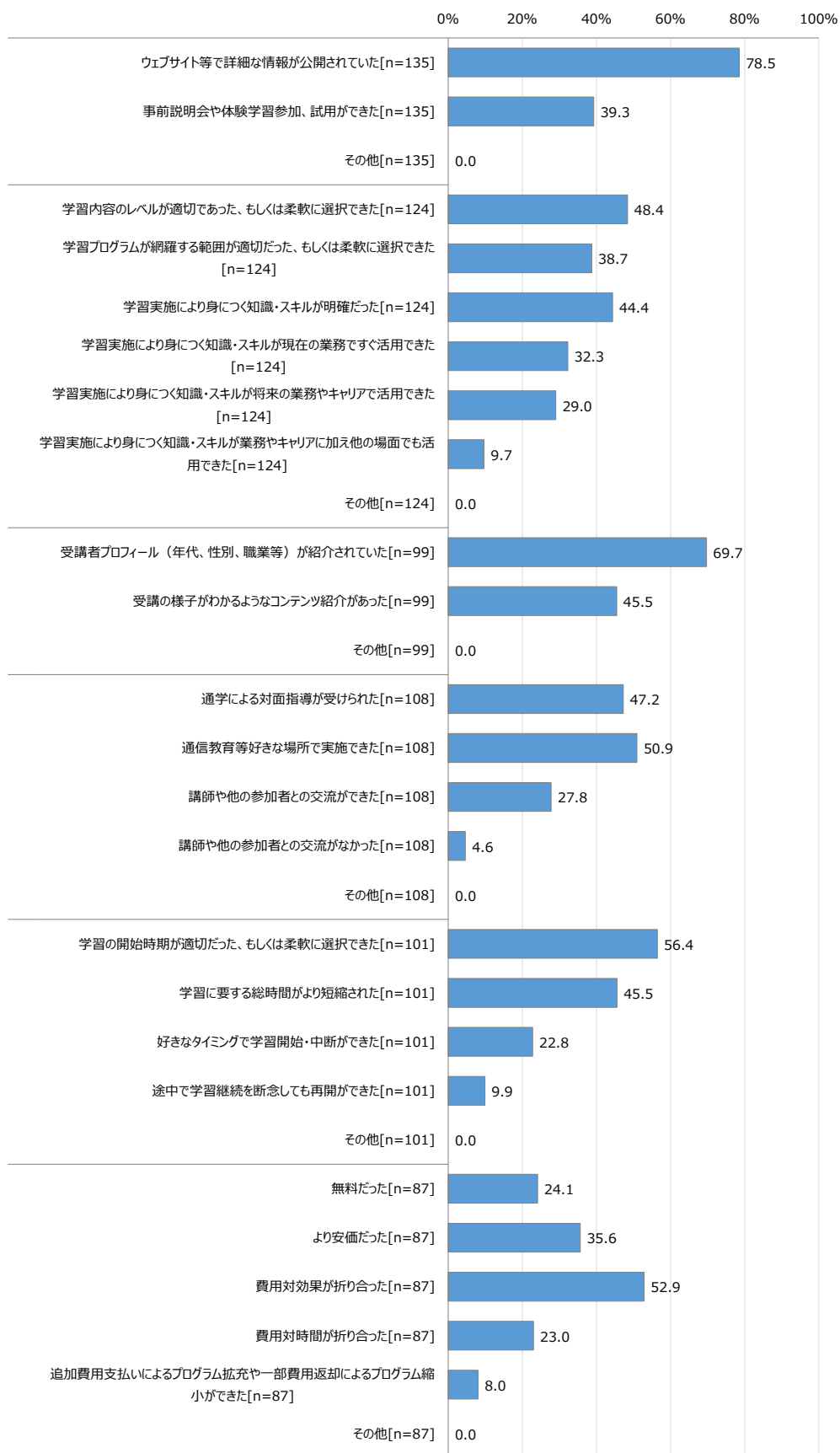


図 2-132 「専修学校活用者」がより具体的に評価した点（1/2）

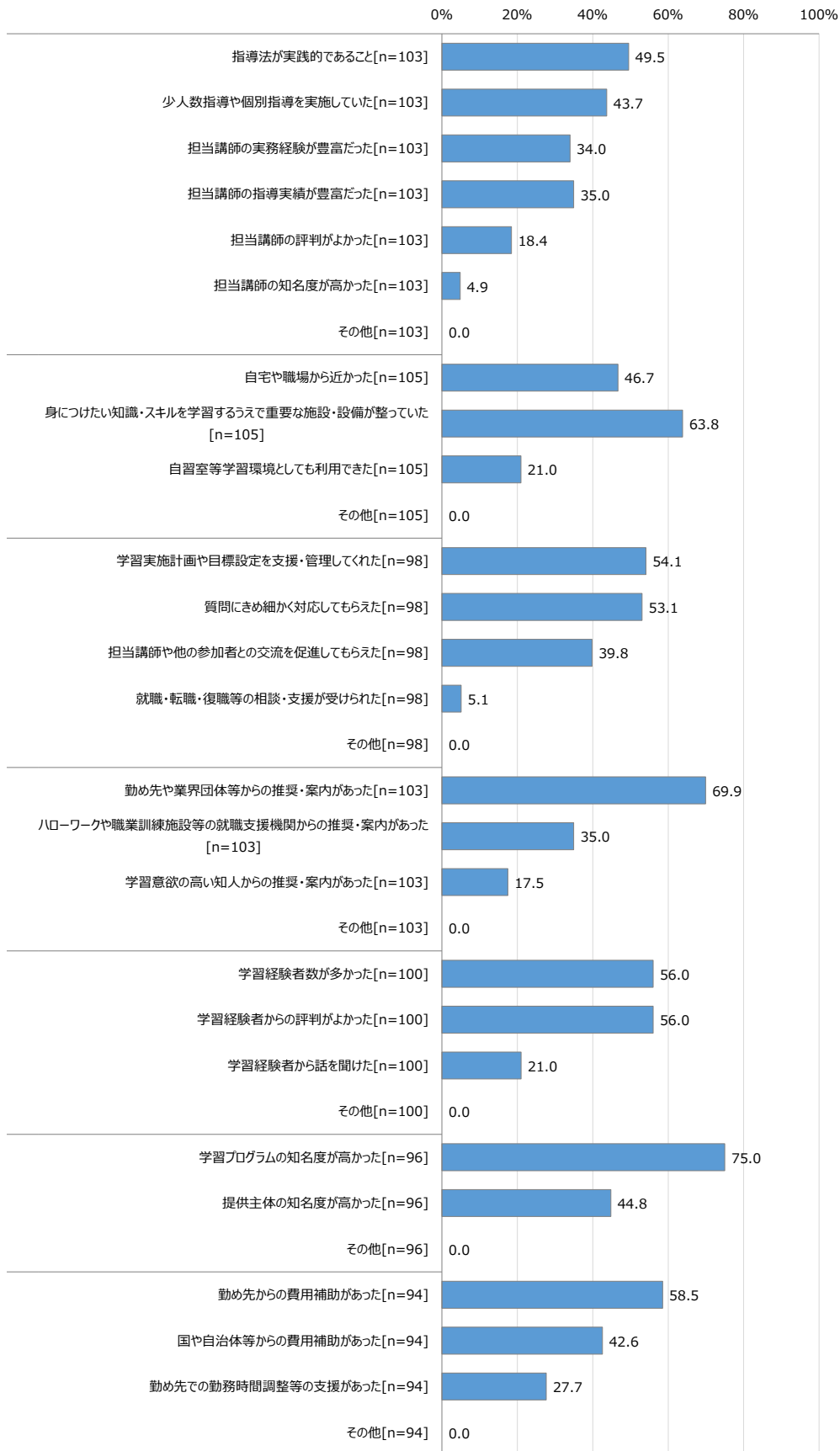


図 2-133 「専修学校活用者」がより具体的に評価した点 (2/2)

(3) 「専修学校活用人」が最も評価した点

「専修学校活用人」が最も評価した点は、プログラム等の情報が十分に公開されていること、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さである。

専修学校が提供する学習プログラムを活用した評価のうち、最も満足した点で最も割合が大きいのは、「プログラム等の情報が十分に公開されていたか」「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか」が同率で17.3%である。

【QE2_5】QE2_2で選択した「十分だった」点のうちもっとも満足した点、選択した「不十分だった」点のうちもっとも不満足だった点はそれぞれ何ですか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。(n=226)

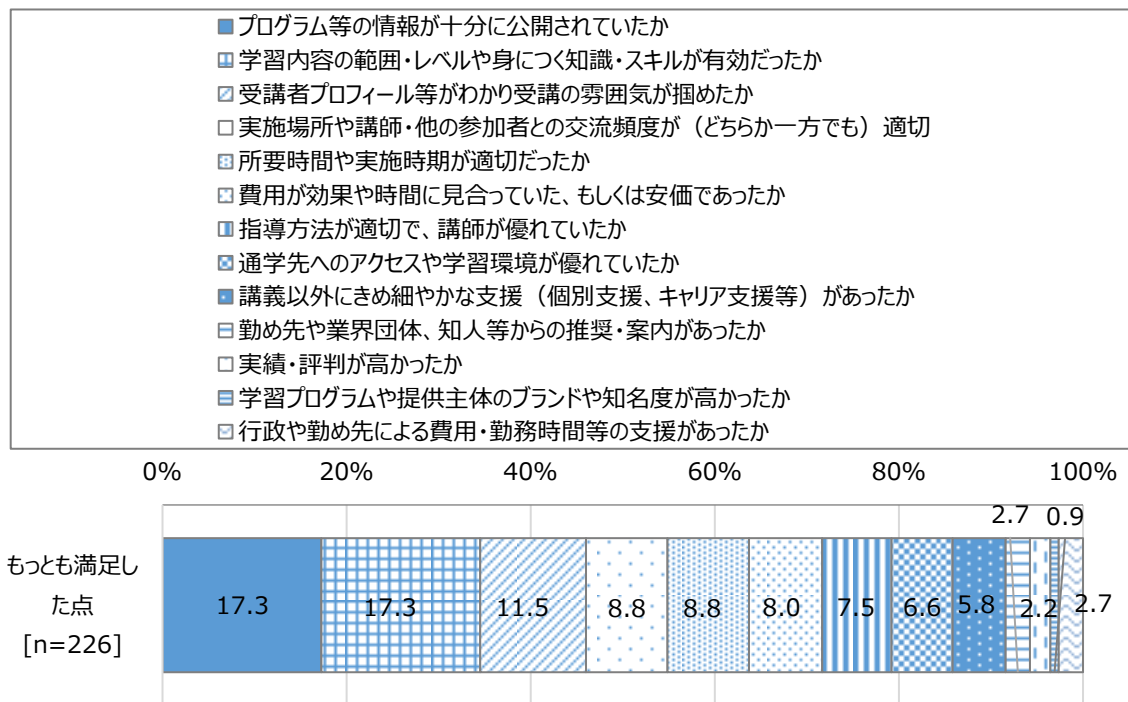


図 2-134 「専修学校活用人」が最も評価した点

(4) 「専修学校未活用者」が期待する点

「専修学校未活用者」が期待する点は、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ、プログラム等の情報が十分に公開されていることである。

専修学校が提供する学習プログラムへの期待について、「そう思う」の割合が最も大きいのは「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効である」で28.4%、次いで「プログラム等の情報が十分に公開されている」で22.9%、「所要時間や実施時期が適切である」で22.6%と続く。

一方、「そう思わない」の割合が最も大きいのは「費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価である」で17.3%、次いで「受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気は掴める」で16.8%と続く。

【QE2_6】あなたは専修学校が提供する学習プログラムに対してどのようなイメージをお持ちですか。それぞれもっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=1703)

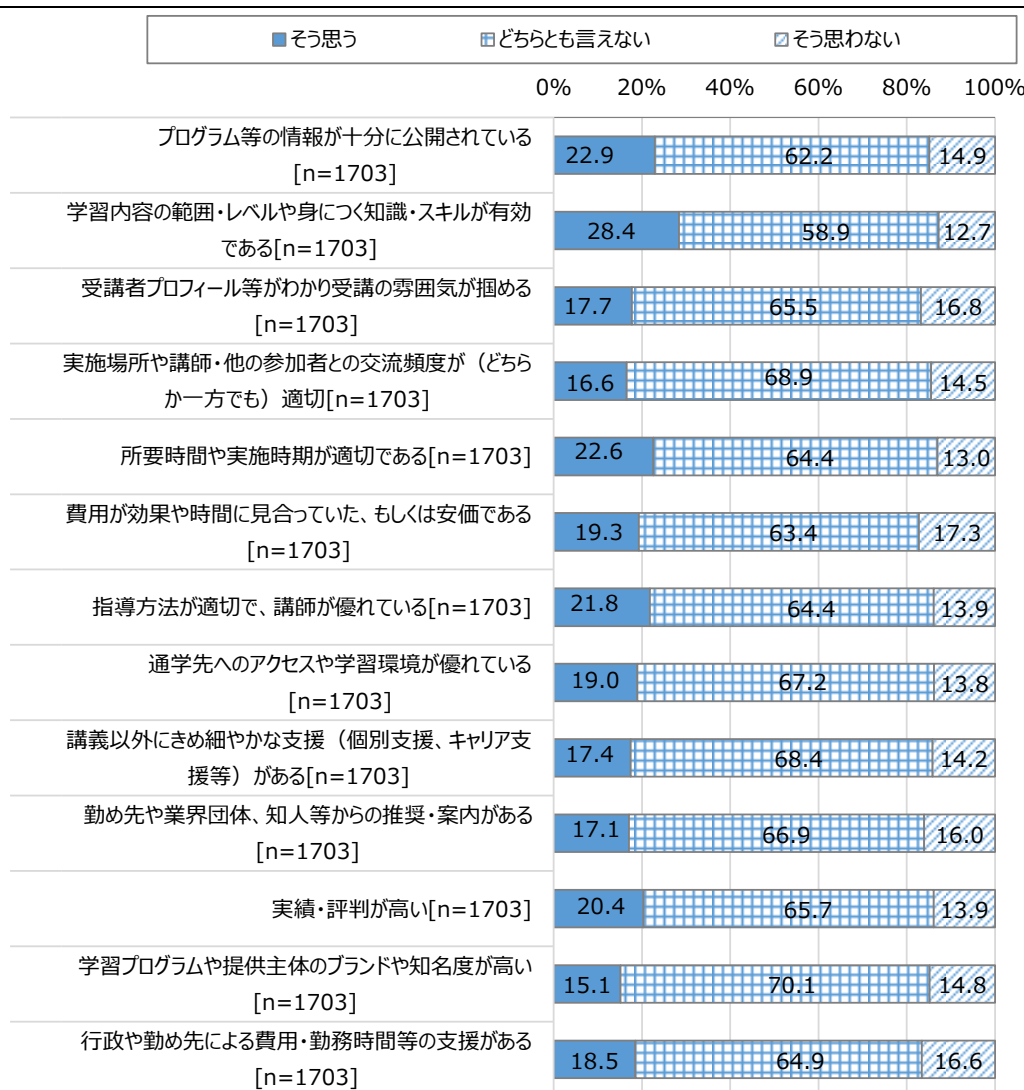


図 2-135 「専修学校未活用者」が期待する点

(5) 「専修学校未活用者」がより具体的に期待する点

「専修学校未活用者」がより具体的に期待する点は、学習内容のレベル設定が適切であることや柔軟に選択できること、Web サイト等で詳細な情報が公開されていることである。

2.2.16(4)において各項目を「期待する」と評価した専修学校未活用者が、より具体的に「期待する」と評価した点は以下の通りである。

大項目	左記のうち「十分だった」の割合が最も大きい項目
プログラム等の情報が十分に公開されていたか	Web サイト等で詳細な情報が公開されている (74.9%)
学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか	学習内容のレベルが適切であった、もしくは柔軟に選択できる (48.2%)
受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気や環境が掴めたか	受講者プロフィール (年代、性別、職業等) が紹介されている (58.6%)
実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が (どちらか一方でも) 適切であること	通学通信教育等好きな場所で行える (50.0%)
所要時間や実施時期が適切だったか	学習の開始時期が適切だった、もしくは柔軟に選択できる (51.2%)
費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価であったか	費用対効果が折り合う (56.5%)
指導方法が適切で、講師が優れていたか	指導法※が実践的である (51.8%) ※講義・実習・演習・ディスカッション・ケーススタディ等
通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか	身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っている (62.8%)
講義以外にきめ細やかな支援 (個別支援、キャリア支援等) があったか	質問にきめ細かく対応してもらえる (58.6%)
勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか	勤め先や業界団体等からの推奨・案内がある (58.4%)
実績・評判が高かったか	学習経験者からの評判が良い (65.1%)
学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高かったか	学習プログラムの知名度が高い (72.1%)
行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか	国や自治体からの費用補助がある (66.0%)

【QE2_7】 QE2_6 で「そう思う」を選択した項目それぞれについて、より具体的にイメージする点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。(各 MA)

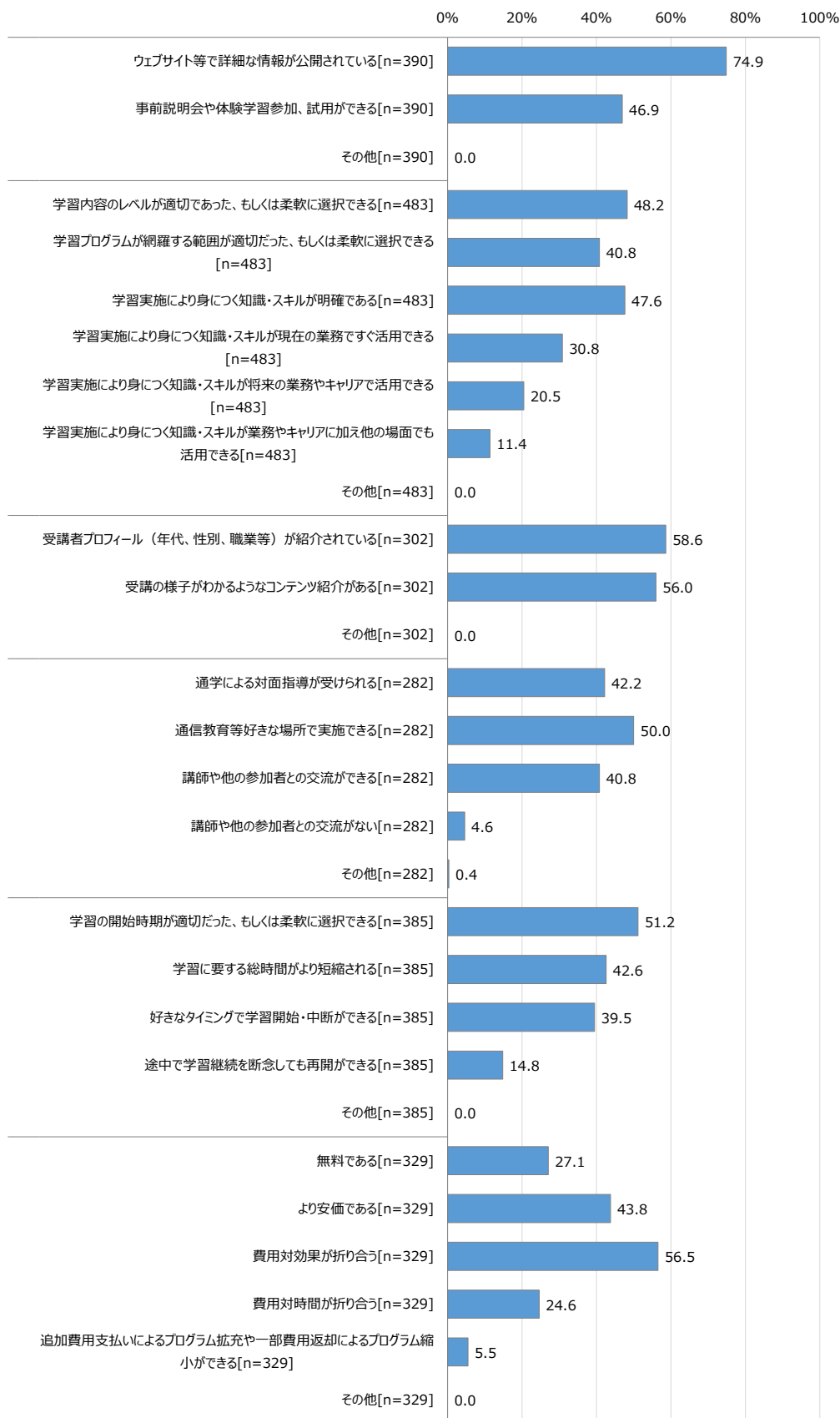


図 2-136 「専修学校未活用者」がより具体的に期待する点（1/2）

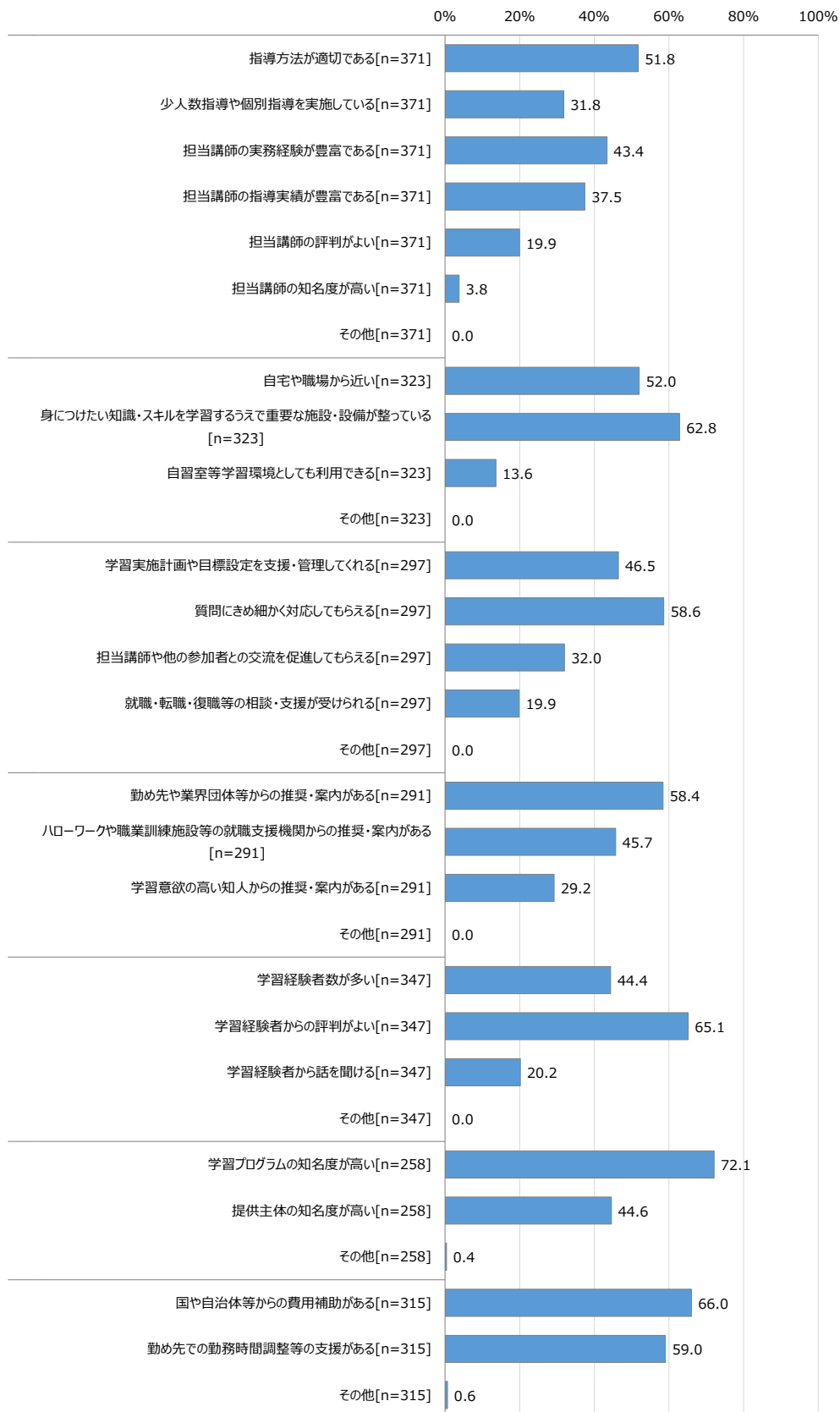


図 2-137 「専修学校未活用者」がより具体的に期待する点 (2/2)

(6) 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校活用户」が評価した点

Off-JT 意欲が高い「専修学校活用户」が評価した点は、情報が十分に公開されていること、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効であること、通学先へのアクセスや学習環境が優れていることである。

専修学校が提供する学習プログラムを実施した評価について、いずれの項目においても、Off-JT 意欲が高いほど「十分だった」の割合が大きい。

特に「Off-JT 意欲が高い層」における「十分だった」の割合が大きいのは、「プログラム等の情報が十分に公開されていたか」で 72.4%、「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか」で 69.0%、「通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか」で 63.8%である。

【QE2_2】あなたが Off-JT、自己啓発支援の取組に活用した専修学校が提供する学習プログラム（注）に対する評価について、それぞれもっとも当てはまるものを1つ選択してください。（SA）（n=262）
（注）複数の実施経験がある場合は、もっとも直近のものについてお答えください。

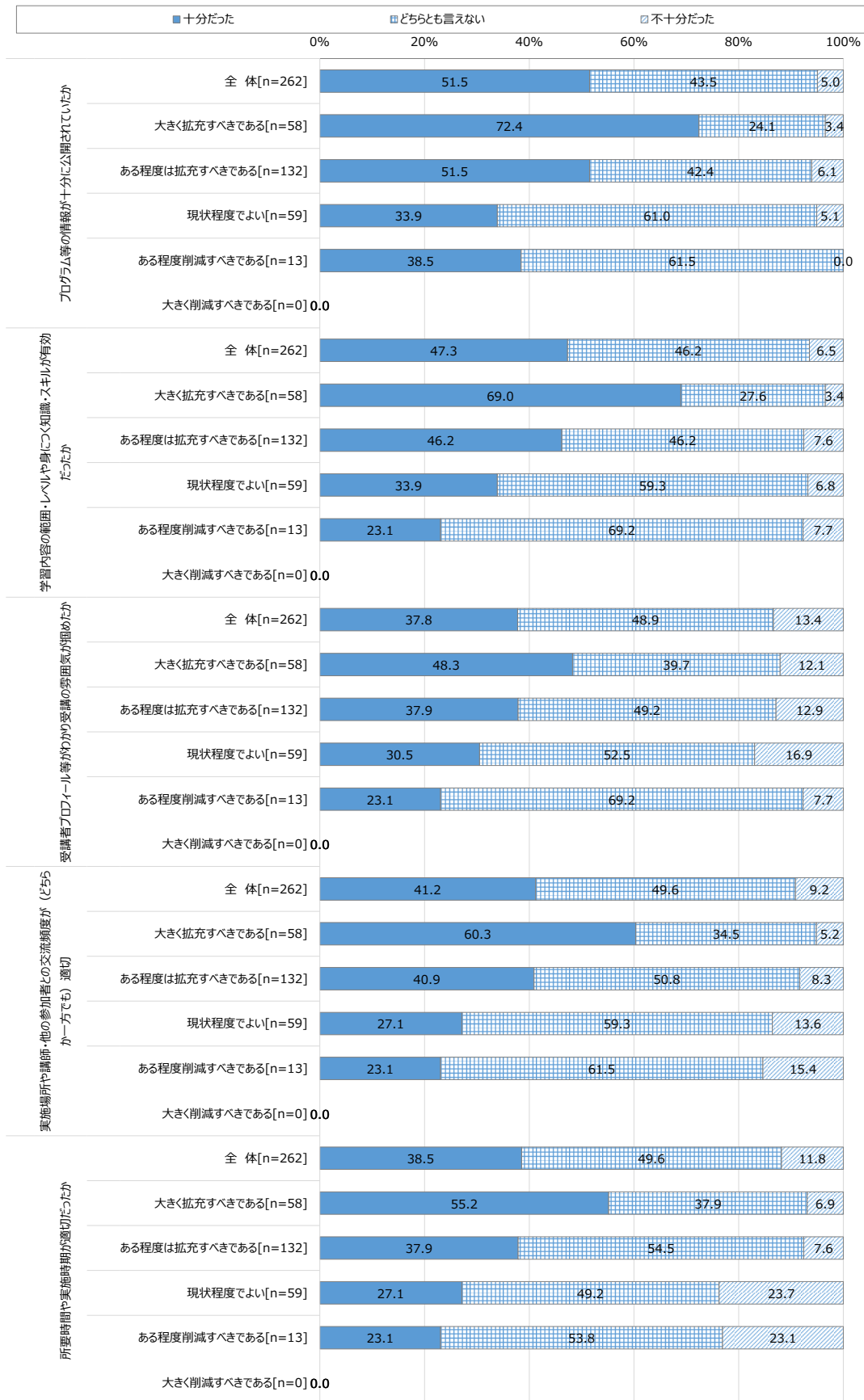


図 2-138 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校活用人」が評価した点 (1/3)

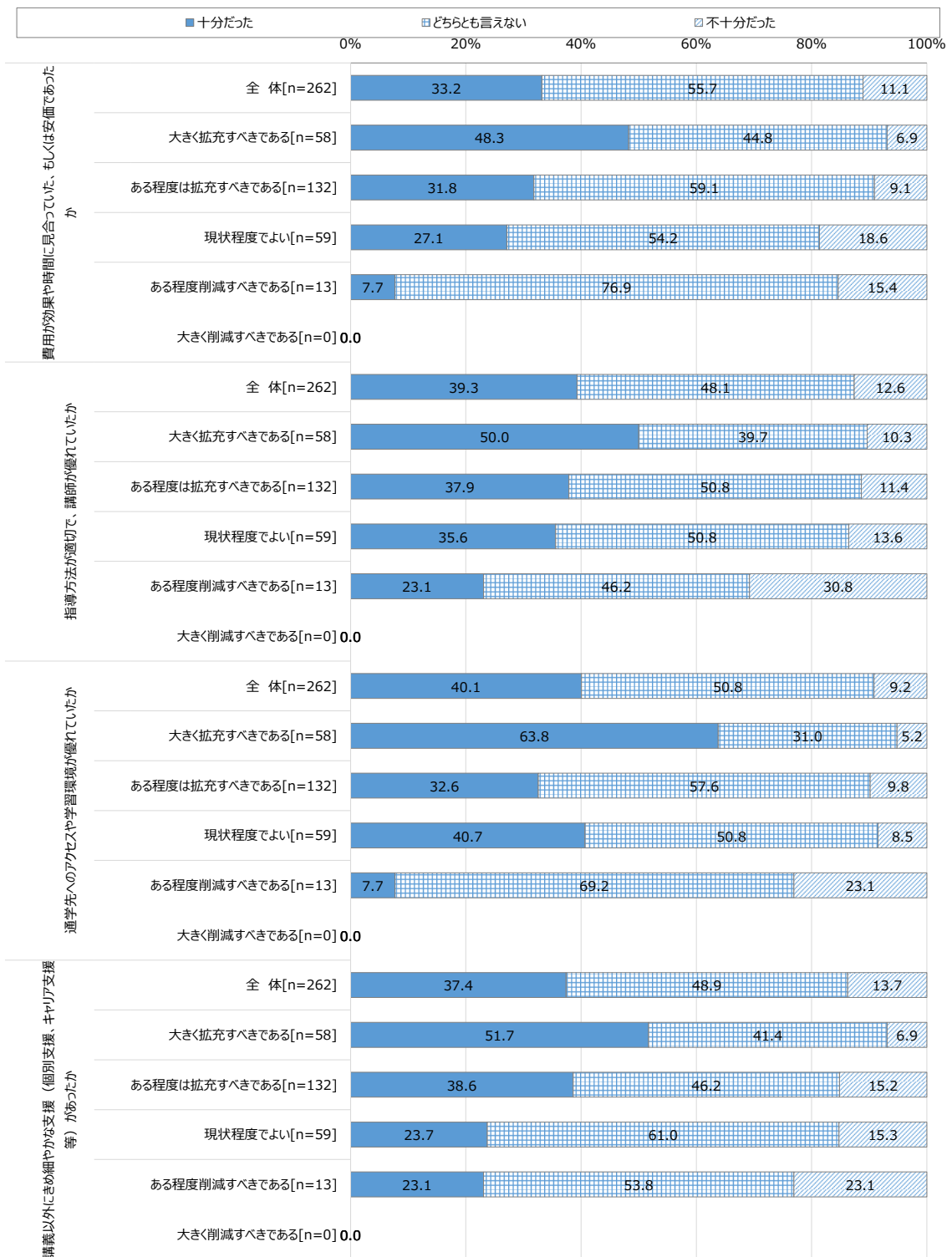


図 2-139 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校活用者」が評価した点 (2/3)

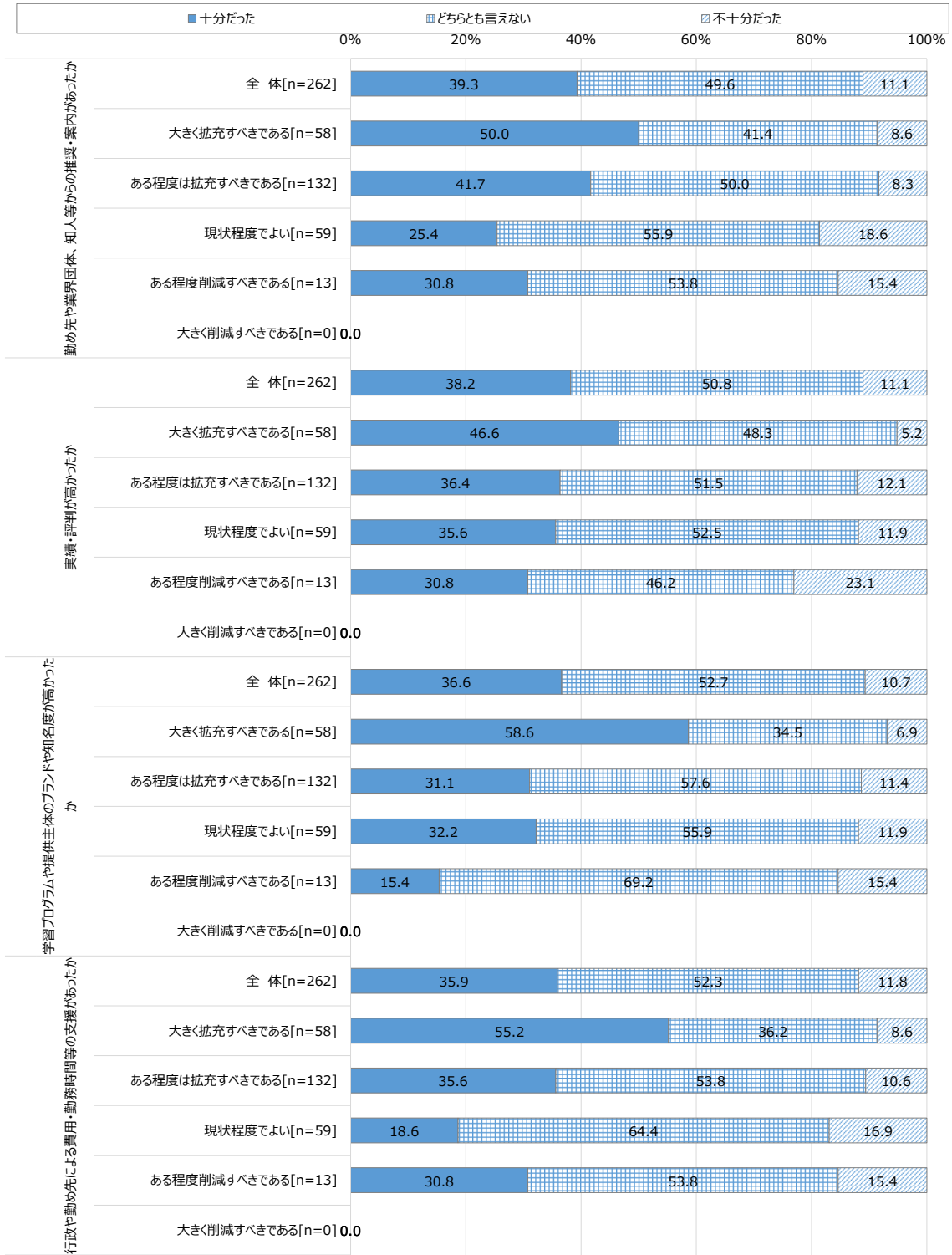


図 2-140 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校活用者」が評価した点 (3/3)

(7) 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校活王者」がより具体的に評価した点

Off-JT 意欲が高い「専修学校活王者」がより具体的に評価した点は、Web サイト等で詳細な情報が公開されていること、学習内容のレベルが適切であった、もしくは柔軟に選択できた、身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っていたことである。

Off-JT 意欲が高い「専修学校活王者」が評価するより具体的な強みは、プログラム等の情報が十分に公開されていること、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ、通学先へのアクセスや学習環境である。(2.2.16(6)の上位3つにおいて「十分だった」の割合が最も大きかった項目)

2.2.16(6)において各項目を「十分だった」と評価した専修学校活王者が、より具体的に「十分だった」と評価した点は以下の通りである。

大項目	左記のうち「十分だった」の割合が最も大きい項目
プログラム等の情報が十分に公開されていたか	Web サイト等で詳細な情報が公開されていた (85.7%)
学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか	学習内容のレベルが適切であった、もしくは柔軟に選択できた (60.0%)
受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気が出たか	受講者プロフィール (年代、性別、職業等) が紹介されていた (75.0%)
実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が (どちらか一方でも) 適切であること	通学による対面指導が受けられた (62.9%)
所要時間や実施時期が適切だったか	学習の開始時期が適切だった、もしくは柔軟に選択できた (65.6%)
費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価であったか	費用対効果が折り合った (64.3%)
指導方法が適切で、講師が優れていたか	指導法が実践的であること (58.6%)
通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか	身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っていた (62.2%)
講義以外にきめ細やかな支援 (個別支援、キャリア支援等) があったか	学習実施計画や目標設定を支援・管理してくれた (60.0%)
勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか	勤め先や業界団体等からの推奨・案内があった (65.5%)
実績・評判が高かったか	学習経験者数が多かった (66.7%)
学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高かったか	学習プログラムの知名度が高かった (82.4%)
行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか	勤め先からの費用補助があった (59.4%)

【QE2_3】 QE2_2 で「十分だった」を選択した項目それぞれについて、より具体的に「十分だった」と感じた点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。(MA) ⇒Off-JT を「大きく拡充すべきである」回答者のみを集計。

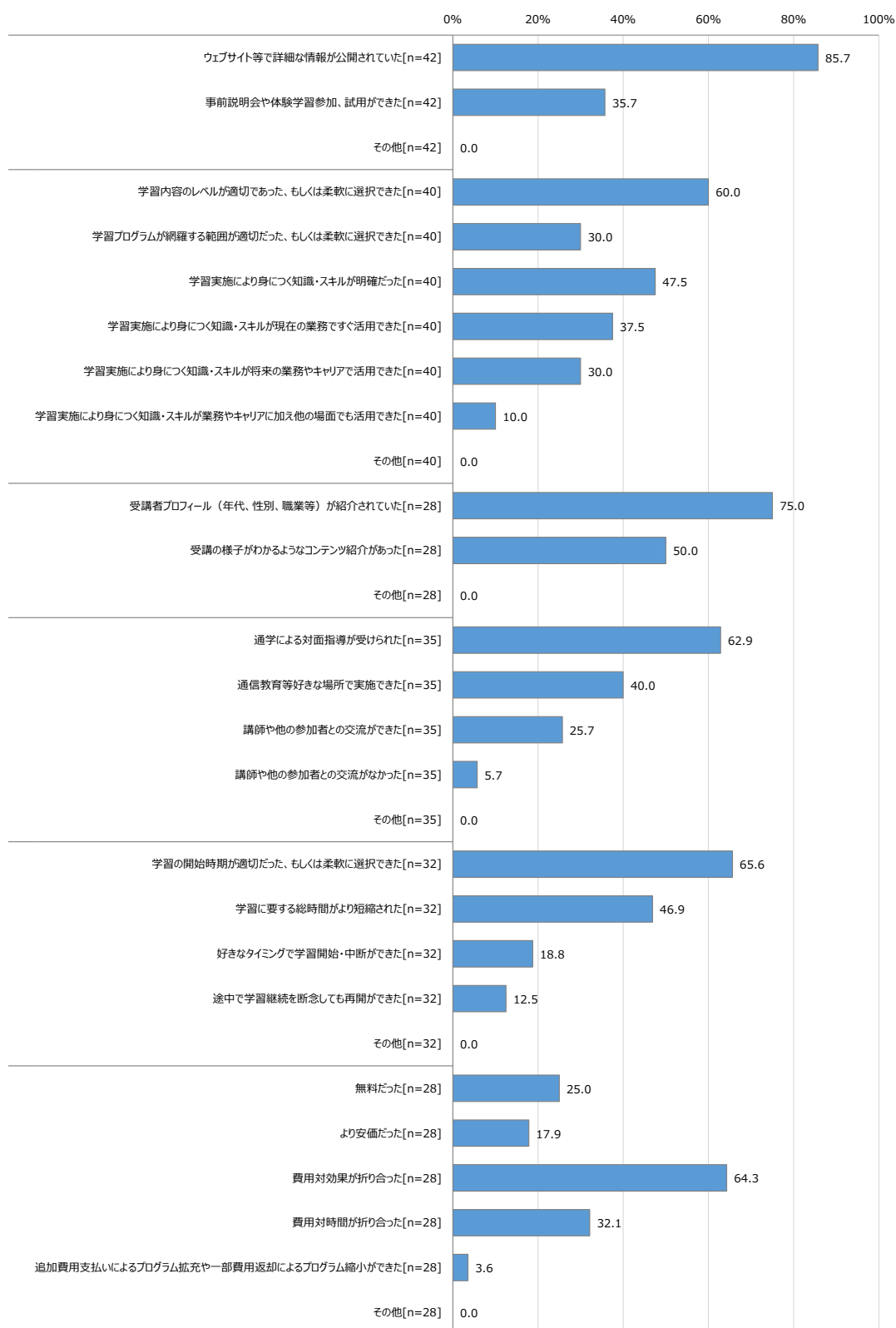


図 2-141 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校活用者」がより具体的に評価した点 (1/2)

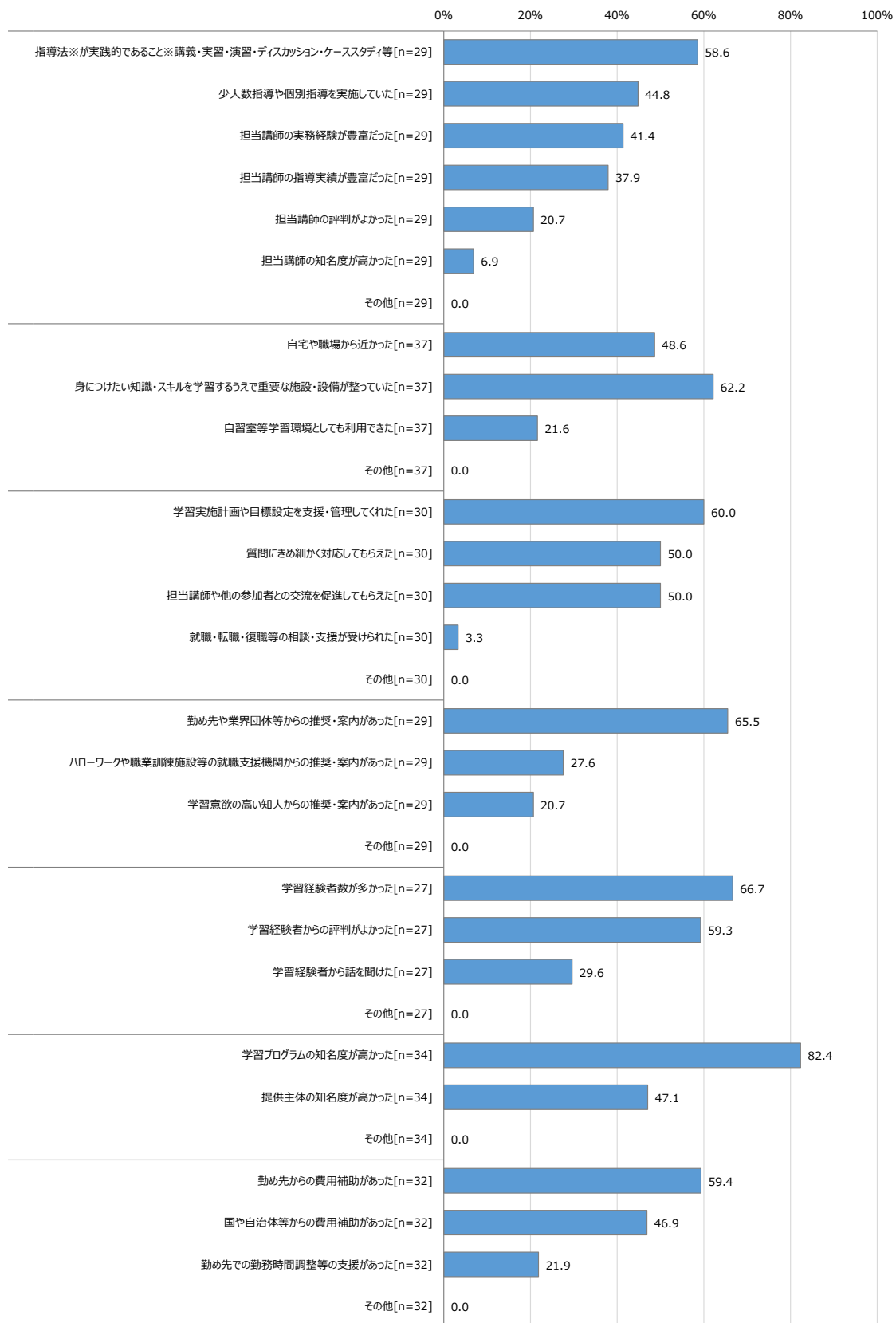


図 2-142 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校活用者」がより具体的に評価した点 (2/2)

(8) 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校活用户」が最も評価した点

Off-JT 意欲が高い「専修学校活用户」が最も評価した点は、プログラム等の情報が十分に公開されていること、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効であることである。

専修学校が提供する学習プログラムの最も満足した点について、「大きく拡充すべきである」回答者では、「プログラム等の情報が十分に公開されていたか」の割合が最も大きく30.8%、次いで「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか」の割合が21.2%と続く。

【QE2_5】QE2_2 で選択した「十分だった」点のうちもっとも満足した点、選択した「不十分だった」点のうちもっとも不満足だった点はそれぞれ何ですか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=226)
⇒上記のうち、「もっとも満足した点」のみを集計。

- プログラム等の情報が十分に公開されていたか
- 学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか
- ▣ 受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気は掴めたか
- 実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が（どちらか一方でも）適切
- ▣ 所要時間や実施時期が適切だったか
- 費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価であったか
- ▣ 指導方法が適切で、講師が優れていたか
- ▣ 通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか
- 講義以外にきめ細やかな支援（個別支援、キャリア支援等）があったか
- 勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか
- 実績・評判が高かったか
- ▣ 学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高かったか
- ▣ 行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか

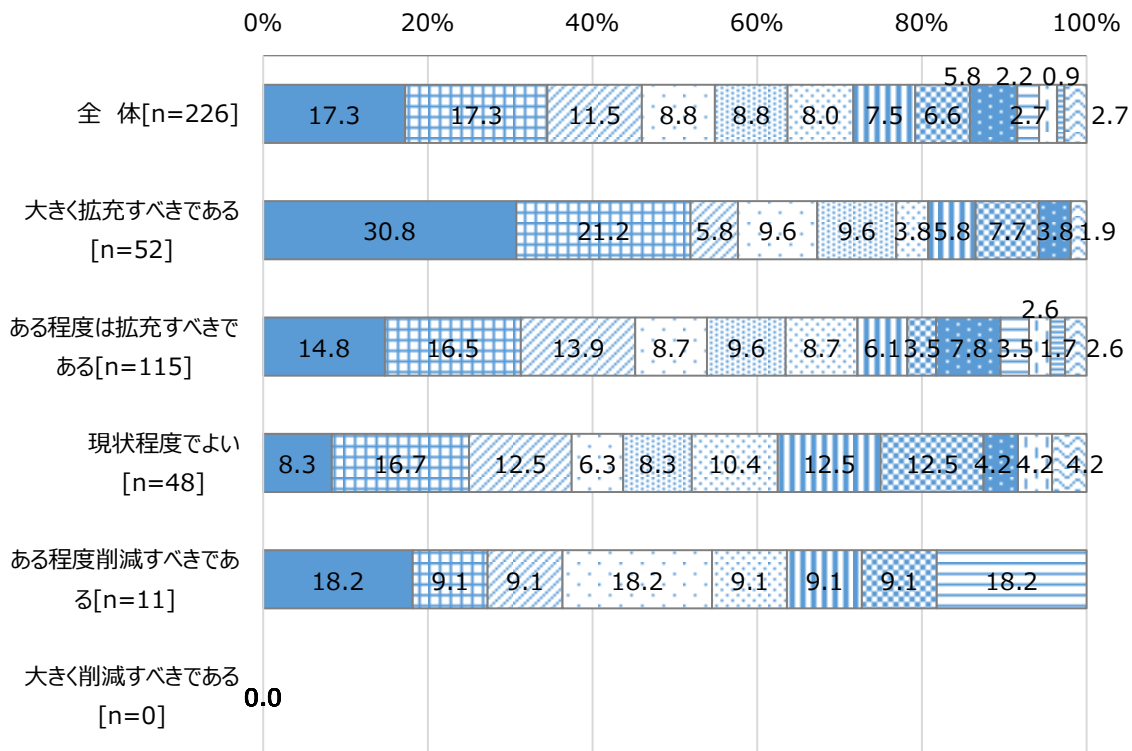


図 2-143 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校活用者」が最も評価した点

(9) 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校未活用者」が期待する点

Off-JT 意欲が高い「専修学校未活用者」が期待する点は、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ、プログラム等の情報が十分公開されていること、所要時間や実施時期が適切であることである。

専修学校が提供する学習プログラムへの期待について、いずれの項目においても、Off-JT 意欲が高いほど「期待する」の割合が大きい。

特に「Off-JT 意欲が高い層」における「期待する」の割合が大きいのは、「学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効である」で 33.6%、次いで「プログラム等の情報が十分公開されている」で 30.8%、「所要時間や実施時期が適切である」で 30.3%と続く。

【QE2_6】あなたは専修学校が提供する学習プログラムに対してどのようなイメージをお持ちですか。それぞれもっとも当てはまるものを1つ選択してください。(SA) (n=1703)

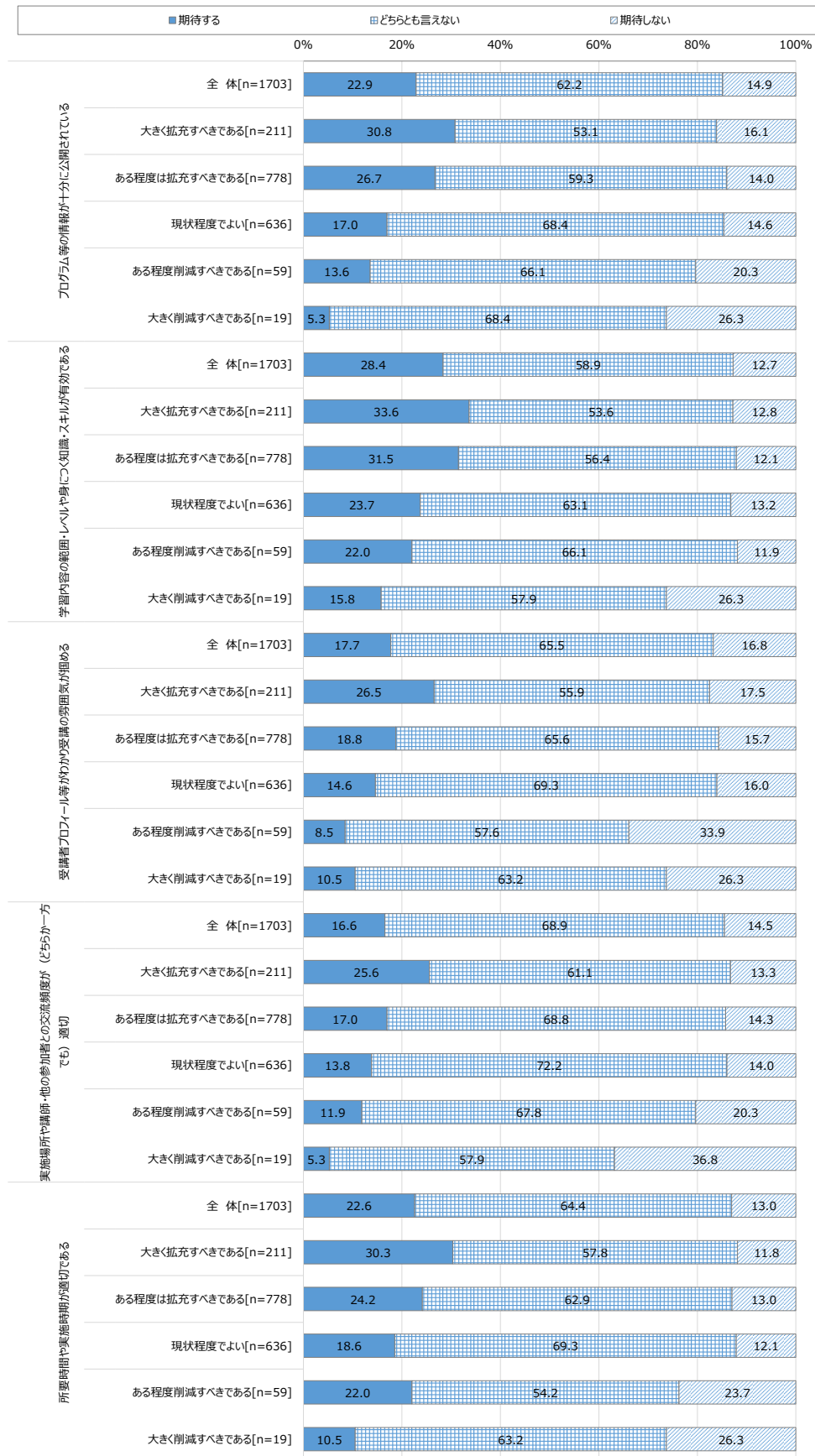


図 2-144 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校未活用者」が期待する点 (1/3)

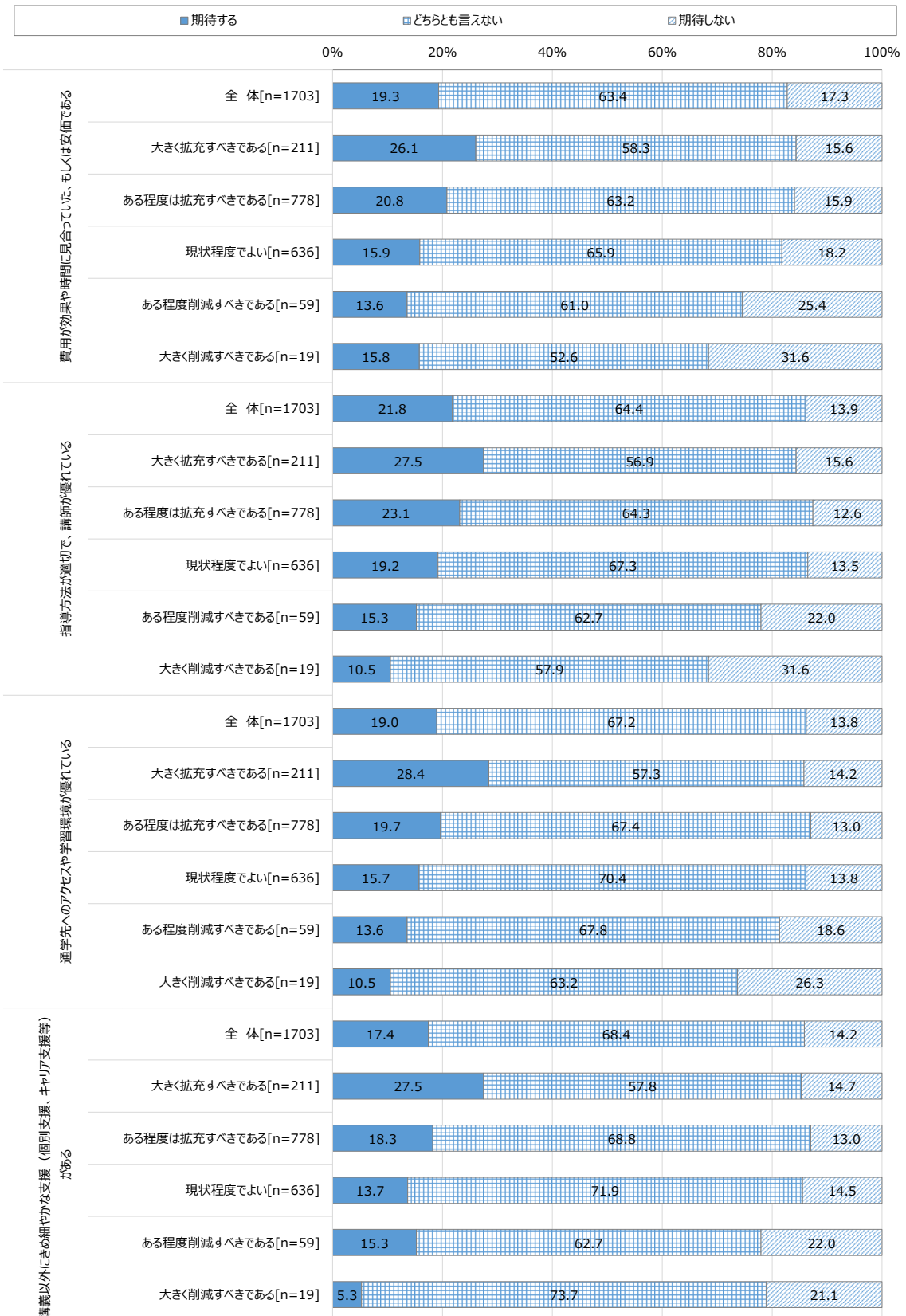


図 2-145 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校未活用者」が期待する点 (2/3)

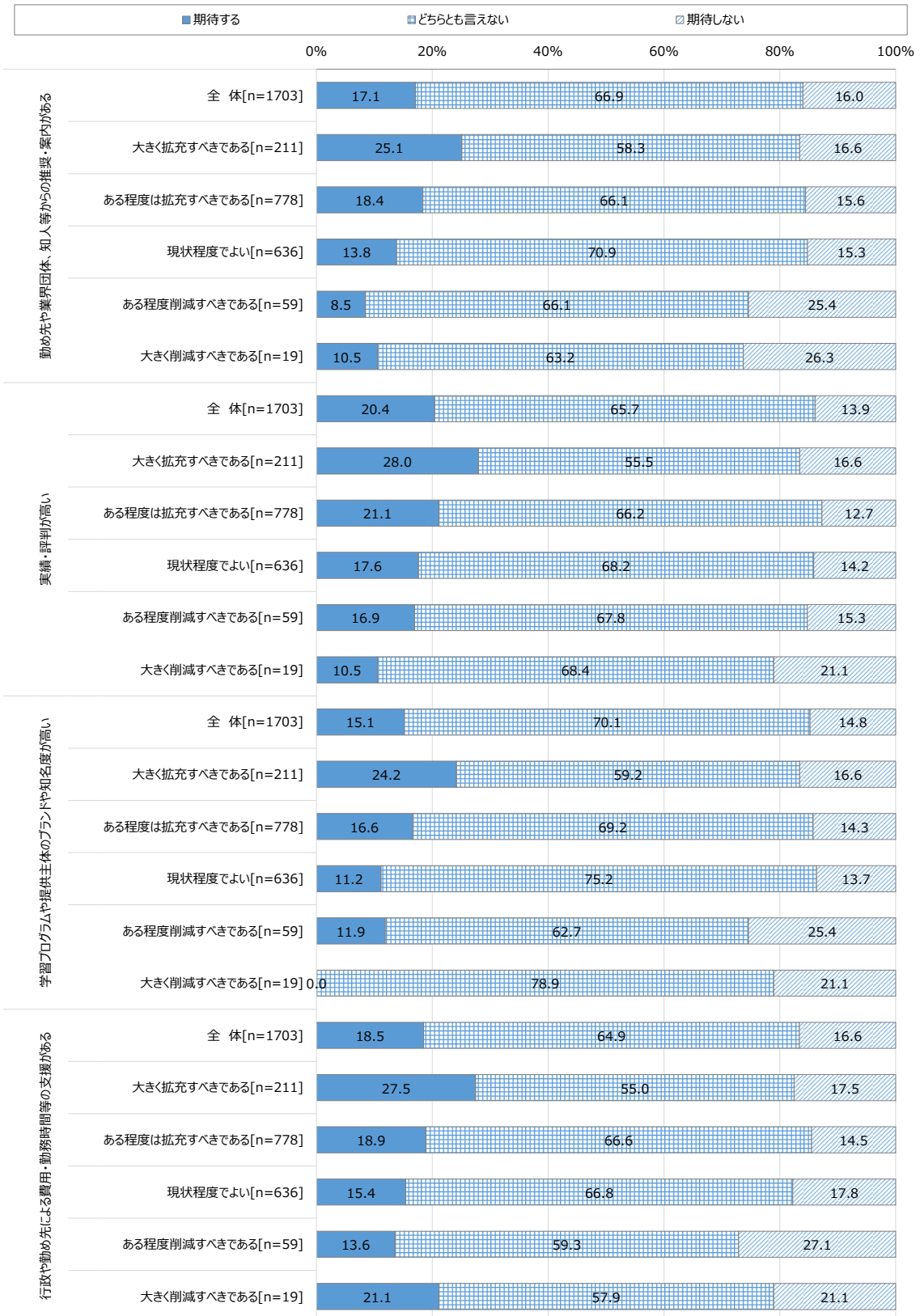


図 2-146 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校未活用者」が期待する点 (3/3)

(10) 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校未活用者」がより具体的に期待する点

Off-JT 意欲が高い「専修学校未活用者」がより具体的に期待する点は、学習内容のレベル設定が適切であることや柔軟に選択できること、Web サイト等で詳細な情報が公開されていること、学習の開始時期が適切であることや柔軟に選択できることである。

Off-JT 意欲が高い「専修学校未活用者」がより具体的に期待する点は、学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルの有効さ、プログラム等の情報が十分公開されていること、所要時間や実施時期が適切であることである。(2.2.16(9)の上位3つにおいて「十分だった」の割合が最も大きかった項目)

2.2.16(9)において各項目を「期待する」と評価した「専修学校未活用者」が、より具体的に「期待する」と評価した点は以下の通りである。

大項目	左記のうち「十分だった」の割合が最も大きい項目
プログラム等の情報が十分に公開されていたか	Web サイト等で詳細な情報が公開されている (67.7%)
学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか	学習内容のレベルが適切であった、もしくは柔軟に選択できる (47.9%)
受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気が出たか	受講者プロフィール (年代、性別、職業等) が紹介されている (60.7%)
実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が (どちらか一方でも) 適切であること	通信教育等好きな場所で実施できる (63.0%)
所要時間や実施時期が適切だったか	学習の開始時期が適切だった、もしくは柔軟に選択できる (54.7%)
費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価であったか	費用対効果が折り合う (52.7%)
指導方法が適切で、講師が優れていたか	指導方法が適切である (53.4%)
通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか	身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っている (63.3%)
講義以外にきめ細やかな支援 (個別支援、キャリア支援等) があったか	質問にきめ細かく対応してもらえる (65.5%)
勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか	勤め先や業界団体等からの推奨・案内がある (66.0%)
実績・評判が高かったか	学習経験者からの評判がよい (57.6%)
学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高かったか	学習プログラムの知名度が高い (76.5%)
行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか	国や自治体等からの費用補助がある (65.5%)

【QE2_7】 QE2_6 で「そう思う」を選択した項目それぞれについて、より具体的にイメージする点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。(MA)
⇒Off-JT を「大きく拡充すべきである」回答者のみを集計。

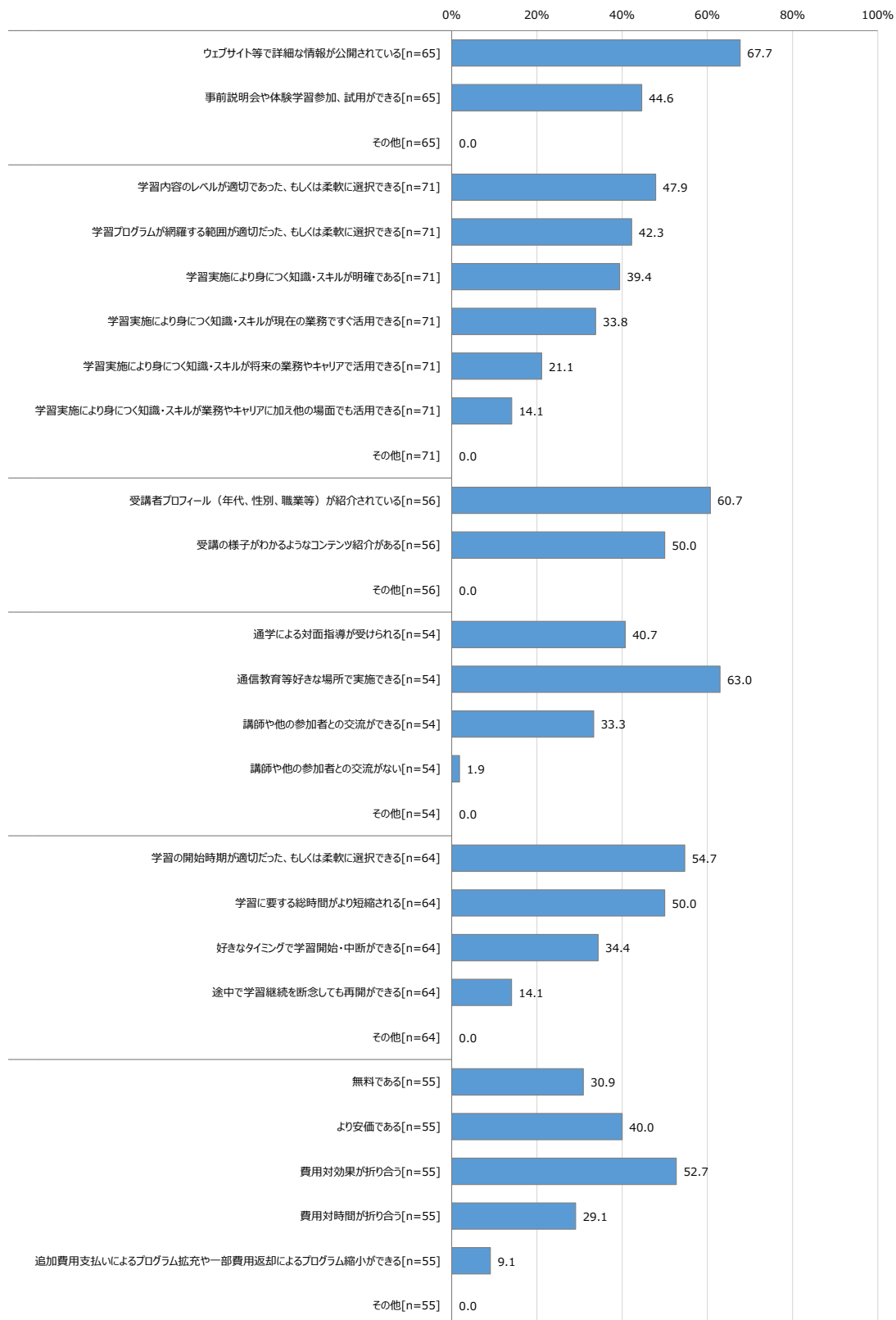


図 2-147 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校未活用者」がより具体的に期待する点 (1/2)

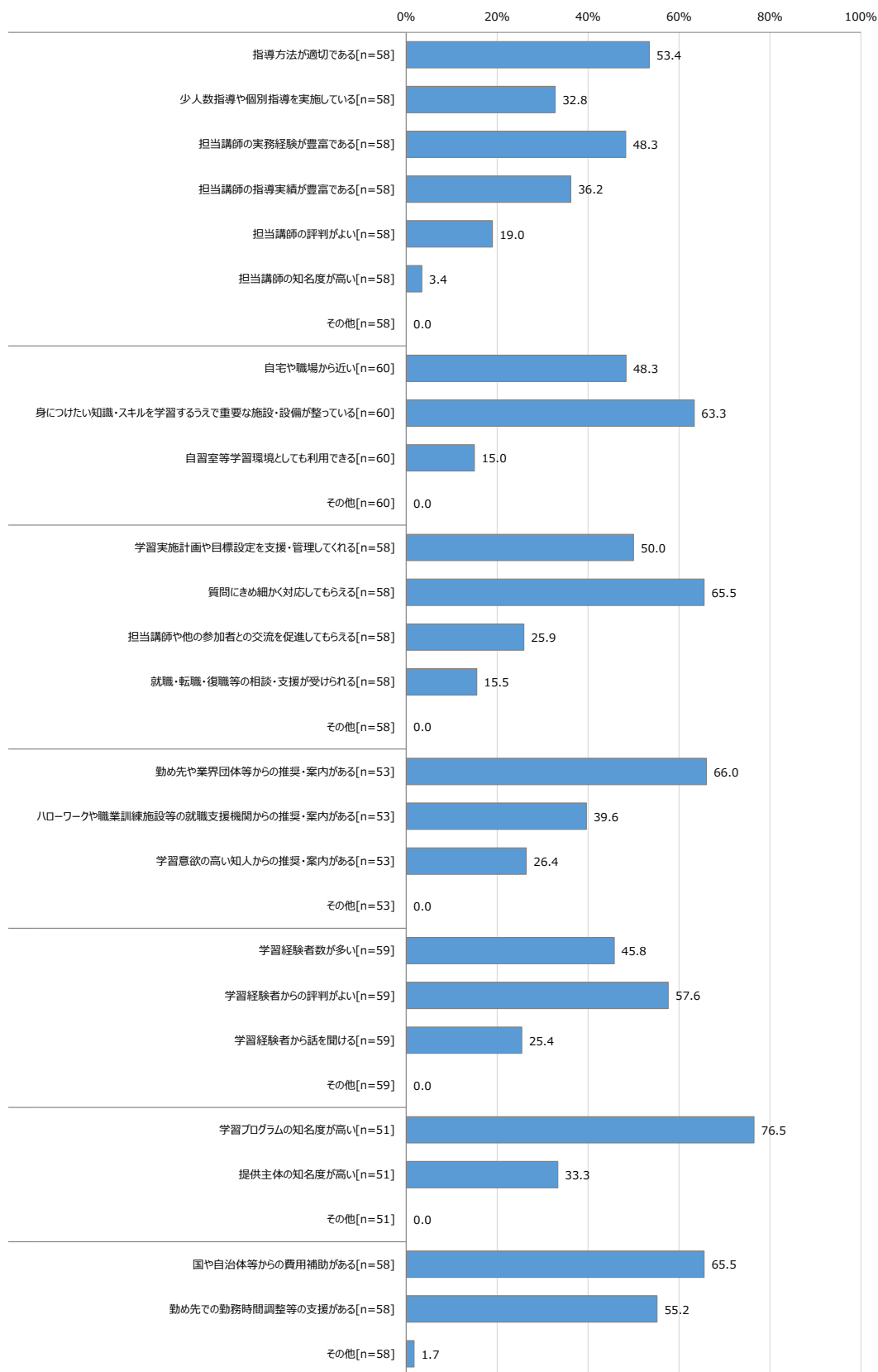


図 2-148 「Off-JT 意欲が高い層」かつ「専修学校未活用者」がより具体的に期待する点 (2/2)

3. 運営モデルの検証

3.1 目的

「専修学校におけるリカレント教育実施に向けたポイント」（2019年度作成、以下ポイント集）において示したリカレント教育運営において効果的と考えられる取組の有効性を検証し、取組に当たり求められる事項等を把握し、ガイドラインの作成に役立てる。

3.2 検証方法

3.2.1 概要

2019年度に実施された専修学校を対象としたヒアリング調査に基づき、昨年度策定したポイント集に記載した企画・準備～実施～評価～改善のフローの中で必要となる実施項目のうち、特に推進上の障壁になり得ると考えられる下記の実施項目について、障壁やその打開策、さらに当該打開策を講じる際に生じ得る障壁等の仮説を立案し、それぞれの妥当性・有効性等をヒアリング調査により検証した。

- ニーズ把握・反映
- 教材・指導法
- 広報
- 開設の意思決定／リソース確保

なお、本検証を通じて明らかになった事項は「専修学校リカレント教育ガイドライン」（「5リカレント教育総合推進方策の作成」を参照）に反映し、有効な運営モデルを専修学校に提示する。

3.2.2 検証仮説

「ニーズ把握・反映」「教材・指導法」「広報」「開設の意思決定、リソース確保」の各検証仮説は下図のとおりである。左段に各実施項目を行う際に生じている課題を昨年度のヒアリング調査を踏まえて記載し、それに対する打開策を中段に記載している。打開策は、当社で独自に検討したものに加え、汎用性の検証が必要と考えられる昨年度のヒアリング調査で聞かれた事例も含めている。さらに右段には、後述のガイドラインの有用性を向上させるため、各打開策を講じる際に想定される障壁を記載している。

「ニーズ把握・反映」に関する課題仮説

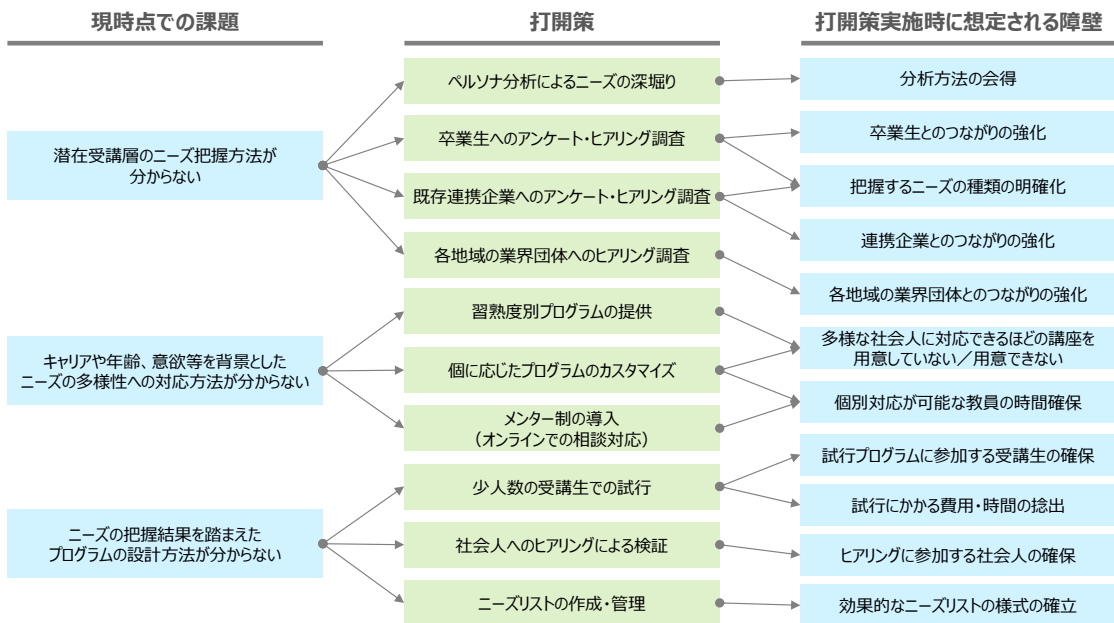


図 3-1 「ニーズ把握・反映」に関する課題仮説

「教材・指導法」に関する課題仮説

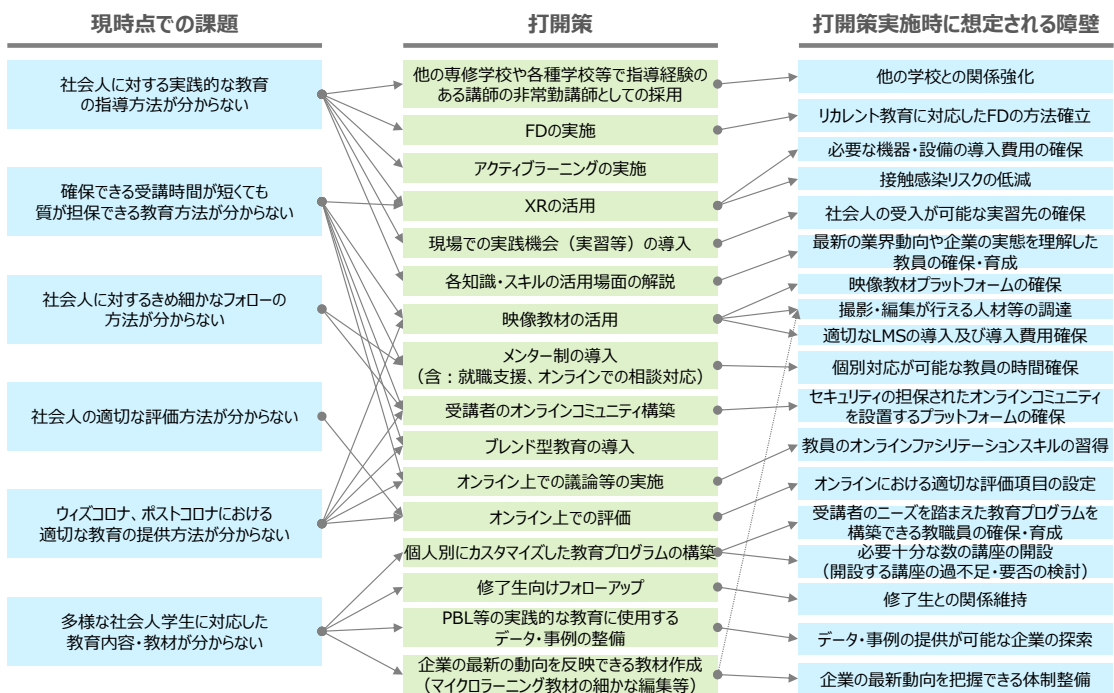


図 3-2 「教材・指導法」に関する課題仮説

「広報」に関する課題仮説

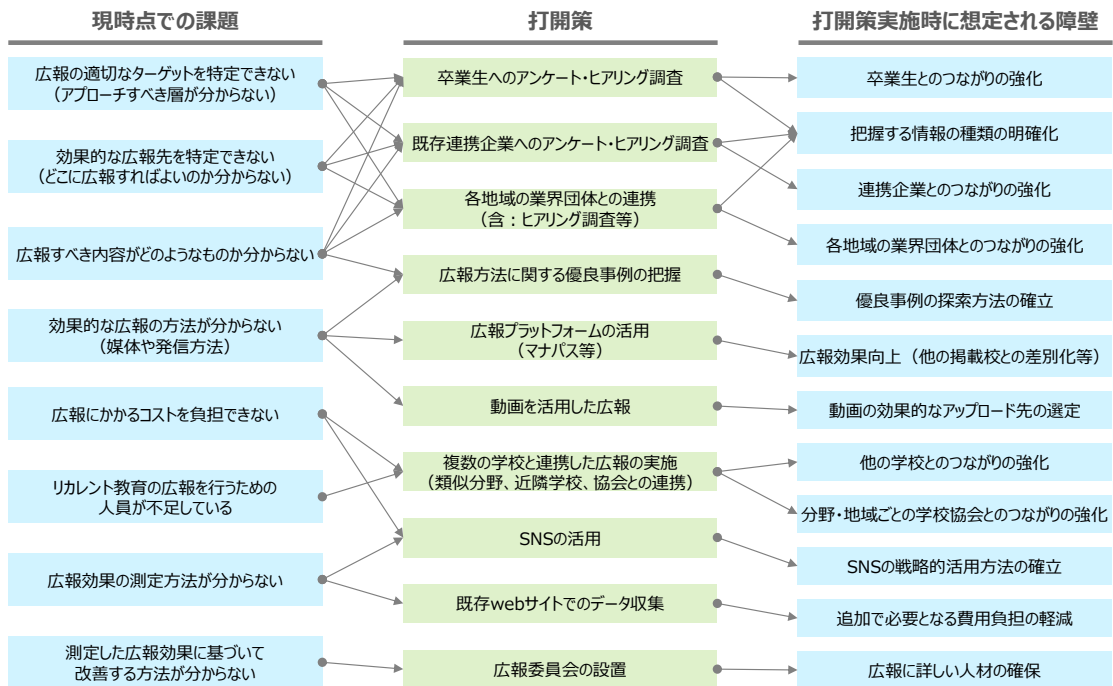


図 3-3 「広報」に関する課題仮説

「広報」に関する課題仮説

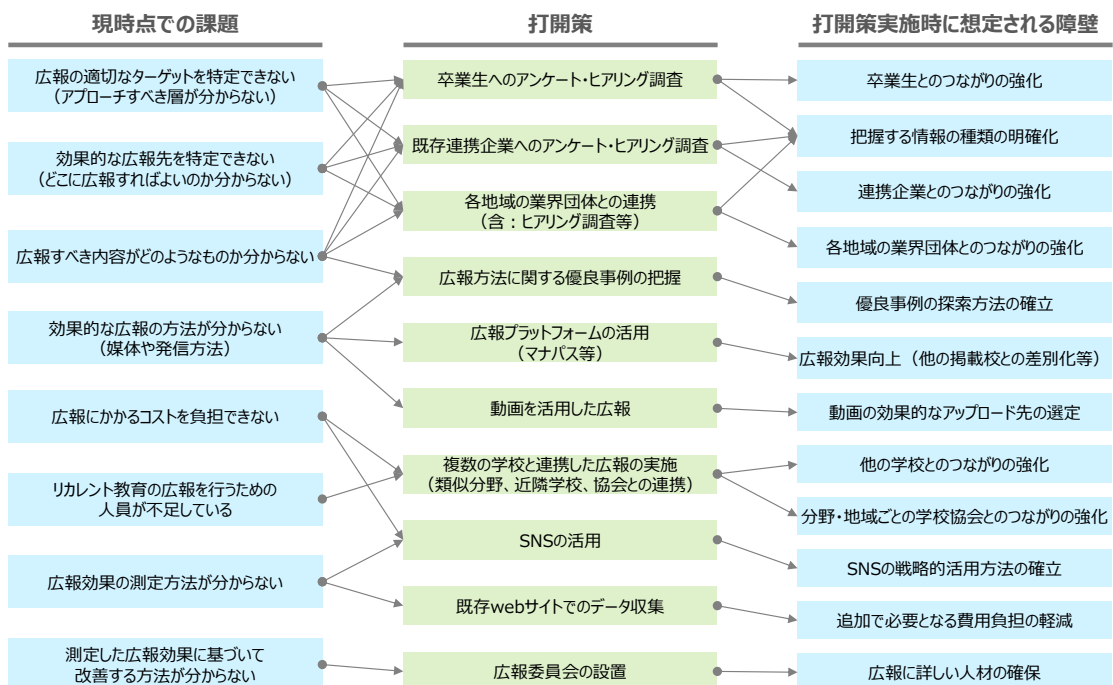


図 3-4 「開設の意思決定／リソース確保」に関する課題仮説

3.2.3 調査対象機関

ヒアリング調査対象機関は、文部科学省が実施する令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」（分野横断型リカレント教育プログラムの開発、eラーニングの積極的活用等による学び直し講座開設促進に向けた調査研究）で、「3.2.2 検証仮説」の4観点のいずれかに関して検討を行っている受託機関のうち7機関（専修学校4校、その他法人3機関）とした。

3.3 検証結果

以下に各観点別の主な検証結果を記載する²⁰。

3.3.1 ニーズ把握・反映

(1) ニーズ把握は既存のネットワークを活用しながら実施して負担を軽減

ニーズ把握として、大規模なアンケート調査、ヒアリング調査を実施すると大きな負担が生じるため、自校の卒業生や、卒業生の在籍企業の担当者、現有の正規課程に在籍する社会人、企業等内実習で連携している企業等といった、既存のネットワークを活用することが有効である。また、これらのニーズ把握対象者に聞き取りを行う場合は、ヒアリングの場を設定するだけでなく、日常会話からニーズを拾い上げることも日程調整負荷の軽減や、よりリアルなニーズの収集につながるため有効である。

(2) 社会人のニーズは多様であるため、ターゲットの絞り込みが重要

リカレント教育プログラムの受講生は、高卒で入学した生徒に比べ、キャリアや年齢、意欲等が多様であるため、これらを背景として生じるニーズも多岐に及ぶ傾向にある。このような多様なニーズのすべてに対応するのは大きな努力を要し、リカレント教育実施時の障壁となり得る。そのため、自校のミッション等を踏まえながらターゲットを絞り込み、絞り込んだあとのターゲットのニーズに焦点化するとよい、という意見が聞かれた。

なお、昨年度の調査等を踏まえると、多様なニーズへの対応方法として、①個に応じてカスタマイズできるプログラムの設計や、②メンター制の導入も有効と考えられるため、ガイドラインに別途追記している。これらの詳細はガイドライン（「3.1(5) プログラムの設計」）を参照されたい。

(3) 企業と受講者のニーズが一致しないことへの対応を行う必要がある

企業等が受講生に身に付けてほしい知識・スキルと、受講生自身が身に付けたい知識・スキルは、必ずしも一致するとは限らない。このことは、ニーズをプログラムに反映する際、いずれのニーズをどの程度反映するかという点で、リカレント教育実施上の課題となり得る。このことは、企業等に対しプログラムを提供する場合だけでなく、個人を対象としたプ

²⁰ 後述の「専修学校リカレント教育ガイドライン検討ワーキング・グループ」内で生じた意見も一部記載している。

プログラムにおいても、個人のニーズに焦点を当てて受講のモチベーションを向上させるか、当該社会人の在籍する企業等での評価を重視するかという観点でも、同様に課題として生じ得る。このような課題への対応方針としては、①企業等のニーズを優先してプログラム設計を行う、②受講生のレベルに応じた追加教材を整備する、という 2 種類の方針が聞かれた。

①については、企業等を対象としたプログラムの提供先は社会人個人であっても、実質的な提供先は企業等という点を考慮し、企業等のニーズに焦点を当てるという考え方である。個人を対象としたプログラムの場合も、可能な限り社会人個人のニーズを聞き入れながら、企業等のニーズに焦点化した方が有効なケースもあるだろうという声が聞かれた。②に関しては、企業等と受講生との間で生じる、学習分野面でのニーズの乖離、レベル面でのニーズの乖離を埋められるような追加教材を整備するといった対応方針である。

なお、①で企業等のニーズに焦点化しつつ、②のような個々の受講生に応じた個別フォローを行うことで、双方のニーズにバランスよく応えることができると考えられる。

3.3.2 教材・指導法

(1) 技術の変遷スピードに対応した教育内容・教材を確立する必要がある。

昨今の技術の進展やそれに伴うビジネスモデルの急速な変化、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う生活様式の変化といった、社会の急速な変化に呼応して（分野によっては）職業上必要となるスキルも急速な変化を遂げている。高卒で入学する生徒向けの課程は、時代の流れの中でも比較的变化の少ない基礎的な内容も多く扱っているが、社会人受講生はより実践的な内容を求めていることが多いため、教材もこれに対応して変化させていく必要があるという声が聞かれた。その一方で、このような変化をリアルタイムで捉え、全ての教材を作り直すのは非常に大きな負荷が伴い、専修学校にとってはリカレント教育実施上の障壁になり得るとの声も聞かれた。

ヒアリングを通じ、このような課題に対しては①マイクロラーニング教材の整備や、②実践的な学びの充実といった方法をとるのが有効と考えられることが明らかになった。

(2) 就職に直結したインターンシップの実施により、職業教育機関としての強みを発揮

キャリアチェンジや復職を目的としている受講生は、高卒で専修学校に入学した生徒と同様、就職に結びつく教育や支援にニーズがある。そのため、受講生と中途採用意向のある企業等のマッチング次第で就職の可能性があるようなインターンシップを行うのが効果的であるとの意見が聞かれた。このような教育を実施できるのは、企業等とのネットワークをもつ専修学校の強みであるため、この方法を取ることで、他の学校種（大学や民間事業者）との差別化を図ることができると考えられる。

3.3.3 広報

(1) 身近なところから広報を行い、負担を軽減するとともに広報効果向上を狙う

広い対象に広報を行う場合、広報にかかる経費負担が大きくなることから、自校の卒業生や卒業生の在籍企業の担当者、現有の正規課程に在籍する社会人、企業等内実習で連携している企業等といった、既存のネットワークを活用することが有効であるといった意見が聞かれた。また、これらの対象は先述のニーズ把握の対象と重なるため、彼らのニーズを反映したプログラムを開発することにより、訴求力も非常に高くなることが予想される。

(2) 広報時に受講後の姿を示し、社会人への訴求力を向上

プログラムの受講を検討している社会人や企業等は、「将来的にありたい(あってほしい)姿」があってプログラムを探索している場合と、そのような具体的なイメージなく探索している場合の2種類に大別できる。自校の開発したプログラムを受講することで、どのような姿になることができるのかという点を学校側から示していくことは、具体的な「ありたい姿」のイメージのある前者のような対象に特に訴求できるだろうという意見が聞かれた。また、具体的なイメージがない後者的ような対象に対しても、学校から能動的に提示することによって、具体的なイメージを持つことができるという点で効果的であると考えられる。

3.3.4 リソース確保

(1) 高いレベルを求められるリカレント教育を行える教員を確保することが重要

社会人は高卒で専修学校に入学した生徒よりもプログラムに求めるレベルが高いという声が複数のヒアリング対象者から聞かれた。そのため、このようなレベルの高いプログラムに対応できる教員を確保することは非常に重要と考えられる。

例えば実務家教員の場合には、大学院修士課程の修了や、実務家教員養成コースの修了を要件とする等、教育の質を担保するための要件を設けたうえで依頼・採用するというアイデアが聞かれた。

(2) 自治体を含む行政からの事業受託や補助金・助成金により予算を確保する方法も有効

個々の専修学校がリカレント教育実施に必要な予算を確保し、その範囲内で収益を出し続けるのは実態として困難であり、それを克服する方法として、自治体を含む行政から事業受託や補助金・助成金を受けて予算を確保する方法も一手段として有効であるという声が聞かれた。

4. 「専修学校リカレント教育ガイドライン」の作成

4.1 概要

専修学校がリカレント教育プログラムを実施する際の運営モデルや、実施の際の課題とそれらに対する打開策等を取りまとめた「専修学校リカレント教育ガイドライン」（以下「ガイドライン」）を作成した。

4.2 作成方針

4.2.1 重視するコンセプト

ガイドライン作成の際は、下記のコンセプトを重視する。

- ①社会人のニーズを常に根底におくこと
- 専修学校の特徴や実態を踏まえて②実現性を高めること
- リカレント教育プログラムの企画・運営に必要な実施事項が③網羅的に整理されたうえで、それらの実施上のポイントが整理された④有用性の高いものとする
- 記載が⑤具体的であること

4.2.2 「ポイント集」との接続

昨年度に作成したポイント集を基に作成する。当該ポイント集では、企画・運営のプロセス（PDCA）に沿ったポイントを全般的に記載することができたため、今年度は特に大きな障壁・課題となっている項目について詳細に記述する。

また、ポイント集における企画・運営のプロセス（PDCA）に沿った構成は「3 運営モデルの検証」で実施したヒアリング調査において利便性が高いとの声が多かったため、この構成を踏襲して作成した。

4.2.3 作成上のインプット

作成にあたっては、今年度実施の下記より得られる情報を反映した。

(1) 社会人アンケート調査

アンケート調査結果を掲載・反映しながら、社会人のニーズを踏まえた（コンセプト①）教育プログラムの設計方法を記載した。

(2) 運営モデルの検証

運営モデル検証結果を反映し、専修学校の特徴や実態を踏まえた実現性の高いガイドライン（コンセプト②）にするとともに、不足している実施事項があれば追記し網羅性を高めた（コンセプト③）。また、特に有効であったという意見が得られた取組は、課題に対する「対応方針」として整理して有用性を高める（コンセプト④）とともに、それらの取組を具

体的に記述（コンセプト⑤）した。また、ポイント集の記載事項の妥当性についても確認した。

(3) 「専修学校リカレント教育ガイドライン検討ワーキング・グループ」

現場ニーズの反映やガイドライン記載事項の実効性の確認のために「専修学校リカレント教育ガイドライン検討ワーキング・グループ」を実施し（後述）、この結果をガイドラインに反映した。

4.3 ポイント集の構成

「4.2.2「ポイント集」との接続」に記載した通り、昨年度のポイント集の構成を踏襲した、一般的に想定される業務の流れ（図 4-1）に沿った構成とした。

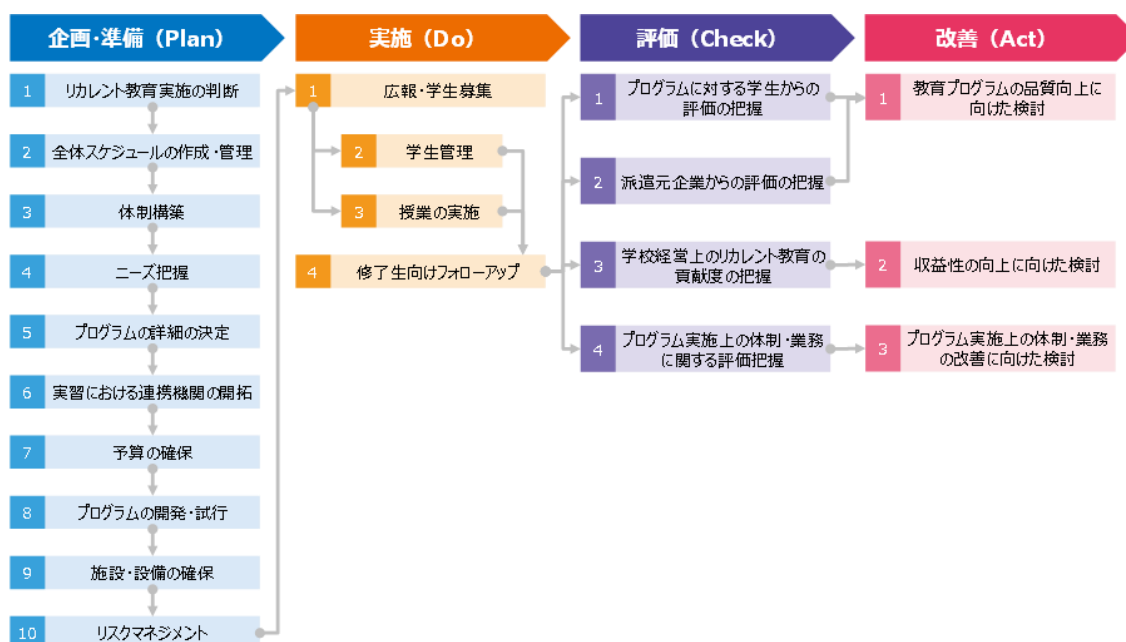


図 4-1 持続可能なリカレント教育プログラム実施に関する全体の流れ

持続可能なリカレント教育プログラム実施に関する全体の流れを踏まえた、ポイント集の構成は下記のとおりである。

表 4-1 ポイント集の構成

1. 概要
2. 「専修学校リカレント教育」実施のポイント
2.1 全体の流れ
2.2 「専修学校リカレント教育」の企画・準備 (Plan)
(1) リカレント教育実施の判断
(2) 全体スケジュールの作成・管理
(3) 体制構築
(4) ニーズ把握
(5) プログラムの設計
(6) 実習における連携機関の開拓
(7) 予算の確保
(8) プログラムの開発・試行
(9) 施設・設備の確保
(10) リスクマネジメント
2.3 「専修学校リカレント教育」の実施 (Do)
(1) 広報・学生募集
(2) 受講生管理
(3) 講座の運営
(4) 修了生向けフォローアップ
2.4 「専修学校リカレント教育」の評価 (Check)
(1) プログラムに対する受講生からの評価の把握
(2) 派遣元企業等からの評価の把握
(3) 学校経営上のリカレント教育プログラムの貢献度把握
(4) プログラム実施上の体制・業務に関する評価把握
2.5 「専修学校リカレント教育」の改善 (Act)
(1) 教育プログラムの品質向上に向けた検討
(2) 収益性の向上に向けた検討
(3) プログラム実施上の体制・業務の改善に向けた検討

4.4 「専修学校リカレント教育ガイドライン検討ワーキング・グループ」の実施

4.4.1 リカレント教育推進検討委員会の趣旨・目的

現場ニーズのガイドラインへの反映やガイドライン記載事項の実効性の確認等といった、ガイドラインに関する全般的な助言を得ることを目的とし「専修学校リカレント教育ガイドライン検討ワーキング・グループ」（以下「WG」）を計2回実施した。

4.4.2 委員

本 WG の委員は下記のとおりである。委員は、すでにリカレント教育を実施している専修学校の担当者、大学の担当者、専修学校現場に関する知見を有する民間事業者等、本 WG の趣旨を踏まえて選定を行った。

表 4-2 WG 委員等（五十音順、敬称略）

区分	所属・役職	氏名
委員	河原デザイン・アート専門学校 インテリア・建築デザイン科 学科長	窪田 智一
	学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長	白井 雅哲
	学校法人 KBC 学園 地域創生室 アドバイザー	仲宗根 真
	学校法人森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校 鍼灸学科 学科長	松下 美穂
	Benesse Group 株式会社 進研アド 専門学校事業部	松本 晴輝
	日本女子大学 通信教育・生涯学習事務部 生涯学習課 リカレント教育課程 担当課長 女性のためのリカレント教育推進協議会 事務局長	茂木 知子
オブザーバー	Benesse Group 株式会社 進研アド 専門学校事業部	皿井 全喜

4.4.3 実施概要

本 WG の開催日程・場所および検討内容は下記のとおりである。

表 4-3 WG 開催日程・場所および検討内容

回	日程・場所	検討内容
1	2020年11月13日 於：オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 専修学校リカレント教育導入・運営上の課題 ガイドライン想定読者および構成 ガイドラインに記載すべき内容、メッセージ
2	2021年2月9日 於：オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ガイドライン案の構成・体裁 ガイドライン案の内容

5. リカレント教育総合推進方策の作成

作成した「リカレント教育総合推進方策」は別冊とし、本章では、推進方策の趣旨・目的や作成方針、構成を取りまとめた。

5.1 概要

本事業期間全体および事業修終了後に、専修学校リカレント教育が総合的に推進されることを目的として、現状、課題、方策を踏まえた「リカレント教育総合推進方策」（以下「推進方策」）を取りまとめた。本推進方策は、次年度に実施する予定である学校向けアンケート調査等を踏まえて拡充していく予定である。初年度である今年度は、昨年度に作成した「リカレント教育総合推進方策(骨子)」を踏まえ、社会人アンケート調査結果等を踏まえ、これに加筆・再編し取りまとめた。

5.2 作成方針

本推進方策では、専修学校におけるリカレント教育推進の背景、期待、現状を整理したうえで、専修学校においてリカレント教育が推進されない課題を分析し、方策の基本方針を定め、方策を立案した。

5.3 推進方策の構成

上記の作成方針を踏まえ、推進方策の構成は下記とした。

表 5-1 推進方策の構成

1. 専修学校リカレント教育推進の背景、期待、現状
2. 課題分析と方策の基本方針
3. 推進方策

6. 参考資料

社会人アンケート調査 調査票

No.	質問文	回答形式	選択肢
Qa_1	あなたの年齢を教えてください。(2020年12月1日時点) ／歳	NU	
Qb	あなたの性別を教えてください。	SA	1 男性 2 女性
Qb2	あなたが居住している都道府県を教えてください(2020年12月1日時点)。当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 北海道 2 青森県 3 岩手県 4 宮城県 5 秋田県 6 山形県 7 福島県 8 茨城県 9 栃木県 10 群馬県 11 埼玉県 12 千葉県 13 東京都 14 神奈川県 15 新潟県 16 富山県 17 石川県 18 福井県 19 山梨県 20 長野県 21 岐阜県 22 静岡県 23 愛知県 24 三重県 25 滋賀県 26 京都府 27 大阪府 28 兵庫県 29 奈良県 30 和歌山県 31 鳥取県 32 島根県 33 岡山県 34 広島県 35 山口県 36 徳島県 37 香川県 38 愛媛県 39 高知県 40 福岡県 41 佐賀県 42 長崎県 43 熊本県 44 大分県 45 宮崎県 46 鹿児島県 47 沖縄県
Qb3	配偶者はいらっしゃいますか(2020年12月1日時点)。当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 いる 2 いない
Qc	あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(2020年12月1日時点)もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 している 2 仕事はあるが休職中である 3 過去にしていたが現在は無職である 4 これまでしたことはない

No.	質問文	回答形式	選択肢
Qd_1	現在のあなたの職業についてもっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	<p>1 管理的職業従事者(会社役員、部長、課長、国・地方公共団体の管理職等) ※事業経営方針の決定・経営方針に基づく執行計画の樹立・作業の監督・統制など、経営体の全般又は課(課相当を含む)以上の内部組織の経営・管理に従事する方。国・地方公共団体の各機関の公選された公務員も含まれる。</p> <p>2 専門的・技術的職業従事者(研究者、技術者、医師、看護師、芸術家等) ※科学的知識を応用した技術的な仕事に従事するもの、及び医療・教育・法律・宗教・芸術・その他の専門的性質の仕事に従事する方。</p> <p>3 事務従事者(総務、人事、企画、会計等) ※一般に課長(課長相当職を含む)以上の職務にあるものの監督を受けて、庶務・文書・人事・調査・企画・会計などの仕事、並びに生産関連・営業販売・外勤・運輸・通信に関する事務及び事務用機器の操作の仕事に従事する方。</p> <p>4 販売従事者(商品販売、営業等) ※商品の仕入・販売、不動産・有価証券などの売買の仕事、売買の仲立・取次・代理などの販売類似の仕事、商品の売買・製造・サービスなどに関する取引上の勧誘・交渉・受注・契約締結、保険の代理・募集などの営業の仕事に従事する方。</p> <p>5 サービス職業従事者(対個人のサービス、対事業所のサービス等) ※個人の家庭における家事サービス、介護・身の回り用務・調理・接客・娯楽など個人に対するサービス、及び他に分類されないサービスの仕事に従事する方。</p> <p>6 保安職業従事者(自衛官、警察官、消防員、警備員等) ※国家の防衛、社会・個人・財産の保護、法と秩序の維持などの仕事に従事する方。自衛官・警察官・海上保安官・消防員として任用されていて、医療・教育・事務などのように、他の分類項目に該当する仕事に従事するものも含まれる。</p> <p>7 農林漁業従事者(飼育員、植物や水産物の栽培・養殖等も含む) ※農作物の栽培・収穫、養蚕・家畜・家さん(禽)・その他の動物の飼育、林木の育成・伐採・搬出、水産動植物(両生類を含む)の捕獲・採取・養殖をする仕事、及びその他の農林漁業類似の仕事並びにこれらに関連する仕事に従事する方。</p> <p>8 生産工程従事者(製造、加工、整備、修理、検査等) ※生産設備の制御・監視の仕事、機械・器具・手動具などを用いて原料・材料を加工する仕事、各種の機械器具を組立・調整・修理・検査する仕事、製版・印刷・製本の作業、生産工程で行われる仕事に関連する仕事及び生産に類似する技能的な仕事に従事する方。</p> <p>9 輸送・機械運転従事者(運転・操縦、機械の操作・管理等) ※機関車・電車・自動車・船舶・航空機などの運転・操縦の仕事、及びその他の関連する仕事、並びに定置機関・機械及び建設機械を操作する仕事に従事する方。</p> <p>10 建設・採掘従事者(工事を含む)※建設の仕事、電気工事に係る作業を行う仕事、ダム・トンネルの掘削などの仕事、鉱物の探査・試掘・採掘・採取・選鉱の仕事に従事する方。</p> <p>11 運搬・清掃・包装等従事者 ※主に身体を使って行う定型的な作業のうち、運搬・配達・梱包・清掃・包装等に従事する方。</p> <p>12 その他(具体的に)</p>

No.	質問文	回答形式	選択肢
Qd.2	過去のあなたの職業のうち、最後に就いていたものについて、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	<p>1 管理的職業従事者(会社役員、部長、課長、国・地方公共団体の管理職等) ※事業経営方針の決定・経営方針に基づく執行計画の樹立・作業の監督・統制など、経営体の全般又は課(課相当を含む)以上の内部組織の経営・管理に従事する方。国・地方公共団体の各機関の公選された公務員も含まれる。</p> <p>2 専門的・技術的職業従事者(研究者、技術者、医師、看護師、芸術家等) ※科学的知識を応用した技術的な仕事に従事するもの、及び医療・教育・法律・宗教・芸術・その他の専門的性質の仕事に従事する方。</p> <p>3 事務従事者(総務、人事、企画、会計等) ※一般に課長(課長相当職を含む)以上の職務にあるものの監督を受けて、庶務・文書・人事・調査・企画・会計などの仕事、並びに生産関連・営業販売・外勤・運輸・通信に関する事務及び事務用機器の操作の仕事に従事する方。</p> <p>4 販売従事者(商品販売、営業等) ※商品の仕入・販売、不動産・有価証券などの売買の仕事、売買の仲立・取次・代理などの販売類似の仕事、商品の売買・製造・サービスなどに関する取引上の勧誘・交渉・受注・契約締結、保険の代理・募集などの営業の仕事に従事する方。</p> <p>5 サービス職業従事者(対個人のサービス、対事業所のサービス等) ※個人の家庭における家事サービス、介護・身の回り用務・調理・接客・娯楽など個人に対するサービス、及び他に分類されないサービスの仕事に従事する方。</p> <p>6 保安職業従事者(自衛官、警察官、消防員、警備員等) ※国家の防衛、社会・個人・財産の保護、法と秩序の維持などの仕事に従事する方。自衛官・警察官・海上保安官・消防員として任用されていて、医療・教育・事務などのように、他の分類項目に該当する仕事に従事するものも含まれる。</p> <p>7 農林漁業従事者(飼育員、植物や水産物の栽培・養殖等も含む) ※農作物の栽培・収穫、養蚕・家畜・家さん(禽)・その他の動物の飼育、林木の育成・伐採・搬出、水産動植物(両生類を含む)の捕獲・採取・養殖をする仕事、及びその他の農林漁業類似の仕事並びにこれらに関連する仕事に従事する方。</p> <p>8 生産工程従事者(製造、加工、整備、修理、検査等) ※生産設備の制御・監視の仕事、機械・器具・手動具などを用いて原料・材料を加工する仕事、各種の機械器具を組立・調整・修理・検査する仕事、製版・印刷・製本の作業、生産工程で行われる仕事に関連する仕事及び生産に類似する技能的な仕事に従事する方。</p> <p>9 輸送・機械運転従事者(運転・操縦、機械の操作・管理等) ※機関車・電車・自動車・船舶・航空機などの運転・操縦の仕事、及びその他の関連する仕事、並びに定置機関・機械及び建設機械を操作する仕事に従事する方。</p> <p>10 建設・採掘従事者(工事を含む) ※建設の仕事、電気工事に係る作業を行う仕事、ダム・トンネルの掘削などの仕事、鉱物の探査・試掘・採掘・採取・選鉱の仕事に従事する方。</p> <p>11 運搬・清掃・包装等従事者 ※主に身体を使って行う定型的な作業のうち、運搬・配達・梱包・清掃・包装等に従事する方。</p> <p>12 その他(具体的に)</p>

No.	質問文	回答形式	選択肢
Qe_1	現在のあなたの職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 管理的公務員
			2 法人・団体役員
			3 法人・団体管理職員
			4 その他の管理的職業従事者
Qe_2	現在のあなたの職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 研究者
			2 農林水産技術者
			3 製造技術者(開発)
			4 製造技術者(開発を除く)
			5 建築・土木・測量技術者
			6 情報処理・通信技術者
			7 その他の技術者
			8 医師, 歯科医師, 獣医師, 薬剤師
			9 保健師, 助産師, 看護師
			10 医療技術者
			11 その他の保健医療従事者
			12 社会福祉専門職業従事者
			13 法務従事者
			14 経営・金融・保険専門職業従事者
			15 教員
			16 宗教家
			17 著述家, 記者, 編集者
			18 美術家, デザイナー, 写真家, 映像撮影者
			19 音楽家, 舞台芸術家
			20 その他の専門的職業従事者
Qe_3	現在のあなたの職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 一般事務従事者
			2 会計事務従事者
			3 生産関連事務従事者(例 生産現場事務員、出荷・受荷事務員 等)
			4 営業・販売事務従事者
			5 外勤事務従事者
			6 運輸・郵便事務従事者
			7 事務用機器操作員
Qe_4	現在のあなたの職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 商品販売従事者
			2 販売類似職業従事者(例 不動産仲介・売買人、保険代理・仲立人、質屋店主・店員 等)
			3 営業職業従事者
Qe_5	現在のあなたの職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 家庭生活支援サービス職業従事者(例 家政婦(夫) 等)
			2 介護サービス職業従事者
			3 保健医療サービス職業従事者
			4 生活衛生サービス職業従事者
			5 飲食物調理従事者
			6 接客・給仕職業従事者
			7 居住施設・ビル等管理人
			8 その他のサービス職業従事者
Qe_6	現在のあなたの職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 自衛官
			2 司法警察職員
			3 その他の保安職業従事者(例 看守、消防員、警備員 等)
Qe_7	現在のあなたの職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 農業従事者
			2 林業従事者
			3 漁業従事者

No.	質問文	回答形式	選択肢
Qe_8	現在のあなたの職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 生産設備制御・監視従事者(金属製品)
			2 生産設備制御・監視従事者(金属製品を除く)
			3 機械組立設備制御・監視従事者
			4 製品製造・加工処理従事者(金属製品)
			5 製品製造・加工処理従事者(金属製品を除く)
			6 機械組立従事者
			7 機械整備・修理従事者
			8 製品検査従事者(金属製品)
			9 製品検査従事者(金属製品を除く)
			10 機械検査従事者
			11 生産関連・生産類似作業従事者
Qe_9	現在のあなたの職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 鉄道運転従事者
			2 自動車運転従事者
			3 船舶・航空機運転従事者
			4 その他の輸送従事者
			5 定置・建設機械運転従事者
Qe_10	現在のあなたの職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 建設躯体工事従事者
			2 建設従事者(建設躯体工事従事者を除く)
			3 電気工事従事者
			4 土木作業従事者
			5 採掘従事者
Qe_11	現在のあなたの職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 運搬従事者
			2 清掃従事者
			3 包装従事者
			4 その他の運搬・清掃・包装等従事者
Qf_1	過去のあなたの職業のうち、最後に就いていたものについて、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 管理的公務員
			2 法人・団体役員
			3 法人・団体管理職員
			4 その他の管理的職業従事者
Qf_2	過去のあなたの職業のうち、最後に就いていたものについて、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 研究者
			2 農林水産技術者
			3 製造技術者(開発)
			4 製造技術者(開発を除く)
			5 建築・土木・測量技術者
			6 情報処理・通信技術者
			7 その他の技術者
			8 医師, 歯科医師, 獣医師, 薬剤師
			9 保健師, 助産師, 看護師
			10 医療技術者
			11 その他の保健医療従事者
			12 社会福祉専門職業従事者
			13 法務従事者
			14 経営・金融・保険専門職業従事者
			15 教員
			16 宗教家
			17 著述家, 記者, 編集者
			18 美術家, デザイナー, 写真家, 映像撮影者
			19 音楽家, 舞台芸術家
			20 その他の専門的職業従事者
Qf_3	過去のあなたの職業のうち、最後に就いていたものについて、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 一般事務従事者
			2 会計事務従事者
			3 生産関連事務従事者(例 生産現場事務員、出荷・受荷事務員 等)
			4 営業・販売事務従事者
			5 外勤事務従事者
			6 運輸・郵便事務従事者
			7 事務用機器操作員

No.	質問文	回答形式	選択肢
Qf_4	過去のあなたの職業のうち、最後に就いていたものについて、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 商品販売従事者
			2 販売類似職業従事者(例 不動産仲介・売買取手、保険代理・仲立人、質屋店主・店員 等)
			3 営業職業従事者
Qf_5	過去のあなたの職業のうち、最後に就いていたものについて、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 家庭生活支援サービス職業従事者(例 家政婦(夫) 等)
			2 介護サービス職業従事者
			3 保健医療サービス職業従事者
			4 生活衛生サービス職業従事者
			5 飲食物調理従事者
			6 接客・給仕職業従事者
			7 居住施設・ビル等管理人
			8 その他のサービス職業従事者
Qf_6	過去のあなたの職業のうち、最後に就いていたものについて、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 自衛官
			2 司法警察職員
			3 その他の保安職業従事者(例 看守、消防員、警備員 等)
Qf_7	過去のあなたの職業のうち、最後に就いていたものについて、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 農業従事者
			2 林業従事者
			3 漁業従事者
Qf_8	過去のあなたの職業のうち、最後に就いていたものについて、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 生産設備制御・監視従事者(金属製品)
			2 生産設備制御・監視従事者(金属製品を除く)
			3 機械組立設備制御・監視従事者
			4 製品製造・加工処理従事者(金属製品)
			5 製品製造・加工処理従事者(金属製品を除く)
			6 機械組立従事者
			7 機械整備・修理従事者
			8 製品検査従事者(金属製品)
			9 製品検査従事者(金属製品を除く)
			10 機械検査従事者
			11 生産関連・生産類似作業従事者
Qf_9	過去のあなたの職業のうち、最後に就いていたものについて、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 鉄道運転従事者
			2 自動車運転従事者
			3 船舶・航空機運転従事者
			4 その他の輸送従事者
			5 定置・建設機械運転従事者
Qf_10	過去のあなたの職業のうち、最後に就いていたものについて、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 建設躯体工事従事者
			2 建設従事者(建設躯体工事従事者を除く)
			3 電気工事従事者
			4 土木作業従事者
			5 採掘従事者
Qf_11	過去のあなたの職業のうち、最後に就いていたものについて、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 運搬従事者
			2 清掃従事者
			3 包装従事者
			4 その他の運搬・清掃・包装等従事者

No.	質問文	回答形式	選択肢
Qg_1	現在のあなたの仕事に関して、勤め先での呼称や自営であるかどうかについて、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 正規の職員・従業員
			2 労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託
			3 パート、アルバイト
			4 自営業主
			5 自家営業の手伝い
			6 内職
			7 その他(具体的に)
Qg_2	過去のあなたの仕事のうち、最後に就いていたものに関して、勤め先での呼称や自営であったかどうかについて、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 正規の職員・従業員
			2 労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託
			3 パート、アルバイト
			4 自営業主
			5 自家営業の手伝い
			6 内職
			7 その他(具体的に)
Qh_1	現在のあなたの役職について、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 最高経営責任者もしくは代表取締役社長
			2 専務ないし常務
			3 上記2つ以外の部長より上の役職
			4 部長ないしこれに該当する役職
			5 課長ないしこれに該当する役職
			6 係長ないしこれに該当する役職
			7 一般職・その他
Qh_2	過去のあなたの仕事のうち、最後に就いていたものにおける役職について、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 最高経営責任者もしくは代表取締役社長
			2 専務ないし常務
			3 上記2つ以外の部長より上の役職
			4 部長ないしこれに該当する役職
			5 課長ないしこれに該当する役職
			6 係長ないしこれに該当する役職
			7 一般職・その他
Qi	学習(注)に対する、あなたの考えや態度にもっとも近いと思われるものを1つ選択してください。	SA	1 学習への意欲があり、現在の業務の課題解決に直接役立つかどうかに関わらず、興味・関心を持ったものを学習する。
			2 学習への意欲があり、現在の業務の課題解決に直接役立つ学習であれば行う。
			3 学習への意欲があり、他の経験者の事例等から効果があると見込まれる学習であれば行う。
			4 学習への意欲はあまりないが、周囲が学んでいれば、評判に基づき学習機会を選択する。
			5 学習への意欲はないが、義務であれば学習する。
Qj	あなたの昨年1年間(2019年1~12月)における、1カ月あたりの平均的な学習時間(注)について、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 0時間(まったく学習しなかった)
			2 0時間より多く5時間未満
			3 5時間以上10時間未満
			4 10時間以上20時間未満
			5 20時間以上30時間未満
			6 30時間以上50時間未満
			7 50時間以上100時間未満
			8 100時間以上
Qk	あなたの昨年1年間(2019年1~12月)の学習(注1)に対するご自身の負担額について、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 0円
			2 1円以上1千円未満
			3 1千円以上1万円未満
			4 1万円以上2万円未満
			5 2万円以上5万円未満
			6 5万円以上10万円未満
			7 10万円以上20万円未満
			8 20万円以上50万円未満
			9 50万円以上

No.	質問文	回答形式	選択肢	
Ql	学習(注)への意欲がない理由について、とくに当てはまるものを3つまで選択してください。	MA	1	そもそも学習したくないため
			2	職場からの求め(例:上司からの指示や同僚等からの勧め)が特にないため
			3	現状に満足しており、学習の必要性を感じていないため
			4	何を学習すべきかわからないため
			5	学習目標や計画の立て方がわからなかったため
			6	途中で諦めてしまいそうだったため
			7	学習結果をどう仕事やキャリアに活用してよいかわからなかったため
			8	学習結果を仕事やキャリアに活用する機会がなかったため
			9	学習結果が仕事やキャリアに役立ったことがこれまでなかったため
			10	金銭的余裕がなく、学習費用確保ができなかったため
			11	費用対効果が折り合わず、高額な学習プログラムばかりだと感じたため
			12	業務で忙しく、学習時間確保ができなかったため
			13	職場の理解が得られず、学習時間確保ができなかったため
			14	時間対効果が折り合わず、実施負荷の大きい学習プログラムばかりだと感じたため
			15	実施したい学習テーマ・内容が合致するプログラムを見つけられなかったため
			16	実施したい学習レベルが合致するプログラムを見つけられなかったため
			17	実施したい学習方法(例:通学かオンラインか等)が合致するプログラムを見つけられなかったため
			18	適した学習プログラムをどう見つければよいかわからなかったため
			19	その他(具体的に)
Qm	今後何かを学習することになった場合、どのような知識やスキル等を身につけたいと思いますか。当てはまるものをすべて選択してください。	MA	1	特定の専門分野における体系的な理論
			2	特定の専門分野における体系的な技能・技術
			3	コミュニケーション能力
			4	リーダーシップ、マネジメント能力
			5	チームワーク、協調性、周囲との協働力
			6	ビジネスマネジメントに関する知識(戦略、マーケティング、組織運営、会計、広報等)
			7	課題解決スキル(ロジカルシンキング、デザイン思考等)
			8	語学(外国語)
			9	PCや一般的な業務ソフト(表計算ソフト等)の操作
			10	統計・データ解析、プログラミング
			11	企業・組織の社会的規範に関する知識(コンプライアンス、ハラスメント、メンタルヘルス等)
			12	キャリア形成に関する知識(キャリアデザイン、ライフプラン等)
			13	自身の職場での職務に固有のルール・制度等
			14	自身の職場での職務に固有の技能・技術等
			15	その他(具体的に)
			16	どのような知識やスキル等も身につけたいと思わない
Qn	所属組織の職員の能力開発・教育訓練業務に現在関与していますか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1	全社の職員の能力開発・教育訓練の決裁権を持つ
			2	全社の職員の能力開発・教育訓練に関与している(決裁権は持たない)
			3	所属部署の職員の能力開発・教育訓練の決裁権を持つ
			4	所属部署の職員の能力開発・教育訓練に関与している(決裁権は持たない)
			5	全社の能力開発・教育訓練に関与はしていないが、実績や計画を把握する立場にある
			6	所属部署の能力開発・教育訓練に関与はしていないが、実績や計画を把握している
			7	上記いずれでもない

No.	質問文	回答形式	選択肢
Qo	所属組織の職員の能力開発・教育訓練のうち、Off-JT(注1)や自己啓発支援(注2)などのOJT以外の教育訓練について、今後どのようにすべきと考えていますか。あなたの考えにもっとも近いものをそれぞれ1つ選択してください。	SA	1 大きく拡充すべきである
			2 ある程度は拡充すべきである
			3 現状程度でよい
			4 ある程度削減すべきである
			5 大きく削減すべきである
Qp	所属組織では専門学校卒業生を採用していますか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	SA	1 採用している(過去3年以内に3名以上)
			2 採用している(過去3年以内に3名未満)
			3 採用したことがある(過去4年以前)
			4 過去に採用したことはないが、採用意向はある
			5 過去に採用したことはなく、採用意向もない
			6 わからない

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QA1.1	あなたには、お子さんはいらっしゃいますか。いらっしゃる場合、各段階に当てはまるお子さんの人数を教えてください(2020年12月1日時点)。いらっしゃらない場合は、「0」を入力してください。	乳幼児(0～5歳)／人	NU	
QA1.2		小学校低学年(6～7歳)／人	NU	
QA1.3		小学校中学年(8～9歳)／人	NU	
QA1.4		小学校高学年(10～11歳)／人	NU	
QA1.5		中学生(12～14歳)／人	NU	
QA1.6		高校生(15～17歳)／人	NU	
QA1.7		高校卒業以上(18歳～)／人	NU	
QA2	ご家族に、介護・介助が必要な方はいらっしゃいますか(2020年12月1日時点)。当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 いる(同居) 2 いる(別居) 3 いる(同居、別居両方) 4 いない
QA3	あなたの最終学歴(注1)として、当てはまるものを1つ選択してください。中途退学した場合はその前に卒業した学校を選択してください。		SA	1 小学校・中学校 2 高等学校 3 専修学校(高等課程) 4 専修学校(一般課程) 5 専門学校(修業年限1年以上2年未満) 6 専門学校(修業年限2年以上4年未満) 7 専門学校(修業年限4年以上) 8 高等専門学校 9 短期大学 10 大学 11 大学院専門職課程 12 大学院修士課程(博士前期課程含む) 13 大学院博士課程(博士後期課程含む)
QA4	昨年1年間(2019年1～12月)における、あなたの平均的な1週間の就業時間として、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 10時間未満 2 10～19時間 3 20～29時間 4 30～39時間 5 40～49時間 6 50～59時間 7 60～69時間 8 70～79時間 9 80時間以上 10 昨年は仕事をしていなかった
QA5	現在のあなたのお勤め先(会社等)の業種について、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 農林水産業(農業、林業、漁業、水産養殖業) 2 鉱業、採石業、砂利採取業 3 建設業(総合工事業、職別工事業、設備工事業) 4 製造業 5 電気・ガス・熱供給・水道業(電気業、ガス業、熱供給業、水道業) 6 情報通信業(通信業、放送業、情報サービス業、インターネット随伴サービス業、映像・音声・文字情報制作業) 7 運輸業、郵便業(鉄道業、道路旅客運送業、道路貨物運送業、水運業、航空運送業、倉庫業、運輸に附帯するサービス業、郵便業) 8 卸売業、小売業 9 金融業、保険業(銀行業、協同組織金融業、貸金業、クレジットカード業等非預金信用機関、金融商品取引業、商品先物取引業、補助的金融業等、保険業) 10 不動産業、物品賃貸業(不動産取引業、不動産賃貸業、管理業、物品賃貸業) 11 学術研究・専門・技術サービス業(学術・開発研究機関、専門サービス業、広告業、技術サービス業) 12 宿泊業、飲食サービス業(宿泊業、飲食店、持ち帰り・配達飲食サービス業) 13 生活関連サービス業・娯楽業(洗濯・理容・美容・浴場業、その他の生活関連サービス業、娯楽業) 14 教育、学習支援業(学校教育、その他の教育、学習支援業) 15 医療、福祉(医療業、保健衛生、社会保険・社会福祉・介護事業) 16 複合サービス事業(郵便局、協同組合) 17 サービス業(廃棄物処理業、自動車整備業、機械等修理業、職業紹介・労働者派遣業、その他の事業サービス業、政治・経済・文化団体、宗教、その他のサービス業、外国公務等。ほかに分類されないもの) 18 公務(国家公務、地方公務等。ほかに分類されるものを除く) 19 その他
QA6	現在のあなたのお勤め先(会社等)全体の従業者数について、当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 1人 2 2～4人 3 5～9人 4 10～19人 5 20～29人 6 30～49人 7 50～99人 8 100～299人 9 300～499人 10 500～999人 11 1000～1999人 12 2000～4999人 13 5000人以上

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QA7	現在のあなたの仕事に関して、昨年1年間(2019年1～12月)の所得(注1)を教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 100万円未満
				2 100万円～200万円未満
				3 200万円～300万円未満
				4 300万円～400万円未満
				5 400万円～500万円未満
				6 500万円～600万円未満
				7 600万円～700万円未満
				8 700万円～800万円未満
				9 800万円～900万円未満
				10 900万円～1000万円未満
				11 1000万円～1100万円未満
				12 1100万円～1200万円未満
				13 1200万円～1300万円未満
				14 1300万円～1400万円未満
				15 1400万円～1500万円未満
				16 1500万円以上
QA8	あなたは今後何らかの仕事に就きたい希望がありますか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 強くそう思う
				2 ややそう思う
				3 あまりそう思わない
				4 まったくそう思わない
QA9	あなたが今後就きたい仕事について、希望する職業としてもっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 管理的職業従事者(会社役員、部長、課長、国・地方公共団体の管理職等) ※事業経営方針の決定・経営方針に基づく執行計画の樹立・作業の監督・統制など、経営体の全般又は課(課相当を含む)以上の内部組織の経営・管理に従事する方。国・地方公共団体の各機関の公選された公務員も含まれる。
				2 専門的・技術的職業従事者(研究者、技術者、医師、看護師、芸術家等) ※科学的知識を応用した技術的な仕事に従事するもの、及び医療・教育・法律・宗教・芸術・その他の専門的性質の仕事に従事する方。
				3 事務従事者(総務、人事、企画、会計等) ※一般に課長(課長相当職を含む)以上の職務にあるものの監督を受けて、庶務・文書・人事・調査・企画・会計などの仕事、並びに生産関連・営業販売・外勤・運輸・通信に関する事務及び事務用機器の操作の仕事に従事する方。
				4 販売従事者(商品販売、営業等) ※商品の仕入・販売、不動産・有価証券などの売買の仕事、売上の仲立・取次、代理などの販売類似の仕事、商品の売・製造・サービスなどに関する取引上の勧誘・交渉・受注・契約締結、保険の代理・募集などの営業の仕事に従事する方。
				5 サービス職業従事者(対個人のサービス、対事業所のサービス等) ※個人の家庭における家事サービス、介護・身の回り用務・調理・接客・娯楽など個人に対するサービス、及び他に分類されないサービスの仕事に従事する方。
				6 保安職業従事者(自衛官、警察官、消防員、警備員等) ※国家の防衛、社会・個人・財産の保護、法と秩序の維持などの仕事に従事する方。自衛官・警察官・海上保安官・消防員として任用されていて、医療・教育・事務などのように、他の分類項目に該当する仕事に従事するものも含まれる。
				7 農林漁業従事者(飼育員、植物や水産物の栽培・養殖等も含む) ※農作物の栽培・収穫、養蚕・家畜・家きん(禽)・その他の動物の飼育、林木の育成・伐採・搬出、水産動植物(両生類を含む)の捕獲・採取・養殖をする仕事、及びその他の農林漁業類似の仕事並びにこれらに関連する仕事に従事する方。
				8 生産工程従事者(製造、加工、整備、修理、検査等) ※生産設備の制御・監視の仕事、機械・器具・手動具などを用いて原料・材料を加工する仕事、各種の機械器具を組み立て・調整・修理・検査する仕事、製版・印刷・製本の作業、生産工程で行われる仕事に関連する仕事及び生産に類似する技能的な仕事に従事する方。
				9 輸送・機械運転従事者(運転・操縦、機械の操作・管理等) ※機関車・電車・自動車・船舶・航空機などの運転・操縦の仕事、及びその他の関連する仕事、並びに定置機関・機械及び建設機械を操作する仕事に従事する方。
				10 建設・探掘従事者(工事を含む) ※建設の仕事、電気工事に係る作業を行う仕事、ダム・トンネルの掘削などの仕事、鉱物の探査・試掘・探掘・採取・選鉱の仕事に従事する方。
				11 運搬・清掃・包装従事者 ※主に身体を使って行う定型的な作業のうち、運搬・配達・梱包・清掃・包装等に従事する方。
				12 その他
				13 わからない

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QA10_1	あなたが今後就きたい職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 管理的公務員 2 法人・団体役員 3 法人・団体管理職員 4 その他の管理的職業従事者
QA10_2	あなたが今後就きたい職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 研究者 2 農林水産技術者 3 製造技術者(開発) 4 製造技術者(開発を除く) 5 建築・土木・測量技術者 6 情報処理・通信技術者 7 その他の技術者 8 医師、歯科医師、獣医師、薬剤師 9 保健師、助産師、看護師 10 医療技術者 11 その他の保健医療従事者 12 社会福祉専門職業従事者 13 法務従事者 14 経営・金融・保険専門職業従事者 15 教員 16 宗教家 17 著述家、記者、編集者 18 美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者 19 音楽家、舞台芸術家 20 その他の専門的職業従事者
QA10_3	あなたが今後就きたい職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 一般事務従事者 2 会計事務従事者 3 生産関連事務従事者(例 生産現場事務員、出荷・受荷事務員等) 4 営業・販売事務従事者 5 外勤事務従事者 6 運輸・郵便事務従事者 7 事務用機器操作員
QA10_4	あなたが今後就きたい職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 商品販売従事者 2 販売類似職業従事者(例 不動産仲介・売買取手、保険代理・仲立人、質屋店主・店員等) 3 営業職業従事者
QA10_5	あなたが今後就きたい職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 家庭生活支援サービス職業従事者(例 家政婦(夫)等) 2 介護サービス職業従事者 3 保健医療サービス職業従事者 4 生活衛生サービス職業従事者 5 飲食物調理従事者 6 接客・給仕職業従事者 7 居住施設・ビル等管理人 8 その他のサービス職業従事者
QA10_6	あなたが今後就きたい職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 自衛官 2 司法警察職員 3 その他の保安職業従事者(例 看守、消防員、警備員等)
QA10_7	あなたが今後就きたい職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 農業従事者 2 林業従事者 3 漁業従事者
QA10_8	あなたが今後就きたい職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 生産設備制御・監視従事者(金属製品) 2 生産設備制御・監視従事者(金属製品を除く) 3 機械組立設備制御・監視従事者 4 製品製造・加工処理従事者(金属製品) 5 製品製造・加工処理従事者(金属製品を除く) 6 機械組立従事者 7 機械整備・修理従事者 8 製品検査従事者(金属製品) 9 製品検査従事者(金属製品を除く) 10 機械検査従事者 11 生産関連・生産類似作業従事者
QA10_9	あなたが今後就きたい職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 鉄道運転従事者 2 自動車運転従事者 3 船舶・航空機運転従事者 4 その他の輸送従事者 5 定置・建設機械運転従事者
QA10_10	あなたが今後就きたい職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 建設躯体工事従事者 2 建設従事者(建設躯体工事従事者を除く) 3 電気工事従事者 4 土木作業従事者 5 採掘従事者
QA10_11	あなたが今後就きたい職業について、より具体的に教えてください。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 運搬従事者 2 清掃従事者 3 包装従事者 4 その他の運搬・清掃・包装等従事者
QA11	あなたが今後就きたい仕事に関して、勤め先での呼称や自営であるかどうかについて、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 正規の職員・従業員 2 労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託 3 パート、アルバイト 4 自営業主 5 自家営業の手伝い 6 内職 7 その他(具体的に)
QA12_1	あなたは、社会人(注1)何年目(注2)ですか(2020年12月1日時点)。/NU		NU	

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QA13	数年程度先までにおいて、あなたが現在と大きく異なる業務を行う(注)予定・希望はありますか。当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 現在と大きく異なる業務を行う予定・希望がある 2 現在と大きく異なる業務を行う予定・希望はない
QB1_1	過去3年間(2017年12月1日～2020年11月31日)において、次のような種類の学習(注)を実施、あるいは、実施を検討しましたか。それぞれについて、当てはまるものを1つ選択してください。	大学院の博士課程プログラムの履修	SA	1 実施した
QB1_2		大学院の修士課程プログラムの履修		2 実施を検討したが、断念した
QB1_3		専門職大学院の学位プログラムの履修		3 実施を検討しなかった
QB1_4		大学の学士課程プログラムの履修		
QB1_5		短期大学の学位プログラムの履修		
QB1_6		高度専門士(※1)の取得プログラムの履修		
QB1_7		専門士(※2)の取得プログラムの履修		
QB1_8		履修証明プログラムの履修		
QB1_9		科目等履修生制度の指定科目		
QB1_10		大学の公開講座の履修		
QB1_11		専修学校の公開講座の履修		
QB1_12		資格取得のための学習(国家資格)(項目1-11以外)		
QB1_13		資格取得のための学習(国家資格以外)(項目1-11以外)		
QB1_14		学位や資格の取得とは関係のない学習(業務やキャリアに直接関係するもの)(民間のビジネス系の研修・セミナー等)		
QB2_1	どのような知識やスキル等を身につけるための学習をしましたか。実施した学習それぞれについて、当てはまるものをすべて選択してください。	大学院の博士課程プログラムの履修	MA	1 特定の専門分野における体系的な理論
QB2_2		大学院の修士課程プログラムの履修		2 特定の専門分野における体系的な技能・技術
QB2_3		専門職大学院の学位プログラムの履修		3 コミュニケーション能力
QB2_4		大学の学士課程プログラムの履修		4 リーダーシップ、マネジメント能力
QB2_5		短期大学の学位プログラムの履修		5 チームワーク、協調性、周囲との協働力
QB2_6		高度専門士の取得プログラムの履修		6 ビジネスマネジメントに関する知識(戦略、マーケティング、組織運営、会計、広報等)
QB2_7		専門士の取得プログラムの履修		7 課題解決スキル(ロジカルシンキング、デザイン思考等)
QB2_8		履修証明プログラムの履修		8 語学(外国語)
QB2_9		科目等履修生制度の指定科目の履修		9 PCや一般的な業務ソフト(表計算ソフト等)の操作
QB2_10		大学の公開講座の履修		10 統計・データ解析、プログラミング
QB2_11		専修学校の公開講座の履修		11 企業・組織の社会的規範に関する知識(コンプライアンス、ハラスメント、メンタルヘルス等)
QB2_12		資格取得のための学習(国家資格)		12 キャリア形成に関する知識(キャリアデザイン、ライフプラン等)
QB2_13		資格取得のための学習(国家資格以外)		13 自身の職場での業務に固有のルール・制度等
QB2_14		学位や資格の取得とは関係のない学習(業務やキャリアに直接関係するもの)(民間のビジネス系の研修・セミナー等)		14 自身の職場での業務に固有の技能・技術等
QB2_2_1	それらの知識やスキル等は全体としてどの程度身につきましたか。実施した学習それぞれについて、当てはまるものをすべて選択してください。	大学院の博士課程プログラムの履修	SA	1 十分に身についた
QB2_2_2		大学院の修士課程プログラムの履修		2 やや身についた
QB2_2_3		専門職大学院の学位プログラムの履修		3 あまり身につかなかった
QB2_2_4		大学の学士課程プログラムの履修		4 ほとんど身につかなかった
QB2_2_5		短期大学の学位プログラムの履修		
QB2_2_6		高度専門士の取得プログラムの履修		
QB2_2_7		専門士の取得プログラムの履修		
QB2_2_8		履修証明プログラムの履修		
QB2_2_9		科目等履修生制度の指定科目の履修		
QB2_2_10		大学の公開講座の履修		
QB2_2_11		専修学校の公開講座の履修		
QB2_2_12		資格取得のための学習(国家資格)		
QB2_2_13		資格取得のための学習(国家資格以外)		
QB2_2_14		学位や資格の取得とは関係のない学習(業務やキャリアに直接関係するもの)(民間のビジネス系の研修・セミナー等)		
QB3_1	学習を実施する際に利用した、補助や助成、あるいはその他の支援制度等について、当てはまるものをすべて選択してください。	大学院の博士課程プログラムの履修	MA	1 国の教育訓練給付制度
QB3_2		大学院の修士課程プログラムの履修		2 教育訓練給付金以外の国や自治体の補助
QB3_3		専門職大学院の学位プログラムの履修		3 教育機関(大学等)独自の奨学金や授業料免除制度
QB3_4		大学の学士課程プログラムの履修		4 民間等(所属組織以外)の奨学金
QB3_5		短期大学の学位プログラムの履修		5 金融機関の教育ローン
QB3_6		高度専門士の取得プログラムの履修		6 勤務先の資金支援(研修派遣や自己啓発支援等)
QB3_7		専門士の取得プログラムの履修		7 勤務先の教育訓練休暇制度
QB3_8		履修証明プログラムの履修		8 その他(具体的に)
QB3_9		科目等履修生制度の指定科目の履修		9 利用していない(利用可能な制度等があったが、利用しなかった)
QB3_10		大学の公開講座の履修		10 利用していない(利用可能な制度等があった)
QB3_11		専修学校の公開講座の履修		11 利用していない(制度等の有無を確認しなかった)
QB3_12		資格取得のための学習(国家資格)		
QB3_13		資格取得のための学習(国家資格以外)		
QB3_14		学位や資格の取得とは関係のない学習(業務やキャリアに直接関係するもの)(民間のビジネス系の研修・セミナー等)		

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QB4R1_1	QB1「履修証明プログラムの履修」で「実施した」を選んだ方にお伺いします。＜実施形態＞＜提供主体＞＜かかった費用(自己負担額)＞＜かかった時間＞でもっとも当てはまるものを1つずつ選択してください。／実施形態		SA	1 集合型(教室や研修施設を訪問し受講) 2 通信型(郵便物、ラジオ、テレビ) 3 オンライン型(インターネット) 4 集合型+通信型 5 集合型+オンライン型 6 通信型+オンライン型 7 参考書・問題集や関連書籍による学習 8 その他(具体的に)
QB4R1_2	提供主体		SA	1 大学院・大学・短期大学 2 専門学校 3 各種学校 4 民間企業(教育研修事業者等) 5 公共職業能力開発施設 6 業界団体(公益法人、各種団体) 7 勤め先 8 個人または有志 9 出版機関(参考書・問題集や関連書籍による学習の場合) 10 その他(具体的に)
QB4R1_3	かかった費用(自己負担額)		SA	1 無料 2 1円以上1千円未満 3 1千円以上1万円未満 4 1万円以上2万円未満 5 2万円以上5万円未満 6 5万円以上10万円未満 7 10万円以上20万円未満 8 20万円以上50万円未満 9 50万円以上
QB4R1_4	かかった時間		SA	1 0時間より多く5時間未満 2 5時間以上10時間未満 3 10時間以上20時間未満 4 20時間以上30時間未満 5 30時間以上50時間未満 6 50時間以上100時間未満 7 100時間以上150時間未満 8 150時間以上200時間未満 9 200時間以上
QB4R2_1	QB1「科目等履修生制度の指定科目の履修」で「実施した」を選んだ方にお伺いします。＜実施形態＞＜提供主体＞＜かかった費用(自己負担額)＞＜かかった時間＞でもっとも当てはまるものを1つずつ選択してください。／実施形態		SA	1 集合型(教室や研修施設を訪問し受講) 2 通信型(郵便物、ラジオ、テレビ) 3 オンライン型(インターネット) 4 集合型+通信型 5 集合型+オンライン型 6 通信型+オンライン型 7 参考書・問題集や関連書籍による学習 8 その他(具体的に)
QB4R2_2	提供主体		SA	1 大学院・大学・短期大学 2 専門学校 3 各種学校 4 民間企業(教育研修事業者等) 5 公共職業能力開発施設 6 業界団体(公益法人、各種団体) 7 勤め先 8 個人または有志 9 出版機関(参考書・問題集や関連書籍による学習の場合) 10 その他(具体的に)
QB4R2_4	かかった時間		SA	1 0時間より多く5時間未満 2 5時間以上10時間未満 3 10時間以上20時間未満 4 20時間以上30時間未満 5 30時間以上50時間未満 6 50時間以上100時間未満 7 100時間以上150時間未満 8 150時間以上200時間未満 9 200時間以上
QB4R2_3	かかった費用(自己負担額)		SA	1 無料 2 1円以上1千円未満 3 1千円以上1万円未満 4 1万円以上2万円未満 5 2万円以上5万円未満 6 5万円以上10万円未満 7 10万円以上20万円未満 8 20万円以上50万円未満 9 50万円以上

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QB4R3.1	QB1「大学の公開講座の履修」で「実施した」を選んだ方にお伺いします。＜実施形態＞＜提供主体＞＜かかった費用(自己負担額)＞＜かかった時間＞でもっとも当てはまるものを1つずつ選択してください。／実施形態		SA	1 集合型(教室や研修施設を訪問し受講) 2 通信型(郵便物、ラジオ、テレビ) 3 オンライン型(インターネット) 4 集合型+通信型 5 集合型+オンライン型 6 通信型+オンライン型 7 参考書・問題集や関連書籍による学習 8 その他(具体的に)
QB4R3.2	提供主体		SA	1 大学院・大学・短期大学 2 専門学校 3 各種学校 4 民間企業(教育研修事業者等) 5 公共職業能力開発施設 6 業界団体(公益法人、各種団体) 7 勤め先 8 個人または有志 9 出版機関(参考書・問題集や関連書籍による学習の場合) 10 その他(具体的に)
QB4R3.3	かかった費用(自己負担額)		SA	1 無料 2 1円以上1千円未満 3 1千円以上1万円未満 4 1万円以上2万円未満 5 2万円以上5万円未満 6 5万円以上10万円未満 7 10万円以上20万円未満 8 20万円以上50万円未満 9 50万円以上
QB4R3.4	かかった時間		SA	1 0時間より多く5時間未満 2 5時間以上10時間未満 3 10時間以上20時間未満 4 20時間以上30時間未満 5 30時間以上50時間未満 6 50時間以上100時間未満 7 100時間以上150時間未満 8 150時間以上200時間未満 9 200時間以上
QB4R4.1	QB1「専修学校の公開講座の履修」で「実施した」を選んだ方にお伺いします。＜実施形態＞＜提供主体＞＜かかった費用(自己負担額)＞＜かかった時間＞でもっとも当てはまるものを1つずつ選択してください。／実施形態		SA	1 集合型(教室や研修施設を訪問し受講) 2 通信型(郵便物、ラジオ、テレビ) 3 オンライン型(インターネット) 4 集合型+通信型 5 集合型+オンライン型 6 通信型+オンライン型 7 参考書・問題集や関連書籍による学習 8 その他(具体的に)
QB4R4.2	提供主体		SA	1 大学院・大学・短期大学 2 専門学校 3 各種学校 4 民間企業(教育研修事業者等) 5 公共職業能力開発施設 6 業界団体(公益法人、各種団体) 7 勤め先 8 個人または有志 9 出版機関(参考書・問題集や関連書籍による学習の場合) 10 その他(具体的に)
QB4R4.3	かかった費用(自己負担額)		SA	1 無料 2 1円以上1千円未満 3 1千円以上1万円未満 4 1万円以上2万円未満 5 2万円以上5万円未満 6 5万円以上10万円未満 7 10万円以上20万円未満 8 20万円以上50万円未満 9 50万円以上
QB4R4.4	かかった時間		SA	1 0時間より多く5時間未満 2 5時間以上10時間未満 3 10時間以上20時間未満 4 20時間以上30時間未満 5 30時間以上50時間未満 6 50時間以上100時間未満 7 100時間以上150時間未満 8 150時間以上200時間未満 9 200時間以上

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QB4R5.1	QB1「資格取得のための学習(国家資格)」で「実施した」を選んだ方にお伺いします。＜実施形態＞＜提供主体＞＜かかった費用(自己負担額)＞＜かかった時間＞でもっとも当てはまるものを1つずつ選択してください。／実施形態		SA	1 集合型(教室や研修施設を訪問し受講) 2 通信型(郵便物、ラジオ、テレビ) 3 オンライン型(インターネット) 4 集合型+通信型 5 集合型+オンライン型 6 通信型+オンライン型 7 参考書・問題集や関連書籍による学習 8 その他(具体的に)
QB4R5.2	提供主体		SA	1 大学院・大学・短期大学 2 専門学校 3 各種学校 4 民間企業(教育研修事業者等) 5 公共職業能力開発施設 6 業界団体(公益法人、各種団体) 7 勤め先 8 個人または有志 9 出版機関(参考書・問題集や関連書籍による学習の場合) 10 その他(具体的に)
QB4R5.3	かかった費用(自己負担額)		SA	1 無料 2 1円以上1千円未満 3 1千円以上1万円未満 4 1万円以上2万円未満 5 2万円以上5万円未満 6 5万円以上10万円未満 7 10万円以上20万円未満 8 20万円以上50万円未満 9 50万円以上
QB4R5.4	かかった時間		SA	1 0時間より多く5時間未満 2 5時間以上10時間未満 3 10時間以上20時間未満 4 20時間以上30時間未満 5 30時間以上50時間未満 6 50時間以上100時間未満 7 100時間以上150時間未満 8 150時間以上200時間未満 9 200時間以上
QB4R6.1	QB1「資格取得のための学習(国家資格以外)」で「実施した」を選んだ方にお伺いします。＜実施形態＞＜提供主体＞＜かかった費用(自己負担額)＞＜かかった時間＞でもっとも当てはまるものを1つずつ選択してください。／実施形態		SA	1 集合型(教室や研修施設を訪問し受講) 2 通信型(郵便物、ラジオ、テレビ) 3 オンライン型(インターネット) 4 集合型+通信型 5 集合型+オンライン型 6 通信型+オンライン型 7 参考書・問題集や関連書籍による学習 8 その他(具体的に)
QB4R6.2	提供主体		SA	1 大学院・大学・短期大学 2 専門学校 3 各種学校 4 民間企業(教育研修事業者等) 5 公共職業能力開発施設 6 業界団体(公益法人、各種団体) 7 勤め先 8 個人または有志 9 出版機関(参考書・問題集や関連書籍による学習の場合) 10 その他(具体的に)
QB4R6.3	かかった費用(自己負担額)		SA	1 無料 2 1円以上1千円未満 3 1千円以上1万円未満 4 1万円以上2万円未満 5 2万円以上5万円未満 6 5万円以上10万円未満 7 10万円以上20万円未満 8 20万円以上50万円未満 9 50万円以上
QB4R6.4	かかった時間		SA	1 0時間より多く5時間未満 2 5時間以上10時間未満 3 10時間以上20時間未満 4 20時間以上30時間未満 5 30時間以上50時間未満 6 50時間以上100時間未満 7 100時間以上150時間未満 8 150時間以上200時間未満 9 200時間以上

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QB4R7.1	QB1「学位や資格の取得とは関係のない学習(業務やキャリアに直接関係するもの)(民間のビジネス系の研修・セミナー等)で「実施した」を選んだ方にお伺いします。<実施形態><提供主体><かかった費用(自己負担額)><かかった時間>でもっとも当てはまるものを1つずつ選択してください。/実施形態		SA	1 集合型(教室や研修施設を訪問し受講) 2 通信型(郵便物、ラジオ、テレビ) 3 オンライン型(インターネット) 4 集合型+通信型 5 集合型+オンライン型 6 通信型+オンライン型 7 参考書・問題集や関連書籍による学習 8 その他(具体的に)
QB4R7.2	提供主体		SA	1 大学院・大学・短期大学 2 専門学校 3 各種学校 4 民間企業(教育研修事業者等) 5 公共職業能力開発施設 6 業界団体(公益法人、各種団体) 7 勤め先 8 個人または有志 9 出版機関(参考書・問題集や関連書籍による学習の場合) 10 その他(具体的に)
QB4R7.3	かかった費用(自己負担額)		SA	1 無料 2 1円以上1千円未満 3 1千円以上1万円未満 4 1万円以上2万円未満 5 2万円以上5万円未満 6 5万円以上10万円未満 7 10万円以上20万円未満 8 20万円以上50万円未満 9 50万円以上
QB4R7.4	かかった時間		SA	1 0時間より多く5時間未満 2 5時間以上10時間未満 3 10時間以上20時間未満 4 20時間以上30時間未満 5 30時間以上50時間未満 6 50時間以上100時間未満 7 100時間以上150時間未満 8 150時間以上200時間未満 9 200時間以上
QB5	実施した学習の中で、もっとも重視して取り組んだと思う学習を1つ選択してください。		SA	1 大学院の博士課程プログラムの履修 2 大学院の修士課程プログラムの履修 3 専門職大学院の学位プログラムの履修 4 大学の学士課程プログラムの履修 5 短期大学の学位プログラムの履修 6 高度専門士の取得プログラムの履修 7 専門士の取得プログラムの履修 8 履修証明プログラムの履修 9 科目等履修生制度の指定科目の履修 10 大学の公開講座の履修 11 専修学校の公開講座の履修 12 資格取得のための学習(国家資格) 13 資格取得のための学習(国家資格以外) 14 学位や資格の取得とは関係のない学習(業務やキャリアに直接関係するもの)(民間のビジネス系の研修・セミナー等)
QB6.1	前問で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的について、もっとも当てはまるものを最大3つまで選択してください。		MA	1 現在の業務に役立てるため 2 昇進のため 3 給与や勤務条件等の待遇向上のため 4 報奨金等の臨時収入を得るため 5 他部署への異動のため 6 同じ業界内で転職するため 7 別の業界に転職するため 8 定年後も働くため 9 起業のため 10 上司、同僚等からの信頼を得るため 11 人的ネットワークを広げるため 12 復職のため 13 就職のため 14 新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため 15 所属する会社・組織内の人材育成のため 16 その他(具体的に)
QB6.2	QB5で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の主な目的について、もっとも当てはまるものを最大3つまで選択してください。		MA	1 現在の業務に役立てるため 2 他部署への異動のため 3 派遣先での給与や勤務条件等の待遇向上のため 4 報奨金等の臨時収入を得るため 5 別の業界に派遣先を変えるため 6 同業他社に派遣先を変えるため 7 派遣社員から雇用形態(正社員、契約社員等)を変更するため 8 定年後も働くため 9 起業のため 10 上司、同僚等からの信頼を得るため 11 人的ネットワークを広げるため 12 復職のため 13 就職のため 14 新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため 15 その他(具体的に)

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QB7_1_1	QB6_1で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の「学習の主な目的」はどの程度達成できましたか(できそうですか)。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	現在の業務に役立てるため	SA	1 十分に達成できた(できそうである)
QB7_1_2		昇進のため		2 やや達成できた(できそうである)
QB7_1_3		給与や勤務条件等の待遇向上のため		3 あまり達成できなかった(できなさそうである)
QB7_1_4		報奨金等の臨時収入を得るため		4 ほとんど達成できなかった(できなさそうである)
QB7_1_5		他部署への異動のため		
QB7_1_6		同じ業界内で転職するため		
QB7_1_7		別の業界に転職するため		
QB7_1_8		定年後も働くため		
QB7_1_9		起業のため		
QB7_1_10		上司、同僚等からの信頼を得るため		
QB7_1_11		人的ネットワークを広げるため		
QB7_1_12		復職のため		
QB7_1_13		就職のため		
QB7_1_14		新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため		
QB7_1_15		所属する会社・組織内の人材育成のため		
QB7_1_16		その他(QB6_1の「その他」で回答者が記入したもの)		
QB7_2_1	QB6_2で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の「学習の主な目的」はどの程度達成できましたか(できそうですか)。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	現在の業務に役立てるため	SA	1 十分に達成できた(できそうである)
QB7_2_2		他部署への異動のため		2 やや達成できた(できそうである)
QB7_2_3		派遣先での給与や勤務条件等の待遇向上のため		3 あまり達成できなかった(できなさそうである)
QB7_2_4		報奨金等の臨時収入を得るため		4 ほとんど達成できなかった(できなさそうである)
QB7_2_5		別の業界に派遣先を変えるため		
QB7_2_6		同業他社に派遣先を変えるため		
QB7_2_7		派遣社員から雇用形態(正社員、契約社員等)を変更するため		
QB7_2_8		定年後も働くため		
QB7_2_9		起業のため		
QB7_2_10		上司、同僚等からの信頼を得るため		
QB7_2_11		人的ネットワークを広げるため		
QB7_2_12		復職のため		
QB7_2_13		就職のため		
QB7_2_14		新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため		
QB7_2_15		その他(QB6_2の「その他」で回答者が記入したもの)		
QB8	QB5で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」について、その学習を実施しようと思ったきっかけは何でしたか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 勤め先等から指示があったため(過去の勤め先を含む)
				2 勤め先や業界団体等から推奨されたため(過去の勤め先を含む)
				3 勤め先や業界団体等から案内があったため(過去の勤め先を含む)
				4 卒業した学校から案内があったため
				5 その学習実施者から推奨されたため
				6 その学習実施者から案内があったため
				7 その学習実施者以外から一緒に実施しないかという誘いを受けたため
				8 現職への不満や将来への不安を解消したかったため
				9 人事評価等の反省により必要だと感じたため
				10 業界で生き残るために必要だと感じたため
				11 勤め先や業界に関係なく周囲の人や地域・社会へ貢献したかったため
				12 その他(具体的に)
QB9	QB5で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」について、その学習機会をどのように探して見つけましたか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 勤め先や業界団体等からの案内を探した(過去の勤め先を含む)
				2 勤め先が研修等で連携している教育機関等が提供しているプログラムを探した(過去の勤め先を含む)
				3 ハローワークや職業訓練施設等の就職支援機関からの案内を探した
				4 その学習経験者に話を聞いた
				5 学習意欲の高い知人に話を聞いた
				6 SNSやブログ等でその学習経験者の意見を探した
				7 自身が卒業した学校が提供するプログラムを探した
				8 新聞やテレビ、ラジオ、街頭広告等でその学習の提供者(教育機関等)による広告を見た
				9 SNSやウェブサイト上の広告等でその学習の提供者(教育機関等)による広告を見た
				10 専門雑誌や書籍で探した
				11 インターネット検索で探した
				12 学び直しや学習分野に関するポータルサイトで探した
				13 その他(具体的に)
QB10	「マナパス」(https://manapass.jp/)というポータルサイトをご存じですか。当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 知っていて、利用したことがある
				2 知っているが、利用したことはない
				3 知らない

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QB11	QB5で選択した「もっとも重視して取り組んだと思う学習」の実施を決定する際(実際に受講する前)にどの点に重視した点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。		MA	1 プログラム等の情報が十分に公開されていること 2 学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと 3 受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気や掘めること 4 実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切であること 5 所要時間や実施時期が適切であること 6 費用が効果や時間に見合っていたり、安価であること 7 指導方法が適切で、講師が優れていること 8 通学先へのアクセスや学習環境が優れていること 9 講義以外にきめ細やかな支援があること(個別支援、キャリア支援等) 10 勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があること 11 実績・評判が高いこと 12 学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高いこと 13 行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があること 14 その他(具体的に) 15 選択の余地がなかった(指定されていた等)
QB12_1	QB_11で選択した点それぞれについて、より具体的に重視した点について、当てはまるものをすべて選択してください。	プログラム等の情報が十分に公開されていること	MA	1 ウェブサイト等で詳細な情報が公開されていること 2 事前説明会や体験学習参加、試用ができること 3 その他(具体的に)
QB12_2		学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと	MA	1 学習内容のレベルが適切である、もしくは柔軟に選択できること 2 学習プログラムが網羅する範囲が適切である、もしくは柔軟に選択できること 3 学習実施により身につく知識・スキルが明確であること 4 学習実施により身につく知識・スキルが現在の業務ですぐ活用できること 5 学習実施により身につく知識・スキルが将来の業務やキャリアで活用できること 6 学習実施により身につく知識・スキルが業務やキャリアに加え他の場面でも活用できること 7 その他(具体的に)
QB12_3		学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと	MA	1 受講者プロフィール(年代、性別、職業等)が紹介されていること 2 受講の様子がわかるようなコンテンツ紹介があること 3 その他(具体的に)
QB12_4		実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切であること	MA	1 通学による対面指導が受けられること 2 通信教育等好きな場所で実施できること 3 講師や他の参加者との交流ができること 4 講師や他の参加者との交流がないこと 5 その他(具体的に)
QB12_5		所要時間や実施時期が適切であること	MA	1 学習の開始時期が適切であること、もしくは柔軟に選択できること 2 学習に要する総時間がより短いこと 3 好きなタイミングで学習開始・中断ができること 4 途中で学習継続を断念しても再開ができること 5 その他(具体的に)
QB12_6		費用が効果や時間に見合っていたり、安価であること	MA	1 無料であること 2 より安価であること 3 費用対効果が折り合うこと 4 費用対時間が折り合うこと 5 追加費用支払いによるプログラム拡充や一部費用返却によるプログラム縮小ができること 6 その他(具体的に)
QB12_7		指導方法が適切で、講師が優れていること	MA	1 指導法が実践的であること※講義・実習・演習・ディスカッション・ケーススタディ等 2 少人数指導や個別指導を実施していること 3 担当講師の実務経験が豊富であること 4 担当講師の指導実績が豊富であること 5 担当講師の評判がよいこと 6 担当講師の知名度が高いこと 7 その他(具体的に)
QB12_8		通学先へのアクセスや学習環境が優れていること	MA	1 自宅や職場から近いこと 2 身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っていること 3 自習室等学習環境としても利用できること 4 その他(具体的に)
QB12_9		講義以外にきめ細やかな支援があること(個別支援、キャリア支援等)	MA	1 学習実施計画や目標設定を支援・管理してくれること 2 質問にきめ細かく対応してもらえること 3 担当講師や他の参加者との交流を促進してもらえること 4 就職・転職・復職等の相談・支援が受けられること 5 その他(具体的に)
QB12_10		勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があること	MA	1 勤め先や業界団体等からの推奨・案内があること 2 ハローワークや職業訓練施設等の就職支援機関からの推奨・案内があること 3 学習意欲の高い知人からの推奨・案内があること 4 その他(具体的に)
QB12_11		実績・評判が高いこと	MA	1 学習経験者数が多いこと 2 学習経験者からの評判がよいこと 3 学習経験者から話を聞けること 4 その他(具体的に)
QB12_12		学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高いこと	MA	1 学習プログラムの知名度が高いこと 2 提供主体の知名度が高いこと 3 その他(具体的に)
QB12_13		行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があること	MA	1 勤め先からの費用補助があること 2 国や自治体等からの費用補助があること 3 勤め先での勤務時間調整等の支援があること 4 その他(具体的に)

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QB13	QB12で重視した点のうち、もっとも重視したものは何ですか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 ウェブサイト等で詳細な情報が公開されていること 2 事前説明会や体験学習参加、試用ができること 3 その他(QB12_1の「その他」で回答者が記入したもの) 4 学習内容のレベルが適切である、もしくは柔軟に選択できること 5 学習プログラムが網羅する範囲が適切である、もしくは柔軟に選択できること 6 学習実施により身につく知識・スキルが明確であること 7 学習実施により身につく知識・スキルが現在の業務ですぐ活用できること 8 学習実施により身につく知識・スキルが将来の業務やキャリアで活用できること 9 学習実施により身につく知識・スキルが業務やキャリアに加え他の場面でも活用できること 10 その他(QB12_2の「その他」で回答者が記入したもの) 11 受講者プロフィール(年代、性別、職業等)が紹介されていること 12 受講の様子がわかるようなコンテンツ紹介があること 13 その他(QB12_3の「その他」で回答者が記入したもの) 14 通学による対面指導が受けられること 15 通信教育等好きな場所で実施できること 16 講師や他の参加者との交流ができること 17 講師や他の参加者との交流がないこと 18 その他(QB12_4の「その他」で回答者が記入したもの) 19 学習の開始時期が適切であること、もしくは柔軟に選択できること 20 学習に要する総時間がより短いこと 21 好きなタイミングで学習開始・中断ができること 22 途中で学習継続を断念しても再開ができること 23 その他(QB12_5の「その他」で回答者が記入したもの) 24 無料であること 25 より安価であること 26 費用対効果が折り合うこと 27 費用対時間が折り合うこと 28 追加費用支払いによるプログラム拡充や一部費用返却によるプログラム縮小ができること 29 その他(QB12_6の「その他」で回答者が記入したもの) 30 指導法※が実践的であること※講義・実習・演習・ディスカッション・ケーススタディ等 31 少人数指導や個別指導を実施していること 32 担当講師の実務経験が豊富であること 33 担当講師の指導実績が豊富であること 34 担当講師の評判がよいこと 35 担当講師の知名度が高いこと 36 その他(QB12_7の「その他」で回答者が記入したもの) 37 自宅や職場から近いこと 38 身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っていること 39 自習室等学習環境としても利用できること 40 その他(QB12_8の「その他」で回答者が記入したもの) 41 学習実施計画や目標設定を支援・管理してくれること 42 質問にきめ細かく対応してもらえること 43 担当講師や他の参加者との交流を促進してもらえること 44 就職・転職・復職等の相談・支援が受けられること 45 その他(QB12_9の「その他」で回答者が記入したもの) 46 勤め先や業界団体等からの推奨・案内があること 47 ハローワークや職業訓練施設等の就職支援機関からの推奨・案内があること 48 学習意欲の高い知人からの推奨・案内があること 49 その他(QB12_10の「その他」で回答者が記入したもの) 50 学習経験者数が多いこと 51 学習経験者からの評判がよいこと 52 学習経験者から話を聞けること 53 その他(QB12_11の「その他」で回答者が記入したもの) 54 学習プログラムの知名度が高いこと 55 提供主体の知名度が高いこと 56 その他(QB12_12の「その他」で回答者が記入したもの) 57 勤め先からの費用補助があること 58 国や自治体等からの費用補助があること 59 勤め先での勤務時間調整等の支援があること 60 その他(QB12_13の「その他」で回答者が記入したもの)

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QB14.1.1	プログラム等の情報が十分に公開されていること	ウェブサイト等で詳細な情報が公開されていること	SA	1 十分に優れていた
QB14.1.2		事前説明会や体験学習参加、試用ができること		2 やや優れていた
QB14.1.3		その他(QB12.1の「その他」で回答者が記入したもの)		3 あまり優れていなかった
QB14.2.1	学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効なこと	学習内容のレベルが適切である、もしくは柔軟に選択できること		4 ほとんど優れていなかった
QB14.2.2		学習プログラムが網羅する範囲が適切である、もしくは柔軟に選択できること		
QB14.2.3		学習実施により身につく知識・スキルが明確であること		
QB14.2.4		学習実施により身につく知識・スキルが現在の業務ですぐ活用できること		
QB14.2.5		学習実施により身につく知識・スキルが将来の業務やキャリアで活用できること		
QB14.2.6		学習実施により身につく知識・スキルが業務やキャリアに加え他の場面でも活用できること		
QB14.2.7		その他(QB12.2の「その他」で回答者が記入したもの)		
QB14.3.1	受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気は掴めること	受講者プロフィール(年代、性別、職業等)が紹介されていること		
QB14.3.2		受講の様子がわかるようなコンテンツ紹介があること		
QB14.3.3		その他(QB12.3の「その他」で回答者が記入したもの)		
QB14.4.1	実施場所や講師・他の参加者との交流の自由度があること	通学による対面指導が受けられること		
QB14.4.2		通信教育等好きな場所で実施できること		
QB14.4.3		講師や他の参加者との交流ができること		
QB14.4.4		講師や他の参加者との交流がないこと		
QB14.4.5		その他(QB12.4の「その他」で回答者が記入したもの)		
QB14.5.1	所要時間や実施時期が適切であること	学習の開始時期が適切であること、もしくは柔軟に選択できること		
QB14.5.2		学習に要する総時間がより短いこと		
QB14.5.3		好きなタイミングで学習開始・中断ができること		
QB14.5.4		途中で学習継続を断念しても再開ができること		
QB14.5.5		その他(QB12.5の「その他」で回答者が記入したもの)		
QB14.6.1	費用が効果や時間に見合っていたり、安価であること	無料であること		
QB14.6.2		より安価であること		
QB14.6.3		費用対効果が折り合うこと		
QB14.6.4		費用対時間が折り合うこと		
QB14.6.5		追加費用支払いによるプログラム拡充や一部費用返却によるプログラム縮小ができること		
QB14.6.6		その他(QB12.6の「その他」で回答者が記入したもの)		
QB14.7.1	指導方法が適切で、講師が優れていること	指導法※が実践的であること※講義・実習・演習・ディスカッション・ケーススタディ等		
QB14.7.2		少人数指導や個別指導を実施していること		
QB14.7.3		担当講師の実務経験が豊富であること		
QB14.7.4		担当講師の指導実績が豊富であること		
QB14.7.5		担当講師の評判がよいこと		
QB14.7.6		担当講師の知名度が高いこと		
QB14.7.7		その他(QB12.7の「その他」で回答者が記入したもの)		
QB14.8.1	通学先へのアクセスや学習環境が優れていること	自宅や職場から近いこと		
QB14.8.2		身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っていること		
QB14.8.3		自習室等学習環境としても利用できること		
QB14.8.4		その他(QB12.8の「その他」で回答者が記入したもの)		
QB14.9.1	講義以外にきめ細やかな支援があること(個別支援、キャリア支援等)	学習実施計画や目標設定を支援・管理してくれること		
QB14.9.2		質問にきめ細かく対応してもらえること		
QB14.9.3		担当講師や他の参加者との交流を促進してもらえること		
QB14.9.4		就職・転職・復職等の相談・支援が受けられること		
QB14.9.5		その他(QB12.9の「その他」で回答者が記入したもの)		
QB14.10.1	勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内	勤め先や業界団体等からの推奨・案内があること		
QB14.10.2		ハローワークや職業訓練施設等の就職支援機関からの推奨・案内があること		
QB14.10.3		学習意欲の高い知人からの推奨・案内があること		
QB14.10.4		その他(QB12.10の「その他」で回答者が記入したもの)		
QB14.11.1	実績・評判が高いこと	学習経験者数が多いこと		
QB14.11.2		学習経験者からの評判がよいこと		
QB14.11.3		学習経験者から話を聞けること		
QB14.11.4		その他(QB12.11の「その他」で回答者が記入したもの)		
QB14.12.1	学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高いこと	学習プログラムの知名度が高いこと		
QB14.12.2		提供主体の知名度が高いこと		
QB14.12.3		その他(QB12.12の「その他」で回答者が記入したもの)		
QB14.13.1	行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があること	勤め先からの費用補助があること		
QB14.13.2		国や自治体等からの費用補助があること		
QB14.13.3		勤め先での勤務時間調整等の支援があること		
QB14.13.4		その他(QB12.13の「その他」で回答者が記入したもの)		

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QB15	過去3年間(2017年12月1日～2020年11月31日)において、学習実施を検討しなかった理由について、もっとも当てはまるものを最大3つまで選択してください。		MA	1 そもそも学習したくないため 2 職場からの求め(例:上司からの指示や同僚等からの勧め)が特にならないため 3 現状に満足しており、学習の必要性を感じていないため 4 何を学習すべきかわからないため 5 学習目標や計画の立て方がわからなかったため 6 学習目標や計画通りに実施できず、途中で諦めてしまいそうだったから 7 学習結果をどう仕事やキャリアに活用してよいかわからなかったため 8 学習結果を仕事やキャリアに活用する機会がなかったため 9 学習結果が仕事やキャリアに役立ったことがこれまでなかったため 10 金銭的余裕がなく、学習費用確保ができなかったため 11 費用対効果が折り合わず、高額な学習プログラムばかりだと感じたため 12 業務で忙しく、学習時間確保ができなかったため 13 職場の理解が得られず、学習時間確保ができなかったため 14 時間対効果が折り合わず、実施負荷の大きい学習プログラムばかりだと感じたため 15 実施したい学習テーマ・内容が合致するプログラムを見つけられなかったため 16 実施したい学習レベルが合致するプログラムを見つけられなかったため 17 実施したい学習方法(例:通学かオンラインか等)が合致するプログラムを見つけられなかったため 18 適した学習プログラムをどう見つければよいかわからなかったため 19 その他(具体的に)
QB16	もしあなたが学びたいと思う教育プログラムがあった場合、受講可能な時間帯等を教えてください。あてはまるものをすべて選択してください。		MA	1 平日夜間 週1日(1-2時間/回) 2 平日夜間 週2日(1-2時間/回) 3 平日夜間 週3日以上(1-2時間/回) 4 平日昼間 週1-2日(1-2時間/回) 5 平日昼間 週3日以上(1-2時間/回) 6 休日(土日いずれか半日) 7 休日(土日いずれか終日) 8 休日(土日両日) 9 長期休暇期間(夏季休暇等) 5日程度 10 その他(具体的に) 11 どの時間帯も難しい
QB17	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が流行する前後(注1)で、学習(注2)への意欲は変化しましたか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 とても増加した 2 やや増加した 3 変わらない 4 やや低下した 5 とても低下した
QB18	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行をきっかけに、学習を実施、もしくは学習の実施を検討しましたか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 実施した 2 実施を検討したが、断念した 3 実施を検討しなかった
QC1_1	現在のあなたとIT関連業界との関係性について、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 「IT企業」に所属している 2 「ユーザー企業のIT人材」である 3 「フリーランス(個人事業主等)のIT人材」である 4 いずれにも当てはまらない
QC1_2	あなたが現在所属している会社・組織ではどのようなIT分野に関連する事業を実施していますか。所属する会社・組織の事業内容として当てはまるものをすべて選択してください。		MA	1 業務改革・システムコンサルティング、IT投資評価、システム監査 2 システム受託開発 3 組み込みソフトウェア開発 4 技術者等の人材派遣、提供 5 パッケージソフトウェア開発・提供関連など 6 SaaSサービス開発・提供など 7 インターネット・ウェブ関連サービス、モバイルアプリの開発・提供 8 IoT、ビッグデータ、AI関連サービスの開発・提供 9 RPA(Robotic Process Automation)、ビジネスプロセス最適化(データの整備、準備)の開発・提供 10 ブロックチェーンの開発・提供など 11 PaaSサービスの構築・運用など 12 パブリック IaaSサービスの提供など 13 IDCサービス(ハウジング、ホスティング等)、その他運用サービス等 14 ビジネスプロセスアウトソーシング(コールセンター運営、データ入力等を含む) 15 いずれも当てはまらないその他の事業内容

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QC1.3	ご自身の現在の業務内容について、当てはまるものをすべて選択してください。		MA	1 ITやデジタル技術を使った新規事業の企画・立ち上げ 2 IT関連のマーケティング・営業・仕事の獲得(受注) 3 システムやITに関する戦略・計画の策定 4 プロジェクト管理・マネジメント 5 外注管理・調達 6 社内における調整・交渉 7 システム設計 8 システム開発・実装(プログラミング・コーディング) 9 テスト 10 システム保守・運用 11 情報セキュリティ管理 12 IT資産・機器管理 13 契約文書やマニュアル等の資料作成 14 IT利用の推進・業務プロセス等の改善 15 システム監査 16 データ分析・解析 17 先端技術 ※に関する研究・開発※先端技術データサイエンス/AI・人工知能/IoT/デジタルビジネス/X-Tech/アジャイル開発/DevOps/AR/VR/ブロックチェーン/自動運転/MaaS/5Gに関する技術 18 教育研修サービス提供 19 社内IT人材育成 20 DX推進等による新規事業開発 21 その他(具体的に)
QC1.4	過去3年間(2017年12月1日～2020年11月31日)において、あなたは仕事やキャリアに役立てるための学習(注1)を実施しましたか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 仕事やキャリアに役立てるため「IT分野に関する学習」(注2)を実施した 2 仕事やキャリアに役立てるため「IT分野に関する学習」(注2)以外の学習を実施した 3 仕事やキャリアに役立てるための学習を実施していない
QC1.5.1	今後、仕事やキャリアに役立てるためIT分野に関連する学習(注)を実施したいと思いませんか。それぞれについてももっとも当てはまるものを1つ選択してください。	IT基礎(情報の基礎理論、プログラミングやコンピュータ基礎、コンピュータ構成に関する知識)	SA	1 実施したい、もしくは現在実施中である
QC1.5.2		ソフトウェアの構築技術(設計の基礎知識、システム開発のアプローチ、プログラミング基礎技術、ソフトウェアエンジニアリング、非機能要件)		2 どちらとも言えない
QC1.5.3		データベースの構築技術(設計、システム管理)		3 実施したいと思わない
QC1.5.4		ネットワークの構築技術(要件定義、設計、実装技術、システムの導入と移行、運用・保守・管理)		
QC1.5.5		Webシステムの構築技術(Webアプリケーション技術、分散コンピューティング開発環境)		
QC1.5.6		クラウドコンピューティングの構築技術(クラウドサービス知識、クラウドデータベース技術、構築技術、アプリケーション実装技術)		
QC1.5.7		機械学習(学習手法、微分や線形代数等基礎知識、学習データの前処理、標準化等の整理業務、最適化)		
QC1.5.8		ディープラーニングのシステム開発(開発プロセス設計、開発環境の選定、業務フロー作成、保守・運用)		
QC1.5.9		システム開発モデル(ウォーターフォール開発プロセス知識、アジャイル開発プロセス知識、アジャイル開発チームスキル)		
QC1.5.10		IoT関連のIT基礎(電子/電気回路理論、IoT機器、組込み技術、デジタル技術、ネットワークの基礎技術、情報入力)		
QC1.5.11		収集データ形式(データ構造知識、匿名加工処理等取扱い知識)		
QC1.5.12		IoTネットワークの構築技術(基礎知識、IoTデバイス構築技術、IoTサーバ構築技術、ネットワークシステムの実装技術)		
QC1.5.13		IoTの利用技術(アプリケーション、イネーブルメント)		
QC1.5.14		ビッグデータ基礎(周辺技術、データ収集手法、統計基礎)		
QC1.5.15		ビッグデータ管理(データ選定手法、分析手法、分散処理技術、マイニングモデル手法、テキストマイニング手法)		
QC1.5.16		セキュリティ基礎(情報セキュリティ技術、情報保証知識、情報倫理)		
QC1.5.17		開発におけるセキュリティの構築技術(情報セキュリティ対策、セキュリティ実装手法、データのセキュリティ管理技術、セキュリティ実装技術、セキュリティシステムの実装・検査、仮想化によるセキュリティ)		
QC1.5.18		セキュリティ品質マネジメント(セキュリティ品質手法、セーフティ品質手法)		
QC1.5.19		リスクマネジメント手法(情報セキュリティ管理手法、リスク管理手)		
QC1.5.20		セキュリティ運用・保守(システムの運用管理知識、運用・保守技術、セキュリティ技術評価)		
QC1.5.21		セーフティ分析・設計(セーフティリスク分析、セーフティ設計技術)		
QC1.5.22		プロジェクトマネジメントスキル(方法論)		
QC1.5.23		パーソナルスキルマネジメントスキル(リーダーシップ、コミュニケーションやネゴシエーション等の知識・スキル、チーム運営管理知識・スキル)		
QC1.5.24		インダストリ/適用業務スキル(ユーザー企業の業界知識、生産・在庫・販売管理等の業務知識)		
QC1.5.25		ビジネスマネジメントスキル(顧客とのリレーション、新規プロジェクト提案、ビジネスリスク回避・軽減、契約や関連法規等の知識・スキル)		
QC1.5.26		その他IT関連(具体的に)		

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QC1.6.1	QC1_5で回答した学習を実施することによりどのような目的を達成したいと考えていますか。もっとも当てはまるものを最大3つまで選択してください。		MA	1 現在の業務に役立てるため
				2 昇進のため
				3 給与や勤務条件等の待遇向上のため
				4 報奨金等の臨時収入を得るため
				5 他部署への異動のため
				6 同じ業界内で転職するため(フリーランスの場合は契約相手を変更)
				7 別の業界に転職するため
				8 定年後も働くため
				9 起業のため
				10 所属(協業)する企業・組織内の上司、同僚等からの信頼を得るため
				11 人的ネットワークを広げるため
				12 新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため
				13 所属する会社・組織内の人材育成のため
				14 その他(具体的に)
QC1.6.2	QC1_5で選択した学習を実施することによりどのような目的を達成したいと考えていますか。もっとも当てはまるものを最大3つまで選択してください。		MA	1 現在の業務に役立てるため
				2 他部署への異動のため
				3 派遣先での給与や勤務条件等の待遇向上のため
				4 報奨金等の臨時収入を得るため
				5 別の業界に派遣先を変えるため
				6 同業他社に派遣先を変えるため
				7 派遣社員から雇用形態(正社員、契約社員等)を変更するため
				8 定年後も働くため
				9 起業のため
				10 上司、同僚等からの信頼を得るため
				11 人的ネットワークを広げるため
				12 新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため
				13 その他(具体的に)
				QC1.7
2 職場からの求め(例:上司からの指示や同僚等からの勧め)が特にないため				
3 現状に満足しており、学習の必要性を感じていないため				
4 何を学習すべきかわからないため				
5 学習目標や計画の立て方がわからなかったため				
6 学習目標や計画通りに実施できず、途中で諦めてしまっただけだったため				
7 学習結果をどう仕事やキャリアに活用してよいかわからなかったため				
8 学習結果が仕事やキャリアに活用する機会がなかったため				
9 学習結果が仕事やキャリアに役立ったことがこれまでなかったため				
10 金銭的余裕がなく、学習費用確保ができなかったため				
11 費用対効果が折り合わず、高額な学習プログラムばかりだと感じたため				
12 業務で忙しく、学習時間確保ができなかったため				
13 職場の理解が得られず、学習時間確保ができなかったため				
14 時間対効果が折り合わず、実施負荷の大きい学習プログラムばかりだと感じたため				
15 実施したい学習テーマ・内容が合致するプログラムを見つけられなかったため				
16 実施したい学習レベルが合致するプログラムを見つけられなかったため				
17 実施したい学習方法(例:通学かオンラインか等)が合致するプログラムを見つけられなかったため				
18 適した学習プログラムをどう見つければよいかわからなかったため				
19 その他(具体的に)				

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QC2.1	現在のあなたと介護関連業界との関係性について、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。必ずしも介護分野の業務を実施している必要はありません。		SA	1 「入所・入居系サービス、その他の生活施設等」を職場としている
				2 「医療施設」を職場としている
				3 「居宅系サービス、相談支援等の事業所等」を職場としている
				4 「その他の関連施設」を職場としている
				5 「入所・入居系サービス、その他の生活施設等」「医療施設」「居宅系サービス、相談支援等の事業所等」「その他の関連施設」を、以前職場としていた
				6 介護関連業界を職場としていたことはないが、今後職場としたい希望がある
				7 いずれにも当てはまらない
QC2.2	あなたが現在職場としている(過去に職場としていた場合は直近の)事業所・組織でのご自身の業務内容について、実施しているもの(実施していたもの)をすべて選択してください。		MA	1 身体介護
				2 生活援助
				3 心理的ケア
				4 ターミナル・ケア(終末期の介護)
				5 医療的ケア
				6 介護予防
				7 生活機能訓練
				8 生活相談業務(生活指導・生活訓練等)
				9 社会生活の維持・拡大(外出の付き添い等)
				10 専門職との連携によるリハビリテーション
				11 地域における生活支援
				12 介護過程の展開(アセスメント～モニタリングまで)
				13 介護業務日誌やケース記録の記入
				14 家族の支援
				15 担当者会議への参加
				16 関係機関との調整や打合せ
				17 職員や実習生の指導
				18 ボランティアの受け入れ調整や指導
				19 介護教室の講師等地域福祉活動
				20 その他(具体的に)
				21 いずれの業務も実施していない
QC2.3.1	あなたが現在保有している資格、今後取得したい資格それぞれについて、当てはまるものをすべて選択してください。	現在保有している資格	MA	1 介護福祉士
QC2.3.2		今後取得したい資格		2 認定介護福祉士
				3 社会福祉士
				4 精神保健福祉士
				5 主任介護支援専門員(主任ケアマネジャー)
				6 介護支援専門員(ケアマネジャー)
				7 介護福祉士実務者研修
				8 介護職員初任者研修
				9 介護職員基礎研修
				10 ホームヘルパー1級
				11 ホームヘルパー2級
				12 ガイドヘルパー
				13 社会福祉主事
				14 福祉レクワーカー
				15 レクリエーションインストラクター
				16 福祉住環境コーディネーター
				17 喀痰吸引等研修修了
				18 認知症介護実践リーダー研修修了
				19 認知症介護実践者研修修了
				20 認知症ケア専門士
				21 教員免許
				22 幼稚園教諭免許
				23 介護福祉士実習指導者講習会修了
				24 介護技術講習指導者
				25 介護技術講習主任指導者
				26 実務者研修教員講習会修了
				27 介護系教員講習会修了
				28 認定看護師・専門看護師
				29 看護師・准看護師
				30 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士
				31 保育士
				32 管理栄養士
				33 栄養士
				34 調理師
				35 いずれの資格も保有していない(いずれの資格も取得の予定はない)

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QC2.4	過去3年間(2017年12月1日～2020年11月31日)において、あなたは仕事やキャリアに役立てるための学習(注1)を実施しましたか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 仕事やキャリアに役立てるため「介護分野に関する学習」(注2)を実施した 2 仕事やキャリアに役立てるため「介護分野に関する学習」(注2)以外の学習を実施した 3 仕事やキャリアに役立てるための学習を実施しなかった
QC2.5.1	今後、仕事やキャリアに役立てるため介護分野に関連する学習(注)を実施したいと思いませんか。それぞれについてもっとも当てはまるものを1つ選択してください。	介護の基礎的な知識・技術	SA	1 実施したい、もしくは現在実施中である
QC2.5.2		コミュニケーションの知識・技術		2 どちらとも言えない
QC2.5.3		生活支援技術		3 実施したいと思わない
QC2.5.4		介護過程の展開に関する知識・技術		
QC2.5.5		介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能の理解		
QC2.5.6		発達と老化の理解に関する知識		
QC2.5.7		認知症の理解に関する知識		
QC2.5.8		障害の理解に関する知識		
QC2.5.9		介護機器、福祉機器、生活環境整備の知識・技術		
QC2.5.10		介護実践に必要な社会保障の制度・施策の知識		
QC2.5.11		医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術		
QC2.5.12		対象者の生活を地域の中で支えていくための知識・技術		
QC2.5.13		チームマネジメントの知識・技術		
QC2.5.14		多職種連携に必要な知識・技術		
QC2.5.15		ケアマネジメントに関する知識・技術		
QC2.5.16		リスクマネジメント		
QC2.5.17		後継者(人材)の育成に関する知識		
QC2.5.18		施設・事業所の管理運営		
QC2.5.19		その他(具体的に)		
QC2.6.1	QC2.5で回答した学習を実施することによりどのような目的を達成したいと考えていますか。もっとも当てはまるものを最大3つまで選択してください。		MA	1 現在の業務に役立てるため 2 昇進のため 3 給与や勤務条件等の待遇向上のため 4 報奨金等の臨時収入を得るため 5 異なる業務を担当するため 6 同じ業界内で転職するため 7 別の業界に転職するため 8 定年後も働くため 9 起業(事業所の立ち上げ等)のため 10 上司、同僚等からの信頼を得るため 11 人的ネットワークを広げるため 12 復職のため 13 就職のため 14 新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため 15 所属する会社・組織内の人材育成のため 16 その他(具体的に)
QC2.6.2	QC2.5で選択した学習を実施することによりどのような目的を達成したいと考えていますか。もっとも当てはまるものを最大3つまで選択してください。		MA	1 現在の業務に役立てるため 2 異なる業務を担当するため 3 派遣先での給与や勤務条件等の待遇向上のため 4 報奨金等の臨時収入を得るため 5 別の業界に派遣先を変えるため 6 同業他社に派遣先を変えるため 7 派遣社員から雇用形態(正社員、契約社員等)を変更するため 8 定年後も働くため 9 起業のため 10 上司、同僚等からの信頼を得るため 11 人的ネットワークを広げるため 12 復職のため 13 就職のため 14 新たな価値観等に触れ自身の仕事やキャリアの幅を広げるため 15 その他(具体的に)

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QC2.7	仕事やキャリアに役立てるための学習を実施しなかった理由について、とくに当てはまるものを3つまで選択してください。		MA	1 そもそも学習したくないため 2 職場からの求め(例:上司からの指示や同僚等からの勧め)が特にならないため 3 現状に満足しており、学習の必要性を感じていないため 4 何を学習すべきかわからないため 5 学習目標や計画の立て方がわからなかったため 6 学習目標や計画通りに実施できず、途中で諦めてしまいそうだったから 7 学習結果をどう仕事やキャリアに活用してよいかわからなかったため 8 学習結果を仕事やキャリアに活用する機会がなかったため 9 学習結果が仕事やキャリアに役立ったことがこれまでなかったため 10 金銭的余裕がなく、学習費用確保ができなかったため 11 費用対効果が折り合わず、高額な学習プログラムばかりだと感じたため 12 業務で忙しく、学習時間確保ができなかったため 13 職場の理解が得られず、学習時間確保ができなかったため 14 時間対効果が折り合わず、実施負荷の大きい学習プログラムばかりだと感じたため 15 実施したい学習テーマ・内容が合致するプログラムを見つけられなかったため 16 実施したい学習レベルが合致するプログラムを見つけられなかったため 17 実施したい学習方法(例:通学かオンラインか等)が合致するプログラムを見つけられなかったため 18 適した学習プログラムをどう見つければよいかわからなかったため 19 その他(具体的に)
QD1.1	あなたの所属組織におけるOff-JT(注)への取組について伺います。あなたの所属組織で現在Off-JTを実施している対象者と内容について、当てはまるものをすべて選択してください。	新卒採用者	MA	1 特定の専門分野における体系的な理論
QD1.2		中途採用者		2 特定の専門分野における体系的な技能・技術
QD1.3		管理職未満		3 コミュニケーション能力
QD1.4		管理職(部長・課長ないしこれに該当する役職)		4 リーダーシップ、マネジメント能力
QD1.5		経営層(最高経営責任者・代表取締役社長・専務・常務ないしこれに該当する役職)		5 チームワーク、協調性、周囲との協働力
				6 ビジネスマネジメントに関する知識(戦略、マーケティング、組織運営、会計、広報等)
				7 課題解決スキル(ロジカルシンキング、デザイン思考等)
				8 語学(外国語)
				9 PCや一般的な業務ソフト(表計算ソフト等)の操作
				10 統計・データ解析、プログラミング
				11 企業・組織の社会的規範に関する知識(コンプライアンス、ハラスメント、メンタルヘルス等)
				12 キャリア形成に関する知識(キャリアデザイン、ライフプラン等)
				13 自身の職場での職務に固有のルール・制度等
				14 自身の職場での職務に固有の技能・技術等
				15 その他(具体的に)
				16 何も実施していない
QD1R.1	あなたの所属組織におけるOff-JT(注)への取組について伺います。今後Off-JTを拡充したい対象者と内容について、当てはまるものをすべて選択してください。	新卒採用者	MA	1 特定の専門分野における体系的な理論
QD1R.2		中途採用者		2 特定の専門分野における体系的な技能・技術
QD1R.3		管理職未満		3 コミュニケーション能力
QD1R.4		管理職(部長・課長ないしこれに該当する役職)		4 リーダーシップ、マネジメント能力
QD1R.5		経営層(最高経営責任者・代表取締役社長・専務・常務ないしこれに該当する役職)		5 チームワーク、協調性、周囲との協働力
				6 ビジネスマネジメントに関する知識(戦略、マーケティング、組織運営、会計、広報等)
				7 課題解決スキル(ロジカルシンキング、デザイン思考等)
				8 語学(外国語)
				9 PCや一般的な業務ソフト(表計算ソフト等)の操作
				10 統計・データ解析、プログラミング
				11 企業・組織の社会的規範に関する知識(コンプライアンス、ハラスメント、メンタルヘルス等)
				12 キャリア形成に関する知識(キャリアデザイン、ライフプラン等)
				13 自身の職場での職務に固有のルール・制度等
				14 自身の職場での職務に固有の技能・技術等
				15 その他(具体的に)
				16 拡充の必要はない

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QD2	Off-JTを実施するうえで感じている課題はありますか。当てはまるものをすべて選択してください。		MA	1 身につけさせるべき知識やスキルの特定が難しい 2 適切な対象者の特定が難しい 3 適切な教育プログラムが見つからない 4 Off-JTを企画・管理できる人材がいない 5 予算が少ない 6 対象者の時間確保が困難である 7 対象者の学習意欲が低い 8 経営層がOff-JTを重視していない 9 現場管理職がOff-JTを重視していない 10 Off-JTの制度がない(または不十分) 11 育成しても辞めてしまう 12 事業や技術の変化が速く、対応しきれない 13 その他(具体的に) 14 特に課題はない
QD3	あなたの所属組織においてOff-JT(注)を導入する際、どのようにして導入のための情報収集を行いましたか。当てはまるものをすべて選択してください。		MA	1 業界団体等からの案内を探した 2 SNSやブログ等で他社(他機関)の研修担当者等の意見を探した 3 自身が卒業した学校が提供するプログラムを探した 4 所属組織の従業員が卒業した(あるいは在学している)学校が提供するプログラムを探した 5 所属組織が連携している(していた)学校が提供するプログラムを探した 6 新聞やテレビ、ラジオ、街頭広告等でその研修等の提供者(教育機関等)による広告を見た 7 SNSやウェブサイト上の広告等でその研修の提供者(教育機関等)による広告を見た 8 セミナー等に参加して探した 9 専門雑誌や書籍で探した 10 インターネット検索で探した 11 学び直しや学習分野に関するポータルサイトで探した 12 他社(他機関)の研修等担当者に聞いた 13 所属組織に訪問してきた研修等の提供者(教育機関等)の営業担当者からの話を聞いた 14 所属組織や自身宛に送られてきた研修等の提供者(教育機関等)のメールやDMを見た 15 自分で情報収集を行ったことはなく、過去の実績を踏襲して導入した 16 その他(具体的に) 17 Off-JTの導入を行う際の情報収集を行う役割を担ったことはない
QD4	QD1Rで、今後Off-JTを拡充したい対象者と内容を選択していただきましたが、Off-JTを拡充したい理由は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。		MA	1 経営方針で強化すべきと位置づけられたため 2 人材育成・能力開発方針を変更したため 3 人材の流動化に対応するため 4 組織変革のため(新規部署設立や部署統廃合等) 5 管理職からの要望が大きいため 6 従業員からの要望が大きいため 7 事業上の競争力を強化するため 8 労働生産性を向上させるため 9 従業員の定着率向上のため 10 従業員のモラル・モチベーション向上のため 11 従業員全体の能力底上げのため 12 従業員間の人的ネットワーク強化のため 13 従業員の自主的なキャリア形成促進のため 14 その他(具体的に)
QD5	そのOff-JTを今後拡充していくにあたり、外部機関活用(注)の可能性はありますか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 すでに活用している 2 活用していないが、今後可能性はある 3 活用しておらず、今後も可能性はない
QD6	活用にあたり外部機関に期待する条件は何ですか。もっとも重視するものを最大3つまで選択してください。		MA	1 従業員の希望や能力水準、業務内容を踏まえた柔軟なプログラム設計ができる 2 育成したい能力・スキルに関する高い専門性を有している 3 人事研修担当の業務負担が軽減される 4 想定する予算から大きく乖離しない 5 過去に所属組織が同じ目的で活用した実績がある 6 過去に所属組織と事業活動上での連携がある 7 過去に所属組織の採用・人材育成業務上での連携がある 8 講師に豊富な実務経験がある 9 講師に豊富な指導経験がある 10 活用により期待できる効果が明確に示されている 11 教育実績が明確に示されている 12 補助金支給等の公的支援対象となる 13 従業員のモチベーションを向上させられる 14 活用後のフォローや効果検証がある 15 料金体系や契約に至るまでのプロセスが明確である 16 その他(具体的に)
QD7	あなたの所属組織で現在実施している自己啓発支援(注)について、当てはまるものをすべて選択してください。		MA	1 受講料などの金銭的援助 2 給与・賞与増額や報奨金等のインセンティブ付与 3 社内での自主的な勉強会等に対する援助 4 自己啓発を目的とした休暇制度(教育訓練休暇を含む)の導入 5 就業時間の配慮 6 教育訓練機関、通信教育等に関する情報提供 7 民間教育サービス、教育機関等との連携によるプログラム提供 8 その他(具体的に) 9 実施している支援はない

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QD8A	あなたの所属組織において、デジタル・トランスフォーメーション(注1)に対応する人材育成を目的とするOff-JT(注2)を実施していますか。		SA	1 実施している 2 実施していない
QD8	あなたの所属組織におけるデジタル・トランスフォーメーション(注1)に対応する人材育成を目的とするOff-JT(注2)について、あなたのお考えにもっとも近いものはどれですか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 大きく拡充すべきである 2 ある程度は拡充すべきである 3 現状程度でよい 4 ある程度削減すべきである 5 大きく削減すべきである
QD9	DXに対応する人材育成を目的とするOff-JTを今後拡充していくうえでの課題はありますか。当てはまるものをすべて選択してください。		MA	1 身につけさせるべき知識やスキルの特定が難しい 2 適切な対象者の特定が難しい 3 適切な教育プログラムが見つからない 4 DXに係るOff-JTを企画・管理できる人材がない 5 予算が少ない 6 対象者の時間確保が困難である 7 対象者の学習意欲が低い 8 経営層がDXを重視していない 9 現場管理職がDXを重視していない 10 Off-JTの制度がない(または不十分) 11 育成しても辞めてしまう 12 事業や技術の変化が速く、対応しきれない 13 その他(具体的に) 14 特に課題はない
QE1_1.1	これまでの設問で、最終学歴を専修学校と回答した方、もしくは過去3年間で提供主体が専修学校である学習を実施したと回答した方にお伺いします。あなたが実施した専修学校が提供する学習プログラム(注)に対する評価について、それぞれもっとも当てはまるものを1つ選択してください。	プログラム等の情報が十分に公開されていたか	SA	1 十分だった
QE1_1.2		学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか		2 どちらとも言えない
QE1_1.3		受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気は掴めたか		3 不十分だった
QE1_1.4		実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切		
QE1_1.5		所要時間や実施時期が適切だったか		
QE1_1.6		費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価であったか		
QE1_1.7		指導方法が適切で、講師が優れていたか		
QE1_1.8		通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか		
QE1_1.9		講義以外にきめ細やかな支援(個別支援、キャリア支援等)があったか		
QE1_1.10		勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか		
QE1_1.11		実績・評判が高かったか		
QE1_1.12		学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高かったか		
QE1_1.13		行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか		
QE1_2.1	あなたは専修学校が提供する学習プログラムに対してどのような期待をお持ちですか。それぞれもっとも当てはまるものを1つ選択してください。	プログラム等の情報が十分に公開されている	SA	1 期待する
QE1_2.2		学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効である		2 どちらとも言えない
QE1_2.3		受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気が掴める		3 期待しない
QE1_2.4		実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切		
QE1_2.5		所要時間や実施時期が適切である		
QE1_2.6		費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価である		
QE1_2.7		指導方法が適切で、講師が優れている		
QE1_2.8		通学先へのアクセスや学習環境が優れている		
QE1_2.9		講義以外にきめ細やかな支援(個別支援、キャリア支援等)がある		
QE1_2.10		勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内がある		
QE1_2.11		実績・評判が高い		
QE1_2.12		学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高い		
QE1_2.13		行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援がある		

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QE1_3_1	QE1_1で「十分だった」を選択した項目それぞれについて、より具体的に「十分だった」と感じた点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。	プログラム等の情報が十分に公開されていたか	MA	1 ウェブサイト等で詳細な情報が公開されていた 2 事前説明会や体験学習参加、試用ができた 3 その他(具体的に)
QE1_3_2		学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか	MA	1 学習内容のレベルが適切であった、もしくは柔軟に選択できた 2 学習プログラムが網羅する範囲が適切だった、もしくは柔軟に選択できた 3 学習実施により身につく知識・スキルが明確だった 4 学習実施により身につく知識・スキルが現在の業務ですぐ活用できた 5 学習実施により身につく知識・スキルが将来の業務やキャリアで活用できた 6 学習実施により身につく知識・スキルが業務やキャリアに加え他の場面でも活用できた 7 その他(具体的に)
QE1_3_3		受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気は掴めたか	MA	1 受講者プロフィール(年代、性別、職業等)が紹介されていた 2 受講の様子がわかるようなコンテンツ紹介があった 3 その他(具体的に)
QE1_3_4		実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切であること	MA	1 通学による対面指導が受けられた 2 通信教育等好きな場所で実施できた 3 講師や他の参加者との交流ができた 4 講師や他の参加者との交流がなかった 5 その他(具体的に)
QE1_3_5		所要時間や実施時期が適切だったか	MA	1 学習の開始時期が適切だった、もしくは柔軟に選択できた 2 学習に要する総時間がより短縮された 3 好きなタイミングで学習開始・中断ができた 4 途中で学習継続を断念しても再開ができた 5 その他(具体的に)
QE1_3_6		費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価であったか	MA	1 無料だった 2 より安価だった 3 費用対効果が折り合った 4 費用対時間が折り合った 5 追加費用支払いによるプログラム拡充や一部費用返却によるプログラム縮小ができた 6 その他(具体的に)
QE1_3_7		指導方法が適切で、講師が優れていたか	MA	1 指導法が実践的であること※講義・実習・演習・ディスカッション・ケーススタディ等 2 少人数指導や個別指導を実施していた 3 担当講師の実務経験が豊富だった 4 担当講師の指導実績が豊富だった 5 担当講師の評判がよかった 6 担当講師の知名度が高かった 7 その他(具体的に)
QE1_3_8		通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか	MA	1 自宅や職場から近かった 2 身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っていた 3 自習室等学習環境としても利用できた 4 その他(具体的に)
QE1_3_9		講義以外にきめ細やかな支援(個別支援、キャリア支援等)があったか	MA	1 学習実施計画や目標設定を支援・管理してくれた 2 質問にきめ細かく対応してもらえた 3 担当講師や他の参加者との交流を促進してもらえた 4 就職・転職・復職等の相談・支援が受けられた 5 その他(具体的に)
QE1_3_10		勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか	MA	1 勤め先や業界団体等からの推奨・案内があった 2 ハローワークや職業訓練施設等の就職支援機関からの推奨・案内があった 3 学習意欲の高い知人からの推奨・案内があった 4 その他(具体的に)
QE1_3_11		実績・評判が高かったか	MA	1 学習経験者数が多かった 2 学習経験者からの評判がよかった 3 学習経験者から話を聞いた 4 その他(具体的に)
QE1_3_12		学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高かったか	MA	1 学習プログラムの知名度が高かった 2 提供主体の知名度が高かった 3 その他(具体的に)
QE1_3_13		行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか	MA	1 勤め先からの費用補助があった 2 国や自治体等からの費用補助があった 3 勤め先での勤務時間調整等の支援があった 4 その他(具体的に)

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QE1_4.1	QE1_1で「不十分だった」を選択した項目それぞれについて、より具体的に「不十分だった」と感じた点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。	プログラム等の情報が十分に公開されていたか	MA	1 ウェブサイト等で詳細な情報が公開されていなかった 2 事前説明会や体験学習参加、試用ができなかった 3 その他(具体的に)
QE1_4.2		学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか	MA	1 学習内容のレベルが適切でない、もしくは柔軟に選択できなかった 2 学習プログラムが網羅する範囲が適切でない、もしくは柔軟に選択できなかった 3 学習実施により身につく知識・スキルが明確でなかった 4 学習実施により身につく知識・スキルが現在の業務ですぐ活用できなかった 5 学習実施により身につく知識・スキルが将来の業務やキャリアで活用できなかった 6 学習実施により身につく知識・スキルが業務やキャリアに加え他の場面でも活用できなかった 7 その他(具体的に)
QE1_4.3		受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気は掴めたか	MA	1 受講者プロフィール(年代、性別、職業等)が紹介されていなかった 2 受講の様子がわかるようなコンテンツ紹介がなかった 3 その他(具体的に)
QE1_4.4		実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切であること	MA	1 通学による対面指導が受けられなかった 2 通信教育等好きな場所で実施できなかった 3 講師や他の参加者との交流ができなかった 4 講師や他の参加者との交流が発生した 5 その他(具体的に)
QE1_4.5		所要時間や実施時期が適切だったか	MA	1 学習の開始時期が適切でない、もしくは柔軟に選択できなかった 2 学習に要する総時間が長かった 3 好きなタイミングで学習開始・中断ができなかった 4 途中で学習継続を断念すると再開ができなかった 5 その他(具体的に)
QE1_4.6		費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価であったか	MA	1 無料ではなかった 2 高価だった 3 費用対効果が折り合わなかった 4 費用対時間が折り合わなかった 5 追加費用支払いによるプログラム拡充や一部費用返却によるプログラム縮小ができなかった 6 その他(具体的に)
QE1_4.7		指導方法が適切で、講師が優れていたか	MA	1 指導法が実践的でなかった※講義・実習・演習・ディスカッション・ケーススタディ等 2 少人数指導や個別指導を実施していなかった 3 担当講師の実務経験が豊富でなかった 4 担当講師の指導実績が豊富でなかった 5 担当講師の評判が悪かった 6 担当講師の知名度が低かった 7 その他(具体的に)
QE1_4.8		通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか	MA	1 自宅や職場から遠かった 2 身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っていなかった 3 自習室等学習環境として利用できなかった 4 その他(具体的に)
QE1_4.9		講義以外にきめ細やかな支援(個別支援、キャリア支援等)があったか	MA	1 学習実施計画や目標設定を支援・管理してくれなかった 2 質問にきめ細かく対応してもらえなかった 3 担当講師や他の参加者との交流を促進してもらえなかった 4 就職・転職・復職等の相談・支援が受けられなかった 5 その他(具体的に)
QE1_4.10		勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか	MA	1 勤め先や業界団体等からの推奨・案内がなかった 2 ハローワークや職業訓練施設等の就職支援機関からの推奨・案内がなかった 3 学習意欲の高い知人からの推奨・案内がなかった 4 その他(具体的に)
QE1_4.11		実績・評判が高かったか	MA	1 学習経験者数が少ない、もしくはわからなかった 2 学習経験者からの評判が悪かった 3 学習経験者から話を聞けなかった 4 その他(具体的に)
QE1_4.12		学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高かったか	MA	1 学習プログラムの知名度が低かった 2 提供主体の知名度が低かった 3 その他(具体的に)
QE1_4.13		行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか	MA	1 勤め先からの費用補助がなかった 2 国や自治体等からの費用補助がなかった 3 勤め先での勤務時間調整等の支援がなかった 4 その他(具体的に)

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QE1_5_1	QE1_2で「期待する」を選択した項目それぞれについて、より具体的に期待したい点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。	プログラム等の情報が十分に公開されている	MA	1 ウェブサイト等で詳細な情報が公開されている 2 事前説明会や体験学習参加、試用ができる 3 その他(具体的に)
QE1_5_2		学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効である	MA	1 学習内容のレベルが適切であった、もしくは柔軟に選択できる 2 学習プログラムが網羅する範囲が適切だった、もしくは柔軟に選択できる 3 学習実施により身につく知識・スキルが明確である 4 学習実施により身につく知識・スキルが現在の業務ですぐ活用できる 5 学習実施により身につく知識・スキルが将来の業務やキャリアで活用できる 6 学習実施により身につく知識・スキルが業務やキャリアに加え他の場面でも活用できる 7 その他(具体的に)
QE1_5_3		受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気は掴める	MA	1 受講者プロフィール(年代、性別、職業等)が紹介されている 2 受講の様子がわかるようなコンテンツ紹介がある 3 その他(具体的に)
QE1_5_4		実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切であること	MA	1 通学による対面指導が受けられる 2 通信教育等好きな場所で実施できる 3 講師や他の参加者との交流ができる 4 講師や他の参加者との交流がない 5 その他(具体的に)
QE1_5_5		所要時間や実施時期が適切である	MA	1 学習の開始時期が適切だった、もしくは柔軟に選択できる 2 学習に要する総時間がより短縮される 3 好きなタイミングで学習開始・中断ができる 4 途中で学習継続を断念しても再開ができる 5 その他(具体的に)
QE1_5_6		費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価である	MA	1 無料である 2 より安価である 3 費用対効果が折り合う 4 費用対時間が折り合う 5 追加費用支払いによるプログラム拡充や一部費用返却によるプログラム縮小ができる 6 その他(具体的に)
QE1_5_7		指導方法が適切で、講師が優れている	MA	1 指導方法が適切である 2 少人数指導や個別指導を実施している 3 担当講師の実務経験が豊富である 4 担当講師の指導実績が豊富である 5 担当講師の評判がよい 6 担当講師の知名度が高い 7 その他(具体的に)
QE1_5_8		通学先へのアクセスや学習環境が優れている	MA	1 自宅や職場から近い 2 身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っている 3 自習室等学習環境としても利用できる 4 その他(具体的に)
QE1_5_9		講義以外にきめ細やかな支援(個別支援、キャリア支援等)がある	MA	1 学習実施計画や目標設定を支援・管理してくれる 2 質問にきめ細かく対応してもらえる 3 担当講師や他の参加者との交流を促進してもらえる 4 就職・転職・復職等の相談・支援が受けられる 5 その他(具体的に)
QE1_5_10		勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内がある	MA	1 勤め先や業界団体等からの推奨・案内がある 2 ハローワークや職業訓練施設等の就職支援機関からの推奨・案内がある 3 学習意欲の高い知人からの推奨・案内がある 4 その他(具体的に)
QE1_5_11		実績・評判が高い	MA	1 学習経験者数が多い 2 学習経験者からの評判がよい 3 学習経験者から話を聞ける 4 その他(具体的に)
QE1_5_12		学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高い	MA	1 学習プログラムの知名度が高い 2 提供主体の知名度が高い 3 その他(具体的に)
QE1_5_13		行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援がある	MA	1 勤め先からの費用補助がある 2 国や自治体等からの費用補助がある 3 勤め先での勤務時間調整等の支援がある 4 その他(具体的に)
QE1_6_1	QE1_1で選択した「十分だった」点のうちもっとも満足した点、選択した「不十分だった」点のうちもっとも不満足だった点はそれぞれ何ですか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	もっとも満足した点	SA	1 プログラム等の情報が十分に公開されていたか
QE1_6_2		もっとも不満足だった点		2 学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか 3 受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気が掴めたか 4 実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切 5 所要時間や実施時期が適切だったか 6 費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価であったか 7 指導方法が適切で、講師が優れていたか 8 通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか 9 講義以外にきめ細やかな支援(個別支援、キャリア支援等)があったか 10 勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか 11 実績・評判が高かったか 12 学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高かったか 13 行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QE2_1	あなたは専修学校が提供する学習プログラムを、ご自身の所属組織のOff-JT、自己啓発支援の取組に活用(注)したことがありますか。当てはまるものを1つ選択してください。		SA	1 活用したことがある 2 活用したことがない
QE2_2_1	あなたがOff-JT、自己啓発支援の取組に活用した専修学校が提供する学習プログラム(注)に対する評価について、それぞれもっとも当てはまるものを1つ選択してください。	プログラム等の情報が十分に公開されていたか	SA	1 十分だった
QE2_2_2		学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか		2 どちらとも言えない
QE2_2_3		受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気や掘めたか		3 不十分だった
QE2_2_4		実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切		
QE2_2_5		所要時間や実施時期が適切だったか		
QE2_2_6		費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価であったか		
QE2_2_7		指導方法が適切で、講師が優れていたか		
QE2_2_8		通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか		
QE2_2_9		講義以外にきめ細やかな支援(個別支援、キャリア支援等)があったか		
QE2_2_10		勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか		
QE2_2_11		実績・評判が高かったか		
QE2_2_12		学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高かったか		
QE2_2_13		行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか		
QE2_3_1	QE2_2で「十分だった」を選択した項目それぞれについて、より具体的に「十分だった」と感じた点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。	プログラム等の情報が十分に公開されていたか	MA	1 ウェブサイト等で詳細な情報が公開されていた 2 事前説明会や体験学習参加、試用ができた 3 その他(具体的に)
QE2_3_2		学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか	MA	1 学習内容のレベルが適切であった、もしくは柔軟に選択できた 2 学習プログラムが網羅する範囲が適切だった、もしくは柔軟に選択できた 3 学習実施により身につく知識・スキルが明確だった 4 学習実施により身につく知識・スキルが現在の業務ですぐ活用できた 5 学習実施により身につく知識・スキルが将来の業務やキャリアで活用できた 6 学習実施により身につく知識・スキルが業務やキャリアに加え他の場面でも活用できた 7 その他(具体的に)
QE2_3_3		受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気や掘めたか	MA	1 受講者プロフィール(年代、性別、職業等)が紹介されていた 2 受講の様子がわかるようなコンテンツ紹介があった 3 その他(具体的に)
QE2_3_4		実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切であること	MA	1 通学による対面指導が受けられた 2 通信教育等好きな場所で実施できた 3 講師や他の参加者との交流ができた 4 講師や他の参加者との交流がなかった 5 その他(具体的に)
QE2_3_5		所要時間や実施時期が適切だったか	MA	1 学習の開始時期が適切だった、もしくは柔軟に選択できた 2 学習に要する総時間がより短縮された 3 好きなタイミングで学習開始・中断ができた 4 途中で学習継続を断念しても再開ができた 5 その他(具体的に)
QE2_3_6		費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価であったか	MA	1 無料だった 2 より安価だった 3 費用対効果が折り合った 4 費用対時間が折り合った 5 追加費用支払いによるプログラム拡充や一部費用返却によるプログラム縮小ができた 6 その他(具体的に)
QE2_3_7		指導方法が適切で、講師が優れていたか	MA	1 指導法が実践的であること※講義・実習・演習・ディスカッション・ケーススタディ等 2 少人数指導や個別指導を実施していた 3 担当講師の実務経験が豊富だった 4 担当講師の指導実績が豊富だった 5 担当講師の評判がよかった 6 担当講師の知名度が高かった 7 その他(具体的に)
QE2_3_8		通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか	MA	1 自宅や職場から近かった 2 身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っていた 3 自習室等学習環境としても利用できた 4 その他(具体的に)
QE2_3_9		講義以外にきめ細やかな支援(個別支援、キャリア支援等)があったか	MA	1 学習実施計画や目標設定を支援・管理してくれた 2 質問にきめ細かく対応してもらえた 3 担当講師や他の参加者との交流を促進してもらえた 4 就職・転職・復職等の相談・支援が受けられた 5 その他(具体的に)
QE2_3_10		勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか	MA	1 勤め先や業界団体等からの推奨・案内があった 2 ハローワークや職業訓練施設等の就職支援機関からの推奨・案内があった 3 学習意欲の高い知人からの推奨・案内があった 4 その他(具体的に)
QE2_3_11		実績・評判が高かったか	MA	1 学習経験者数が多かった 2 学習経験者からの評判がよかった 3 学習経験者から話を聞いた 4 その他(具体的に)
QE2_3_12		学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高かったか	MA	1 学習プログラムの知名度が高かった 2 提供主体の知名度が高かった 3 その他(具体的に)
QE2_3_13		行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか	MA	1 勤め先からの費用補助があった 2 国や自治体等からの費用補助があった 3 勤め先での勤務時間調整等の支援があった 4 その他(具体的に)

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QE2_4_1	QE2_2で「不十分だった」を選択した項目それぞれについて、より具体的に「不十分だった」と感じた点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。	プログラム等の情報が十分に公開されていたか	MA	1 ウェブサイト等で詳細な情報が公開されていなかった 2 事前説明会や体験学習参加、試用ができなかった 3 その他(具体的に)
QE2_4_2		学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか	MA	1 学習内容のレベルが適切でない、もしくは柔軟に選択できなかった 2 学習プログラムが網羅する範囲が適切でない、もしくは柔軟に選択できなかった 3 学習実施により身につく知識・スキルが明確でなかった 4 学習実施により身につく知識・スキルが現在の業務ですぐ活用できなかった 5 学習実施により身につく知識・スキルが将来の業務やキャリアで活用できなかった 6 学習実施により身につく知識・スキルが業務やキャリアに加え他の場面でも活用できなかった 7 その他(具体的に)
QE2_4_3		受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気は掴めたか	MA	1 受講者プロフィール(年代、性別、職業等)が紹介されていなかった 2 受講の様子がわかるようなコンテンツ紹介がなかった 3 その他(具体的に)
QE2_4_4		実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切であること	MA	1 通学による対面指導が受けられなかった 2 通信教育等好きな場所で実施できなかった 3 講師や他の参加者との交流ができなかった 4 講師や他の参加者との交流が発生した 5 その他(具体的に)
QE2_4_5		所要時間や実施時期が適切だったか	MA	1 学習の開始時期が適切でない、もしくは柔軟に選択できなかった 2 学習に要する総時間が長かった 3 好きなタイミングで学習開始・中断ができなかった 4 途中で学習継続を断念すると再開ができなかった 5 その他(具体的に)
QE2_4_6		費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価であったか	MA	1 無料でなかった 2 高価だった 3 費用対効果が折り合わなかった 4 費用対時間が折り合わなかった 5 追加費用支払いによるプログラム拡充や一部費用返却によるプログラム縮小ができなかった 6 その他(具体的に)
QE2_4_7		指導方法が適切で、講師が優れていたか	MA	1 指導法が実践的でなかった※講義・実習・演習・ディスカッション・ケーススタディ等 2 少人数指導や個別指導を実施していなかった 3 担当講師の実務経験が豊富でなかった 4 担当講師の指導実績が豊富でなかった 5 担当講師の評判が悪かった 6 担当講師の知名度が低かった 7 その他(具体的に)
QE2_4_8		通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか	MA	1 自宅や職場から遠かった 2 身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っていなかった 3 自習室等学習環境として利用できなかった 4 その他(具体的に)
QE2_4_9		講義以外にきめ細やかな支援(個別支援、キャリア支援等)があったか	MA	1 学習実施計画や目標設定を支援・管理してくれなかった 2 質問にきめ細かく対応してもらえなかった 3 担当講師や他の参加者との交流を促進してもらえなかった 4 就職・転職・復職等の相談・支援が受けられなかった 5 その他(具体的に)
QE2_4_10		勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか	MA	1 勤め先や業界団体等からの推奨・案内がなかった 2 ハローワークや職業訓練施設等の就職支援機関からの推奨・案内がなかった 3 学習意欲の高い知人からの推奨・案内がなかった 4 その他(具体的に)
QE2_4_11		実績・評判が高かったか	MA	1 学習経験者数が少ない、もしくはわからなかった 2 学習経験者からの評判が悪かった 3 学習経験者から話を聞けなかった 4 その他(具体的に)
QE2_4_12		学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高かったか	MA	1 学習プログラムの知名度が低かった 2 提供主体の知名度が低かった 3 その他(具体的に)
QE2_4_13		行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか	MA	1 勤め先からの費用補助がなかった 2 国や自治体等からの費用補助がなかった 3 勤め先での勤務時間調整等の支援がなかった 4 その他(具体的に)

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QE2_5_1	QE2_2で選択した「十分だった」点のうちもっとも満足した点、選択した「不十分だった」点のうちもっとも不満足だった点はそれぞれ何ですか。もっとも当てはまるものを1つ選択してください。	もっとも満足した点	SA	1 プログラム等の情報が十分に公開されていたか
QE2_5_2		もっとも不満足だった点		2 学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効だったか 3 受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気が掴めたか 4 実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切 5 所要時間や実施時期が適切だったか 6 費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価であったか 7 指導方法が適切で、講師が優れていたか 8 通学先へのアクセスや学習環境が優れていたか 9 講義以外にきめ細やかな支援(個別支援、キャリア支援等)があったか 10 勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内があったか 11 実績・評判が高かったか 12 学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高かったか 13 行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援があったか
QE2_6_1	あなたは専修学校が提供する学習プログラムに対してどのようなイメージをお持ちですか。それぞれもっとも当てはまるものを1つ選択してください。	プログラム等の情報が十分に公開されている	SA	1 そう思う
QE2_6_2		学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効である		2 どちらとも言えない
QE2_6_3		受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気が掴める		3 そう思わない
QE2_6_4		実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切		
QE2_6_5		所要時間や実施時期が適切である		
QE2_6_6		費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価である		
QE2_6_7		指導方法が適切で、講師が優れている		
QE2_6_8		通学先へのアクセスや学習環境が優れている		
QE2_6_9		講義以外にきめ細やかな支援(個別支援、キャリア支援等)がある		
QE2_6_10		勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内がある		
QE2_6_11		実績・評判が高い		
QE2_6_12		学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高い		
QE2_6_13		行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援がある		

No.	質問文	項目(マトリクス形式の質問の場合)	回答形式	選択肢
QE2_7_1	QE2_6で「そう思う」を選択した項目それぞれについて、より具体的にイメージする点は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。	プログラム等の情報が十分に公開されている	MA	1 ウェブサイト等で詳細な情報が公開されている 2 事前説明会や体験学習参加、試用ができる 3 その他(具体的に)
QE2_7_2		学習内容の範囲・レベルや身につく知識・スキルが有効である	MA	1 学習内容のレベルが適切であった、もしくは柔軟に選択できる 2 学習プログラムが網羅する範囲が適切だった、もしくは柔軟に選択できる 3 学習実施により身につく知識・スキルが明確である 4 学習実施により身につく知識・スキルが現在の業務ですぐ活用できる 5 学習実施により身につく知識・スキルが将来の業務やキャリアで活用できる 6 学習実施により身につく知識・スキルが業務やキャリアに加え他の場面でも活用できる 7 その他(具体的に)
QE2_7_3		受講者プロフィール等がわかり受講の雰囲気がある	MA	1 受講者プロフィール(年代、性別、職業等)が紹介されている 2 受講の様子がわかるようなコンテンツ紹介がある 3 その他(具体的に)
QE2_7_4		実施場所や講師・他の参加者との交流頻度が(どちらか一方でも)適切であること	MA	1 通学による対面指導が受けられる 2 通信教育等好きな場所で実施できる 3 講師や他の参加者との交流がある 4 講師や他の参加者との交流がない 5 その他(具体的に)
QE2_7_5		所要時間や実施時期が適切である	MA	1 学習の開始時期が適切だった、もしくは柔軟に選択できる 2 学習に要する総時間がより短縮される 3 好きなタイミングで学習開始・中断ができる 4 途中で学習継続を断念しても再開ができる 5 その他(具体的に)
QE2_7_6		費用が効果や時間に見合っていた、もしくは安価である	MA	1 無料である 2 より安価である 3 費用対効果が折り合う 4 費用対時間が折り合う 5 追加費用支払いによるプログラム拡充や一部費用返却によるプログラム縮小ができる 6 その他(具体的に)
QE2_7_7		指導方法が適切で、講師が優れている	MA	1 指導方法が適切である 2 少人数指導や個別指導を実施している 3 担当講師の実務経験が豊富である 4 担当講師の指導実績が豊富である 5 担当講師の評判がよい 6 担当講師の知名度が高い 7 その他(具体的に)
QE2_7_8		通学先へのアクセスや学習環境が優れている	MA	1 自宅や職場から近い 2 身につけたい知識・スキルを学習するうえで重要な施設・設備が整っている 3 自習室等学習環境としても利用できる 4 その他(具体的に)
QE2_7_9		講義以外にきめ細やかな支援(個別支援、キャリア支援等)がある	MA	1 学習実施計画や目標設定を支援・管理してくれる 2 質問にきめ細かく対応してもらえる 3 担当講師や他の参加者との交流を促進してもらえる 4 就職・転職・復職等の相談・支援を受けられる 5 その他(具体的に)
QE2_7_10		勤め先や業界団体、知人等からの推奨・案内がある	MA	1 勤め先や業界団体等からの推奨・案内がある 2 ハローワークや職業訓練施設等の就職支援機関からの推奨・案内がある 3 学習意欲の高い知人からの推奨・案内がある 4 その他(具体的に)
QE2_7_11		実績・評判が高い	MA	1 学習経験者数が多い 2 学習経験者からの評判がよい 3 学習経験者から話を聞ける 4 その他(具体的に)
QE2_7_12		学習プログラムや提供主体のブランドや知名度が高い	MA	1 学習プログラムの知名度が高い 2 提供主体の知名度が高い 3 その他(具体的に)
QE2_7_13		行政や勤め先による費用・勤務時間等の支援がある	MA	1 国や自治体等からの費用補助がある 2 勤め先での勤務時間調整等の支援がある 3 その他(具体的に)

令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」
リカレント教育プログラム運営モデルの検証 報告書

2021年3月

株式会社三菱総合研究所
キャリア・イノベーション本部